ハンセン病問題に係る全国的な意識調査
報告書

令和６(2024)年３月

ハンセン病問題に係る全国的な意識調査に関する検討会

目次

第一章 調査の概要 3
1 調査目的 3
2 調査期間 3
3 調査方法 3
4 調査対象 3
5 調査対象の抽出、回答の回収方法 3
6 回答数 4
7 報告書の留意点 4
8 結果の概要 5
(1)「ハンセン病に係る偏見差別は解消された」という認識の検証 5
(2) ハンセン病に関する学習・啓発の効果検証 8
第二章 単純集計の結果 12
1 回答者の基本属性 12
(1) 性別 12
(2) 年齢 13
(3) 最終学歴 14
(4) 就業形態 15
(5) 職種 17
(6) 居住地域 19
2 ハンセン病に対する認識 20
(1) ハンセン病(病気)の認知度 20
(2) ハンセン病(病気)に対する印象 21
(3) ハンセン病元患者(回復者)・家族・問題に取り組んでいる人と会った経験 22
(4) ハンセン病問題の学習を受けた経験 23
(5) ハンセン病問題に関する啓発活動に参加した経験 24
3 ハンセン病に係る偏見差別 25
(1) ハンセン病に係る偏見差別に関する経験等 25
(2) ハンセン病元患者(回復者)・家族に対する偏見差別による被害事例の認知度 26
(3) ハンセン病問題に関する歴史的事実・考え方に対する意見 27
(4) ハンセン病・ハンセン病元患者(回復者)に対する考え方 30
(5) ハンセン病元患者(回復者)・家族に対する態度 32
(6) ハンセン病強制隔離政策の認知度 34
4 一般的な人権問題 35
(1) 一般的な差別に対する考え方 35
(2) 日本の人権課題の認知度 36
(3) 人権問題に関する相談窓口の認知度 37
5 ハンセン病問題に関するパンフレット・web ページに対する感想 38
第三章 基本属性別クロス集計の結果 39
1 ハンセン病に対する認識 39
(1) ハンセン病(病気)の認知度 39
(2) ハンセン病(病気)に対する印象 44
(3) ハンセン病元患者(回復者)・家族・問題に取り組んでいる人と会った経験 48
(4) ハンセン病問題に関する学習を受けた経験 52
(5) ハンセン病問題に関する啓発活動に参加した経験 56

2 ハンセン病に係る偏見差別.....60
（1）ハンセン病に係る偏見差別に関する経験等 60
（2）ハンセン病元患者（回復者）・家族に対する偏見差別による被害事例の認知度..... 66
（3）ハンセン病問題に関する歴史的事実・考え方に対する意見 70
（4）ハンセン病・ハンセン病元患者（回復者）に対する考え方 79
（5）ハンセン病元患者（回復者）・家族に対する態度 92
（6）ハンセン病強制隔離政策の認知度.....100
3 一般的な人権問題..... 105
（1）一般的な差別に対する考え方.....105
（2）日本の人権課題の認知度.....112
（3）人権問題に関する相談窓口の認知度.....115
第四章 設問間クロス集計の結果.....119
1 ハンセン病問題に関する学習・啓発経験とハンセン病に関する医学的知識の関係 119
（1）学習・啓発経験とハンセン病（病気）の認知度の関係 119
（2）学習・啓発経験とハンセン病（病気）に対する印象の関係 121
2 ハンセン病に関する学習・啓発経験とハンセン病問題に関する知識の関係..... 123
（1） 学習・啓発経験とハンセン病元患者（回復者）・家族に対する偏見差別による被害事例の認知度の関係 123
（2）学習・啓発経験とハンセン病強制隔離政策の認知度の関係 127
3 ハンセン病問題に関する学習・啓発経験とハンセン病に対する偏見差別意識の関係..... 129
（1）学習・啓発経験とハンセン病に係る偏見差別に関する経験等の関係 129
（2）学習・啓発経験とハンセン病問題に関する歴史的事実・考え方に対する意見の関係.....132
（3）学習・啓発経験とハンセン病・ハンセン病元患者（回復者）に対する考え方の関係.....134
（4）学習・啓発経験とハンセン病元患者（回復者）・家族に対する態度の関係.....144
（5）学習・啓発経験と一般的な差別に対する考え方の関係 147
4 ハンセン病に関する医学的知識とハンセン病に対する偏見差別意識の関係 150
（1）医学的知識とハンセン病に係る偏見差別に関する経験等の関係.....150
（2）医学的知識とハンセン病問題に関する歴史的事実・考え方に対する意見の関係.....152
（3）医学的知識とハンセン病・ハンセン病元患者（回復者）に対する考え方の関係.....153
（4）医学的知識とハンセン病元患者（回復者）・家族に対する態度の関係.....157
5 ハンセン病問題に関する知識とハンセン病に対する偏見差別意識の関係 158
（1）ハンセン病問題に関する知識とハンセン病に係る偏見差別に関する経験等の関係.....158
（2） ハンセン病問題に関する知識とハンセン病問題に関する歴史的事実・考え方に対する意見の関係 160
（3） ハンセン病問題に関する知識とハンセン病・ハンセン病元患者（回復者）に対する考え方の関係 163
（4）ハンセン病問題に関する知識とハンセン病元患者（回復者）・家族に対する態度の関係.....177
6 ハンセン病に係る偏見差別の現状分析 179
（1）ハンセン病問題に関する歴史的事実・考え方に対する意見の分析.....179
（2）ハンセン病・ハンセン病元患者（回復者）に対する考え方の分析 181
（3）ハンセン病元患者（回復者）・家族に対する態度の分析.....190

付録 ハンセン病問題に係る全国的な意識調査 アンケート調査票 192

第一章　調査の概要

1　調査目的

厚生労働省は、未だ残るハンセン病に対する偏見差別について、現在の状況とこれをもたらした要因を分析・解明し、偏見差別の解消のために必要な広報活動や人権教育、差別事案への対処の在り方等についての提言を行う「ハンセン病に係る偏見差別の解消のための施策検討会」（以下、「施策検討会」という）を開催し、令和 5（2023）年 3 月に報告書を取りまとめたところである。

この報告書において、ハンセン病問題に関する全国的な住民の意識調査が一度も実施されていない現状が指摘されている。また、施策検討会は、令和元（2019）年ハンセン病家族訴訟判決における「ハンセン病に係る偏見差別はある程度解消された」との認識に問題意識を持ち、こうした認識の妥当性を検証する必要性を主張している。

そこで、厚生労働省がハンセン病問題についての市民の意識を把握し、今後の国としての取り組みを検討する際の参考とすることを目的として、ハンセン病問題に特化した全国的な住民意識調査を実施した。

2　調査期間

令和 5 年 12 月 6 日（水）～令和 5 年 12 月 15 日（金）

3　調査方法

ウェブアンケート調査

4　調査対象

令和 5 年 12 月に日本に居住する 18 歳以上 99 歳以下の市民（調査会社[1]モニターの登録者数約 133 万人）

5　調査対象の抽出、回答の回収方法

以下の手順（①～④）で調査対象の抽出および回答の回収を行った。

① 調査会社にて、登録モニター（約 133 万人）から、無作為に約 36.8 万人を抽出し、令和 2 年国勢調査における性別、年齢、居住地の条件に基づく割付数に合わせて、差別や人権意識についての設問に回答できるか確認するための事前調査を実施した。

② 事前調査への回答に基づき、日本国内在住であって、差別や人権意識についての設問への回答に同意した 27,537 人を抽出した。

③ ②で抽出したモニターに対し、調査開始日より調査終了日にかけて、段階的に本調査の協力依

[1] 株式会社マクロミル

頼をメールで配信した。最終的に、合計 24,487 人に調査依頼を行った。

④　21,814 人の回答を回収し、短時間回答者などの不適切な回答と思われる者を除外し、20,916 人の回答を有効回答として集計・分析に供した。

図 1　調査対象の抽出、回答回収の流れ（イメージ）

6　回答数

回答数 21,814 人（回答率　89.1%）
有効回答数　20,916 人（有効回答率　85.4%）

7　報告書の留意点

- 本調査のアンケート回答者は調査会社の登録モニターであり、全国から無作為抽出によって対象者を抽出する確率標本抽出調査ではないため、本調査の結果をただちに日本全体に一般化することには慎重になる必要がある。たとえば、本調査の回答者の学歴分布は、令和 2 年国勢調査とは異なり、学歴が高い傾向にある。
- この限界をふまえ、厚生労働省では、次年度以降に、全国を対象として紙媒体を活用した確率標本抽出調査を実施する予定である。
- 本報告書の分析では回答された質問項目の単純集計及び質問項目間の関連を検討するクロス集計を実施している。分析で示された関連はその他の項目の影響を統制していないことに注意が必要である。なお、厚生労働省では、本調査に関するデータの統計的な利活用について、今後検討していく予定である。

- 統計表中の数字は，四捨五入による端数を調整していないため，内訳と計は必ずしも一致しない。
- 下線は全て、読みやすさのために引いている。

8 結果の概要

今回、調査会社のモニター登録者を対象にウェブアンケート調査を行い、20,916 人から回答があり、ハンセン病に係る偏見差別の実態について一定の傾向が読み取れる貴重なデータを収集できた。

調査結果からうかがわれる傾向及び本検討会において議論した意見等は、以下のとおりである。

(1)「ハンセン病に係る偏見差別は解消された」という認識の検証

施策検討会報告書では、令和元(2019)年ハンセン病家族訴訟判決において示された「ハンセン病に係る偏見差別は平成 13(2001)年 5 月 11 日の熊本地裁判決以降はある程度解消された」という認識は妥当ではなく、ハンセン病に係る偏見差別は現存すると指摘している。

しかし、これまでハンセン病に係る偏見差別の実態について全国的な調査が行われてこなかったため、ハンセン病家族訴訟判決で示された認識の妥当性を検証することは難しかった。

今回、国が初めて実施したハンセン病問題に特化した全国的な本調査の結果をもとに、この認識の妥当性を検証したところ、ハンセン病やハンセン病問題に関する知識は社会に十分には浸透しておらず、ハンセン病に係る偏見差別は現存し、依然として深刻な状況にあることがうかがえた。

1)ハンセン病に関する医学的知識の浸透度

ここでは、ハンセン病に関する医学的知識がどの程度浸透しているかについて調査した。

まず、ハンセン病(病気)の認知度を聞いたところ、「名前は聞いたことがある」が 52.2%、「病気について多少は知っている」が 33.0%、「病気について詳しく知っている」が 5.0%である一方、「全く知らない」は 9.8%であり、回答者の 9 割が病気の存在を認知していた(P20～)。

次いで、病気について具体的に認知している内容を調査するために、ハンセン病(病気)に対する印象を 5 項目で聞いたところ、「遺伝する病気である」について、「そう思わない」と正答した者が 42.2%と最も多く、「あまりそう思わない」と回答した 21.0%と合計して正答方向で回答した割合は 63.3%で過半となったが、「わからない」が 22.2%であった。他方、それ以外の 4 項目について「そう思う」と正答した者は 10.0～20.4%に過ぎず、「ややそう思う」と合計して正答方向で回答した割合も 35.0～49.4%と半数を切っており、いずれも「わからない」が 30%台であった。特に、現在の日本においては「感染しても発症に至ることがまれな病気である」について、「そう思う」と正答した者は 10.0%に過ぎず、「ややそう思う」の 25.0%と合計して正答方向で回答した割合も 35.0%で、5 項目のうち正答率が最も低かった(P21～)。この結果は、遺伝性疾患ではないという点を別にすると、感染症としてのハンセン病の医学的知識について正答できるほどの浸透度は得られていない現状を示唆している。

2)ハンセン病問題に関する知識の浸透度

ここでは、ハンセン病問題に関する知識がどの程度浸透しているかについて調査した。

まず、ハンセン病強制隔離政策の認知度を 7 項目で聞いたところ、「明治後期以降、ハンセン病患者を強制的に収容する『強制隔離政策』が行われたこと」については、「知っている」「少し知っている」の合計が 52.8%、「知らない」「あまり知らない」の合計が 47.2%とほぼ拮抗していたが、それ以外の 6 項目については、「知らない」「あまり知らない」の合計が 58.4～70.4%で過半となった。また、全ての項目で「知らない」が 30.9～47.3%と最も多く、「知っている」は 9.9～23.9%と最も少なかった(P34～)。

また、ハンセン病元患者(回復者)・家族に対する偏見差別による被害事例の認知度を 13 項目で聞いたところ、「知っているものはない」が 44.6%と最も多かった。認知度が高かった項目は、「近隣や地域の人々から差別や排除行為を受けること」が 41.4%、「家族や親戚から差別や排除行為を受けること[2]」が 34.4%、「ハンセン病元患者(回復者)やその家族であるということを誰にも言えず、秘密を抱えて生きていかざるを得ないこと」が 26.3%であった(P26～)。

さらに、法務省が掲げる日本の人権課題 17 項目の認知度を聞いたところ、「ハンセン病元患者(回復者)やその家族」の認知度は 47.4%であり、「障害のある人」70.1%、「部落差別(同和問題)」62.0%、「女性」57.0%、「アイヌの人々」54.9%、「性的マイノリティ」52.0%、「インターネット上の人権侵害」47.6%に次ぐ 7 番目の認知度であった(P36～)。

これらの結果は、人権課題としてのハンセン病問題の認知度が十分でないことを示唆しており、認知度が低い項目を中心として、本調査の結果を今後の教育啓発の取り組みにおいて取り上げるテーマ検討の際に基礎資料として活用することが期待される。

3)ハンセン病に係る偏見差別の現状

ここでは、令和元(2019)年ハンセン病家族訴訟判決において示された「ハンセン病に係る偏見差別は平成 13(2001)年 5 月 11 日の熊本地裁判決以降はある程度解消された」という認識は妥当なのかについて調査した。

まず、ハンセン病元患者(回復者)・家族に対する態度として 9 項目への抵抗感を聞いたところ、近所に住んだり、同じ職場・学校に通ったり、同じ医療機関・福祉施設を利用するといった 5 項目については、「まったく抵抗を感じない」「あまり抵抗を感じない」とした者が 54.2～61.9%であった。ただ、「とても抵抗を感じる」「やや抵抗を感じる」と抵抗感を示した者が 7.5～9.6%存在することは憂慮すべき状況である。

他方、「手をつなぐ等の身体に触れること」、「ホテルなどで同じ浴場を利用すること」、「ハンセン病元患者(回復者)の家族とあなたの家族が結婚すること」については、「どちらともいえない」が 26.0～31.0%で最も多くなり、「とても抵抗を感じる」「やや抵抗を感じる」と抵抗感を示した者が 18.5～21.8%であり、大きな課題である(P32～)。

施策検討会報告書(P11)が先行調査として参照している大阪市社会福祉協議会「ハンセン病問題とHIV 問題に関する市民意識調査」(平成 22(2010)年度)によれば、ハンセン病病歴者が近所に住むことに抵抗を感じる人は 12.6%、同じ職場で働くことに抵抗を感じる人は 14.7%、一緒に入浴すること

[2] 「家族や親戚からの差別や排除行為」は、国の誤った強制隔離政策によって作出助長されたハンセン病に係る偏見差別が根強く存在する社会の中で、家族や親戚自身が周囲から差別・排除されることを避けるためにやむを得ず行われたものであることを認識する必要がある。

に抵抗を感じる人は 37.3%、同じ福祉施設を利用することに抵抗を感じる人は 16.1%、病歴者の子どもが自分の家族と結婚することに抵抗を感じる人は 42.0%とされている。

大阪市社会福祉協議会の調査は、本調査とは質問項目の記述上の表現が異なり、「どちらともいえない」という選択肢を設けていないという相違点もあるため、単純な比較はできない。ただ、本調査の回答結果から「どちらともいえない」を除いて、「とても抵抗を感じる」「やや抵抗を感じる」の合計を試算すると、「近所に住むこと」が 12.5%、「同じ職場で働くこと」が 12.4%、「ホテルなどで同じ浴場を利用すること」が 26.7%、「同じ医療機関・福祉施設に通院・通所すること」が 9.5%、「同じ医療機関・福祉施設に入院・入所すること」が 12.2%、「ハンセン病元患者(回復者)の家族とあなたの家族が結婚すること」が 31.6%となっている。

この結果は、10 年以上前に大阪市限定で実施された調査と類似の傾向であり、ハンセン病の元患者(回復者)・家族に対する社会の偏見差別が現存していること、社会生活の中で現在も差別的対応を受けるおそれがあることを示唆している。

次に、ハンセン病問題に関する誤った歴史的事実に対する言説や考え方への意見を聞いたところ、「ハンセン病患者を『療養所』に強制的に隔離してきたことは、有効な薬が開発され治療法が確立<u>された後であっても</u>、やむを得ない措置であった」という誤った言説に対し、「そうは思わない」「どちらかといえばそうは思わない」の合計が 48.4%であった。ただ、「そう思う」「どちらかといえばそう思う」の合計、つまり誤りを支持する傾向の回答が 11.2%あった。また、「どちらともいえない」が 22.2%、「わからない」が 18.1%で 4 割を占め、これらの回答者が誤った言説を否定する態度を示さない場合には、ハンセン病に係る偏見差別の解消を妨げる不適切な制度や施策が維持されるおそれがあることに留意すべきである。

なお、医学的にいえば、ハンセン病は、治療法が確立する前であっても、病型によって隔離の必要性がない病型があることが知られており、すべてのハンセン病患者を隔離するという考え方は、戦前からすでに正当化できないものであった[3]。しかし、「ハンセン病患者を『療養所』に強制的に隔離してきたことは、有効な薬が開発され治療法が確立<u>されるまでは</u>、やむを得ない措置であった」という誤った言説に対し、「そうは思わない」「どちらかといえばそうは思わない」の合計が 24.7%にとどまっていることも大きな課題である(P27～)。

これらの結果から、「ハンセン病に係る偏見差別は平成 13(2001)年 5 月 11 日の熊本地裁判決以降はある程度解消された」という認識は妥当ではないといえる。それにもかかわらず、本調査において、現在、世の中にハンセン病元患者(回復者)やその家族に対する偏見や差別が「あると思う」と回答した者は 39.6%にとどまり、自分自身が偏見や差別の意識を「持っていないと思う」とした者が 64.6%を占めた(P25～)。

これらの結果は、施策検討会報告書(P103)が指摘するように、今後の取り組みの必要性の根拠となり得る。

---

[3] 平成 13(2001)年「らい予防法」違憲熊本地裁判決は、「ハンセン病に関する国際会議等では、戦前から、隔離を限定的に行おうとする考え方が随所に現れていたこと、特に、患者を伝染性患者と非伝染性患者に分け、前者のみを隔離の対象とすべきことは、大正一二年の第三回国際らい会議以降、繰り返し提唱され、昭和二七年の WHO 第一回らい専門委員会の報告にもその旨の指摘がなされていたこと、また、国際連盟らい委員会が昭和六年に発行した「ハンセン病予防の原則」や昭和二七年の WHO 第一回らい専門委員会の報告では、強制隔離政策が、隔離を回避しようとする患者を潜伏化させる傾向がありハンセン病予防に十分な効果をもたらさないことがある旨の指摘もなされており」などと判示している。

表１　参考：ハンセン病に係る偏見差別の解消のための施策検討会報告書（抜粋）

第三篇　国などへの施策提言　4.人々の行動・意識変容に結び付く取り組みに向けて この双方向型の授業等を通じて目標とされるのは、 ①国の誤った強制隔離政策等によって今に至るハンセン病に係る偏見差別が作出されたこと、 ②この偏見差別が今も社会に根強く存在すること、 ③この偏見差別について、国などのみならず、国民・市民も加害者であること、 ④差別除去義務を履行することによってはじめて、この加害者性から脱却し、人権擁護の担い手に転じ得ること、 ⑤身近な問題と結びつけることによって、ハンセン病偏見差別の解消の問題を「他人事」ではなく「自分事」だと体感し、自己と当事者の関係を加害者―被害者ではなく、ともに人権を守り合う関係に転換していくことの重要性の共有だということになる。

（2）ハンセン病に関する学習・啓発の効果検証

ハンセン病に係る偏見差別を解消するために、偏見差別を作出・助長した国は様々な施策に取り組んでいる。しかし、前項でみた通り、ハンセン病やハンセン病問題に関する知識は社会に十分には浸透しておらず、ハンセン病に係る偏見差別は現存し、依然として深刻な状況にあるため、さらなる取り組みが必要である。

本調査で、国の取り組みの中心であるハンセン病問題に関する学習・啓発の現状を把握したところ、国の人権教育・啓発活動は市民にほとんど届いていない可能性があることが示唆された。こうした状況を改善するために、現在行われている人権教育・啓発活動のあり方について、多面的な検証を早急に行う必要がある。

1）ハンセン病問題に関する学習・啓発経験

ここでは、ハンセン病問題に関する学習・啓発経験がどの程度あるかについて調査した。

まず、ハンセン病問題の学習を受けた経験を聞いたところ、「受けたことはない」が 55.4％で最も多く、次いで「はっきり覚えていない」が 27.1％で、回答者の 8 割は学習経験がないか、学習を受けていたとしてもその内容が定着していなかった。また、学習経験がある中で最も多かったのは「中学校の授業」の 6.5％、次いで「高校の授業」が 5.1％、「小学校の授業」が 4.4％という結果であった（P23～）。

ついで、ハンセン病問題の啓発活動を見たり、読んだり、参加した経験を聞いたところ、「テレビ番組」が最も多く 37.6％、次いで「新聞や雑誌の記事・広告」が 28.0％、「インターネット（ウェブサイト）の記事・広告」が 15.8％であった。一方で、厚生労働省が作成し、平成 15（2003）年から全国の中学生に配布しているパンフレット「ハンセン病の向こう側」を見たことがある者は 4.1％、法務省が平成 17（2005）年度から年 1 回各地で開催している「ハンセン病問題に関する『親と子のシンポジウム』」に参加したことがある者は 1.2％、「国立ハンセン病資料館、国立ハンセン病療養所の資料館等の展示」に触れたことがある者は 4.8％にとどまっていた（P24～）。

さらに、ハンセン病元患者（回復者）・家族・問題に取り組んでいる人と会った経験を聞いたところ、「出会いや経験はない」と回答した者が 85.1％を占めた。一方で、経験がある場合の内容としては、「元患者（回復者）やその家族のことを取り上げた情報に接したことがある」が最も多く 9.5％、次いで「元患者

（回復者）と会った」が 3.4％であった（P22～）。

これらの結果から、現在の国からの情報発信をはじめとする各種の人権教育・啓発活動は市民にほとんど届いていない可能性があることが示唆された。また、施策検討会報告書（P114）は、ハンセン病元患者（回復者）・家族と直接会うことは、市民がハンセン病問題を「他人事」ではなく「自分事」だと体感する上で極めて大きな役割を果たすと述べているが、現在、そのような機会はほとんどないことがうかがえた。

なお、これらの結果を解釈する際には、「人権教育・啓発活動を受けた経験がある」という回答には、人権教育・啓発活動の場面においてハンセン病（病気）への恐怖心や偏見を助長しかねない不適切な内容に接した経験も含む可能性があることを考慮する必要がある[4]。

2）ハンセン病に関する学習・啓発経験が偏見差別の解消に与える効果の有無

ここでは、ハンセン病問題に関する学習・啓発を受ける経験が偏見差別の解消に寄与するかについて調査するためのクロス集計を行った。

まず、ハンセン病元患者（回復者）・家族に対する態度としての 9 項目への抵抗感を学習経験の有無別にみると、全ての項目において、学習を「受けたことはない」「はっきり覚えていない」という者に比べて学習経験がある者のほうが抵抗感を示す割合が高くなっている。この傾向は啓発活動の経験の有無でも同様で、たとえば、「法務省主催『ハンセン病問題に関する”親と子のシンポジウム”』」に参加したことがある者は、全ての項目で、抵抗感を示す割合が全体平均に比べて顕著に高くなっており、シンポジウムへの参加経験は、ハンセン病元患者（回復者）・家族への抵抗感の低減にはつながっていない可能性が示唆された（P144～）。

次に、ハンセン病問題に関する誤った歴史的事実に対する言説や考え方への意見を学習経験の有無別にみると、「ハンセン病患者を『療養所』に強制的に隔離してきたことは、有効な薬が開発され治療法が確立<u>された後であっても</u>、やむを得ない措置であった」という誤った言説に対し、「そう思う」「どちらかといえばそう思う」と回答した割合の合計は、学習を「受けたことはない」「はっきり覚えていない」という者に比べて学習経験がある者のほうが高くなっている。この傾向は啓発活動の経験の有無でも同様であり、ハンセン病問題に関する学習・啓発を受ける経験が、ハンセン病問題に関する誤った言説・考え方への認識を是正することにつながっていない可能性が示唆された（P132～）。

これらの結果から、現在行われている学習・啓発活動の内容・方法は、ハンセン病元患者（回復者）・家族への抵抗感の低減や、医学的に正当化できないハンセン病問題に関する誤った言説・考え方への認識を是正することには寄与していない可能性が示唆された。これは施策検討会が提起した課題認識と一致しており、施策検討会の提言を裏付ける結果ともいえる。

こうした現状を改善するために、現在行われている学習・啓発活動のあり方について、実施方法や回数、啓発資料等の内容、教育現場に対する情報発信、担当者の教育力向上のためのサポート体制、それらの取り組みに必要な予算措置といった様々な角度からの検証を早急に行う必要がある。

---

[4] 施策検討会報告書（P50）が指摘した具体例として、教科書には、「適確な予防方法がない」（『中学校新保健体育』大日本図書、昭和 48（1973）年度版）といった記述がなされていたし、教師用指導書には、「らいはらい菌によって皮ふからくさっていく恐ろしい病気であることを説明する」などと記載されていた（ハンセン病問題に関する検証会議最終報告書「第十三 ハンセン病強制隔離政策に果たした各界の役割と責任（2） 第 1 教育界」）。

表 2 参考:ハンセン病に係る偏見差別の解消のための施策検討会報告書 概要(抜粋)

第三篇 国などへの施策提言 4.人々の行動・意識変容に結び付く取り組みに向けて

- ハンセン病問題に係る人権教育啓発の改善
  - 「人権教育・啓発に関する基本計画」に啓発活動として掲げられた、啓発資料の作成・配布、各種の広報活動、ハンセン病資料館の運営、学校教育や社会教育等における啓発資料の適切な活用等を、三省連携して実施すべき
- 教科書を補完する啓発資料等の活用
  - 中学生用パンフレット「ハンセン病の向こう側」の活用
    - パンフレットの活用状況等を分析した上で、配布対象を高校生等にも拡大することを検討すべき
    - 厚生労働省、文部科学省、都道府県で活用のあり方に関する意見交換会等を実施し、配布・活用に関する協力関係を確立すべき
    - 厚生労働省、文部科学省がパンフレットの有効活用事例を収集し、モデルを提示すべき
  - 啓発シンポジウムの改善
    - 国の隔離政策の誤りを被害当事者や有識者が批判的に問題提起するだけでなく、国の当事者が謝罪を繰り返すことが必要
    - ロールプレイの活用等、参加者に対する問題提起型のシンポジウムとなるような工夫が必要
    - 効果検証のため専門的なアンケート調査が必要
  - 厚生労働省から地方公共団体への委託事業の改善
    - 十分な予算の確保や地方公共団体等との協議の場を確保し、啓発事業の主体を地方公共団体とすることが必要
    - 地方公共団体の加害責任に関する検証作業を実施することを奨励すべき
  - 教育現場に対する積極的な情報発信
    - 文部科学省は、人権教育研究推進指定校におけるハンセン問題に関する取り組みを拡充すべき
    - 文部科学省は、啓発資料等の活用事例集を配布したり、国立ハンセン病資料館等の見学を後押しする予算措置を講じるなど、具体的な施策を実施すべき
    - ハンセン病問題を扱うことの教育上の意義や価値を学校教育現場に積極的に発信することが必要
  - 国立ハンセン病資料館等の活用・厚生労働省が所掌する国立ハンセン病資料館等の展示、語り部の映像視聴、学芸員による講話、療養所の歴史遺産のフィールドワーク等の活用を軸にした学習を推進すべき
- 授業担当者等の教育力向上
  - 啓発教材を、授業担当者等が活用しやすい、簡潔で分かりやすい内容に早急に改善すべき
  - 授業担当者等には、「ハンセン病問題を知っている」だけではなく、「ハンセン病人権教育に意欲を持ち」、「ハンセン病問題を通じて児童生徒に何を伝えるべきかを明確に認識できていること」が必要
  - 授業担当者等は、垂直型の一方的な情報提供で知識を習得させることに加え、知識が内在化

され行動・意識変容につながるような双方向型の授業を実施すべき ➢ こうした教育に意欲を持ち、工夫する授業担当者等が増えるよう、サポート体制を整備し、教職員研修を充実させたり、大学の教員養成課程でハンセン病問題を積極的に取り上げることも促進すべき

第二章　単純集計の結果

本章では、意識調査の単純集計の結果を示す。

1　回答者の基本属性

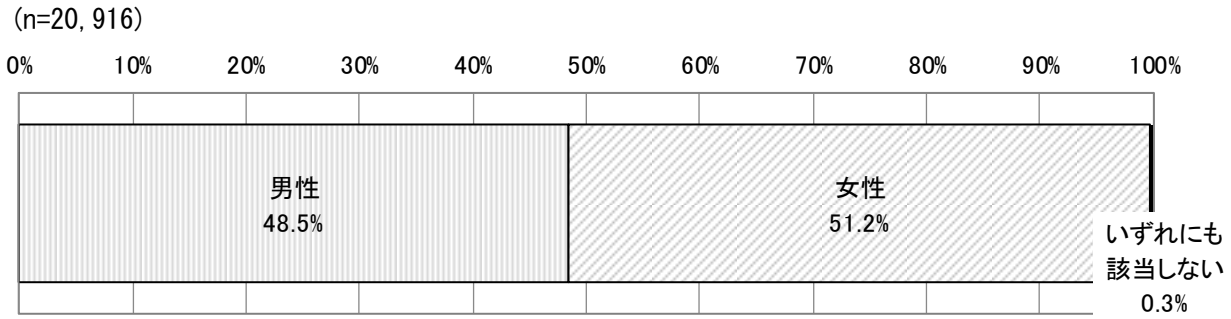
(1)性別

回答者の性別では、「女性」が 51.2%、「男性」が 48.5%、「いずれにも該当しない」が 0.3%であった。令和 2 年国勢調査に沿った割り付けとなった。

表 3　Q1 性別[5]

	本調査		令和 2 年国勢調査	
	実数	%	実数	%
総数	20,916	100.0%	104,872,280	100.0%
男性	10,141	48.5%	50,390,486	48.0%
女性	10,707	51.2%	54,481,794	52.0%
いずれにも該当しない	68	0.3%	-	-

図 2　Q1 性別



[5] 性別の令和 2 年国勢調査のデータは、「3.氏名及び男女の別」を引用した。本調査における対象者に倣い、18 歳以上 99 歳以下を集計対象とした。

(2)年齢

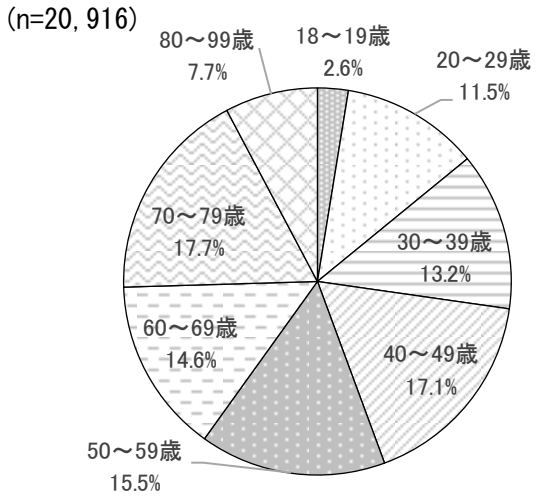
回答者の性別では、70～79 歳が 17.7%と最も多く、次いで 40～49 歳が 17.1%、50～59 歳が 15.5%であった。

本調査では、令和 2 年国勢調査と比較して、80～99 歳の割合が少ないことには注意が必要である。

表 4 年齢[6]

	本調査		令和 2 年国勢調査	
	実数	%	実数	%
総計	20,916	100.0%	104,872,280	100.0%
18～19歳	536	2.6%	2,310,674	2.2%
20～29歳	2,407	11.5%	11,963,270	11.4%
30～39歳	2,759	13.2%	13,796,161	13.2%
40～49歳	3,579	17.1%	17,941,370	17.1%
50～59歳	3,249	15.5%	16,307,333	15.5%
60～69歳	3,060	14.6%	15,372,458	14.7%
70～79歳	3,707	17.7%	15,942,723	15.2%
80～99歳	1,619	7.7%	11,238,291	10.7%

図 3 年齢



[6] 年齢の令和 2 年国勢調査のデータは、「5.出生の年月」を引用した。本調査における対象者に倣い、18 歳以上 99 歳以下を集計対象とした。

(3)最終学歴

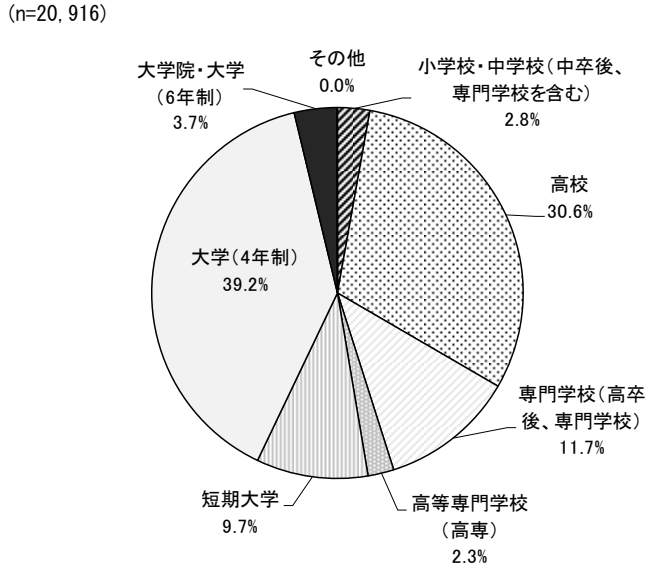
最終学歴(在学中の場合は現在の通学先)では、「大学(4 年制)」が 39.2%と最も多く、次いで「高校」が 30.6%、「専門学校(高卒後、専門学校)」が 11.7%であった。

本調査では、令和 2 年国勢調査と比較して、「大学(4 年制)」「大学院・大学(6 年制)」の割合が多いことには注意が必要である。

表 5 Q2 最終学歴[7]

	本調査		令和 2 年国勢調査	
	実数	%	実数	%
総数	20,916	100.0%	104,951,803	100.0%
小学校・中学校（中卒後、専門学校を含む）	587	2.8%	12,034,525	11.5%
高校	6,393	30.6%	38,465,813	36.7%
専門学校（高卒後、専門学校）	2,451	11.7%	-	-
高等専門学校（高専）	472	2.3%	14,518,667	13.8%
短期大学	2,033	9.7%		
大学（4年制）	8,190	39.2%	22,522,357	21.5%
大学院・大学（6年制）	780	3.7%	2,254,787	2.1%
その他	4	0.0%	15,155,654	14.4%

図 4 Q2 最終学歴



[7] 最終学歴の令和 2 年国勢調査のデータは、「10.教育」を引用し、18 歳以上を集計対象とした(100 歳以上を含む)。
本調査に倣い、「在学中・中退」は卒業扱いとした。「不詳」「未就学者」「在学か否かの別『不詳』」は「その他」として集計した。
「専門学校」に対応する項目はなく、「中卒後、専門学校」は「高校」に含まれる。また、「高卒後、専門学校」は入学資格や修業年限により「高等専門学校(高専)」「短期大学」「大学(4 年制)」のいずれかに含まれる。

（4）就業形態

就業形態では、「無職（主婦・主夫を含む、学生を除く）」が 37.5%と最も多く、次いで「正規の被雇用者（会社員等）」が 25.4%、「非正規の被雇用者（パート・アルバイト、期間作業員、契約社員、派遣社員等）」が 18.0%であった。

なお、「無職（主婦・主夫を含む、学生を除く）」の 53.5%を 70 歳以上が占めている。

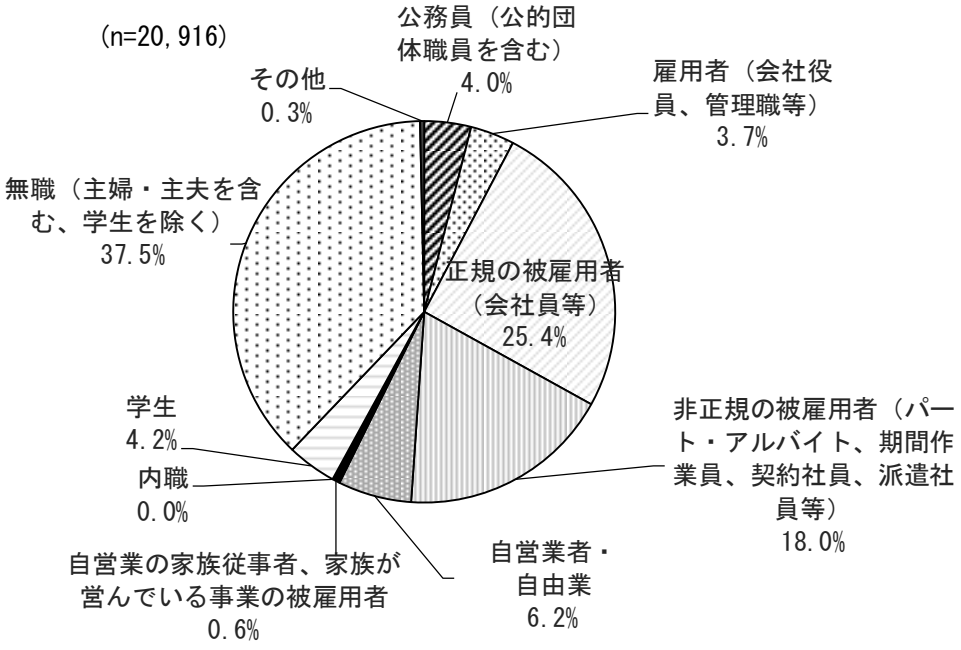
表 6 Q3 就業形態[8]

	本調査		令和 2 年国勢調査	
	実数	%	実数	%
総数	20,916	100.0%	102,641,129	100.0%
公務員（公的団体職員を含む）	829	4.0%	-	-
雇用者（会社役員、管理職等）	780	3.7%	3,133,152	3.1%
正規の被雇用者（会社員等）	5305	25.4%	30,561,508	29.8%
非正規の被雇用者（*）	3773	18.0%	15,621,121	15.2%
自営業者・自由業	1301	6.2%	4,771,995	4.6%
自営業の家族従事者、家族が営んでいる事業の被雇用者	127	0.6%	1,601,597	1.6%
内職	9	0.0%	83,253	0.1%
学生	874	4.2%	1,202,522	1.2%
無職（主婦・主夫を含む、学生を除く）	7845	37.5%	33,468,414	32.6%
その他	73	0.3%	12,197,567	11.9%

（＊）パート・アルバイト、期間作業員、契約社員、派遣社員等

[8] 就業形態の令和 2 年国勢調査のデータは、「14.勤めか自営かの別」を引用し、20 歳以上を集計対象とした（100 歳以上を含む）
本調査の項目と令和 2 年国勢調査の項目の対応は以下の通り。
雇用者（会社役員、管理職等）：役員
正規の被雇用者（会社員等）：正規の職員・従業員
非正規の被雇用者：労働者派遣事業所の派遣社員＋パート・アルバイト・その他
自営業者・自由業：雇人のある業主＋雇人のない業主
自営業の家族従事者、家族が営んでいる事業の被雇用者：家族従業者
内職：家庭内職者
学生：通学
無職（主婦・主夫を含む、学生を除く）：家事＋完全失業者＋その他（非労働力人口）
その他：労働力状態「不詳」＋従業上の地位「不詳」
なお、「公務員」は「正規の被雇用者（会社員等）」「非正規の被雇用者」のいずれかに含まれる。

図５ Q3 就業形態


(n=20,916)
公務員（公的団体職員を含む）
4.0%
雇用者（会社役員、管理職等）
3.7%
正規の被雇用者（会社員等）
25.4%
非正規の被雇用者（パート・アルバイト、期間作業員、契約社員、派遣社員等）
18.0%
自営業者・自由業
6.2%
自営業の家族従事者、家族が営んでいる事業の被雇用者
0.6%
内職
0.0%
学生
4.2%
無職（主婦・主夫を含む、学生を除く）
37.5%
その他
0.3%

（5）職種

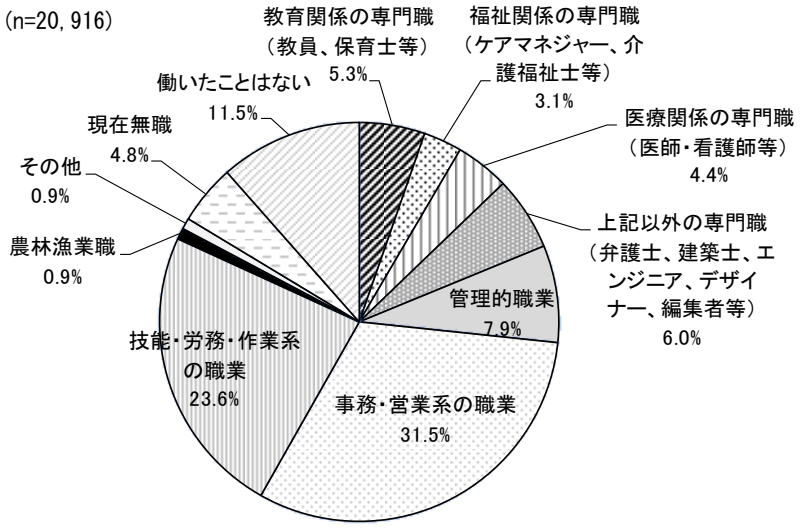
職種では、「事務・営業系の職業」が 31.5%と最も多く、次いで「技能・労務・作業系の職業」が 23.6%、「働いたことはない」が 11.5%であった。

表 7 Q4 職種[9]

	本調査		令和 2 年国勢調査	
	実数	%	実数	%
総数	20,916	100.0%	102,641,129	100%
教育関係の専門職（教員、保育士等）	1,113	5.3%	2,062,500	2.0%
福祉関係の専門職（ケアマネジャー、介護福祉士等）	651	3.1%	532,380	0.5%
医療関係の専門職（医師・看護師等）	914	4.4%	3,073,400	3.0%
上記以外の専門職（弁護士、建築士、エンジニア、デザイナー、編集者等）	1,253	6.0%	4,565,057	4.4%
管理的職業	1,646	7.9%	1,170,781	1.1%
事務・営業系の職業	6,596	31.5%	18,298,046	17.8%
技能・労務・作業系の職業	4,944	23.6%	23,684,313	23.1%
農林漁業職	191	0.9%	1,888,730	1.8%
その他	186	0.9%	12,695,006	12.4%
現在無職	1,013	4.8%	34,670,936	33.8%
働いたことはない	2,408	11.5%		

[9] 職種の令和 2 年国勢調査のデータは、「11.9 月 24 日から 30 日のまでの 1 週間に仕事をしましたか」「15.勤め先・業種などの名称及び事業の内容」を引用し、20 歳以上を集計対象とした（100 歳以上を含む）。
本調査の項目と令和 2 年国勢調査の項目の対応は以下の通り。
教育関係の専門職（教員、保育士等）：教員（中項目）＋保育士（小項目）
福祉関係の専門職（ケアマネジャー、介護福祉士等）：その他の社会福祉専門職業従事者（小項目）
医療関係の専門職（医師・看護師等）：保健医療従事者（中項目）
上記以外の専門職（弁護士、建築士、エンジニア、デザイナー、編集者等）：専門的・技術的職業従事者（保健医療従事者、社会福祉専門職業従事者、教員を除く）
管理的職業：管理的職業従事者
事務・営業系の職業：事務従事者、販売従事者
技能・労務・作業系の職業：サービス職業従事者、保安職業従事者、生産工程従事者、輸送・機械運転従事者、建設・採掘従事者、運搬・清掃・包装等従事者
農林漁業職：農林漁業従事者
その他：分類不能の職業、労働力状態「不詳」
現在無職、働いたことはない：家事＋完全失業者＋その他（非労働力人口）
なお、本調査の Q4 では、現在働いていない者（Q3 にて「無職（主婦・主夫を含む、学生を除く）」と回答した者）は、「最後についていた仕事の職種」を回答しているため、令和 2 年国勢調査の結果と比較して、各職種の割合が高くなる傾向がある。また、表 7 と図 6 の「現在無職」の項目は、「その他」の自由記述欄に記載された内容をアフターコーディングしたもの。

図 6 Q4 職種


(n=20,916)
教育関係の専門職
（教員、保育士等）
5.3%
福祉関係の専門職
（ケアマネジャー、介護福祉士等）
3.1%
医療関係の専門職
（医師・看護師等）
4.4%
上記以外の専門職
（弁護士、建築士、エンジニア、デザイナー、編集者等）
6.0%
管理的職業
7.9%
事務・営業系の職業
31.5%
技能・労務・作業系の職業
23.6%
農林漁業職
0.9%
その他
0.9%
現在無職
4.8%
働いたことはない
11.5%

（6）居住地域

回答者の居住地域は以下の通りである。

なお、本調査の回答者は調査会社の登録モニターとして事前に居住地域を把握済みのため、調査票では居住地域の回答は求めていない。

表 8 居住地域[10]

	本調査		令和 2 年国勢調査			本調査		令和 2 年国勢調査	
	実数	%	実数	%		実数	%	実数	%
総計	20,916	100.0%	104,872,280	100.0%					
北海道	888	4.2%	4,475,193	4.3%	滋賀県	234	1.1%	1,147,482	1.1%
青森県	202	1.0%	1,055,852	1.0%	京都府	424	2.0%	2,132,983	2.0%
岩手県	207	1.0%	1,029,566	1.0%	大阪府	1,447	6.9%	7,330,628	7.0%
宮城県	383	1.8%	1,922,988	1.8%	兵庫県	886	4.2%	4,471,996	4.3%
秋田県	162	0.8%	834,078	0.8%	奈良県	227	1.1%	1,114,003	1.1%
山形県	184	0.9%	908,422	0.9%	和歌山県	164	0.8%	783,499	0.7%
福島県	306	1.5%	1,541,388	1.5%	鳥取県	101	0.5%	460,691	0.4%
茨城県	476	2.3%	2,397,804	2.3%	島根県	115	0.5%	560,551	0.5%
栃木県	324	1.5%	1,615,553	1.5%	岡山県	308	1.5%	1,536,982	1.5%
群馬県	325	1.6%	1,617,441	1.5%	広島県	461	2.2%	2,313,302	2.2%
埼玉県	1,200	5.7%	6,079,055	5.8%	山口県	233	1.1%	1,133,280	1.1%
千葉県	1,040	5.0%	5,250,366	5.0%	徳島県	128	0.6%	595,401	0.6%
東京都	2,312	11.1%	11,745,729	11.2%	香川県	166	0.8%	787,180	0.8%
神奈川県	1,516	7.2%	7,698,603	7.3%	愛媛県	226	1.1%	1,108,763	1.1%
新潟県	373	1.8%	1,866,858	1.8%	高知県	128	0.6%	585,119	0.6%
富山県	181	0.9%	872,214	0.8%	福岡県	823	3.9%	4,168,356	4.0%
石川県	197	0.9%	942,460	0.9%	佐賀県	139	0.7%	664,318	0.6%
福井県	136	0.7%	637,636	0.6%	長崎県	221	1.1%	1,098,249	1.0%
山梨県	145	0.7%	676,028	0.6%	熊本県	288	1.4%	1,433,808	1.4%
長野県	340	1.6%	1,705,460	1.6%	大分県	194	0.9%	934,844	0.9%
岐阜県	327	1.6%	1,640,536	1.6%	宮崎県	185	0.9%	881,070	0.8%
静岡県	607	2.9%	3,052,308	2.9%	鹿児島県	250	1.2%	1,291,827	1.2%
愛知県	1,218	5.8%	6,157,334	5.9%	沖縄県	223	1.1%	1,146,463	1.1%
三重県	296	1.4%	1,468,613	1.4%					

[10] 居住地域の令和 2 年国勢調査のデータは、本調査における対象者に倣い、18 歳以上 99 歳以下を集計対象とした。

2 ハンセン病に対する認識

(1)ハンセン病(病気)の認知度

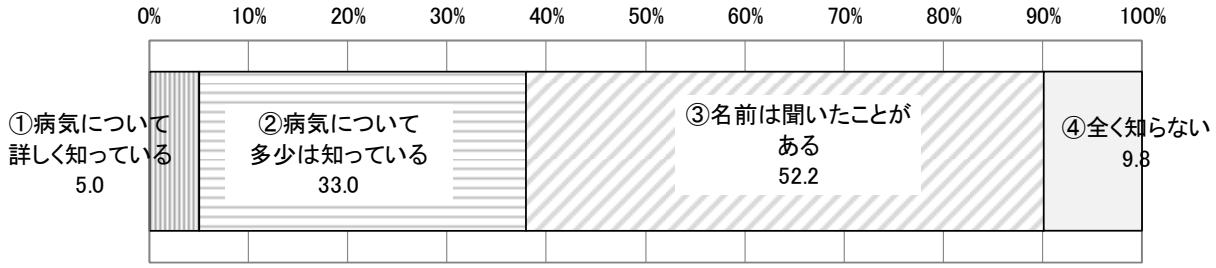
ハンセン病(病気)の認知度では、「③名前は聞いたことがある」が 52.2%と最も多く、「②病気について多少は知っている」が 33.0%、「①病気について詳しく知っている」が 5.0%である一方、「④全く知らない」は 9.8%であり、回答者の 9 割が病気の存在を認知していた

表 9 Q5 ハンセン病(病気)の認知度

	実数	%
総数	20,916	100.0%
①病気について詳しく知っている	1,046	5.0%
②病気について多少は知っている	6,892	33.0%
③名前は聞いたことがある	10,918	52.2%
④全く知らない	2,060	9.8%

図 7 Q5 ハンセン病(病気)の認知度

(n=20, 916)

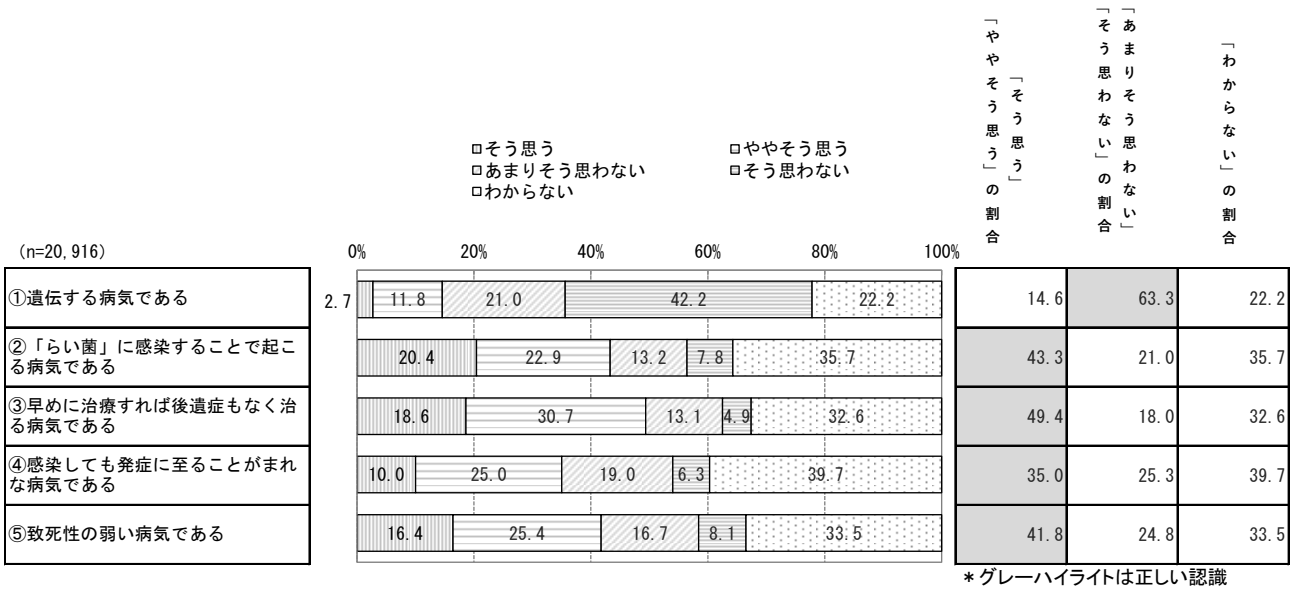


（2）ハンセン病（病気）に対する印象

ハンセン病（病気）に対する印象では、「①遺伝する病気である」について、「そう思わない」と正答した者が 42.2％と最も多く、「あまりそう思わない」と回答した 21.0％との合計は 63.3％で過半となったが、「わからない」が 22.2％であった。

他方、「②『らい菌』に感染することで起こる病気である」「③早めに治療すれば後遺症もなく治る病気である」「④感染しても発症に至ることがまれな病気である」「⑤致死性の弱い病気である」[11]について、「そう思う」10.0～20.4％、「ややそう思う」22.9～30.7％で、正答方向で回答した割合は合計 35.0～49.4％と半数を切っており、いずれも「わからない」が 30％台であった。特に、現在の日本においては「④感染しても発症に至ることがまれな病気である」について、正答方向で回答した割合は合計 35.0％で、5 項目のうち正答率が最も低かった。

図 8 Q6 ハンセン病に対する印象

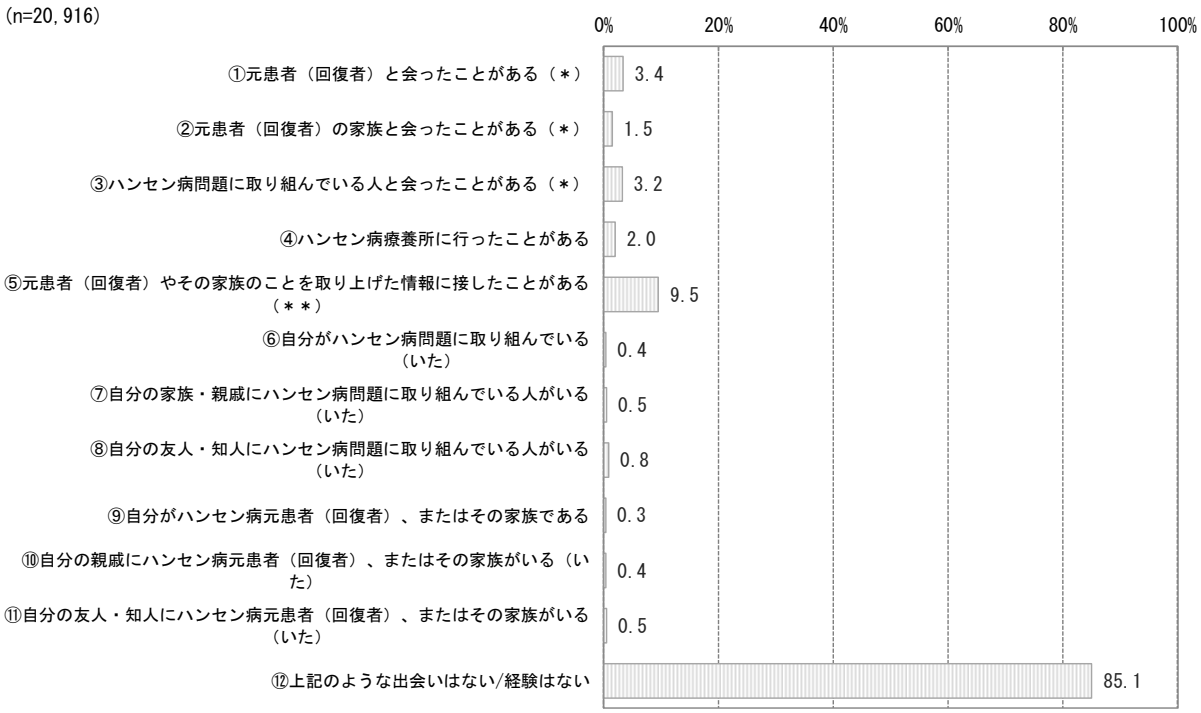


[11] 平成 13（2001）年 5 月 11 日熊本地裁判決においては、ハンセン病は、慢性の経過をたどって進行するが、もともと、それ自体としては致死的な病気ではない旨、認定している。

（3）ハンセン病元患者（回復者）・家族・問題に取り組んでいる人と会った経験

ハンセン病元患者（回復者）・家族・問題に取り組んでいる人と会った経験では、「⑫出会いはない／経験はない」と回答した割合が 85.1%を占めた。一方で、経験がある場合の内容としては、「⑤元患者（回復者）やその家族のことを取り上げた情報に接したことがある（学校・職場等での学習、講演会・展示会等のイベント、パンフレット、新聞や雑誌の記事、書籍、ビデオ・DVD、テレビ番組、ラジオ、映画、展示等）」が最も多く 9.5%、次いで「①元患者（回復者）と会ったことがある（学校・職場等での学習、講演会・展示会等のイベントなども含む）」が 3.4%であった。

図 9 Q7 ハンセン病元患者（回復者）・家族・問題に取り組んでいる人と会った経験（複数回答）



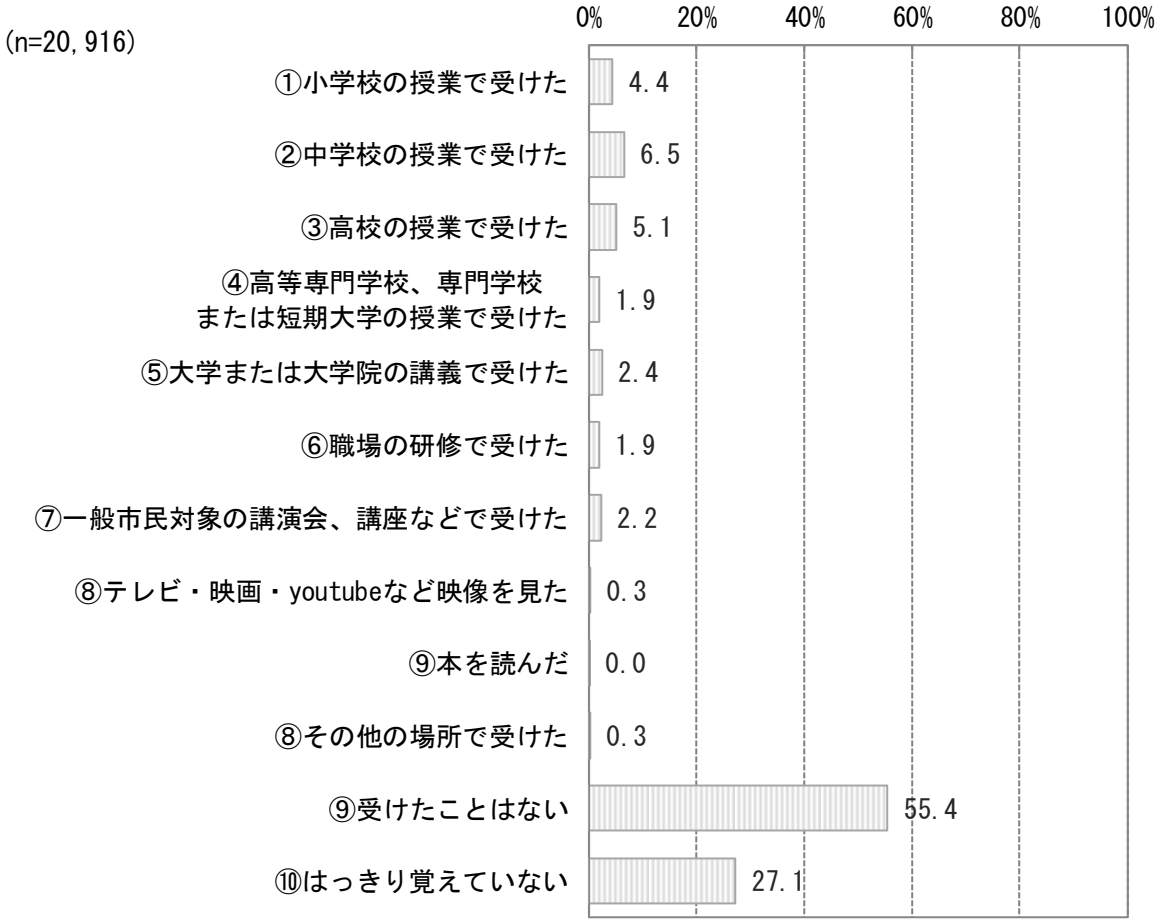
（＊）学校・職場等での学習、講演会・展示会等のイベントなども含む
（＊＊）学校・職場等での学習、講演会・展示会等のイベント、パンフレット、新聞や雑誌の記事、書籍、ビデオ・DVD、テレビ番組、ラジオ、映画、展示等

（4）ハンセン病問題の学習を受けた経験

ハンセン病問題の学習を受けた経験では、「⑪受けたことはない」が 55.4%と最も多く、次いで「⑩はっきり覚えていない」が 27.1%で、回答者の 8 割は学習経験がないか、学習を受けていたとしてもその内容が定着していなかった。

また、学習経験がある中で最も多かったのは「②中学校の授業で受けた」の 6.5%、次いで「③高校の授業で受けた」が 5.1%、「①小学校の授業で受けた」が 4.4%という結果であった。

図 10 Q8 ハンセン病問題の学習を受けた経験（複数回答）

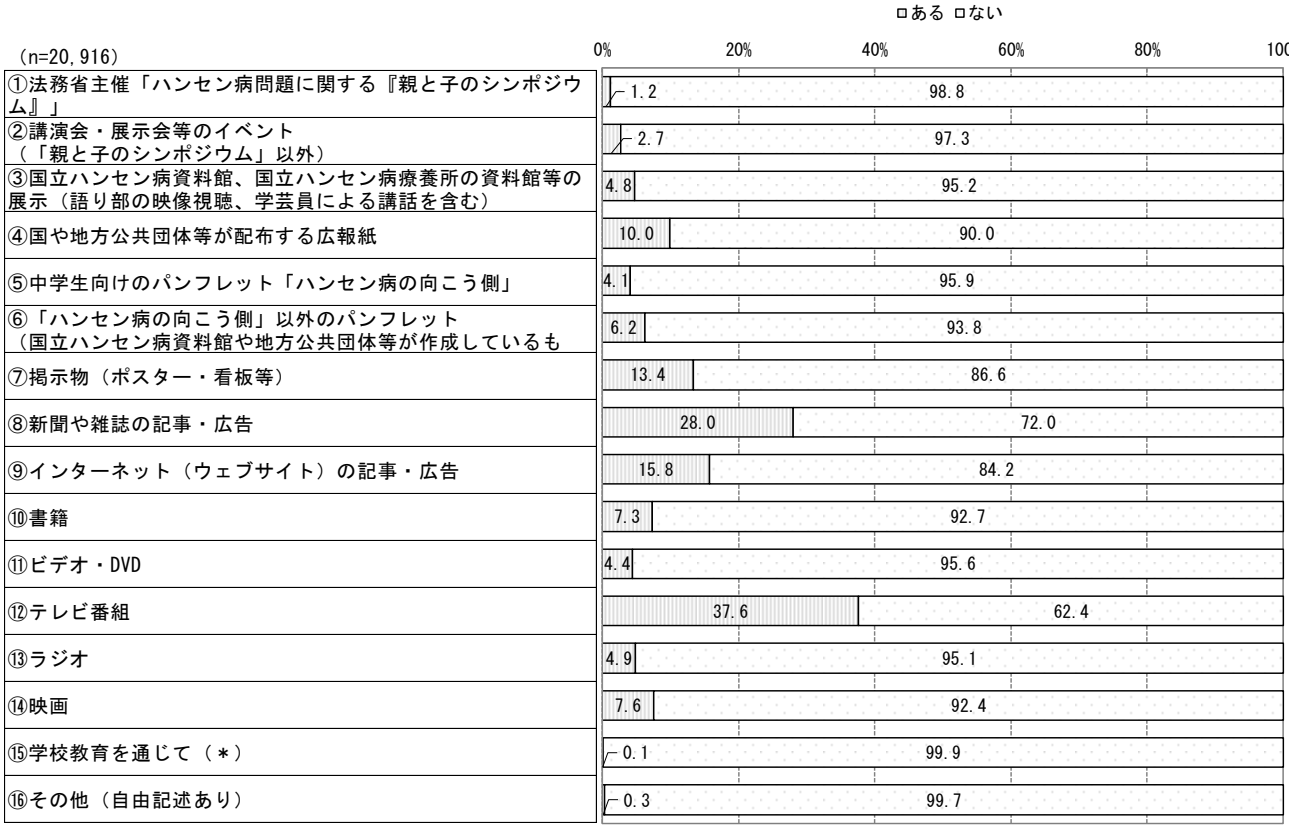


（5）ハンセン病問題に関する啓発活動に参加した経験

ハンセン病問題に関する啓発活動に参加した経験では、「⑫テレビ番組」が最も多く 37.6%、次いで「⑧新聞や雑誌の記事・広告」が 28.0%、「⑨インターネット（ウェブサイト）の記事・広告」が 15.8%であった。

一方で、厚生労働省が作成し、平成 15（2003）年から全国の中学生に配布しているパンフレット「ハンセン病の向こう側」を見たことがある割合は 4.1%、法務省が平成 17（2005）年度から年 1 回各地で開催している「ハンセン病問題に関する『親と子のシンポジウム』」に参加したことがある割合は 1.2%、「国立ハンセン病資料館、国立ハンセン病療養所の資料館等の展示」に触れたことがある割合は 4.8%にとどまった。

図 11 Q9 ハンセン病問題の啓発活動に参加した経験（複数回答）



（＊）その他の自由記述に一定数の記載があったため「学校教育を通じて」の項目を立てた。学習経験についてはQ8で確認している。

3 ハンセン病に係る偏見差別

(1)ハンセン病に係る偏見差別に関する経験等

ハンセン病に係る偏見差別に関する経験等では、「①自分の家族・親戚などが偏見や差別に基づく言動をしているのを見聞きしたことがある」と回答した割合は 7.3%であった。

「②自分の友人・知人など身近な人が偏見や差別に基づく言動をしているのを見聞きしたことがある」と回答した割合は 8.4%であった。

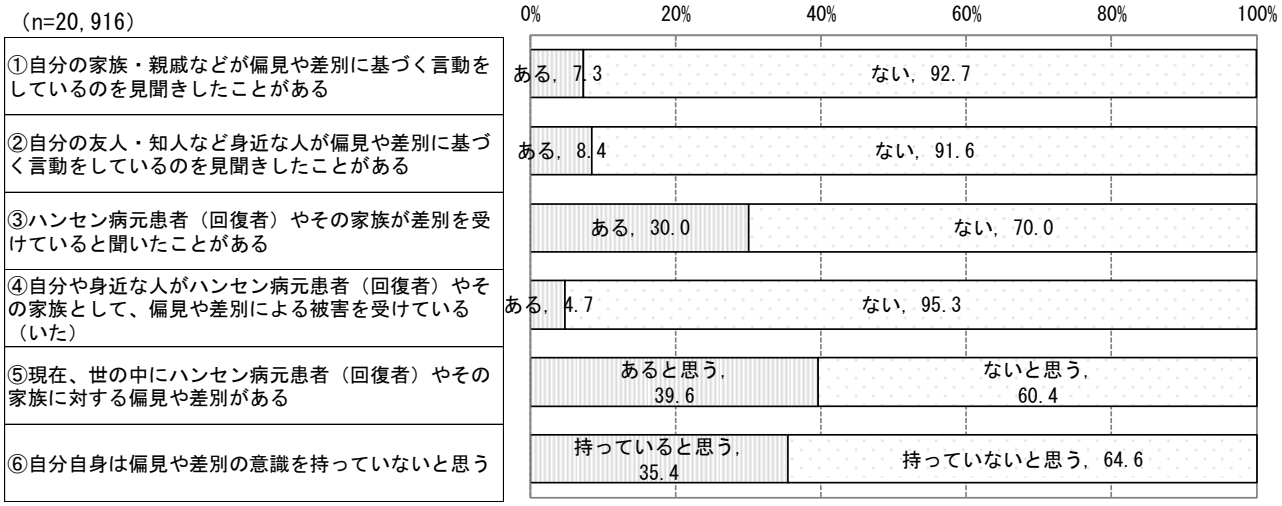
「③ハンセン病元患者(回復者)やその家族が差別を受けていると聞いたことがあると回答した割合は 30.0%であった。

「④自分や身近な人がハンセン病元患者(回復者)やその家族として、偏見や差別による被害を受けている(いた)」と回答した割合は 4.7%であった。

また、「⑤現在、世の中にハンセン病元患者(回復者)やその家族に対する偏見や差別があると思う」と回答した者は 39.6%にとどまり、「⑥自分自身は偏見や差別の意識を持っていないと思う」とした者が 64.6%を占めた。

なお、偏見差別の存在は回答者の主観的な認識のみで決めてはならないものであるため、本質問項目の回答結果を、差別の有無や差別の程度を示すデータとして用いてはならない。

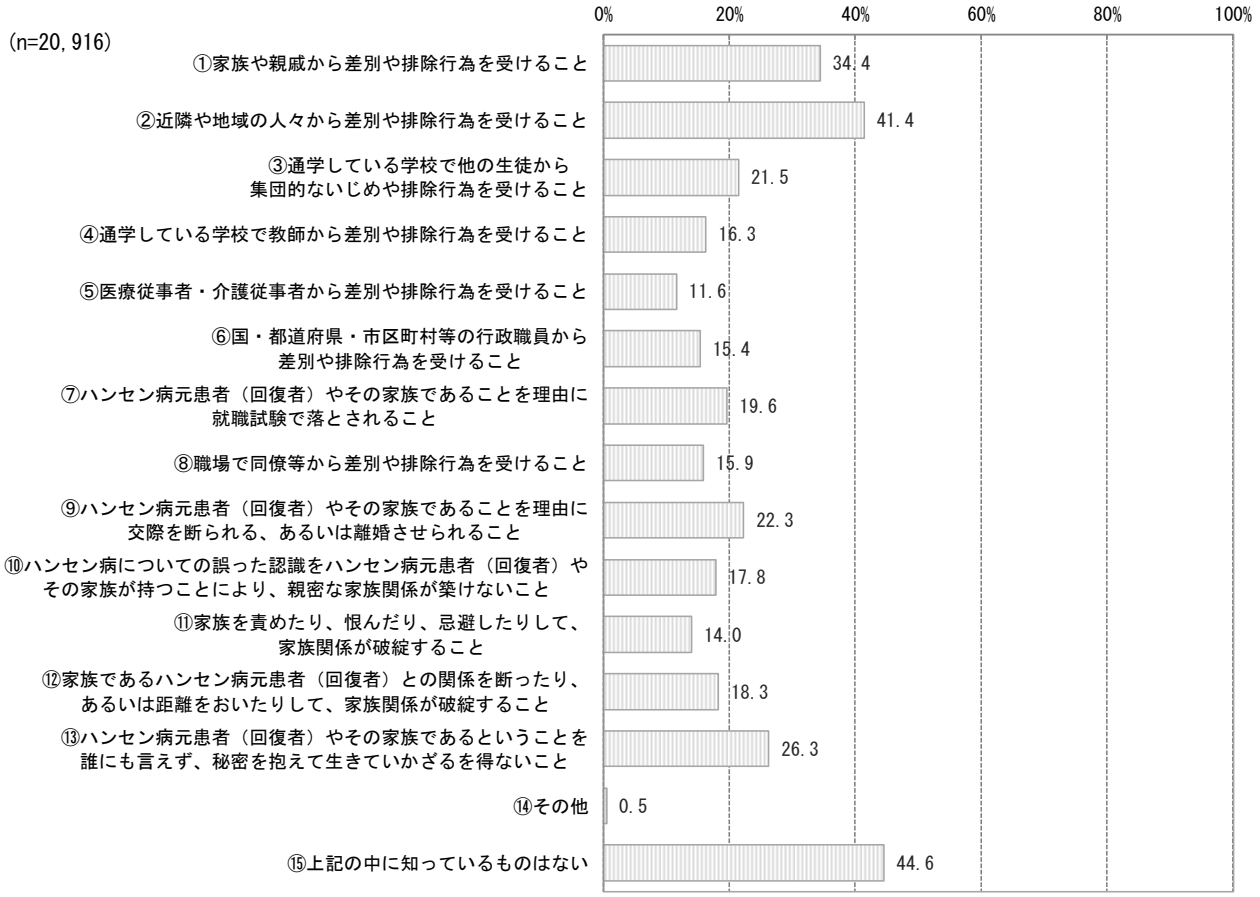
図 12 Q10 ハンセン病に係る偏見差別に関する経験等



（2）ハンセン病元患者（回復者）・家族に対する偏見差別による被害事例の認知度

ハンセン病元患者（回復者）・家族に対する偏見差別による被害事例の認知度では、「⑮知っているものはない」が 44.6％と最も多かった。認知度が高かった項目は、「②近隣や地域の人々から差別や排除行為を受けること』が 41.4％、「①家族や親戚から差別や排除行為を受けること」が 34.4％、「⑬ハンセン病元患者（回復者）やその家族であるということを誰にも言えず、秘密を抱えて生きていかざるを得ないこと」が 26.3％であった。

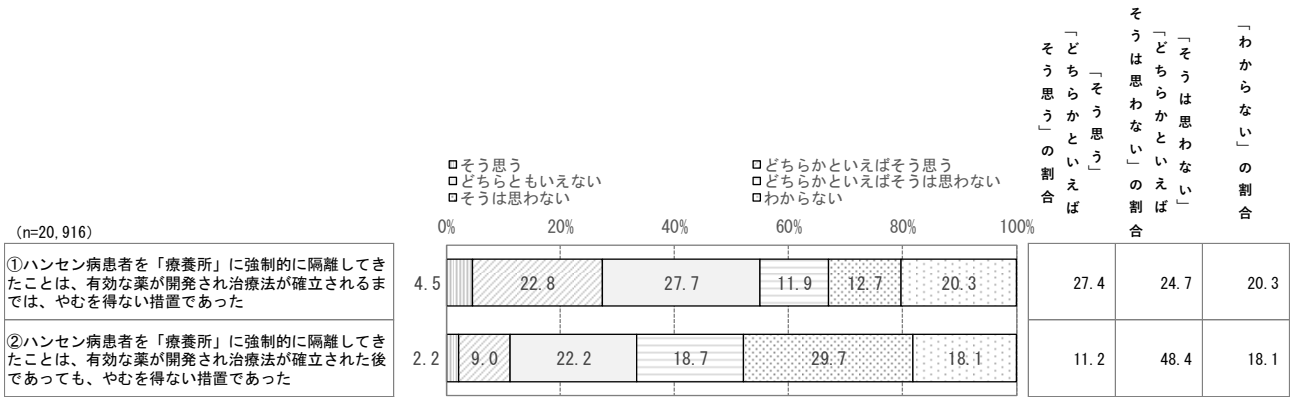
図 13　Q11 ハンセン病元患者（回復者）・家族に対する偏見差別による被害事例の認知度（複数回答）



（3）ハンセン病問題に関する歴史的事実・考え方に対する意見

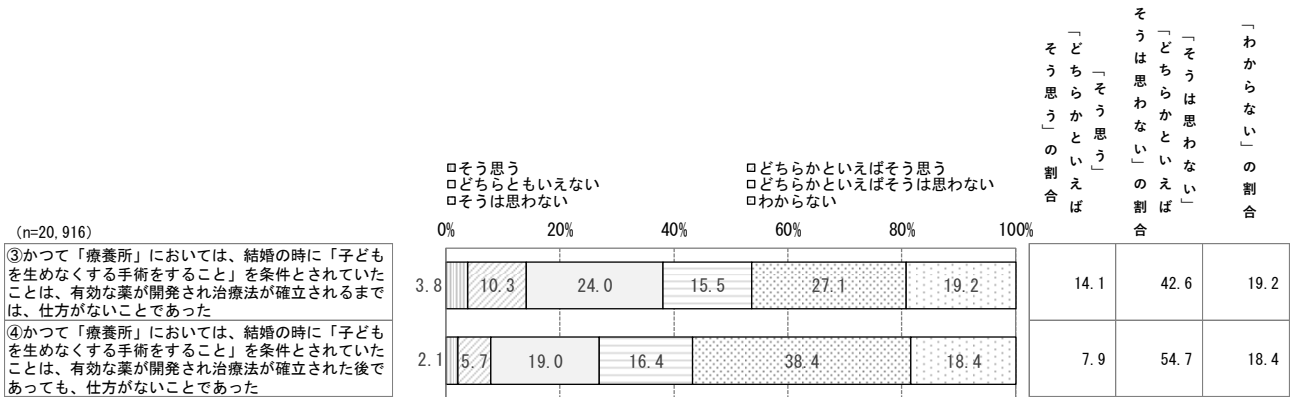
ハンセン病問題に関する歴史的事実・考え方に対する意見では、「②ハンセン病患者を『療養所』に強制的に隔離してきたことは、有効な薬が開発され治療法が確立された後であっても、やむを得ない措置であった」という誤った言説に対し、「そうは思わない」29.7%、「どちらかといえばそうは思わない」18.7%、その合計が 48.4%であった。ただし、「そう思う」2.2%、「どちらかといえばそう思う」9.0%と、誤りを支持する傾向の回答が 11.2%であった。また、「どちらともいえない」が 22.2%、「わからない」が 18.1%で 4 割を占めた。

図 14　Q12 ハンセン病問題に関する歴史的事実・考え方に対する意見（1/3）



「④かつて『療養所』においては、結婚の時に『子どもを生めなくする手術をすること』を条件とされていたことは、有効な薬が開発され治療法が確立された後であっても、仕方がないことであった」という誤った言説に対し、「そうは思わない」38.4%、「どちらかといえばそうは思わない」16.4%、その合計が 54.7%であった。「そう思う」2.1%、「どちらかといえばそう思う」5.7%と、誤りを支持する傾向の回答は 7.9%にとどまったが、「どちらともいえない」が 19.0%、「わからない」が 18.4%と合計で 37.4%を占めた。

図 15　Q12 ハンセン病問題に関する歴史的事実・考え方に対する意見（2/3）



「⑤ハンセン病元患者（回復者）にとっては、専門性がある医療・福祉を受けられる『療養所』の中で暮らすことのほうが、『療養所』の外で暮らすよりもよい」「⑥ハンセン病元患者（回復者）にとっては、偏見・差別を受けづらい『療養所』の中で暮らすことのほうが、『療養所』の外で暮らすよりもよい」」について、「どちらともいえない」が 34.7～35.3%、「わからない」が 20.6～21.8%であり、合計 56.5～57.5%で半数程度となった。

「⑦ハンセン病患者の自由が拘束されることは仕方のない側面もある」については、「そうは思わない」が最も多く 30.6%、次いで「どちらともいえない」が 22.0%であった。

「⑧ハンセン病元患者（回復者）の宿泊を『他の宿泊客への迷惑になる』ことを理由として拒否した事件における、ホテル側の言い分には一理あり、ホテル側の対応は認められる」について、「どちらともいえない」が 27.8%と最も多く、「わからない」が 20.6%との合計が 48.4%に達した。

図 16 Q12 ハンセン病問題に関する歴史的事実・考え方に対する意見（3/3）

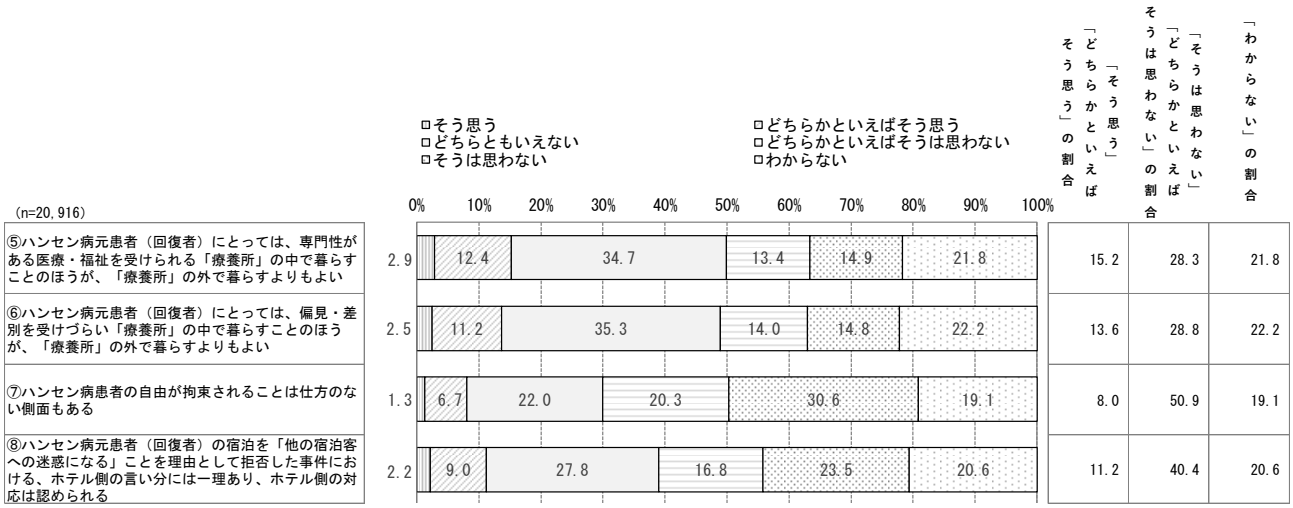
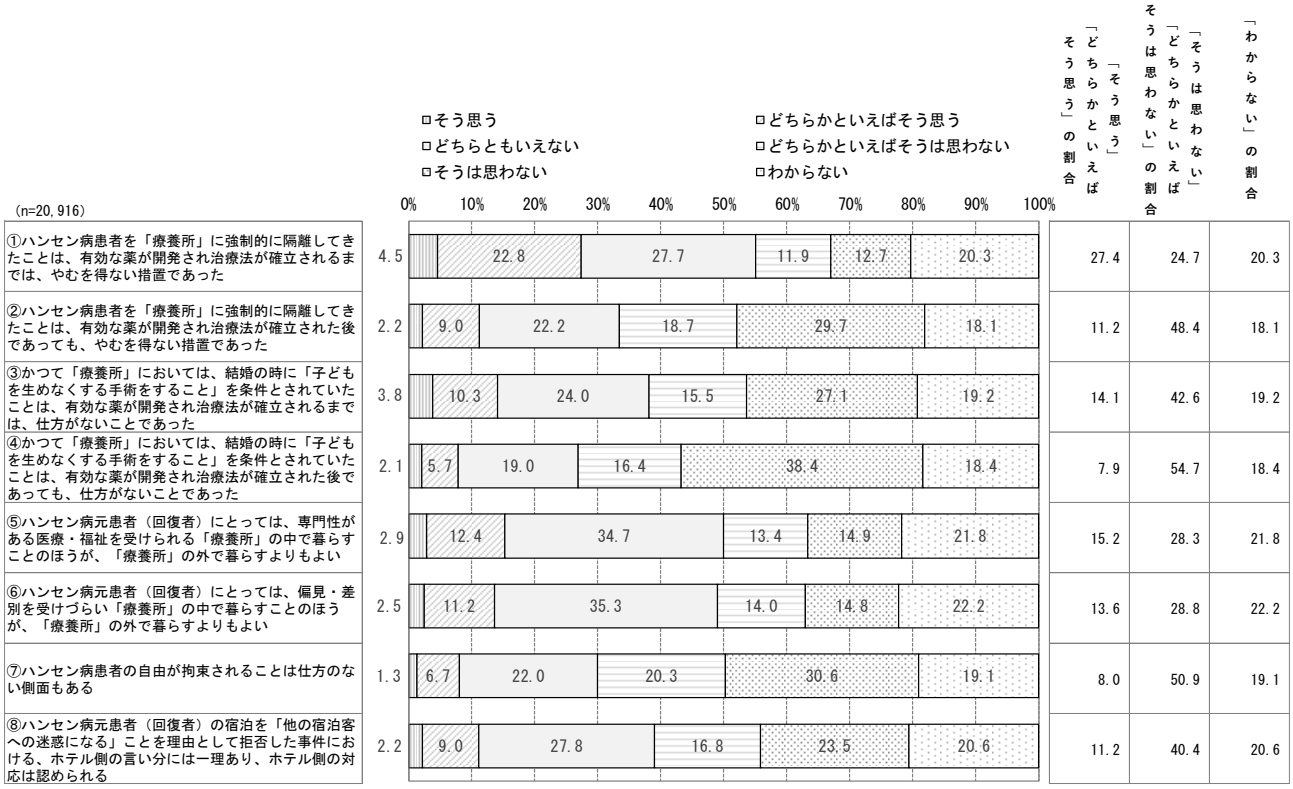


図 17　Q12 ハンセン病問題に関する歴史的事実・考え方に対する意見（一覧）



（4）ハンセン病・ハンセン病元患者（回復者）に対する考え方

ハンセン病・ハンセン病元患者（回復者）に対する考え方では、ハンセン病・ハンセン病元患者（回復者）に対する包摂的な考え方に対する回答傾向をみると、「②ハンセン病元患者（回復者）も、地域で普通に隣人として暮らせることが望ましい」という考え方に対し、「そう思う」が 24.6%、「どちらかといえばそう思う」が 36.3%であり、合計 60.8%であった。

「④ハンセン病元患者（回復者）も、そうでない人も、人としての価値は変わらない」という考え方に対し「そう思う」が 47.6%、「どちらかといえばそう思う」が 21.2%であり、合計 68.8%であった。

「⑩たとえ目立つハンセン病の後遺症が残っていても、公共の場で堂々とふるまえる社会がよい」という考え方に対し、「そう思う」が 31.6%、「どちらかといえばそう思う」が 31.6%であり、合計 63.1%であった。

「⑧時代や場所が違ったら、自分もハンセン病だったかもしれないと思う」という考え方に対し、「そう思う」が 15.1%、「どちらかといえばそう思う」が 24.5%であり、合計 39.6%であった。

「⑪機会があれば、自分もハンセン病療養所を訪ねてみたい」という考え方に対し「そう思う」が 5.6%、「どちらかといえばそう思う」が 12.5%であり、合計 18.1%であった。

次に、ハンセン病・ハンセン病元患者（回復者）に対する非包摂的な考え方（否定・遠ざけ）に対する回答傾向をみると、「①ハンセン病と聞くと、できるだけ距離を取りたいと思うのは当然の反応だ」という考え方に対し、「そう思う」が 2.0%、「どちらかといえばそう思う」が 13.9%であり、合計 16.0%であった。ただし、「どちらともいえない」が 29.3%に達した。

「③ハンセン病元患者（回復者）とは、たとえ治っていたとしても、関りを持ちたくない」という考え方に対し、「そう思う」が 1.1%、「どちらかといえばそう思う」が 4.6%であり、合計 5.7%であった。ただし、「どちらともいえない」が 24.4%に達した。

「⑤自分の身内にハンセン病元患者（回復者）がいなくて、よかったと思う」という考え方に対し、「そう思う」が 10.5%、「どちらかといえばそう思う」が 21.2%であり、合計 31.7%であった。ただし、「どちらともいえない」も 31.2%に達した。

「⑨ハンセン病の後遺症が残っている姿を写真や映像で見せると、見た人が驚くだろうから、好ましくない」という考え方に対し、「そう思う」が 2.2%、「どちらかといえばそう思う」が 9.2%であり、合計 11.3%であった。ただし、「どちらともいえない」が 34.8%に達した。

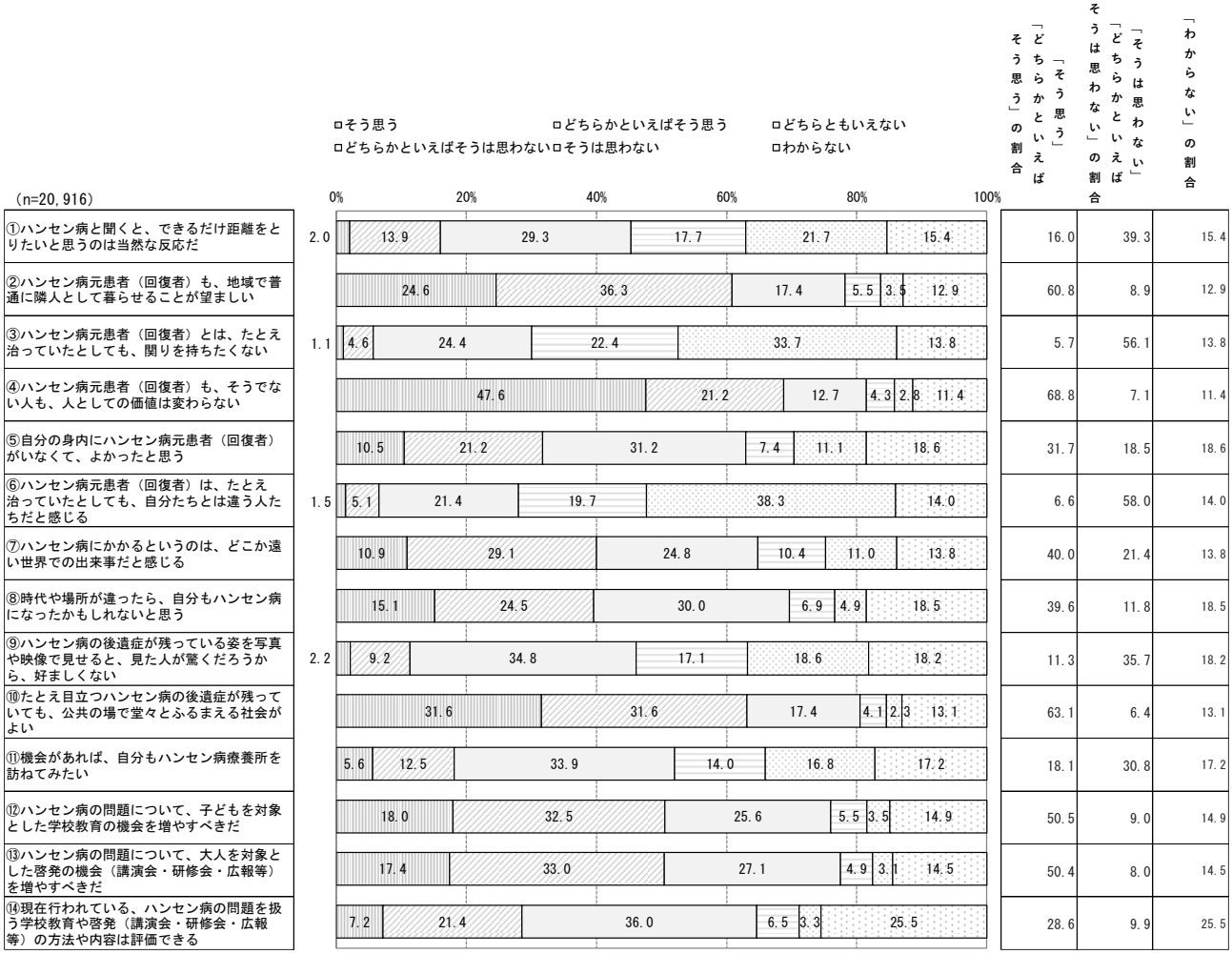
「⑦ハンセン病にかかるというのは、どこか遠い世界での出来事だと感じる」という考え方に対し、「そう思う」が 10.9%、「どちらかといえばそう思う」が 29.1%であり、合計 40.0%であった。

さらに、ハンセン病問題に関する学習啓発の考え方に対する回答傾向をみると、「⑫ハンセン病の問題について、子どもを対象とした学校教育の機会を増やすべきだ」という考え方に対し、「そう思う」が 18.0%、「どちらかといえばそう思う」が 32.5%であり、「そう思う」「どちらかといえばそう思う」と回答した割合は、合計 50.5%であった。

「⑬ハンセン病の問題について、大人を対象とした啓発の機会（講演会・研修会・広報等）を増やすべきだ」という考え方に対し、「そう思う」が 17.4%、「どちらかといえばそう思う」が 33.0%であり、「そう思う」「どちらかといえばそう思う」と回答した割合は、合計 50.4%であった。

また、「⑭現在行われている、ハンセン病の問題を扱う学校教育や啓発の方法や内容は評価できる」という考え方に対し、「そう思う」が 7.2%、「どちらかといえばそう思う」が 21.4%であり、「そう思う」「どちらかといえばそう思う」と回答した割合は、合計 28.6%であった。

図 18　Q13 ハンセン病・ハンセン病元患者（回復者）に対する考え方



	「そう思う」の割合	「どちらかといえば そう思う」の割合	「どちらかといえば そうは思わない」の割合	「そうは思わない」の割合	「わからない」の割合
①ハンセン病と聞くと、できるだけ距離をとりたいと思うのは当然な反応だ	2.0	13.9	29.3	17.7	21.7	15.4
②ハンセン病元患者（回復者）も、地域で普通に隣人として暮らせることが望ましい	24.6	36.3	17.4	5.5	3.5	12.9
③ハンセン病元患者（回復者）とは、たとえ治っていたとしても、関りを持ちたくない	1.1	4.6	24.4	22.4	33.7	13.8
④ハンセン病元患者（回復者）も、そうでない人も、人としての価値は変わらない	47.6	21.2	12.7	4.3	2.8	11.4
⑤自分の身内にハンセン病元患者（回復者）がいなくて、よかったと思う	10.5	21.2	31.2	7.4	11.1	18.6
⑥ハンセン病元患者（回復者）は、たとえ治っていたとしても、自分たちとは違う人たちだと感じる	1.5	5.1	21.4	19.7	38.3	14.0
⑦ハンセン病にかかるというのは、どこか遠い世界での出来事だと感じる	10.9	29.1	24.8	10.4	11.0	13.8
⑧時代や場所が違ったら、自分もハンセン病になったかもしれないと思う	15.1	24.5	30.0	6.9	4.9	18.5
⑨ハンセン病の後遺症が残っている姿を写真や映像で見せると、見た人が驚くだろうから、好ましくない	2.2	9.2	34.8	17.1	18.6	18.2
⑩たとえ目立つハンセン病の後遺症が残っていても、公共の場で堂々とふるまえる社会がよい	31.6	31.6	17.4	4.1	2.3	13.1
⑪機会があれば、自分もハンセン病療養所を訪ねてみたい	5.6	12.5	33.9	14.0	16.8	17.2
⑫ハンセン病の問題について、子どもを対象とした学校教育の機会を増やすべきだ	18.0	32.5	25.6	5.5	3.5	14.9
⑬ハンセン病の問題について、大人を対象とした啓発の機会（講演会・研修会・広報等）を増やすべきだ	17.4	33.0	27.1	4.9	3.1	14.5
⑭現在行われている、ハンセン病の問題を扱う学校教育や啓発（講演会・研修会・広報等）の方法や内容は評価できる	7.2	21.4	36.0	6.5	3.3	25.5

（5）ハンセン病元患者（回復者）・家族に対する態度

ハンセン病元患者（回復者）・家族に対する態度では、「①近所に住むこと」、「②同じ職場で働くこと」、「③同じ学校に通うこと」、「④同じ医療機関・福祉施設に通院・通所すること」、「⑤同じ医療機関・福祉施設に入院・入所すること」の 5 項目については、「まったく抵抗を感じない」23.3～28.2%、「あまり抵抗を感じない」30.9～33.6%と、抵抗感を示さない傾向の回答者が 54.2～61.9%であり、「とても抵抗を感じる」1.3～2.1%、「やや抵抗を感じる」6.1～8.0%と、抵抗感を示した者が 7.5～9.5%であった。

他方、「⑦手をつなぐ等の身体に触れること」、「⑧ホテルなどで同じ浴場を利用すること」、「⑨ハンセン病元患者（回復者）の家族とあなたの家族が結婚すること」の 3 項目については、「どちらともいえない」が 26.0～31.0%と最も多く、「とても抵抗を感じる」4.4～6.3%、「やや抵抗を感じる」14.1～15.5%と、抵抗感を示した者が 18.5～21.8%であり、上記①～⑤と比較して、抵抗感を示す割合が高かった。

図 19 Q14 ハンセン病元患者（回復者）・家族に対する態度

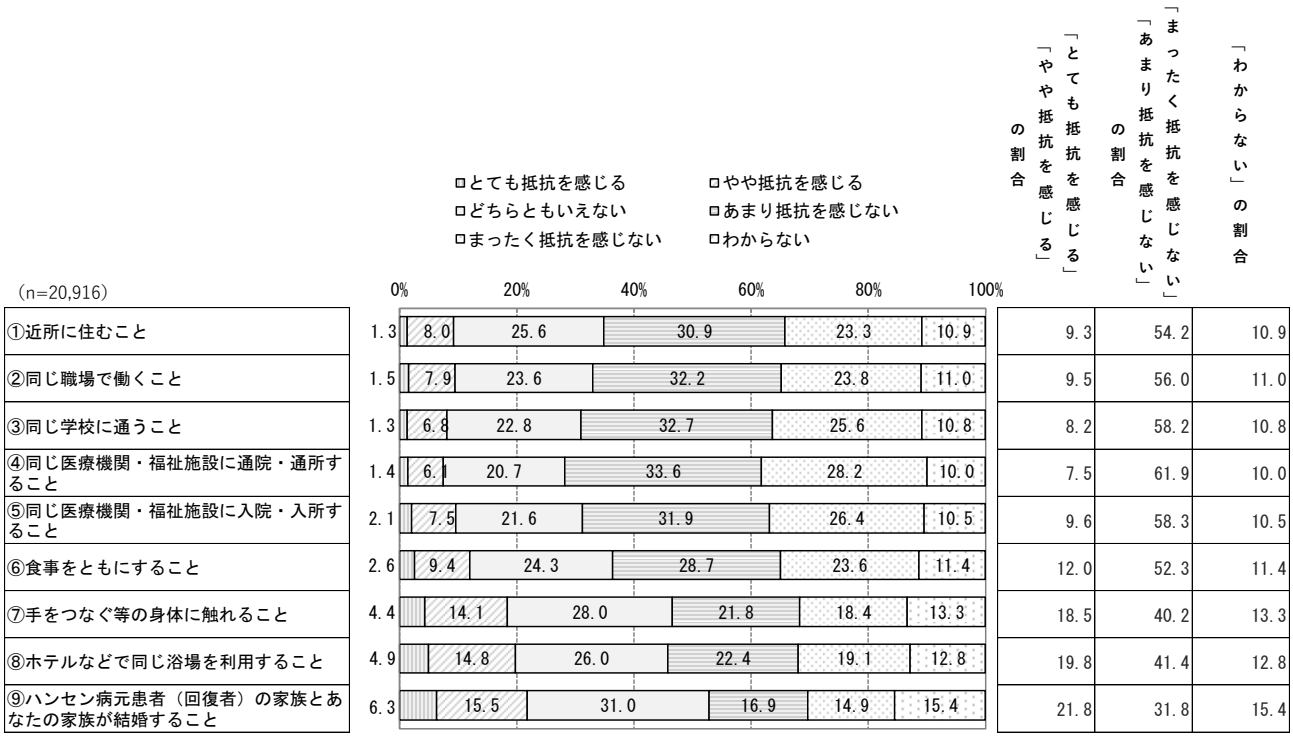
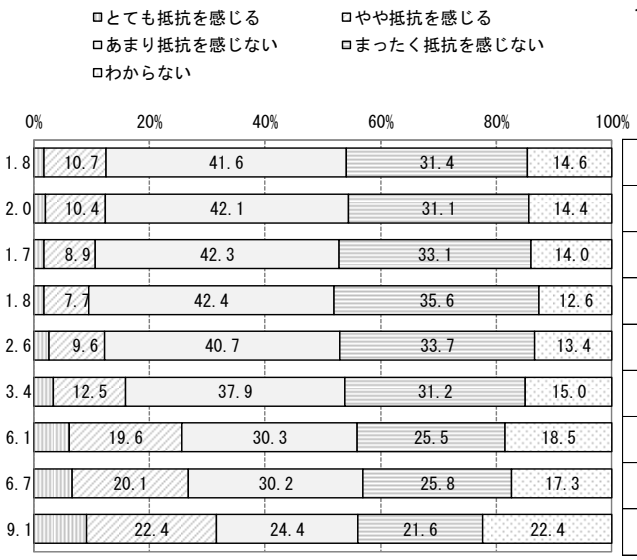


図 20　Q14 ハンセン病元患者（回復者）・家族に対する態度（どちらともいえない」を除く）



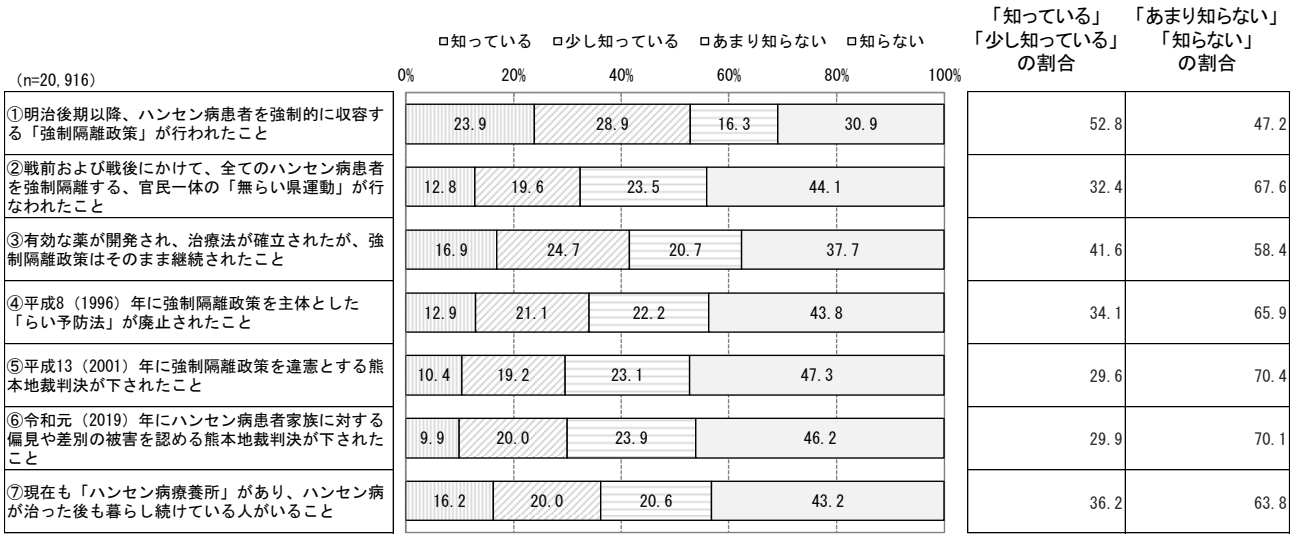
（n=20,916）	とても抵抗を感じる	やや抵抗を感じる	あまり抵抗を感じない	まったく抵抗を感じない	わからない	「とても抵抗を感じる」「やや抵抗を感じる」の割合	「あまり抵抗を感じない」「まったく抵抗を感じない」の割合	「わからない」の割合
①近所に住むこと（n=15,552）	1.8	10.7	41.6	31.4	14.6	12.5	72.9	14.6
②同じ職場で働くこと（n=15,988）	2.0	10.4	42.1	31.1	14.4	12.4	73.2	14.4
③同じ学校に通うこと（n=16,156）	1.7	8.9	42.3	33.1	14.0	10.6	75.4	14.0
④同じ医療機関・福祉施設に通院・通所すること（n=16,595）	1.8	7.7	42.4	35.6	12.6	9.5	78.0	12.6
⑤同じ医療機関・福祉施設に入院・入所すること（n=16,392）	2.6	9.6	40.7	33.7	13.4	12.2	74.4	13.4
⑥食事をともにすること（n=15,828）	3.4	12.5	37.9	31.2	15.0	15.9	69.1	15.0
⑦手をつなぐ等の身体に触れること（n=15,050）	6.1	19.6	30.3	25.5	18.5	25.7	55.8	18.5
⑧ホテルなどで同じ浴場を利用すること（n=15,484）	6.7	20.1	30.2	25.8	17.3	26.7	56.0	17.3
⑨ハンセン病元患者（回復者）の家族とあなたの家族が結婚すること（n=14,434）	9.1	22.4	24.4	21.6	22.4	31.6	46.0	22.4

（6）ハンセン病強制隔離政策の認知度

ハンセン病強制隔離政策の認知度では、「①明治後期以降、ハンセン病患者を強制的に収容する「強制隔離政策」が行われたこと」については、「知っている」が 23.9%、「少し知っている」が 28.9%、「あまり知らない」が 16.3%、「知らない」が 30.9%であり、「知っている」「少し知っている」の合計が 52.8%、「知らない」「あまり知らない」の合計が 47.2%とほぼ拮抗していた。

対して「②戦前および戦後にかけて、全てのハンセン病患者を強制隔離する、官民一体の「無らい県運動」が行なわれたこと」、「③有効な薬が開発され、治療法が確立されたが、強制隔離政策はそのまま継続されたこと」、「④平成 8（1996）年に強制隔離政策を主体とした「らい予防法」が廃止されたこと」、「⑤平成 13（2001）年に強制隔離政策を違憲とする熊本地裁判決が下されたこと」、「⑥令和元（2019）年にハンセン病患者家族に対する偏見や差別の被害を認める熊本地裁判決が下されたこと」、「⑦現在も「ハンセン病療養所」があり、ハンセン病が治った後も暮らし続けている人がいること」については、「知らない」が 37.7～47.3%と最も多く、「あまり知らない」が 20.6～23.9%であり、「知らない」「あまり知らない」の合計が 58.4～70.4%と過半であった。対して、「知っている」は 9.9～16.9%と最も少なかった。

図 21 Q15 ハンセン病強制隔離政策の認知度



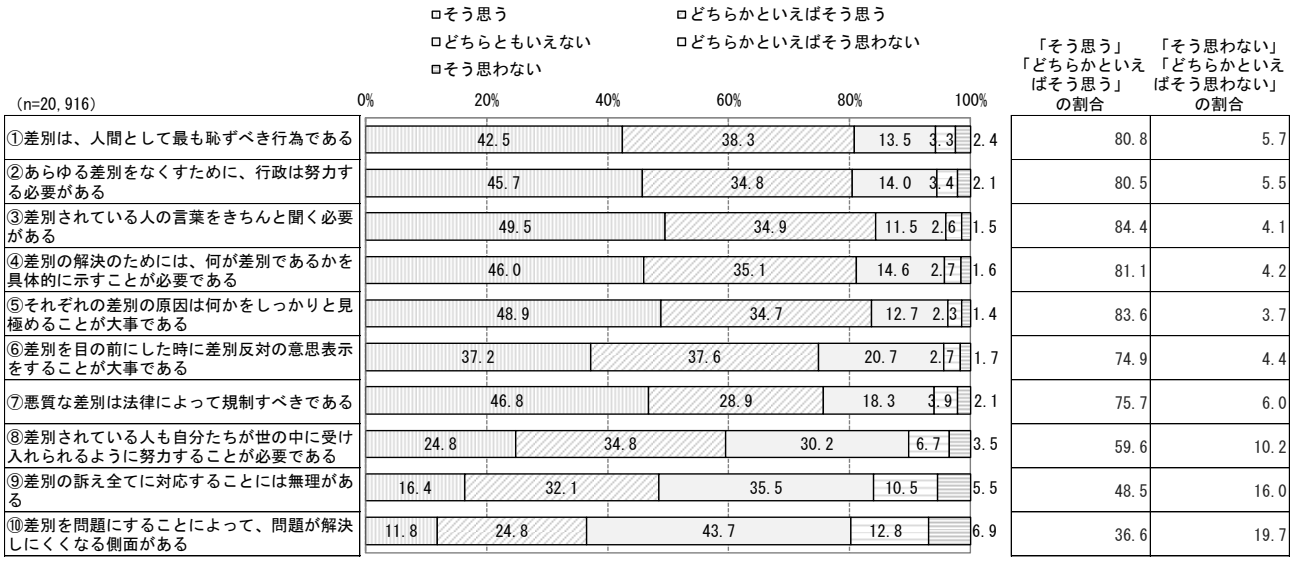
4 一般的な人権問題

(1)一般的な差別に対する考え方

一般的な差別に対する考え方では、「①差別は、人間として最も恥ずべき行為である」、「②あらゆる差別をなくすために、行政は努力する必要がある」、「③差別されている人の言葉をきちんと聞く必要がある」、「④差別の解決のためには、何が差別であるかを具体的に示すことが必要である」、「⑤それぞれの差別の原因は何かをしっかりと見極めることが大事である」、「⑥差別を目の前にした時に差別反対の意思表示をすることが大事である」、「⑦悪質な差別は法律によって規制すべきである」の 7 項目について、「そう思う」が 37.2～49.5%、「どちらかといえばそう思う」が 28.9～38.3%で、偏見差別の解消のための取り組みに積極的な傾向を示した割合の合計が 74.9～84.4%であった。

一方で、「⑧差別されている人も自分たちが世の中に受け入れられるように努力することが必要である」、「⑨差別の訴え全てに対応することには無理がある」、「⑩差別を問題にすることによって、問題が解決しにくくなる側面がある」について、「そう思う」が 11.8～24.8%、「どちらかといえばそう思う」が 24.8～34.8%で、偏見差別の解消のための取り組みに消極的な傾向を示した割合の合計が 36.6～59.6%であった。また、「どちらともいえない」が 30.2～43.7%であった。

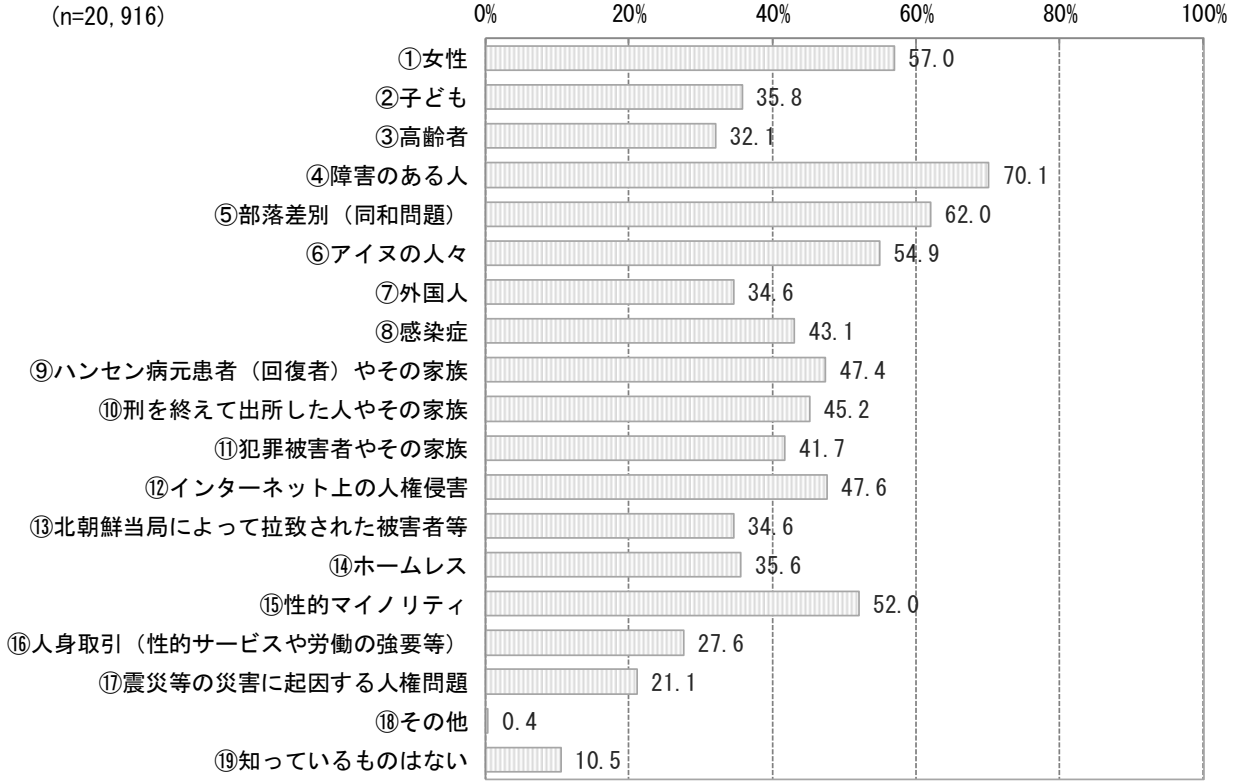
図 22 Q16 一般的な差別に対する考え方



（2）日本の人権課題の認知度

日本の人権課題の認知度では、「⑨ハンセン病元患者（回復者）やその家族」の認知度は 47.4％であり、「④障害のある人」70.1％、「⑤部落差別（同和問題）」62.0％、「①女性」57.0％、「⑥アイヌの人々」54.9％、「⑮性的マイノリティ」52.0％、「⑫インターネット上の人権侵害」47.6％に次ぐ 7 番目の認知度であった。

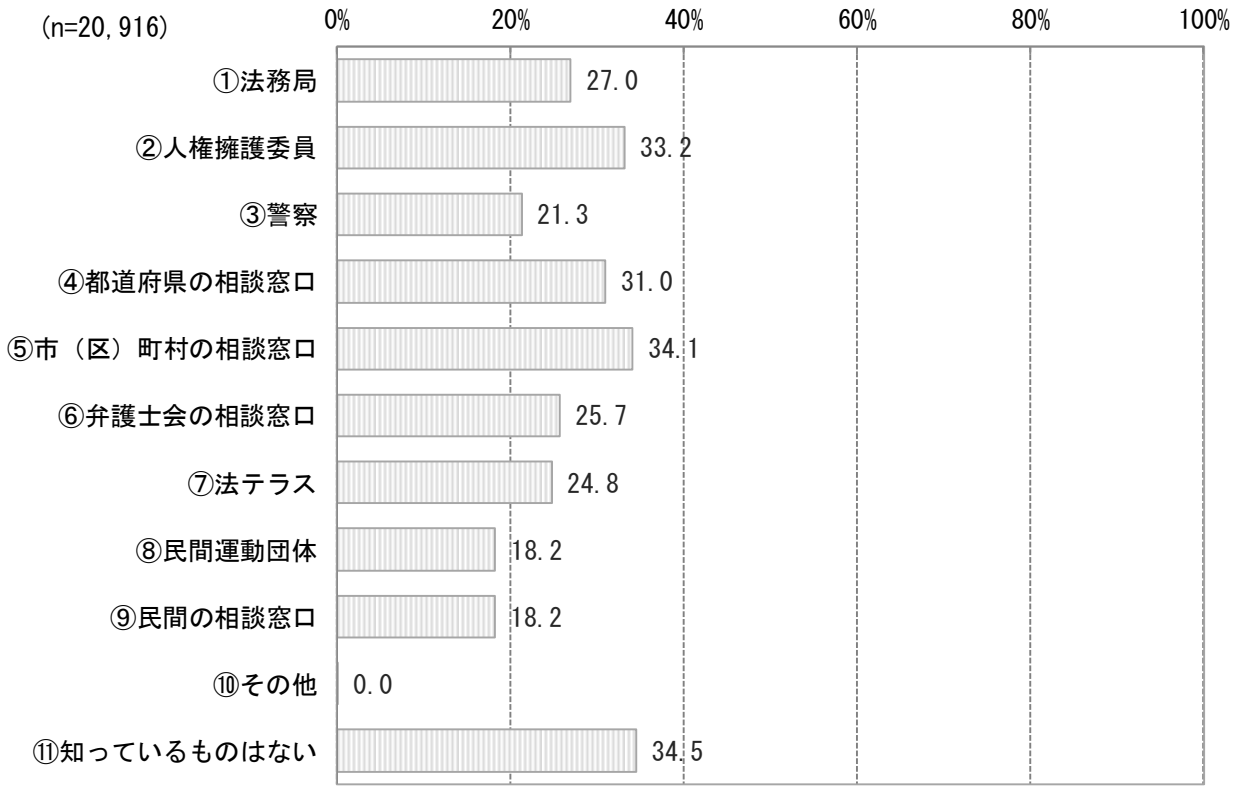
図 23 Q17 日本の人権課題の認知度



（3）人権問題に関する相談窓口の認知度

人権問題に関する相談窓口の認知度では、「⑪知っているものはない」が 34.5％と最も多かった。認知度が高かった項目は、「⑤市（区）町村の相談窓口」が 34.1％、「②人権擁護委員」が 33.2％、「④都道府県の相談窓口」が 31.0％であった。

図 24　Q18 人権問題に関する相談窓口の認知度



5 ハンセン病問題に関するパンフレット・web ページに対する感想

アンケートの最後には、啓発を目的として、ハンセン病やハンセン病問題を取り扱った、中学生向けパンフレット「ハンセン病の向こう側」および国立ハンセン病資料館の YouTube チャンネルとホームページの URL を掲載し、任意回答で感想を自由記述で聞いたところ、特に多く見られた感想は以下の通りである。

- ハンセン病問題について知る良いきっかけとなった。
- ハンセン病問題について、正しい知識を身に着けたいと思った。
- 正しい知識の普及が必要である。正しく理解することが重要である。
- 学校教育の中でハンセン病問題について深く取り上げるべきである。
- 継続的な啓発活動の必要性を感じた。
- ハンセン病問題に関するパンフレット「ハンセン病の向こう側」を存在知らなかった。積極的にこれらの情報を発信することが重要である。
- パンフレット「ハンセン病の向こう側」は要点がわかりやすく整理されている。
- ハンセン病資料館の YouTube チャンネルを見て、ハンセン病問題に関する理解が進んだ。機会があればハンセン病資料館を訪れたい。
- パンフレットや WEB ページの情報は知らない内容ばかりであった。メディア等で積極的に取り上げるべきである。
- ハンセン病問題は難しい問題である。ハンセン病に関する差別がなくなることを願う。
- ハンセン病問題を身近に感じることがなく、実情を知らなかった。

第三章　基本属性別クロス集計の結果

本章では、基本属性（居住地域、年齢、就業形態、職種）と各設問とのクロス集計の結果を示す。

なお、就業形態、職種別の分析では、施策検討会報告書でハンセン病に係る偏見差別の解消に向けて大きな役割を果たすことが期待されている公務員、教育関係の専門職、福祉関係の専門職、医療関係の専門職に着目することとした。

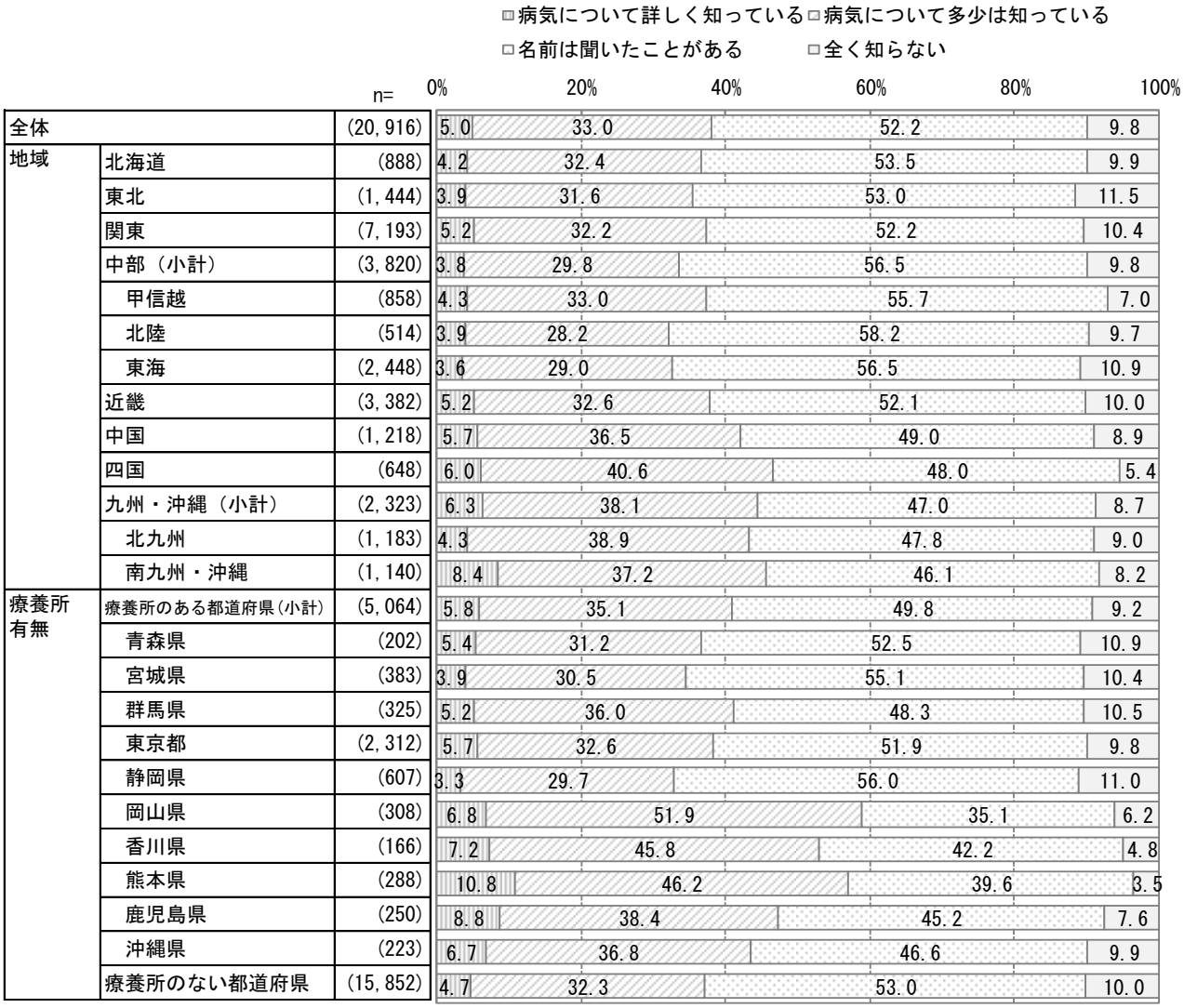
1　ハンセン病に対する認識

（1）ハンセン病（病気）の認知度

ハンセン病（病気）の認知度を地域別に比較すると、療養所の有無で回答傾向に大きな差はみられなかった。

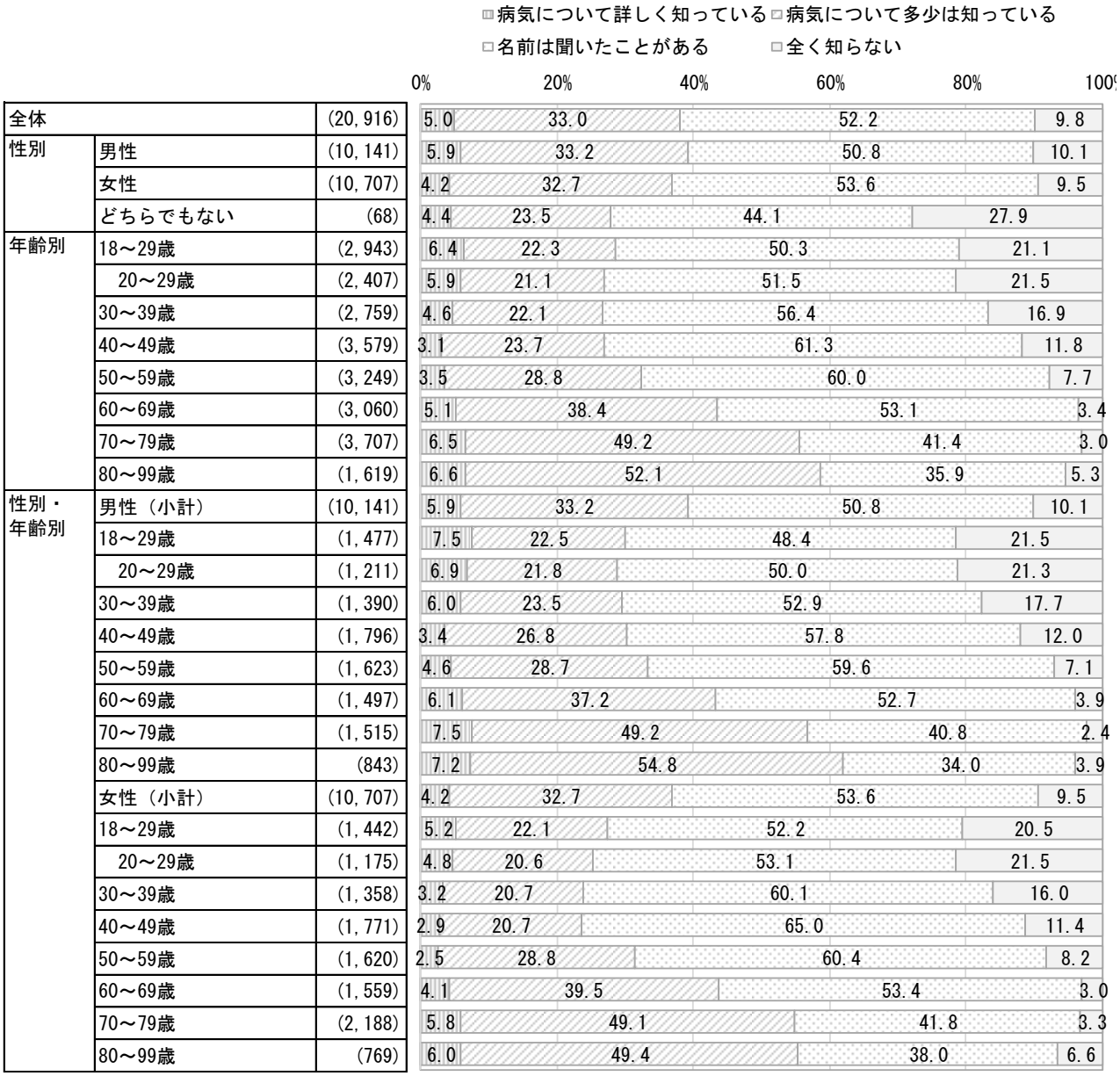
療養所のある都道府県別にみると、岡山県、香川県、熊本県では、「病気について詳しく知っている」「病気について多少は知っている」の合計が 50％を超え、全体平均の 38.0％より顕著に高かった。また、鹿児島県 47.2％、沖縄県 43.5％も全体平均より高かった。

図 25　Q5 ハンセン病(病気)の認知度[地域別]



ハンセン病（病気）の認知度を年齢別に比較すると、「病気について詳しく知っている」「病気について多少は知っている」の合計は、80～99 歳が 58.7%と最も高く、30～39 歳が 26.7%と最も低く、全体的には年齢が高くなるにつれて認知度が高くなる傾向がみられた。

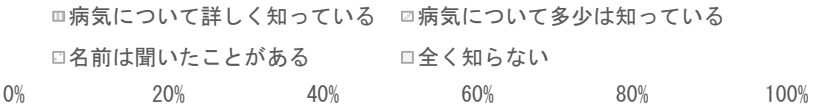
図 26　Q5 ハンセン病（病気）の認知度［性別｜年齢別｜性別・年齢別］



ハンセン病（病気）の認知度を就業形態別、職種別に比較すると、「病気について詳しく知っている」「病気について多少は知っている」の合計は、公務員が 49.2%、教育関係の専門職が 56.1%、福祉関係の専門職が 49.0%、医療関係の専門職が 69.6%であり、全体平均の 38.0%より高かった。

学歴別・年齢別に比較すると、「病気について詳しく知っている」「病気について多少は知っている」の合計は、いずれの年齢においても最終学歴が短大未満より短大以上で認知度が高い傾向があった。

図 27　Q5 ハンセン病(病気)の認知度[就業形態別｜職種別｜学歴別･年齢別]



			病気について詳しく知っている	病気について多少は知っている	名前は聞いたことがある	全く知らない
全体		(20,916)	5.0	33.0	52.2	9.8
就業形態別	公務員	(829)	10.1	39.1	44.8	6.0
	雇用者	(780)	8.1	33.5	50.3	8.2
	正規の被雇用者	(5,305)	4.7	26.1	56.5	12.8
	非正規の被雇用者	(3,773)	3.1	27.4	57.9	11.6
	自営業者・自由業	(1,301)	5.8	38.7	48.7	6.8
	自営業の家族従事者等	(127)	3.9	28.3	58.3	9.4
	内職	(9)	0.0	33.3	66.7	0.0
	学生	(874)	7.4	28.4	47.9	16.2
	無職	(7,845)	4.8	39.1	48.7	7.4
	その他	(73)	9.6	46.6	35.6	8.2
職種別	教育関係の専門職	(1,113)	11.8	44.3	38.7	5.2
	福祉関係の専門職	(651)	9.1	39.9	44.4	6.6
	医療関係の専門職	(914)	18.9	50.7	26.7	3.7
	上記以外の専門職	(1,253)	5.1	36.5	51.0	7.4
	管理的職業	(1,646)	7.7	44.0	43.7	4.6
	事務・営業系の職業	(6,596)	3.1	32.4	56.6	7.9
	技能・労務・作業系の職業	(4,944)	2.6	25.8	59.2	12.4
	農林漁業職	(191)	5.2	28.8	56.5	9.4
	その他	(186)	6.5	32.3	50.0	11.3
	現在無職	(1,013)	4.4	37.1	50.6	7.8
	働いたことはない	(2,408)	3.8	24.3	50.7	21.1
学歴別・年齢別	短大未満（小計）	(9,903)	3.4	28.0	55.6	13.0
	18～29歳	(1,245)	5.5	16.9	49.2	28.4
	20～29歳	(959)	4.4	15.4	50.8	29.4
	30～39歳	(1,174)	3.4	17.1	56.2	23.3
	40～49歳	(1,616)	2.0	19.4	61.9	16.7
	50～59歳	(1,650)	2.3	23.4	63.7	10.6
	60～69歳	(1,329)	1.9	29.6	63.8	4.7
	70～79歳	(1,900)	4.7	43.1	47.6	4.6
	80～99歳	(989)	4.6	46.1	43.0	6.4
	短大以上（小計）	(11,003)	6.4	37.4	49.2	7.0
	18～29歳	(1,698)	7.1	26.3	51.0	15.7
	20～29歳	(1,448)	6.9	24.9	51.9	16.2
	30～39歳	(1,584)	5.6	25.8	56.6	12.1
	40～49歳	(1,961)	4.1	27.3	60.9	7.8
	50～59歳	(1,598)	4.8	34.4	56.1	4.7
	60～69歳	(1,727)	7.6	45.2	44.8	2.4
	70～79歳	(1,805)	8.3	55.6	34.9	1.2
	80～99歳	(630)	9.8	61.6	24.9	3.7

（2）ハンセン病（病気）に対する印象

ハンセン病（病気）に対する印象を地域別に比較すると、療養所の有無で回答傾向に大きな差はみられなかった。

療養所のある都道府県別にみると、岡山県、香川県、熊本県、鹿児島県は、「①遺伝する病気である」について、「そう思わない」「あまりそう思わない」と正答方向で回答した割合が 73.2～82.3%を占め、全体平均の 63.3%より顕著に高かった。

また、熊本県は、病気に対する印象の 5 項目すべてにおいて、正答方向で回答した割合が療養所のある都道府県の中で最も高かった。

表 10　Q6 ハンセン病（病気）に対する印象［地域別］

(%)		n=	①遺伝する病気である	②「らい菌」に感染することで起こる病気である	③早めに治療すれば後遺症もなく治る病気である	④感染しても発症に至ることがまれな病気である	⑤致死性の弱い病気である
			「そう思わない」「あまりそう思わない」の割合	「そう思う」+「ややそう思う」の割合			
全体		(20,916)	63.3	43.3	49.4	35.0	41.8
地域	北海道	(888)	62.8	43.7	49.0	34.9	40.8
	東北	(1,444)	63.4	40.2	48.6	33.4	40.4
	関東	(7,193)	62.0	43.6	47.9	33.5	41.2
	中部（小計）	(3,820)	61.4	40.1	47.7	34.7	39.8
	甲信越	(858)	63.2	40.3	48.1	36.2	41.0
	北陸	(514)	64.6	40.3	44.0	32.9	38.3
	東海	(2,448)	60.1	39.9	48.4	34.6	39.6
	近畿	(3,382)	62.5	43.8	49.1	34.5	41.8
	中国	(1,218)	67.2	44.1	51.6	37.6	43.4
	四国	(648)	69.4	45.4	53.4	37.2	45.7
	九州・沖縄（小計）	(2,323)	67.9	47.6	55.3	40.1	46.0
	北九州	(1,183)	63.3	48.2	53.2	39.7	44.0
	南九州・沖縄	(1,140)	72.6	47.0	57.5	40.4	48.1
療養所有無	療養所のある都道府県（小計）	(5,064)	65.5	44.2	50.6	34.9	43.1
	青森県	(202)	64.4	39.6	50.0	32.2	40.1
	宮城県	(383)	65.3	37.3	47.3	33.9	40.2
	群馬県	(325)	66.5	48.3	51.7	37.2	42.2
	東京都	(2,312)	61.9	44.3	47.9	31.9	41.4
	静岡県	(607)	60.3	39.4	49.4	35.4	41.0
	岡山県	(308)	74.4	49.4	54.2	39.9	50.3
	香川県	(166)	73.5	48.2	51.8	39.2	45.8
	熊本県	(288)	82.3	50.7	65.6	46.2	53.1
	鹿児島県	(250)	73.2	44.8	55.6	37.6	47.2
	沖縄県	(223)	69.1	47.5	56.1	38.6	46.2
	療養所のない都道府県	(15,852)	62.6	43.0	49.0	35.0	41.3

ハンセン病(病気)に対する印象を年齢別に比較すると、いずれの項目でも正答方向で回答した割合は若年層、中年層で低く、高齢層で高くなる傾向が見られた。

「①遺伝する病気である」について、「そう思わない」「あまりそう思わない」と正答方向で回答した割合は、70～79 歳が 80.7%と最も高く、18～29 歳が 42.9%と最も低かった。

「③早めに治療すれば後遺症もなく治る病気である」について、「そう思う」「ややそう思う」と正答方向で回答した割合は、70～79 歳が 69.1%と最も高く、30～39 歳、40～49 歳が 35.8%と最も低かった。

「②『らい菌』に感染することで起こる病気である」について、「そう思う」「ややそう思う」と正答方向で回答した割合は、70～79 歳が 60.7%と最も高く、18～29 歳が 30.9%と最も低かった。

表 11 Q6 ハンセン病(病気)に対する印象[性別・年齢別]

(%)		n=	①遺伝する病気である	②「らい菌」に感染することで起こる病気である	③早めに治療すれば後遺症もなく治る病気である	④感染しても発症に至ることがまれな病気である	⑤致死性の弱い病気である
			「そう思わない」「あまりそう思わない」の割合	「そう思う」+「ややそう思う」の割合			
全体		(20,916)	63.3	43.3	49.4	35.0	41.8
性別	男性	(10,141)	62.3	43.1	49.8	36.4	42.0
	女性	(10,707)	64.2	43.6	49.1	33.8	41.6
	どちらでもない	(68)	58.8	32.4	35.3	27.9	27.9
年齢別	18～29歳	(2,943)	42.9	30.9	38.4	29.0	29.0
	20～29歳	(2,407)	43.1	29.7	37.1	28.1	28.7
	30～39歳	(2,759)	47.8	31.5	35.8	26.6	29.7
	40～49歳	(3,579)	56.2	33.7	35.8	26.7	33.5
	50～59歳	(3,249)	65.1	40.8	43.8	31.5	39.8
	60～69歳	(3,060)	76.0	53.9	60.4	41.6	52.5
	70～79歳	(3,707)	80.7	60.7	69.1	46.4	56.6
	80～99歳	(1,619)	74.6	52.3	67.6	47.0	53.6
性別・年齢別	男性（小計）	(10,141)	62.3	43.1	49.8	36.4	42.0
	18～29歳	(1,477)	41.9	32.7	40.5	31.2	30.7
	20～29歳	(1,211)	42.0	31.2	38.7	29.9	30.6
	30～39歳	(1,390)	48.9	32.7	36.9	29.6	31.7
	40～49歳	(1,796)	57.3	33.0	36.8	29.5	35.5
	50～59歳	(1,623)	63.6	39.8	43.7	32.7	40.2
	60～69歳	(1,497)	74.1	51.2	59.1	41.4	49.8
	70～79歳	(1,515)	80.5	62.1	70.5	47.9	56.9
	80～99歳	(843)	74.7	57.7	72.6	48.9	55.4
	女性（小計）	(10,707)	64.2	43.6	49.1	33.8	41.6
	18～29歳	(1,442)	43.8	29.1	36.4	26.8	27.5
	20～29歳	(1,175)	44.1	28.2	35.5	26.4	27.0
	30～39歳	(1,358)	46.7	30.3	34.6	23.6	27.7
	40～49歳	(1,771)	55.1	34.6	35.0	24.1	31.6
	50～59歳	(1,620)	66.5	41.7	43.9	30.4	39.3
	60～69歳	(1,559)	77.7	56.4	61.6	41.6	55.0
	70～79歳	(2,188)	81.0	59.8	68.2	45.3	56.4
	80～99歳	(769)	74.4	46.6	62.2	45.1	51.8

ハンセン病（病気）に対する印象を就業形態別、職種別に比較すると、公務員、教育関係の専門職、医療関係の専門職は、5 項目すべてにおいて正答方向で回答した割合が全体平均より高く、福祉関係の専門職は、「①遺伝する病気である」以外の 4 項目において正答方向で回答した割合が全体平均より高かった。

「①遺伝する病気である」について、「そう思わない」「あまりそう思わない」と正答方向で回答した割合は、公務員が 66.7%、教育関係の専門職が 72.1%、福祉関係の専門職が 62.1%、医療関係の専門職が 71.6%であり、教育関係と医療関係の専門職が特に高かった。

「③早めに治療すれば後遺症もなく治る病気である」について、「そう思う」「ややそう思う」と正答方向で回答した割合は、公務員が 53.6%、教育関係の専門職が 62.3%、福祉関係の専門職が 53.5%、医療関係の専門職が 63.8%であり、教育関係と医療関係の専門職が特に高かった。

「②『らい菌』に感染することで起こる病気である」について、「そう思う」「ややそう思う」と正答方向で回答した割合は、公務員が 48.5%、教育関係の専門職が 55.3%、福祉関係の専門職が 49.8%、医療関係の専門職が 67.2%であり、医療関係の専門職が特に高かった。

学歴別・年齢別に比較すると、いずれの年齢においても最終学歴が短大未満より短大以上で正答方向で回答した割合が高かった。

表 12　Q6 ハンセン病(病気)に対する印象[就業形態別｜職種別｜学歴別･年齢別]

(%)		n=	①遺伝する病気である	②「らい菌」に感染することで起こる病気である	③早めに治療すれば後遺症もなく治る病気である	④感染しても発症に至ることがまれな病気である	⑤致死性の弱い病気である
			「そう思わない」「あまりそう思わない」の割合	「そう思う」「ややそう思う」の割合			
全体		(20,916)	63.3	43.3	49.4	35.0	41.8
就業形態別	公務員	(829)	66.7	48.5	53.6	39.9	48.0
	雇用者	(780)	65.6	47.3	49.5	37.6	43.1
	正規の被雇用者	(5,305)	55.9	34.7	40.4	30.6	35.1
	非正規の被雇用者	(3,773)	60.9	38.2	44.4	31.0	38.4
	自営業者・自由業	(1,301)	66.6	48.0	51.6	37.7	44.3
	自営業の家族従事者等	(127)	66.1	41.7	50.4	35.4	44.9
	内職	(9)	66.7	66.7	55.6	22.2	44.4
	学生	(874)	43.7	39.2	45.3	33.0	33.0
	無職	(7,845)	70.3	50.2	57.4	39.0	47.6
	その他	(73)	65.8	56.2	50.7	35.6	42.5
職種別	教育関係の専門職	(1,113)	72.1	55.3	62.3	44.7	51.5
	福祉関係の専門職	(651)	62.1	49.8	53.5	38.7	46.4
	医療関係の専門職	(914)	71.6	67.2	63.8	50.3	54.9
	上記以外の専門職	(1,253)	65.4	46.7	49.7	36.5	45.6
	管理的職業	(1,646)	73.3	54.3	62.0	44.1	51.7
	事務・営業系の職業	(6,596)	64.9	42.5	48.3	33.4	41.9
	技能・労務・作業系の職業	(4,944)	57.8	34.9	42.4	30.1	35.1
	農林漁業職	(191)	61.3	37.2	49.7	33.0	40.3
	その他	(186)	60.8	47.8	44.6	35.5	39.2
	現在無職	(1,013)	66.1	47.4	53.6	33.8	44.7
	働いたことはない	(2,408)	54.3	35.3	43.7	31.9	34.5
学歴別・年齢別	短大未満（小計）	(9,903)	60.1	36.9	46.1	32.2	37.6
	18～29歳	(1,245)	39.4	25.0	35.4	26.9	24.9
	20～29歳	(959)	39.9	22.4	33.0	25.1	23.8
	30～39歳	(1,174)	45.2	24.0	32.1	24.4	24.7
	40～49歳	(1,616)	51.2	28.0	31.8	23.9	26.7
	50～59歳	(1,650)	59.9	33.3	39.0	27.2	35.3
	60～69歳	(1,329)	69.5	45.0	54.8	36.3	46.1
	70～79歳	(1,900)	78.0	53.5	64.9	42.7	52.3
	80～99歳	(989)	71.3	45.4	63.2	44.2	50.6
	短大以上（小計）	(11,003)	66.2	49.0	52.3	37.5	45.5
	18～29歳	(1,698)	45.5	35.3	40.6	30.6	32.0
	20～29歳	(1,448)	45.2	34.6	39.8	30.1	32.0
	30～39歳	(1,584)	49.7	37.1	38.4	28.3	33.4
	40～49歳	(1,961)	60.3	38.3	39.1	29.0	39.0
	50～59歳	(1,598)	70.4	48.5	48.7	35.9	44.4
	60～69歳	(1,727)	80.9	60.7	64.6	45.6	57.3
	70～79歳	(1,805)	83.7	68.3	73.6	50.3	61.1
	80～99歳	(630)	79.8	63.2	74.4	51.4	58.3

（3）ハンセン病元患者（回復者）・家族・問題に取り組んでいる人と会った経験

ハンセン病元患者（回復者）・家族・問題に取り組んでいる人と会った経験を地域別に比較すると、「⑫出会いはない/経験はない」と回答した割合は、療養所のある都道府県で 81.2%、療養所のない都道府県で 86.3%であった。療養所のある岡山県、香川県、熊本県では、69.3～70.8%と特に割合が低かった。

「⑤元患者（回復者）やその家族のことを取り上げた情報に接したことがある」と回答した割合は、療養所のある都道府県で 11.5%、療養所のない都道府県で 8.9%であった。療養所のある岡山県、香川県、熊本県では、18.8～20.1%と特に割合が高かった。

「①元患者（回復者）と会ったことがある」と回答した割合は、療養所のある都道府県で 4.1%、療養所のない都道府県で 3.1%であった。療養所のある香川県では 12.0%で特に割合が高く、岡山県、熊本県、沖縄県も 6.2～6.7%と比較的高かった。

「③ハンセン病問題に取り組んでいる人と会ったことがある」と回答した割合は、療養所のある都道府県で 4.4%、療養所のない都道府県で 2.8%であった。療養所のある岡山県、香川県、熊本県では、6.9～9.0%と特に割合が高かった。

表 13 Q7 ハンセン病元患者（回復者）・家族・問題に取り組んでいる人と会った経験[地域別]

		(%) n=	①元患者（回復者）と会ったことがある（＊）	②元患者（回復者）の家族と会ったことがある（＊）	③ハンセン病問題に取り組んでいる人と会ったことがある（＊）	④ハンセン病療養所に行ったことがある	⑤元患者（回復者）やその家族のことを取り上げた情報に接したことがある（＊＊）	⑥自分がハンセン病問題に取り組んでいる（いた）	⑦自分の家族・親戚にハンセン病問題に取り組んでいる人がいる（いた）	⑧自分の友人・知人にハンセン病問題に取り組んでいる人がいる（いた）	⑨自分がハンセン病元患者（回復者）、またはその家族である	⑩自分の親戚にハンセン病元患者（回復者）、またはその家族がいる（いた）	⑪自分の友人・知人にハンセン病元患者（回復者）、またはその家族がいる（いた）	⑫左記のような出会いはない／経験はない
全体		(20,916)	3.4	1.5	3.2	2.0	9.5	0.4	0.5	0.8	0.3	0.4	0.5	85.1
地域	北海道	(888)	2.8	0.7	1.8	0.3	9.1	0.1	0.3	1.0	0.1	0.2	0.6	87.5
	東北	(1,444)	3.0	1.5	2.1	1.5	8.4	0.1	0.2	0.5	0.2	0.5	0.8	86.1
	関東	(7,193)	3.1	1.6	3.2	1.9	9.3	0.4	0.6	1.0	0.3	0.4	0.5	85.5
	中部（小計）	(3,820)	2.7	1.0	2.2	1.1	8.1	0.4	0.4	0.7	0.3	0.2	0.3	87.6
	甲信越	(858)	3.7	0.3	2.1	0.9	9.9	0.0	0.0	0.3	0.1	0.1	0.2	85.5
	北陸	(514)	1.9	1.8	1.6	1.4	8.0	0.4	0.2	0.8	0.2	0.2	0.4	88.1
	東海	(2,448)	2.5	1.0	2.4	1.1	7.6	0.5	0.6	0.7	0.4	0.2	0.4	88.3
	近畿	(3,382)	3.0	1.6	3.3	1.5	9.4	0.4	0.5	0.8	0.3	0.3	0.5	86.1
	中国	(1,218)	4.0	1.8	5.0	3.7	12.6	0.6	0.3	0.7	0.3	0.3	0.4	81.0
	四国	(648)	7.7	1.5	5.6	4.9	13.9	1.4	0.9	1.1	0.2	0.6	0.5	77.2
	九州・沖縄（小計）	(2,323)	4.7	2.0	4.4	3.8	10.9	0.4	0.5	0.9	0.5	0.6	0.4	81.1
	北九州	(1,183)	4.4	2.0	4.0	2.3	10.0	0.3	0.4	0.8	0.3	0.4	0.3	83.7
	南九州・沖縄	(1,140)	5.0	2.0	4.9	5.4	11.9	0.4	0.5	0.9	0.8	0.8	0.4	78.5
療養所有無	療養所のある都道府県（小計）	(5,064)	4.1	1.7	4.4	4.0	11.5	0.5	0.8	1.0	0.4	0.5	0.5	81.2
	青森県	(202)	3.0	3.5	1.0	5.0	6.4	0.5	0.0	0.0	0.0	0.5	0.5	85.6
	宮城県	(383)	2.6	0.8	1.6	1.3	8.9	0.0	0.5	0.5	0.3	0.3	0.5	87.2
	群馬県	(325)	3.7	1.8	4.6	5.2	10.8	0.3	1.2	0.6	0.0	0.3	0.3	80.3
	東京都	(2,312)	3.5	1.9	4.4	2.7	10.6	0.5	0.9	1.3	0.5	0.5	0.5	83.0
	静岡県	(607)	2.6	0.8	2.3	2.1	9.4	0.3	1.0	0.7	0.0	0.5	0.5	86.7
	岡山県	(308)	6.2	1.0	8.8	7.5	20.1	0.3	0.3	1.3	0.3	0.3	0.3	70.8
	香川県	(166)	12.0	1.8	9.0	8.4	19.9	3.0	0.0	1.8	0.0	0.0	0.0	69.3
	熊本県	(288)	6.3	2.8	6.9	7.6	18.8	1.0	0.7	1.0	0.3	0.7	0.0	69.8
	鹿児島県	(250)	5.2	0.8	4.4	5.6	10.4	0.4	1.2	0.4	0.8	0.8	0.0	79.6
	沖縄県	(223)	6.7	2.7	5.4	9.0	10.8	0.4	0.4	1.3	0.9	1.3	1.3	75.8
	療養所のない都道府県	(15,852)	3.1	1.4	2.8	1.4	8.9	0.4	0.4	0.8	0.3	0.3	0.5	86.3

（＊）学校・職場等での学習、講演会・展示会等のイベントなども含む
（＊＊）学校・職場等での学習、講演会・展示会等のイベント、パンフレット、新聞や雑誌の記事、書籍、ビデオ・DVD、テレビ番組、ラジオ、映画、展示等

ハンセン病元患者（回復者）・家族・問題に取り組んでいる人と会った経験を年齢別に比較すると、「⑫出会いはない/経験はない」と回答した割合は 40～49 歳が 89.4%と最も高く、18～29 歳が 80.5%と最も低かったが、年齢による明確な傾向はみられなかった。

「⑤元患者（回復者）やその家族のことを取り上げた情報に接したことがある」と回答した割合は、70～79 歳が 12.4%と最も高く、40～49 歳が 6.7%と最も低く、若年層、中年層に比べて高齢層の経験割合が高い傾向がみられた。

「①元患者（回復者）と会ったことがある」と回答した割合は、18～29 歳が 8.6%と最も多く、50～59 歳が 1.4%と最も低く、中年層に比べて若年層と高齢層で経験割合が高い傾向がみられた。

「③ハンセン病問題に取り組んでいる人と会ったことがある」と回答した割合は、18～29 歳が 6.3%と最も多く、50～59 歳が 1.8%と最も低く、中年層に比べて若年層と高齢層で経験割合が高い傾向がみられた。

表 14　Q7 ハンセン病元患者（回復者）・家族・問題に取り組んでいる人と会った経験［性別・年齢別］

		(%) n=	①元患者（回復者）と会ったことがある（＊）	②元患者（回復者）の家族と会ったことがある（＊）	③ハンセン病問題に取り組んでいる人と会ったことがある（＊）	④ハンセン病療養所に行ったことがある	⑤元患者（回復者）やその家族のことを取り上げた情報に接したことがある（＊＊）	⑥自分がハンセン病問題に取り組んでいる（いた）	⑦自分の家族・親戚にハンセン病問題に取り組んでいる人がいる（いた）	⑧自分の友人・知人にハンセン病問題に取り組んでいる人がいる（いた）	⑨自分がハンセン病元患者（回復者）、またはその家族である	⑩自分の親戚にハンセン病元患者（回復者）、またはその家族がいる（いた）	⑪自分の友人・知人にハンセン病元患者（回復者）、またはその家族がいる（いた）	⑫左記のような出会いはない／経験はない
全体		(20,916)	3.4	1.5	3.2	2.0	9.5	0.4	0.5	0.8	0.3	0.4	0.5	85.1
性別	男性	(10,141)	4.2	2.1	3.6	2.4	9.0	0.6	0.7	1.0	0.5	0.6	0.6	84.4
	女性	(10,707)	2.5	0.9	2.8	1.6	10.0	0.2	0.3	0.7	0.2	0.2	0.4	85.8
	どちらでもない	(68)	8.8	4.4	7.4	0.0	4.4	0.0	0.0	1.5	1.5	1.5	1.5	76.5
年齢別	18～29歳	(2,943)	8.6	3.3	6.3	3.1	7.8	1.4	1.1	1.7	1.2	1.1	1.4	80.5
	20～29歳	(2,407)	7.5	3.1	5.9	2.8	6.7	1.2	1.3	1.7	1.2	1.0	1.3	82.3
	30～39歳	(2,759)	4.6	2.8	4.5	1.7	7.5	0.5	0.9	1.3	0.6	0.7	0.4	86.1
	40～49歳	(3,579)	2.2	1.2	2.2	1.3	6.7	0.3	0.6	0.6	0.2	0.3	0.3	89.4
	50～59歳	(3,249)	1.4	0.7	1.8	1.6	8.7	0.1	0.1	0.4	0.1	0.1	0.2	88.3
	60～69歳	(3,060)	1.8	0.8	2.0	1.7	12.3	0.2	0.2	0.7	0.1	0.1	0.4	84.0
	70～79歳	(3,707)	2.5	0.8	2.6	2.4	12.4	0.1	0.3	0.6	0.1	0.2	0.4	83.3
	80～99歳	(1,619)	3.3	1.1	4.0	2.5	12.1	0.1	0.1	0.7	0.0	0.1	0.3	82.2
性別・年齢別	男性（小計）	(10,141)	4.2	2.1	3.6	2.4	9.0	0.6	0.7	1.0	0.5	0.6	0.6	84.4
	18～29歳	(1,477)	10.8	4.7	7.7	3.8	8.4	1.8	1.6	2.2	2.0	1.7	1.7	76.7
	20～29歳	(1,211)	10.0	4.7	7.4	3.5	7.9	1.7	1.7	2.1	2.0	1.7	1.6	78.0
	30～39歳	(1,390)	6.3	4.0	5.3	2.2	8.0	0.9	1.4	1.9	0.9	1.3	0.6	84.2
	40～49歳	(1,796)	2.8	1.7	2.2	1.6	7.0	0.4	0.8	0.8	0.2	0.5	0.4	88.4
	50～59歳	(1,623)	1.8	1.0	1.8	2.1	7.8	0.1	0.1	0.6	0.1	0.1	0.4	88.6
	60～69歳	(1,497)	2.3	1.1	2.4	2.5	10.1	0.4	0.4	0.7	0.1	0.1	0.5	85.0
	70～79歳	(1,515)	2.4	0.9	2.7	2.6	11.4	0.1	0.1	0.5	0.0	0.1	0.1	83.9
	80～99歳	(843)	3.0	1.1	3.8	2.5	12.7	0.1	0.2	0.6	0.0	0.0	0.4	81.6
	女性（小計）	(10,707)	2.5	0.9	2.8	1.6	10.0	0.2	0.3	0.7	0.2	0.2	0.4	85.8
	18～29歳	(1,442)	6.2	1.8	5.0	2.4	7.4	0.9	0.7	1.1	0.4	0.4	1.0	84.5
	20～29歳	(1,175)	4.9	1.4	4.4	2.2	5.4	0.7	0.9	1.2	0.4	0.2	0.9	87.0
	30～39歳	(1,358)	2.7	1.5	3.5	1.3	7.1	0.2	0.4	0.7	0.2	0.1	0.2	88.3
	40～49歳	(1,771)	1.5	0.6	2.2	1.1	6.5	0.1	0.5	0.5	0.2	0.1	0.2	90.5
	50～59歳	(1,620)	1.0	0.4	1.7	1.1	9.6	0.1	0.1	0.2	0.1	0.1	0.1	87.9
	60～69歳	(1,559)	1.3	0.6	1.7	1.0	14.4	0.1	0.1	0.6	0.1	0.1	0.3	83.0
	70～79歳	(2,188)	2.5	0.8	2.6	2.2	13.2	0.1	0.5	0.7	0.1	0.2	0.5	82.9
	80～99歳	(769)	3.6	1.0	4.3	2.6	11.6	0.1	0.0	0.9	0.0	0.1	0.3	82.8

（＊）学校・職場等での学習、講演会・展示会等のイベントなども含む
（＊＊）学校・職場等での学習、講演会・展示会等のイベント、パンフレット、新聞や雑誌の記事、書籍、ビデオ・DVD、テレビ番組、ラジオ、映画、展示等

ハンセン病元患者（回復者）・家族・問題に取り組んでいる人と会った経験を就業形態別、職種別に比較すると、「⑫出会いはない/経験はない」と回答した割合は、公務員が 76.4%、教育関係の専門職が 75.8%、福祉関係の専門職が 73.7%、医療関係の専門職が 74.7%であり、全体平均の 85.1%より低かった。

「⑤元患者（回復者）やその家族のことを取り上げた情報に接したことがある」と回答した割合は、公務員が 12.7%、教育関係の専門職が 15.4%、福祉関係の専門職が 16.1%、医療関係の専門職が 13.1%であり、全体平均の 9.5%より高かった。

「①元患者（回復者）と会ったことがある」と回答した割合は、公務員が 8.1%、教育関係の専門職が 6.6%、福祉関係の専門職が 8.4%、医療関係の専門職が 7.8%であり、全体平均の 3.4%より高かった。

「③ハンセン病問題に取り組んでいる人と会ったことがある」と回答した割合は、公務員が 6.4%、教育関係の専門職が 6.1%、福祉関係の専門職が 5.4%、医療関係の専門職が 7.3%であり、全体平均の 3.2%より高かった。

学歴別・年齢別に比較すると、「⑫出会いはない/経験はない」と回答した割合は、最終学歴が短大未満で 87.9%、短大以上で 82.6%であった。また、いずれの年齢においても最終学歴が短大未満より短大以上で出会いや経験の割合が高くなる傾向がみられた。

表 15 Q7 ハンセン病元患者(回復者)・家族・問題に取り組んでいる人と会った経験
[就業形態別｜職種別｜学歴別・年齢別]

		(%) n=	①元患者（回復者）と会ったことがある（＊）	②元患者（回復者）の家族と会ったことがある（＊）	③ハンセン病問題に取り組んでいる人と会ったことがある（＊）	④ハンセン病療養所に行ったことがある	⑤元患者（回復者）やその家族のことを取り上げた情報に接したことがある（＊＊）	⑥自分がハンセン病問題に取り組んでいる（いた）	⑦自分の家族・親戚にハンセン病問題に取り組んでいる人がいる（いた）	⑧自分の友人・知人にハンセン病問題に取り組んでいる人がいる（いた）	⑨自分がハンセン病元患者（回復者）、またはその家族である	⑩自分の親戚にハンセン病元患者（回復者）、またはその家族がいる（いた）	⑪自分の友人・知人にハンセン病元患者（回復者）、またはその家族がいる（いた）	⑫左記のような出会いはない／経験はない
全体		(20,916)	3.4	1.5	3.2	2.0	9.5	0.4	0.5	0.8	0.3	0.4	0.5	85.1
就業形態別	公務員	(829)	8.1	2.5	6.4	4.5	12.7	1.4	0.7	1.2	0.8	0.7	0.5	76.4
	雇用者	(780)	4.9	3.5	4.6	2.7	10.6	0.6	1.2	1.8	0.8	0.1	0.9	80.9
	正規の被雇用者	(5,305)	4.5	2.7	4.1	2.2	7.4	0.6	0.8	1.3	0.6	0.8	0.7	85.6
	非正規の被雇用者	(3,773)	1.9	0.5	1.8	1.4	8.5	0.2	0.4	0.5	0.2	0.2	0.3	87.9
	自営業者・自由業	(1,301)	3.3	1.5	2.3	2.2	11.9	0.1	0.6	0.9	0.0	0.3	0.5	83.1
	自営業の家族従事者等	(127)	3.1	2.4	3.9	0.8	11.0	0.8	1.6	0.0	0.8	0.8	0.0	81.9
	内職	(9)	0.0	0.0	0.0	0.0	11.1	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	88.9
	学生	(874)	9.2	2.9	7.8	3.4	11.1	1.6	0.7	1.5	1.1	1.0	1.4	77.9
	無職	(7,845)	2.0	0.7	2.4	1.7	10.4	0.1	0.2	0.5	0.1	0.1	0.3	86.0
	その他	(73)	8.2	2.7	2.7	4.1	15.1	0.0	1.4	2.7	0.0	0.0	0.0	78.1
職種別	教育関係の専門職	(1,113)	6.6	2.3	6.1	3.5	15.4	0.7	0.7	1.2	0.3	0.4	0.6	75.8
	福祉関係の専門職	(651)	8.4	3.7	5.4	3.2	16.1	0.9	1.1	1.8	0.9	1.4	0.9	73.7
	医療関係の専門職	(914)	7.8	2.8	7.3	7.1	13.1	1.1	0.8	0.8	0.3	0.0	0.7	74.7
	上記以外の専門職	(1,253)	3.7	2.2	3.8	2.1	12.2	0.4	0.6	1.8	0.6	0.6	0.7	81.6
	管理的職業	(1,646)	4.6	2.4	3.9	3.1	12.5	0.6	0.8	1.4	0.5	0.7	0.5	80.6
	事務・営業系の職業	(6,596)	2.5	1.2	3.0	1.6	9.1	0.3	0.6	0.8	0.3	0.3	0.4	86.6
	技能・労務・作業系の職業	(4,944)	2.1	1.1	2.0	1.2	7.1	0.2	0.3	0.5	0.2	0.2	0.4	88.9
	農林漁業職	(191)	4.7	1.6	2.1	1.0	9.4	1.0	0.5	1.0	1.0	0.5	0.5	83.8
	その他	(186)	1.6	0.5	1.1	1.6	7.0	0.5	0.5	0.0	0.0	0.0	0.0	89.8
	現在無職	(1,013)	1.5	0.1	2.4	1.7	9.6	0.1	0.1	0.9	0.2	0.0	0.1	87.3
	働いたことはない	(2,408)	3.4	1.4	2.7	1.3	6.6	0.3	0.3	0.5	0.2	0.4	0.7	88.4
学歴別・年齢別	短大未満（小計）	(9,903)	2.8	1.1	2.2	1.6	7.4	0.2	0.2	0.6	0.2	0.3	0.5	87.9
	18～29歳	(1,245)	9.0	2.5	5.4	2.7	7.1	1.0	0.8	1.6	0.9	0.7	1.3	81.7
	20～29歳	(959)	6.6	2.1	5.5	2.3	5.7	0.6	0.9	1.8	0.6	0.7	1.4	84.0
	30～39歳	(1,174)	3.7	2.0	2.8	1.2	5.5	0.3	0.4	0.9	0.2	0.4	0.4	89.2
	40～49歳	(1,616)	1.9	1.2	1.7	1.1	4.9	0.1	0.2	0.8	0.2	0.2	0.3	91.4
	50～59歳	(1,650)	1.0	0.4	0.8	1.1	5.3	0.0	0.0	0.3	0.1	0.2	0.3	92.2
	60～69歳	(1,329)	1.1	0.5	1.2	1.2	9.0	0.2	0.2	0.2	0.1	0.2	0.5	88.0
	70～79歳	(1,900)	2.0	0.6	1.8	2.1	10.7	0.0	0.0	0.3	0.1	0.1	0.4	85.6
	80～99歳	(989)	2.5	0.9	2.8	2.1	9.3	0.1	0.0	0.4	0.0	0.1	0.3	85.4
	短大以上（小計）	(11,003)	3.8	1.8	4.1	2.4	11.5	0.6	0.8	1.1	0.4	0.5	0.5	82.6
	18～29歳	(1,698)	8.3	3.9	7.0	3.3	8.4	1.6	1.4	1.8	1.5	1.3	1.5	79.6
	20～29歳	(1,448)	8.1	3.7	6.2	3.2	7.3	1.5	1.5	1.7	1.7	1.1	1.2	81.2
	30～39歳	(1,584)	5.2	3.3	5.7	2.1	9.1	0.8	1.3	1.7	0.9	0.9	0.4	83.8
	40～49歳	(1,961)	2.3	1.1	2.7	1.5	8.2	0.4	1.0	0.5	0.2	0.4	0.3	87.8
	50～59歳	(1,598)	1.8	0.9	2.8	2.1	12.3	0.3	0.2	0.5	0.0	0.0	0.1	84.2
	60～69歳	(1,727)	2.4	1.2	2.7	2.1	14.8	0.3	0.3	1.0	0.1	0.1	0.3	80.8
	70～79歳	(1,805)	2.9	1.1	3.4	2.8	14.3	0.3	0.6	0.9	0.1	0.3	0.3	80.9
	80～99歳	(630)	4.6	1.3	5.9	3.2	16.5	0.2	0.3	1.3	0.0	0.0	0.3	77.1

（＊）学校・職場等での学習、講演会・展示会等のイベントなども含む
（＊＊）学校・職場等での学習、講演会・展示会等のイベント、パンフレット、新聞や雑誌の記事、書籍、ビデオ・DVD、テレビ番組、ラジオ、映画、展示等

（4）ハンセン病問題に関する学習を受けた経験

ハンセン病問題に関する学習を受けた経験を地域別に比較すると、療養所の有無で回答傾向に大きな差はみられなかった。

療養所のある都道府県別にみると、項目によっては回答傾向に差があった。たとえば、「①小学校の授業で受けた」と回答した割合は、香川県、熊本県、沖縄県では 7.8～13.2%であり、全体平均の 4.4%より顕著に高かった。また、「②中学校の授業で受けた」と回答した割合も、香川県では 12.7%、熊本県では 13.2%であり、全体平均の 6.5%より顕著に高かった。「⑥職場の研修で受けた」と回答した割合についても、岡山県、香川県、熊本県は 4.2～5.5%であり、全体平均の 1.9%より高かった。

表 16　Q8 ハンセン病問題の学習を受けた経験[地域別]

		(%) n=	①小学校の授業で受けた	②中学校の授業で受けた	③高校の授業で受けた	④高等専門学校、専門学校または短期大学の授業で受けた	⑤大学または大学院の講義で受けた	⑥職場の研修で受けた	⑦一般市民対象の講演会、講座などで受けた	⑧テレビ・映画・youtubeなど映像を見た	⑨書籍を読んだ	⑩その他の場所で受けた	⑪受けたことはない	⑫はっきり覚えていない
全体		(20,916)	4.4	6.5	5.1	1.9	2.4	1.9	2.2	0.3	0.0	0.3	55.4	27.1
地域	北海道	(888)	2.3	3.8	3.8	2.6	1.9	1.1	1.8	0.3	0.1	0.3	59.7	27.0
	東北	(1,444)	2.7	4.4	4.7	2.1	2.6	1.1	1.5	0.2	0.1	0.1	59.6	25.6
	関東	(7,193)	4.8	6.9	5.6	1.8	2.4	1.8	1.9	0.3	0.0	0.2	56.0	26.6
	中部（小計）	(3,820)	3.3	5.4	4.5	1.5	2.3	1.4	2.1	0.2	0.1	0.2	56.7	28.5
	甲信越	(858)	2.7	5.6	4.0	1.3	2.0	2.0	2.1	0.1	0.1	0.2	56.6	29.1
	北陸	(514)	2.7	5.3	4.5	1.9	1.6	2.5	2.1	0.4	0.0	0.2	57.4	27.6
	東海	(2,448)	3.6	5.3	4.6	1.5	2.5	0.9	2.2	0.2	0.1	0.2	56.5	28.5
	近畿	(3,382)	4.3	6.5	4.7	1.8	2.9	1.6	2.1	0.2	0.1	0.3	55.3	27.3
	中国	(1,218)	3.9	6.0	4.9	1.9	2.0	3.5	3.2	0.7	0.0	0.5	53.5	27.2
	四国	(648)	7.3	9.3	6.2	2.6	1.7	3.1	4.9	0.3	0.0	0.6	49.7	25.9
	九州・沖縄（小計）	(2,323)	6.3	9.0	5.9	2.6	2.5	2.6	2.8	0.2	0.0	0.3	49.8	27.7
	北九州	(1,183)	5.5	8.9	6.0	2.7	2.7	2.3	3.0	0.3	0.1	0.2	50.5	27.9
	南九州・沖縄	(1,140)	7.1	9.0	5.9	2.5	2.2	3.0	2.7	0.2	0.0	0.5	49.2	27.5
療養所有無	療養所のある都道府県（小計）	(5,064)	5.4	7.4	5.7	2.0	2.6	2.2	2.3	0.3	0.1	0.5	54.0	26.1
	青森県	(202)	2.5	4.5	3.0	3.0	3.5	1.5	0.5	0.0	0.0	0.5	63.4	22.8
	宮城県	(383)	1.8	3.4	4.4	2.3	2.3	1.0	1.8	0.5	0.3	0.0	59.0	26.4
	群馬県	(325)	4.9	7.4	6.8	2.8	2.2	2.2	2.2	0.3	0.0	0.3	52.0	27.4
	東京都	(2,312)	5.6	7.4	6.2	1.9	2.7	2.0	1.9	0.3	0.1	0.3	54.3	26.4
	静岡県	(607)	3.1	5.4	3.8	1.3	2.1	0.5	2.5	0.2	0.2	0.8	58.8	26.9
	岡山県	(308)	4.9	9.1	4.9	1.3	3.9	5.5	3.9	1.3	0.0	1.3	50.3	24.4
	香川県	(166)	7.8	12.7	7.8	1.2	1.2	4.2	5.4	0.0	0.0	0.6	44.6	26.5
	熊本県	(288)	13.2	13.2	8.7	2.4	2.4	4.9	3.5	0.3	0.0	0.3	46.9	20.5
	鹿児島県	(250)	5.2	8.8	4.0	2.4	0.4	2.4	2.4	0.0	0.0	0.8	50.4	28.4
	沖縄県	(223)	9.0	7.2	6.3	2.7	4.0	1.8	1.8	0.0	0.0	0.9	49.8	27.8
	療養所のない都道府県	(15,852)	4.0	6.2	4.9	1.9	2.4	1.7	2.2	0.3	0.0	0.2	55.8	27.5

ハンセン病問題に関する学習を受けた経験を年齢別に比較すると、「⑪受けたことはない」「⑫はっきり覚えていない」と回答した割合は、若年層、中年層に比べて高齢層で高くなる傾向がみられた。

また、①～③の小学校・中学校・高校の授業をはじめ、「⑦一般市民対象の講演会、講座などで受けた」以外の項目は、若年層ほど経験割合が高くなる傾向がみられた。

「②中学校の授業で受けた」と回答した割合は、18～29 歳が 16.7%、30～39 歳が 10.0%と高く、40 歳以上の 2.7～5.4%とは大きな差があった。

「③高校の授業で受けた」と回答した割合も、18～29 歳が 12.7%、30～39 歳が 7.3%と高く、40 歳以上の 2.5～4.1%とは大きな差があった。

「①小学校の授業で受けた」と回答した割合も、18～29 歳が 11.1%、30～39 歳が 9.0%と高く、40 歳以上の 0.8～4.6%とは大きな差があった。

表 17　Q8 ハンセン病問題の学習を受けた経験[性別・年齢別]

(%)		n=	①小学校の授業で受けた	②中学校の授業で受けた	③高校の授業で受けた	④高等専門学校、専門学校または短期大学の授業で受けた	⑤大学または大学院の講義で受けた	⑥職場の研修で受けた	⑦一般市民対象の講演会、講座などで受けた	⑧テレビ・映画・youtubeなど映像を見た	⑨書籍を読んだ	⑩その他の場所で受けた	⑪受けたことはない	⑫はっきり覚えていない
全体		(20,916)	4.4	6.5	5.1	1.9	2.4	1.9	2.2	0.3	0.0	0.3	55.4	27.1
性別	男性	(10,141)	4.8	7.6	6.3	1.6	2.8	2.6	2.6	0.2	0.0	0.2	54.6	25.9
	女性	(10,707)	4.0	5.4	4.0	2.2	2.1	1.1	1.9	0.3	0.1	0.3	56.2	28.1
	どちらでもない	(68)	5.9	8.8	2.9	0.0	4.4	4.4	4.4	0.0	0.0	0.0	35.3	41.2
年齢別	18～29歳	(2,943)	11.1	16.7	12.7	3.8	6.1	2.0	1.6	0.0	0.0	0.1	32.0	32.3
	20～29歳	(2,407)	10.2	14.6	10.4	3.9	6.6	2.1	1.6	0.0	0.0	0.1	33.2	33.8
	30～39歳	(2,759)	9.0	10.0	7.3	3.3	4.2	2.6	1.2	0.2	0.1	0.1	40.7	34.9
	40～49歳	(3,579)	4.6	5.4	4.1	1.7	1.9	1.7	1.7	0.2	0.1	0.1	55.0	30.1
	50～59歳	(3,249)	2.6	3.8	2.7	1.4	1.3	1.4	1.7	0.4	0.0	0.2	60.6	27.6
	60～69歳	(3,060)	1.5	2.7	2.5	1.4	1.2	2.3	2.0	0.4	0.1	0.4	67.4	21.9
	70～79歳	(3,707)	0.9	3.6	3.4	1.0	1.1	1.5	3.5	0.3	0.1	0.4	67.0	20.8
	80～99歳	(1,619)	0.8	3.5	3.3	0.9	1.2	1.6	4.5	0.5	0.1	0.8	64.1	21.2
性別・年齢別	男性（小計）	(10,141)	4.8	7.6	6.3	1.6	2.8	2.6	2.6	0.2	0.0	0.2	54.6	25.9
	18～29歳	(1,477)	11.7	19.0	15.2	4.1	6.1	2.7	2.2	0.1	0.0	0.1	31.8	29.9
	20～29歳	(1,211)	11.1	17.3	13.2	4.0	6.7	2.9	2.3	0.1	0.0	0.2	33.1	30.9
	30～39歳	(1,390)	10.3	12.2	9.8	3.7	5.0	3.7	1.8	0.1	0.1	0.1	39.4	32.6
	40～49歳	(1,796)	4.6	6.1	5.1	1.4	2.6	2.6	2.1	0.3	0.0	0.1	55.7	27.6
	50～59歳	(1,623)	2.2	4.2	3.0	0.7	2.0	2.0	2.5	0.4	0.0	0.1	61.2	25.9
	60～69歳	(1,497)	2.0	3.0	3.2	0.9	1.2	3.2	2.4	0.3	0.0	0.3	65.8	21.9
	70～79歳	(1,515)	1.1	4.4	3.6	0.1	1.1	2.4	3.8	0.3	0.0	0.3	65.1	21.4
	80～99歳	(843)	0.7	3.6	4.0	0.2	1.2	1.7	3.7	0.1	0.0	0.6	66.3	19.9
	女性（小計）	(10,707)	4.0	5.4	4.0	2.2	2.1	1.1	1.9	0.3	0.1	0.3	56.2	28.1
	18～29歳	(1,442)	10.5	14.4	10.3	3.7	6.1	1.2	1.0	0.0	0.0	0.1	32.2	35.0
	20～29歳	(1,175)	9.4	11.8	7.6	3.8	6.4	1.3	0.9	0.0	0.0	0.0	33.1	36.9
	30～39歳	(1,358)	7.4	7.7	4.7	2.9	3.5	1.5	0.6	0.4	0.1	0.1	42.3	37.3
	40～49歳	(1,771)	4.6	4.7	3.2	2.0	1.3	0.8	1.4	0.1	0.1	0.2	54.4	32.5
	50～59歳	(1,620)	3.0	3.5	2.5	2.0	0.7	0.9	0.9	0.4	0.0	0.2	59.9	29.1
	60～69歳	(1,559)	1.1	2.4	1.9	1.9	1.2	1.4	1.7	0.5	0.1	0.4	69.0	21.7
	70～79歳	(2,188)	0.8	3.1	3.2	1.6	1.1	0.8	3.3	0.2	0.1	0.4	68.2	20.4
	80～99歳	(769)	0.9	3.4	2.6	1.7	1.2	1.6	5.5	0.9	0.3	1.0	61.9	22.4

ハンセン病問題に関する学習を受けた経験を就業形態別、職種別に比較すると、「⑪受けたことはない」と回答した割合は、公務員が 45.0%、教育関係の専門職が 54.4%、福祉関係の専門職が 43.6%、医療関係の専門職が 33.7%であり、全体平均の 55.4%より低かった。

また、「⑫はっきり覚えていない」と回答した割合も、公務員が 22.9%、教育関係の専門職が 22.8%、福祉関係の専門職が 28.1%、医療関係の専門職が 21.4%であり、福祉関係の専門職を除いて全体平均の 27.1%より低かった。

専門職等の養成が始まる「④高等専門学校、専門学校または短期大学の授業で受けた」と回答した割合は、公務員が 3.1%、教育関係の専門職が 2.2%、福祉関係の専門職が 6.0%、医療関係の専門職が 19.9%であり、全体平均の 1.9%より高く、医療関係の専門職が特に高かった。

「⑤大学または大学院の講義で受けた」と回答した割合は、公務員が 6.5%、教育関係が 5.1%、福祉関係の専門職が 6.3%、教育関係の専門職が 12.7%であり、全体平均の 2.4%より高く、医療関係の専門職が特に高かった。

「⑥職場の研修で受けた」と回答した割合は、公務員が 9.7%、教育関係の専門職が 5.3%、福祉関係の専門職が 5.4%、医療関係の専門職が 3.4%であり、全体平均の 1.9%より高く、公務員が特に高かった。

学歴別・年齢別に比較すると、「⑪受けたことはない」と回答した割合は、最終学歴が短大未満で 56.3%、短大以上で 54.5%であり、「⑫はっきり覚えていない」と回答した割合は、短大未満で 29.4%、短大以上で 25.0%であった。

また、①～③の小学校・中学校・高校の「授業で受けた」「⑥職場の研修で受けた」「⑦一般市民対象の講演会、講座などで受けた」と回答した割合は、いずれの年齢においても最終学歴が短大未満より短大以上で経験ありの割合が高くなる傾向がみられた。

表 18　Q8 ハンセン病問題の学習を受けた経験[就業形態別｜職種別｜学歴別･年齢別]

		(%) n=	①小学校の授業で受けた	②中学校の授業で受けた	③高校の授業で受けた	④高等専門学校、専門学校または短期大学の授業で受けた	⑤大学または大学院の講義で受けた	⑥職場の研修で受けた	⑦一般市民対象の講演会、講座などで受けた	⑧テレビ・映画・youtubeなど映像を見た	⑨書籍を読んだ	⑩その他の場所で受けた	⑪受けたことはない	⑫はっきり覚えていない
全体		(20,916)	4.4	6.5	5.1	1.9	2.4	1.9	2.2	0.3	0.0	0.3	55.4	27.1
就業形態別	公務員	(829)	6.9	9.4	8.9	3.1	6.5	9.7	2.5	0.5	0.0	0.4	45.0	22.9
	雇用者	(780)	5.1	9.2	8.3	2.7	3.8	3.1	3.6	0.1	0.0	0.0	50.0	26.9
	正規の被雇用者	(5,305)	6.9	9.1	7.0	3.0	3.5	2.4	2.2	0.2	0.0	0.1	47.8	29.3
	非正規の被雇用者	(3,773)	3.9	4.5	3.0	1.9	1.4	1.2	1.6	0.3	0.1	0.2	57.6	29.1
	自営業者・自由業	(1,301)	3.2	6.1	4.0	1.4	2.5	1.2	2.5	0.5	0.0	0.4	58.2	25.6
	自営業の家族従事者等	(127)	1.6	1.6	2.4	0.0	0.8	0.8	5.5	0.0	0.0	0.0	62.2	28.3
	内職	(9)	0.0	11.1	11.1	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	77.8	11.1
	学生	(874)	14.3	23.7	20.7	2.7	8.4	0.6	1.3	0.0	0.0	0.1	26.4	27.0
	無職	(7,845)	1.7	3.4	2.6	1.0	0.9	1.2	2.4	0.4	0.1	0.4	63.8	25.4
	その他	(73)	5.5	8.2	4.1	6.8	5.5	0.0	1.4	0.0	0.0	0.0	46.6	26.0
職種別	教育関係の専門職	(1,113)	4.9	6.5	5.2	2.2	5.1	5.3	4.1	0.4	0.0	0.8	54.4	22.8
	福祉関係の専門職	(651)	4.0	8.0	6.9	6.0	6.3	5.4	3.2	0.3	0.2	0.3	43.6	28.1
	医療関係の専門職	(914)	5.4	5.7	6.3	19.9	12.7	3.4	2.2	0.1	0.0	0.7	33.7	21.4
	上記以外の専門職	(1,253)	4.5	6.5	4.5	1.2	1.4	2.1	2.6	0.3	0.1	0.3	58.3	25.1
	管理的職業	(1,646)	3.7	6.5	6.3	1.3	2.4	3.5	3.9	0.1	0.0	0.2	57.2	24.2
	事務・営業系の職業	(6,596)	4.6	6.0	4.4	0.8	1.7	1.6	2.2	0.2	0.0	0.2	58.1	26.9
	技能・労務・作業系の職業	(4,944)	4.2	6.2	4.6	0.7	1.0	1.1	1.4	0.3	0.1	0.1	57.0	29.3
	農林漁業職	(191)	2.6	5.8	5.2	1.6	1.0	1.0	5.8	0.0	0.0	0.0	55.5	27.2
	その他	(186)	4.3	5.9	5.4	0.5	1.6	0.5	1.1	1.6	0.0	0.0	58.1	27.4
	現在無職	(1,013)	1.2	2.4	1.6	0.4	0.6	0.7	1.8	0.9	0.1	0.8	66.0	25.7
	働いたことはない	(2,408)	5.6	10.2	8.2	1.0	2.6	0.4	1.4	0.2	0.0	0.1	49.0	30.9
学歴別・年齢別	短大未満（小計）	(9,903)	3.4	5.3	3.8	2.4	0.2	1.1	1.7	0.3	0.0	0.2	56.3	29.4
	18～29歳	(1,245)	8.3	14.5	10.1	4.8	0.9	1.7	1.0	0.0	0.0	0.2	34.9	34.9
	20～29歳	(959)	6.8	11.3	7.3	5.2	1.0	1.8	1.0	0.0	0.0	0.1	37.0	36.9
	30～39歳	(1,174)	7.1	7.7	4.5	4.6	0.3	1.6	0.8	0.3	0.1	0.2	43.4	37.1
	40～49歳	(1,616)	4.5	4.8	3.7	2.3	0.2	1.0	1.3	0.2	0.0	0.2	54.1	32.6
	50～59歳	(1,650)	2.5	3.4	1.5	1.9	0.1	0.4	1.2	0.5	0.0	0.1	59.9	30.2
	60～69歳	(1,329)	1.3	1.9	2.2	1.6	0.0	1.4	1.2	0.5	0.1	0.3	66.7	25.2
	70～79歳	(1,900)	0.5	3.3	2.9	1.2	0.0	0.8	2.8	0.2	0.1	0.1	66.6	23.6
	80～99歳	(989)	0.7	3.2	3.2	1.3	0.1	1.1	4.0	0.5	0.1	0.7	62.6	23.9
	短大以上（小計）	(11,003)	5.3	7.6	6.3	1.5	4.4	2.6	2.6	0.3	0.1	0.3	54.5	25.0
	18～29歳	(1,698)	13.1	18.3	14.6	3.1	10.0	2.2	2.1	0.1	0.0	0.1	29.9	30.4
	20～29歳	(1,448)	12.5	16.8	12.4	3.0	10.2	2.3	2.0	0.1	0.0	0.1	30.6	31.7
	30～39歳	(1,584)	10.4	11.8	9.3	2.4	7.1	3.3	1.6	0.2	0.1	0.0	38.8	33.3
	40～49歳	(1,961)	4.7	5.9	4.4	1.2	3.4	2.2	2.1	0.2	0.1	0.1	55.7	28.0
	50～59歳	(1,598)	2.8	4.3	4.1	0.8	2.6	2.5	2.2	0.3	0.0	0.2	61.3	24.9
	60～69歳	(1,727)	1.7	3.4	2.8	1.2	2.1	3.0	2.7	0.4	0.1	0.4	67.9	19.3
	70～79歳	(1,805)	1.4	4.0	3.9	0.8	2.3	2.2	4.2	0.4	0.1	0.7	67.3	17.8
	80～99歳	(630)	1.0	3.8	3.5	0.3	2.9	2.4	5.2	0.5	0.2	1.0	66.5	17.1

（5）ハンセン病問題に関する啓発活動に参加した経験

ハンセン病問題に関する啓発活動に参加した経験を地域別に比較すると、療養所の有無で回答傾向に大きな差はみられなかった。

療養所のある都道府県別にみると、「③国立ハンセン病資料館、国立ハンセン病療養所の資料館等の展示」に触れたことがある割合は、群馬県、岡山県、香川県、熊本県、沖縄県で 8.3～9.1%であり、全体平均の 4.8%より高かった。

「④国や地方公共団体等が配布する広報紙」を見たことがある割合は、これらの 5 県と鹿児島県で 13.2～22.3%であり、全体平均の 10.0%より高かった。

「⑥国立ハンセン病資料館や地方公共団体等が作成しているパンフレット」を見たことがある割合は、岡山県、香川県、熊本県、沖縄県で 10.8～14.5%であり、全体平均の 6.2%より高かった。

「⑦掲示物（ポスター・看板等）」を見たことがある割合は、岡山県、香川県、熊本県で 24.0～28.3%であり、全体平均の 13.4%より高かった。

これらの県では、上記で取り上げた地方公共団体や療養所からの啓発活動が活発と思われる項目以外についても経験ありの割合が高い傾向がみられた。

表 19　Q9 ハンセン病問題の啓発活動に参加した経験［地域別］

		(%) n=	①法務省主催「ハンセン病問題に関する『親と子のシンポジウム』」	②講演会・展示会等のイベント（親と子のシンポジウム」以外）	③国立ハンセン病資料館、国立ハンセン病療養所の資料館等の展示（＊）	④国や地方公共団体等が配布する広報紙	⑤中学生向けのパンフレット「ハンセン病の向こう側」	⑥「ハンセン病の向こう側」以外のパンフレット（＊＊）	⑦掲示物（ポスター・看板等）	⑧新聞や雑誌の記事・広告	⑨インターネット（ウェブサイト）の記事・広告	⑩書籍	⑪ビデオ・DVD	⑫テレビ番組	⑬ラジオ	⑭映画	⑮学校教育を通じて	⑯その他（自由記述あり）
全体		(20,916)	1.2	2.7	4.8	10.0	4.1	6.2	13.4	28.0	15.8	7.3	4.4	37.6	4.9	7.6	0.1	0.3
地域	北海道	(888)	0.8	2.1	4.5	9.1	3.0	5.6	10.2	31.3	15.8	8.3	3.4	39.4	5.2	7.7	0.1	0.2
	東北	(1,444)	1.5	2.3	3.5	8.3	3.2	5.3	10.7	27.1	14.5	7.0	2.9	36.1	6.2	7.3	0.1	0.1
	関東	(7,193)	1.2	2.5	4.9	8.8	3.8	5.8	12.6	26.4	16.3	7.3	4.3	35.7	4.6	7.9	0.2	0.4
	中部（小計）	(3,820)	0.9	2.3	3.8	9.5	3.3	5.4	12.9	27.0	14.4	6.5	3.5	36.5	4.9	6.3	0.1	0.2
	甲信越	(858)	0.8	2.1	4.1	11.5	3.5	6.2	13.5	29.8	15.3	6.3	4.7	35.5	5.7	7.2	0.1	0.2
	北陸	(514)	1.0	2.1	3.7	9.7	3.5	6.4	14.0	25.7	14.0	4.3	2.7	40.1	4.7	5.8	0.0	0.0
	東海	(2,448)	0.9	2.5	3.8	8.8	3.2	5.0	12.4	26.3	14.2	7.1	3.3	36.0	4.7	6.1	0.0	0.3
	近畿	(3,382)	1.3	2.7	4.6	9.1	4.8	5.6	12.5	27.2	15.8	7.4	4.9	37.3	3.7	8.1	0.1	0.3
	中国	(1,218)	0.7	3.0	5.9	11.7	4.0	8.0	16.7	30.9	16.0	7.1	5.7	42.9	4.8	6.2	0.2	0.4
	四国	(648)	1.4	4.8	8.2	17.1	6.3	10.0	20.2	34.4	15.9	9.6	7.4	43.2	6.5	8.0	0.2	0.2
	九州・沖縄（小計）	(2,323)	1.4	3.7	5.6	14.1	5.5	8.7	17.3	31.6	16.7	7.7	5.6	41.9	6.2	8.7	0.1	0.4
	北九州	(1,183)	1.4	3.8	4.5	13.6	5.5	8.1	17.0	30.3	17.4	7.7	5.0	40.0	5.9	8.6	0.2	0.3
	南九州・沖縄	(1,140)	1.4	3.7	6.7	14.6	5.5	9.2	17.6	33.0	16.1	7.7	6.3	43.9	6.4	8.9	0.1	0.6
療養所有無	療養所のある都道府県（小計）	(5,064)	1.3	2.8	6.0	11.3	4.4	7.2	15.7	28.4	16.4	8.1	5.1	39.0	5.4	7.9	0.1	0.5
	青森県	(202)	3.0	2.5	4.0	8.4	2.5	5.0	11.9	25.2	10.4	7.9	4.5	32.2	5.4	5.9	0.0	0.5
	宮城県	(383)	1.3	1.6	3.4	9.4	1.6	4.7	9.9	27.2	15.4	7.8	3.1	37.3	7.3	9.1	0.3	0.3
	群馬県	(325)	0.9	2.8	8.3	13.2	4.9	7.1	16.0	32.3	20.0	7.4	5.2	34.2	5.2	8.6	0.0	0.0
	東京都	(2,312)	1.4	2.4	5.4	9.0	4.1	5.9	14.1	24.3	16.5	8.2	4.6	35.3	4.3	8.7	0.1	0.5
	静岡県	(607)	1.0	2.5	5.3	8.4	3.1	6.8	11.7	26.7	12.9	8.6	3.1	37.7	5.3	5.3	0.0	0.7
	岡山県	(308)	0.3	4.9	9.1	16.9	6.2	11.0	27.3	37.3	19.2	7.8	6.8	59.1	5.5	4.5	0.0	0.3
	香川県	(166)	0.6	4.2	8.4	22.3	7.8	14.5	28.3	38.0	21.7	6.6	12.0	49.4	8.4	6.0	0.0	0.0
	熊本県	(288)	1.7	5.2	9.0	19.1	7.3	12.5	24.0	41.3	21.2	8.7	9.4	53.8	9.0	10.4	0.3	0.7
	鹿児島県	(250)	1.2	3.6	4.8	16.0	4.8	8.4	19.2	32.4	16.0	8.0	4.8	42.4	6.0	8.8	0.0	1.2
	沖縄県	(223)	2.2	3.1	9.0	14.3	7.2	10.8	16.6	35.4	14.3	8.1	7.6	38.6	5.4	7.2	0.0	0.9
	療養所のない都道府県	(15,852)	1.1	2.6	4.4	9.5	4.0	5.9	12.7	27.9	15.5	7.0	4.2	37.2	4.7	7.5	0.1	0.3

（＊）語り部の映像視聴、学芸員による講話を含む
（＊＊）国立ハンセン病資料館や地方公共団体等が作成しているもの

ハンセン病問題に関する啓発活動に参加した経験を年齢別に比較すると、若年層の経験ありの割合が高い項目と高齢層の経験ありの割合が高い項目に分かれ、中年層は若年層、高齢層に比べて全体として経験割合が低い傾向が見られた。

若年層の経験割合が高い項目は、「①法務省主催『ハンセン病問題に関する［親と子のシンポジウム］』」、「②講演会・展示会等のイベント」、「⑤中学生向けのパンフレット『ハンセン病の向こう側』」、「⑪ビデオ・DVD」であった。

高齢層の経験割合が高い項目は、「④国や地方公共団体等が配布する広報紙」、「⑥『ハンセン病の向こう側』以外のパンフレット」、「⑦掲示物（ポスター・看板等）」、「⑧新聞や雑誌の記事・広告」、「⑩書籍」、「⑫テレビ番組」、「⑬ラジオ」、「⑭映画」であった。

「③国立ハンセン病資料館、国立ハンセン病療養所の資料館等の展示」は、18～29 歳と 80～99 歳の両方で割合が高かった。

表 20　Q9 ハンセン病問題の啓発活動に参加した経験［性別・年齢別］

		(%) n=	①法務省主催「ハンセン病問題に関する『親と子のシンポジウム』」	②講演会・展示会等のイベント（親と子のシンポジウム」以外）	③国立ハンセン病資料館、国立ハンセン病療養所の資料館等の展示	④国や地方公共団体等が配布する広報紙	⑤中学生向けのパンフレット「ハンセン病の向こう側」（＊）	⑥「ハンセン病の向こう側」以外のパンフレット（＊＊）	⑦掲示物（ポスター・看板等）	⑧新聞や雑誌の記事・広告	⑨インターネット（ウェブサイト）の記事・広告	⑩書籍	⑪ビデオ・DVD	⑫テレビ番組	⑬ラジオ	⑭映画	⑮学校教育を通じて	⑯その他（自由記述あり）
全体		(20,916)	1.2	2.7	4.8	10.0	4.1	6.2	13.4	28.0	15.8	7.3	4.4	37.6	4.9	7.6	0.1	0.3
性別	男性	(10,141)	1.7	3.7	5.7	11.3	5.3	7.4	15.0	30.4	18.8	7.7	5.0	38.5	6.3	7.2	0.1	0.2
	女性	(10,707)	0.6	1.7	3.9	8.8	2.9	5.1	11.9	25.9	12.9	6.9	3.9	36.9	3.5	7.9	0.1	0.4
	どちらでもない	(68)	5.9	7.4	4.4	4.4	7.4	4.4	17.6	11.8	10.3	14.7	5.9	33.8	8.8	8.8	0.0	0.0
年齢別	18～29歳	(2,943)	3.4	5.9	8.1	8.7	10.6	6.9	13.5	10.9	17.8	6.8	9.4	17.0	4.8	5.0	0.3	0.2
	20～29歳	(2,407)	3.2	5.6	7.7	7.9	8.8	6.3	12.0	9.8	16.0	6.2	7.9	15.9	4.4	4.6	0.2	0.2
	30～39歳	(2,759)	2.3	3.8	4.5	6.4	5.4	5.0	11.2	11.7	15.9	5.1	4.6	21.5	3.6	4.5	0.0	0.1
	40～49歳	(3,579)	1.0	1.7	2.9	6.1	3.1	3.5	9.6	18.0	17.4	4.1	2.8	30.0	3.0	4.1	0.2	0.2
	50～59歳	(3,249)	0.3	1.3	3.2	5.7	2.7	4.1	9.7	24.5	15.1	5.2	2.5	38.4	2.7	5.7	0.1	0.1
	60～69歳	(3,060)	0.4	1.4	3.8	10.0	1.9	5.8	12.7	35.1	15.4	6.8	3.7	47.8	3.3	10.6	0.1	0.3
	70～79歳	(3,707)	0.3	2.3	4.8	15.7	2.1	9.0	18.0	48.4	13.6	11.2	3.9	56.2	7.1	12.8	0.0	0.6
	80～99歳	(1,619)	0.5	3.3	8.2	22.2	3.5	12.2	23.6	55.8	15.3	15.3	5.0	56.5	13.8	11.1	0.0	0.9
性別・年齢別	男性（小計）	(10,141)	1.7	3.7	5.7	11.3	5.3	7.4	15.0	30.4	18.8	7.7	5.0	38.5	6.3	7.2	0.1	0.2
	18～29歳	(1,477)	5.3	8.6	11.5	11.6	14.4	9.2	16.0	14.4	21.5	8.7	11.0	20.6	7.2	7.0	0.3	0.2
	20～29歳	(1,211)	4.9	8.6	11.0	11.0	12.6	8.4	14.7	13.3	20.1	8.0	9.9	19.9	6.4	6.4	0.2	0.2
	30～39歳	(1,390)	3.7	5.8	6.0	8.5	7.6	7.0	13.1	14.2	19.1	6.8	5.7	24.8	5.3	6.0	0.0	0.0
	40～49歳	(1,796)	1.3	2.2	3.6	7.7	3.9	4.5	11.4	20.7	20.9	4.0	3.5	33.4	4.1	4.0	0.1	0.1
	50～59歳	(1,623)	0.4	1.7	4.1	6.5	3.0	5.3	11.2	27.4	17.4	6.0	2.6	37.6	3.8	3.8	0.1	0.1
	60～69歳	(1,497)	0.4	1.7	3.5	10.5	2.0	6.3	13.1	36.3	16.8	6.7	3.7	46.0	4.1	9.0	0.0	0.3
	70～79歳	(1,515)	0.1	2.9	4.6	17.3	2.8	10.2	20.5	52.8	16.8	11.0	3.4	57.1	8.8	11.9	0.0	0.5
	80～99歳	(843)	0.2	3.2	7.9	22.9	3.3	12.3	24.3	60.6	18.7	14.1	6.2	58.0	15.4	11.0	0.0	0.8
	女性（小計）	(10,707)	0.6	1.7	3.9	8.8	2.9	5.1	11.9	25.9	12.9	6.9	3.9	36.9	3.5	7.9	0.1	0.4
	18～29歳	(1,442)	1.5	3.0	4.5	5.8	6.8	4.5	10.6	7.5	14.1	4.8	7.9	12.9	2.4	3.1	0.3	0.3
	20～29歳	(1,175)	1.4	2.5	4.3	4.7	5.0	4.1	8.9	6.4	11.9	4.2	5.9	11.4	2.3	2.8	0.3	0.3
	30～39歳	(1,358)	0.8	1.5	2.8	4.2	3.2	2.8	9.3	9.2	12.7	3.1	3.5	18.2	1.7	2.8	0.1	0.2
	40～49歳	(1,771)	0.6	1.2	2.3	4.6	2.4	2.6	7.8	15.2	13.8	4.1	2.1	26.8	1.9	4.2	0.2	0.2
	50～59歳	(1,620)	0.2	0.9	2.3	5.0	2.5	2.8	8.2	21.7	12.8	4.4	2.5	39.1	1.5	7.6	0.1	0.1
	60～69歳	(1,559)	0.4	1.2	4.0	9.5	1.8	5.4	12.2	34.1	14.0	6.9	3.8	49.4	2.6	12.1	0.1	0.3
	70～79歳	(2,188)	0.4	1.9	5.0	14.6	1.6	8.1	16.3	45.4	11.3	11.3	4.3	55.6	5.9	13.4	0.0	0.8
	80～99歳	(769)	0.8	3.5	8.6	21.7	3.8	12.2	22.9	50.7	11.7	16.6	3.6	54.9	12.1	11.2	0.0	0.9

（＊）語り部の映像視聴、学芸員による講話を含む
（＊＊）国立ハンセン病資料館や地方公共団体等が作成しているもの

ハンセン病問題に関する啓発活動に参加した経験を就業形態別、職種別に比較すると、教育関係、福祉関係の専門職は、選択肢として具体的に提示した①～⑭全ての項目において全体平均より経験ありの割合が高かった。また、公務員は 14 項目のうち 13 項目、医療関係の専門職は 10 項目において、全体平均より経験ありの割合が高かった。

「⑫テレビ番組」と回答した割合は、公務員が 33.2%、教育関係の専門職が 44.0%、福祉関係の専門職が 40.7%、医療関係の専門職が 36.3%であった。

「⑧新聞や雑誌の記事・広告」と回答した割合は、公務員が 29.0%、教育関係の専門職が 39.2%、福祉関係の専門職が 29.3%、医療関係の専門職が 25.5%であった。

「⑨インターネット（ウェブサイト）の記事・広告」と回答した割合は、公務員が 22.7%、教育関係の専門職が 18.7%、福祉関係の専門職が 19.8%、医療関係の専門職が 19.4%であった。

「④国や地方公共団体等が配布する広報紙」と回答した割合は、公務員が 16.9%、教育関係の専門職が 17.4%、福祉関係の専門職が 13.5%、医療関係の専門職が 10.8%であった。

学歴別・年齢別に比較すると、選択肢として具体的に提示した①～⑭のうち、「⑬ラジオ」「⑭映画」以外の項目の経験割合は、いずれの年齢においても最終学歴が短大未満より短大以上で高かった。

表 21　Q9 ハンセン病問題の啓発活動に参加した経験[就業形態別｜職種別｜学歴別･年齢別]

		(%) n=	①法務省主催「ハンセン病問題に関する『親と子のシンポジウム』」	②講演会・展示会等のイベント（親と子のシンポジウム」以外）	③国立ハンセン病資料館、国立ハンセン病療養所の資料館等の展示（＊）	④国や地方公共団体等が配布する広報紙	⑤中学生向けのパンフレット「ハンセン病の向こう側」	⑥「ハンセン病の向こう側」以外のパンフレット（＊＊）	⑦掲示物（ポスター・看板等）	⑧新聞や雑誌の記事・広告	⑨インターネット（ウェブサイト）の記事・広告	⑩書籍	⑪ビデオ・DVD	⑫テレビ番組	⑬ラジオ	⑭映画	⑮学校教育を通じて	⑯その他（自由記述あり）
全体		(20,916)	1.2	2.7	4.8	10.0	4.1	6.2	13.4	28.0	15.8	7.3	4.4	37.6	4.9	7.6	0.1	0.3
就業形態別	公務員	(829)	3.1	4.9	8.3	16.9	9.2	10.9	17.7	29.0	22.7	9.9	9.8	33.2	5.1	8.6	0.1	0.0
	雇用者	(780)	3.2	5.6	8.2	11.7	8.2	7.9	16.7	31.4	23.1	9.9	5.9	39.7	9.4	8.6	0.0	0.0
	正規の被雇用者	(5,305)	2.0	3.6	5.4	7.4	5.5	6.0	12.0	19.8	17.9	5.7	4.4	29.4	4.3	5.1	0.1	0.1
	非正規の被雇用者	(3,773)	0.6	1.8	3.4	6.9	2.6	4.1	10.5	21.8	12.7	4.9	2.6	33.1	3.2	5.6	0.1	0.2
	自営業者・自由業	(1,301)	0.9	2.8	4.5	10.4	3.8	7.2	15.1	34.1	20.5	9.8	5.0	44.0	6.1	9.9	0.3	0.5
	自営業の家族従事者等	(127)	1.6	2.4	3.9	8.7	3.9	5.5	17.3	28.3	20.5	7.9	2.4	43.3	4.7	7.1	0.0	0.0
	内職	(9)	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	11.1	22.2	11.1	0.0	0.0	44.4	0.0	11.1	0.0	0.0
	学生	(874)	4.0	5.1	7.1	10.2	14.3	6.9	16.1	11.9	21.9	7.1	14.1	20.9	4.8	4.8	0.6	0.3
	無職	(7,845)	0.2	1.7	4.0	12.1	1.8	6.6	14.2	36.8	12.9	8.6	3.5	46.2	5.5	9.9	0.1	0.5
	その他	(73)	0.0	2.7	5.5	15.1	2.7	2.7	23.3	31.5	6.8	8.2	4.1	50.7	6.8	5.5	0.0	1.4
職種別	教育関係の専門職	(1,113)	1.4	5.6	8.9	17.4	8.4	12.7	20.8	39.2	18.7	13.8	8.7	44.0	7.8	12.6	0.1	0.6
	福祉関係の専門職	(651)	2.6	7.1	8.3	13.5	8.6	12.3	20.6	29.3	19.8	11.7	7.8	40.7	6.9	11.1	0.2	0.5
	医療関係の専門職	(914)	1.4	4.2	10.9	10.8	3.8	8.4	15.8	25.5	19.4	13.2	6.3	36.3	5.3	7.0	0.3	0.1
	上記以外の専門職	(1,253)	1.3	2.6	4.5	9.4	4.3	6.1	12.5	30.0	19.6	9.6	4.2	39.6	5.7	8.9	0.1	0.2
	管理的職業	(1,646)	1.9	4.4	6.7	16.2	4.8	9.4	19.9	45.0	21.7	11.1	5.2	50.7	8.4	9.8	0.0	0.1
	事務・営業系の職業	(6,596)	1.1	2.1	3.9	9.4	3.0	5.5	12.9	28.4	15.4	6.1	3.8	37.7	4.3	7.9	0.1	0.4
	技能・労務・作業系の職業	(4,944)	0.8	1.6	3.4	7.5	3.4	4.4	10.9	22.6	13.4	4.6	3.1	33.5	3.8	5.3	0.2	0.2
	農林漁業職	(191)	1.6	4.2	6.3	10.5	5.8	5.8	12.0	31.4	17.3	5.8	4.2	34.6	9.4	7.9	0.5	0.0
	その他	(186)	0.0	3.2	2.7	6.5	3.8	3.8	9.7	26.3	18.3	6.5	3.2	44.6	4.8	7.5	0.0	0.5
	現在無職	(1,013)	0.1	1.2	3.9	10.5	1.7	6.1	11.7	33.1	12.1	8.2	2.6	46.4	4.6	9.1	0.0	0.6
	働いたことはない	(2,408)	1.2	2.7	4.0	8.1	5.9	4.7	10.8	18.7	12.8	5.7	5.8	28.8	3.7	5.4	0.2	0.3
学歴別・年齢別	短大未満（小計）	(9,903)	0.7	2.0	3.8	8.6	3.4	5.2	11.5	24.9	12.7	5.6	3.4	36.0	4.8	6.2	0.1	0.3
	18～29歳	(1,245)	2.9	5.4	6.7	7.5	9.9	6.4	11.8	10.0	15.7	6.0	8.5	14.9	5.2	5.4	0.2	0.2
	20～29歳	(959)	2.6	4.7	6.3	6.0	6.8	5.1	10.4	8.0	12.2	4.9	6.6	13.5	4.6	4.5	0.0	0.2
	30～39歳	(1,174)	1.2	2.9	3.8	4.5	4.0	3.9	8.9	9.8	13.8	3.7	3.0	19.1	3.2	2.9	0.1	0.1
	40～49歳	(1,616)	0.6	1.4	2.4	5.1	2.8	3.2	7.9	14.0	14.2	2.7	2.0	27.0	2.8	3.5	0.1	0.1
	50～59歳	(1,650)	0.2	0.8	2.0	3.9	2.4	2.7	7.5	19.0	11.9	3.0	1.5	34.9	2.0	3.9	0.2	0.2
	60～69歳	(1,329)	0.2	0.8	2.9	6.8	1.0	4.1	8.9	28.1	11.3	3.5	2.9	43.7	2.5	7.7	0.0	0.3
	70～79歳	(1,900)	0.2	1.6	3.5	13.9	1.9	7.3	15.9	43.1	10.7	8.7	3.3	53.2	6.8	10.8	0.1	0.4
	80～99歳	(989)	0.2	2.5	7.5	20.2	3.0	10.4	21.1	49.8	12.5	12.7	4.2	55.4	13.2	9.1	0.0	0.8
	短大以上（小計）	(11,003)	1.5	3.3	5.6	11.2	4.8	7.2	15.2	30.8	18.5	8.9	5.3	39.2	5.0	8.8	0.1	0.3
	18～29歳	(1,698)	3.8	6.2	9.0	9.6	11.2	7.2	14.7	11.6	19.4	7.4	10.1	18.4	4.5	4.8	0.4	0.2
	20～29歳	(1,448)	3.6	6.2	8.6	9.0	10.2	7.0	13.0	11.0	18.6	7.0	8.8	17.5	4.3	4.7	0.4	0.2
	30～39歳	(1,584)	3.2	4.4	4.9	7.8	6.5	5.7	12.9	13.2	17.4	6.1	5.9	23.4	3.9	5.7	0.0	0.1
	40～49歳	(1,961)	1.3	1.9	3.4	6.9	3.4	3.8	11.0	21.2	19.9	5.2	3.5	32.5	3.1	4.6	0.3	0.2
	50～59歳	(1,598)	0.4	1.8	4.4	7.6	3.1	5.4	11.9	30.2	18.5	7.5	3.6	42.0	3.4	7.5	0.1	0.1
	60～69歳	(1,727)	0.6	2.0	4.5	12.3	2.6	7.2	15.7	40.6	18.5	9.3	4.3	51.0	3.9	12.9	0.1	0.2
	70～79歳	(1,805)	0.4	3.1	6.3	17.6	2.3	10.7	20.3	54.0	16.7	13.9	4.6	59.4	7.4	15.0	0.0	0.9
	80～99歳	(630)	1.0	4.6	9.4	25.4	4.3	15.1	27.5	65.1	19.7	19.4	6.2	58.1	14.8	14.3	0.0	1.0

（＊）語り部の映像視聴、学芸員による講話を含む
（＊＊）国立ハンセン病資料館や地方公共団体等が作成しているもの

2 ハンセン病に係る偏見差別

(1)ハンセン病に係る偏見差別に関する経験等

ハンセン病に係る偏見差別に関する経験等を地域別に比較すると、多くの項目で療養所の有無で回答傾向に大きな差はみられなかった。ただ、「③ハンセン病元患者(回復者)やその家族が差別を受けていると聞いたことがある」と回答した割合は、療養所のある都道府県で 33.7%、療養所のない都道府県で 28.9%であり、療養所のある都道府県のほうが高かった。

療養所のある都道府県別にみると、「①自分の家族・親戚などが偏見や差別に基づく言動をしているのを見聞きしたことがある」割合は、香川県で 10.2%、熊本県で 9.7%であり、全体平均の 7.3%より高かった。

「②自分の友人・知人など身近な人が偏見や差別に基づく言動をしているのを見聞きしたことがある」割合は、香川県、熊本県いずれも 10.8%であり、全体平均の 8.4%より高かった。

「③ハンセン病元患者(回復者)やその家族が差別を受けていると聞いたことがある」割合は、岡山県、香川県、熊本県で 39.9～43.4%であり、全体平均の 30.0%より高かった。

表 22　Q10 ハンセン病に係る偏見差別に関する経験等[地域別]

(%)		n=	①自分の家族・親戚などが偏見や差別に基づく言動をしているのを見聞きしたことがある	②自分の友人・知人など身近な人が偏見や差別に基づく言動をしているのを見聞きしたことがある	③ハンセン病元患者（回復者）やその家族が差別を受けていると聞いたことがある	④自分や身近な人がハンセン病元患者（回復者）やその家族として、偏見や差別による被害を受けている（いた）	⑤現在、世の中にハンセン病元患者（回復者）やその家族に対する偏見や差別がある	⑥自分自身は偏見や差別の意識を持っていないと思う
			「ある」の割合				「あると思う」の割合	「持っていないと思う」の割合
全体		(20,916)	7.3	8.4	30.0	4.7	39.6	64.6
地域	北海道	(888)	5.2	6.5	28.8	4.5	40.7	66.8
	東北	(1,444)	6.6	7.3	28.2	5.9	39.0	63.1
	関東	(7,193)	7.6	8.5	30.8	4.7	40.4	64.6
	中部（小計）	(3,820)	7.1	8.2	27.7	4.1	38.5	63.6
	甲信越	(858)	7.1	7.9	32.6	4.3	40.1	66.4
	北陸	(514)	6.6	9.1	25.7	5.8	36.4	59.1
	東海	(2,448)	7.3	8.1	26.4	3.6	38.4	63.6
	近畿	(3,382)	7.3	8.8	29.6	4.7	39.1	63.2
	中国	(1,218)	7.5	8.5	32.6	3.9	40.0	66.6
	四国	(648)	7.9	8.6	31.5	3.7	39.4	66.7
	九州・沖縄（小計）	(2,323)	7.2	8.8	31.9	5.7	39.3	66.7
	北九州	(1,183)	6.7	8.8	30.6	3.9	38.8	65.8
	南九州・沖縄	(1,140)	7.7	8.8	33.2	7.6	39.8	67.5
療養所有無	療養所のある都道府県（小計）	(5,064)	7.7	8.6	33.7	5.0	40.3	65.7
	青森県	(202)	4.5	6.4	26.2	5.9	38.1	62.4
	宮城県	(383)	7.0	6.3	32.6	4.4	41.0	63.4
	群馬県	(325)	5.5	9.2	33.5	3.4	42.8	67.7
	東京都	(2,312)	8.6	9.5	32.4	4.9	39.7	64.5
	静岡県	(607)	6.3	6.4	30.6	3.0	40.7	65.6
	岡山県	(308)	7.8	7.8	40.9	4.2	37.7	69.2
	香川県	(166)	10.2	10.8	43.4	3.0	41.0	71.1
	熊本県	(288)	9.7	10.8	39.9	9.0	41.7	68.4
	鹿児島県	(250)	6.4	6.4	37.2	6.4	39.6	67.6
	沖縄県	(223)	7.2	9.4	35.0	9.4	43.9	67.3
	療養所のない都道府県	(15,852)	7.1	8.3	28.9	4.6	39.4	64.3

ハンセン病に係る偏見差別に関する経験等を年齢別に比較すると、「③元患者（回復者）やその家族が差別を受けていると聞いたことがある」「⑤現在世の中には偏見差別がある」「⑥自分自身は偏見差別の意識を持っていない」の 3 項目については、年齢が高くなるにつれて回答割合が高くなる傾向がみられた。

「③ハンセン病元患者（回復者）やその家族が差別を受けていると聞いたことがある」と回答した割合は、70～79 歳が 38.2%と最も高く、30～39 歳が 21.9%と最も低かった。

「⑤現在、世の中にハンセン病元患者（回復者）やその家族に対する偏見や差別がある」と回答した割合は、70～79 歳が 51.1%と最も高く、18～29 歳が 26.6%と最も低かった。

「⑥自分自身は偏見や差別の意識を持っていないと思う」と回答した割合は、70～79 歳が 76.3%と最も高く、30～39 歳が 54.2%と最も低かった。

表 23　Q10 ハンセン病に係る偏見差別に関する経験等[性別・年齢別]

(%)		n=	①自分の家族・親戚などが偏見や差別に基づく言動をしているのを見聞きしたことがある	②自分の友人・知人など身近な人が偏見や差別に基づく言動をしているのを見聞きしたことがある	③ハンセン病元患者（回復者）やその家族が差別を受けていると聞いたことがある	④自分や身近な人がハンセン病元患者（回復者）やその家族として、偏見や差別による被害を受けている（いた）	⑤現在、世の中にハンセン病元患者（回復者）やその家族に対する偏見や差別がある	⑥自分自身は偏見や差別の意識を持っていないと思う
			「ある」の割合				「あると思う」の割合	「持っていないと思う」の割合
全体		(20,916)	7.3	8.4	30.0	4.7	39.6	64.6
性別	男性	(10,141)	7.8	10.1	28.9	5.9	38.4	62.4
	女性	(10,707)	6.7	6.8	31.0	3.5	40.7	66.7
	どちらでもない	(68)	8.8	8.8	35.3	11.8	35.3	63.2
年齢別	18～29歳	(2,943)	9.3	13.4	22.3	8.4	26.6	54.3
	20～29歳	(2,407)	8.6	12.5	20.2	8.0	24.9	53.1
	30～39歳	(2,759)	8.4	10.8	21.9	5.6	30.2	54.2
	40～49歳	(3,579)	6.3	8.2	24.6	3.3	32.4	58.1
	50～59歳	(3,249)	6.2	6.2	30.8	3.5	41.0	65.3
	60～69歳	(3,060)	7.0	6.5	36.8	3.7	48.6	72.3
	70～79歳	(3,707)	6.2	6.2	38.2	4.4	51.1	76.3
	80～99歳	(1,619)	8.7	8.3	36.8	4.3	49.1	72.8
性別・年齢別	男性（小計）	(10,141)	7.8	10.1	28.9	5.9	38.4	62.4
	18～29歳	(1,477)	11.3	16.9	22.5	11.6	26.2	53.1
	20～29歳	(1,211)	10.7	16.6	20.2	10.8	23.5	52.0
	30～39歳	(1,390)	9.1	13.1	20.4	8.0	29.2	52.3
	40～49歳	(1,796)	6.0	9.0	24.1	4.5	30.3	55.4
	50～59歳	(1,623)	6.5	7.3	29.3	4.2	37.6	62.5
	60～69歳	(1,497)	7.6	8.4	33.9	4.6	47.8	68.7
	70～79歳	(1,515)	6.8	7.1	38.5	4.4	52.5	75.7
	80～99歳	(843)	8.3	8.8	37.8	4.3	51.6	74.5
	女性（小計）	(10,707)	6.7	6.8	31.0	3.5	40.7	66.7
	18～29歳	(1,442)	7.4	9.7	21.8	5.1	26.8	55.7
	20～29歳	(1,175)	6.5	8.3	19.9	5.0	26.0	54.5
	30～39歳	(1,358)	7.7	8.5	23.3	3.0	31.1	56.0
	40～49歳	(1,771)	6.5	7.5	25.2	2.2	34.6	60.8
	50～59歳	(1,620)	5.9	5.1	32.3	2.8	44.4	68.0
	60～69歳	(1,559)	6.5	4.7	39.6	2.8	49.3	75.7
	70～79歳	(2,188)	5.8	5.5	37.9	4.3	50.1	76.8
	80～99歳	(769)	9.2	7.9	35.5	4.3	46.4	70.7

ハンセン病に係る偏見差別に関する経験等を就業形態別、職種別に比較すると、「①自分の家族・親戚や友人・知人など身近な人が偏見差別に基づく言動をしているのを見聞きしたことがある」「③元患者（回復者）やその家族が差別を受けていると聞いたことがある」「④自分や身近な人が偏見差別による被害を受けている」といった項目については、公務員、教育関係の専門職、福祉関係の専門職、医療関係の専門職のいずれも、全体平均より経験ありの割合が高かった。

「③ハンセン病元患者（回復者）やその家族が差別を受けていると聞いたことがある」と回答した割合は、公務員が 33.1%、教育関係の専門職が 38.1%、福祉関係の専門職が 36.3%、医療関係の専門職が 38.5%であった。

「⑤現在、世の中にハンセン病元患者（回復者）やその家族に対する偏見や差別がある」と回答した割合は、公務員が 39.6%、教育関係の専門職が 48.2%、福祉関係の専門職が 44.9%、医療関係の専門職が 43.0%であった。

「⑥自分自身は偏見や差別の意識を持っていないと思う」と回答した割合は、公務員が 62.1%、教育関係の専門職が 69.6%、福祉関係の専門職が 61.3%、医療関係の専門職が 65.9%であった。

学歴別・年齢別に比較すると、「⑤現在、世の中にハンセン病元患者（回復者）やその家族に対する偏見や差別があると思う」「⑥自分自身は偏見や差別の意識を持っていないと思う」と回答した割合は、いずれの年齢においても最終学歴が短大未満より短大以上で高かった。

表 24　Q10 ハンセン病に係る偏見差別に関する経験等[就業形態別｜職種別｜学歴別･年齢別]

		(%) n=	①自分の家族・親戚などが偏見や差別に基づく言動をしているのを見聞きしたことがある	②自分の友人・知人など身近な人が偏見や差別に基づく言動をしているのを見聞きしたことがある	③ハンセン病元患者（回復者）やその家族が差別を受けていると聞いたことがある	④自分や身近な人がハンセン病元患者（回復者）やその家族として、偏見や差別による被害を受けている（いた）	⑤現在、世の中にハンセン病元患者（回復者）やその家族に対する偏見や差別がある	⑥自分自身は偏見や差別の意識を持っていないと思う
			「ある」の割合				「あると思う」の割合	「持っていないと思う」の割合
全体		(20,916)	7.3	8.4	30.0	4.7	39.6	64.6
就業形態別	公務員	(829)	7.7	10.1	33.1	8.2	39.6	62.1
	雇用者	(780)	9.0	11.8	32.8	6.4	35.9	59.9
	正規の被雇用者	(5,305)	8.1	10.7	23.8	6.3	31.8	56.0
	非正規の被雇用者	(3,773)	6.5	7.2	27.7	3.1	38.0	63.4
	自営業者・自由業	(1,301)	7.9	8.7	35.0	4.6	44.8	67.4
	自営業の家族従事者等	(127)	10.2	10.2	33.1	8.7	42.5	70.9
	内職	(9)	0.0	0.0	22.2	0.0	55.6	77.8
	学生	(874)	10.1	14.4	28.6	8.4	30.9	61.2
	無職	(7,845)	6.4	6.1	34.0	3.3	46.0	71.5
	その他	(73)	5.5	6.8	37.0	5.5	37.0	61.6
職種別	教育関係の専門職	(1,113)	8.6	9.5	38.1	6.4	48.2	69.6
	福祉関係の専門職	(651)	11.2	14.6	36.3	8.9	44.9	61.3
	医療関係の専門職	(914)	8.8	10.4	38.5	6.3	43.0	65.9
	上記以外の専門職	(1,253)	8.4	7.9	35.8	5.8	44.3	67.1
	管理的職業	(1,646)	8.6	10.7	37.2	5.3	45.8	68.9
	事務・営業系の職業	(6,596)	6.7	7.2	29.9	4.3	40.3	66.0
	技能・労務・作業系の職業	(4,944)	6.5	7.9	25.0	3.8	35.4	61.8
	農林漁業職	(191)	9.4	12.6	28.3	7.3	35.6	62.8
	その他	(186)	7.5	7.5	24.7	1.1	38.2	65.6
	現在無職	(1,013)	6.4	5.1	34.0	3.2	46.8	73.2
	働いたことはない	(2,408)	6.9	9.1	23.1	4.7	30.3	56.8
学歴別・年齢別	短大未満（小計）	(9,903)	6.9	8.0	25.3	4.1	35.4	62.9
	18～29歳	(1,245)	10.0	14.7	16.1	8.0	22.9	50.6
	20～29歳	(959)	8.8	13.7	14.1	7.2	21.2	48.8
	30～39歳	(1,174)	8.3	10.2	17.1	4.4	27.1	53.3
	40～49歳	(1,616)	5.6	8.5	20.4	2.6	27.6	56.3
	50～59歳	(1,650)	6.3	5.9	25.3	3.3	34.8	62.2
	60～69歳	(1,329)	6.3	5.6	31.5	2.1	44.0	70.3
	70～79歳	(1,900)	5.1	5.2	32.6	4.7	45.3	73.9
	80～99歳	(989)	8.8	8.4	32.4	4.3	44.2	70.4
	短大以上（小計）	(11,003)	7.6	8.7	34.3	5.2	43.4	66.2
	18～29歳	(1,698)	8.8	12.4	26.8	8.7	29.3	56.9
	20～29歳	(1,448)	8.6	11.8	24.3	8.6	27.3	56.0
	30～39歳	(1,584)	8.5	11.2	25.4	6.5	32.5	54.9
	40～49歳	(1,961)	6.8	8.0	28.1	3.9	36.3	59.5
	50～59歳	(1,598)	6.0	6.5	36.5	3.7	47.4	68.5
	60～69歳	(1,727)	7.5	7.2	40.9	4.8	52.1	73.9
	70～79歳	(1,805)	7.4	7.3	44.0	4.0	57.2	78.9
	80～99歳	(630)	8.6	8.3	43.8	4.3	56.8	76.5

（2）ハンセン病元患者（回復者）・家族に対する偏見差別による被害事例の認知度

ハンセン病元患者（回復者）・家族に対する偏見差別による被害事例の認知度を地域別に比較すると、療養所の有無で回答傾向に大きな差はみられなかったが、いずれの項目においても療養所のある都道府県における認知度は、療養所のない都道府県を上回っていた。

療養所のある都道府県別にみると、岡山県、香川県、熊本県、鹿児島県、沖縄県で認知度が高い項目があった。

具体的には、「②近隣や地域の人々から差別や排除行為を受けること」の被害事例としての認知度は、香川県、熊本県、沖縄県で 50.7～54.2%であり、全体平均の 41.4%より高かった。

「①家族や親戚から差別や排除行為を受けること」の被害事例としての認知度は、岡山県、香川県、熊本県で 47.1～48.6%であり、全体平均の 34.4%より高かった。

「⑬ハンセン病元患者（回復者）やその家族であるということを誰にも言えず、秘密を抱えて生きていかざるを得ないこと」の被害事例としての認知度は、香川県、熊本県、鹿児島県、沖縄県で 31.2～39.9%であり、全体平均の 26.3%より高かった。

表 25　Q11 ハンセン病元患者（回復者）・家族に対する偏見差別による被害事例の認知度
［地域別］（複数回答）

		(%) n=	①家族や親戚から差別や排除行為を受けること	②近隣や地域の人々から差別や排除行為を受けること	③通学している学校で他の生徒から集団的ないじめや排除行為を受けること	④通学している学校で教師から差別や排除行為を受けること	⑤医療従事者・介護従事者から差別や排除行為を受けること	⑥国・都道府県・市区町村等の行政職員から差別や排除行為を受けること	⑦ハンセン病元患者（回復者）やその家族であることを理由に就職試験で落とされること	⑧職場で同僚等から差別や排除行為を受けること	⑨ハンセン病元患者（回復者）やその家族であることを理由に交際を断られる、あるいは離婚させられること	⑩ハンセン病についての誤った認識をハンセン病元患者（回復者）やその家族が持つことにより、親密な家族関係が築けないこと	⑪家族を責めたり、恨んだり、忌避したりして、家族関係が破綻すること	⑫家族であるハンセン病元患者（回復者）との関係を断ったり、あるいは距離をおいたりして、家族関係が破綻すること	⑬ハンセン病元患者（回復者）やその家族であるということを誰にも言えず、秘密を抱えて生きていかざるを得ないこと	⑭その他	⑮左記の中に知っているものはない
全体		(20,916)	34.4	41.4	21.5	16.3	11.6	15.4	19.6	15.9	22.3	17.8	14.0	18.3	26.3	0.5	44.6
地域	北海道	(888)	33.7	41.7	22.5	16.6	11.3	15.4	21.1	16.7	21.4	18.2	14.1	18.9	25.5	0.2	46.5
	東北	(1,444)	31.2	39.2	20.6	14.9	9.8	12.8	17.5	15.1	20.8	17.3	12.6	17.9	25.3	0.3	47.6
	関東	(7,193)	34.4	41.2	22.1	16.7	11.4	15.3	19.8	15.9	21.6	17.7	13.6	17.6	26.1	0.6	45.0
	中部（小計）	(3,820)	32.4	40.0	21.6	16.0	10.8	13.8	18.4	15.1	21.6	16.4	13.2	17.4	24.9	0.4	45.9
	甲信越	(858)	35.5	43.9	23.9	18.2	11.3	14.2	20.4	16.6	23.5	17.5	15.3	19.1	27.4	0.5	42.1
	北陸	(514)	29.6	38.1	22.2	15.0	10.9	12.6	16.9	12.5	20.2	15.0	10.3	15.6	23.0	0.2	48.2
	東海	(2,448)	31.9	39.0	20.7	15.5	10.6	13.8	18.0	15.2	21.3	16.3	13.1	17.2	24.4	0.4	46.8
	近畿	(3,382)	33.4	40.1	19.0	15.0	12.2	15.4	19.5	15.7	22.3	17.8	13.6	18.4	24.9	0.5	45.4
	中国	(1,218)	38.0	42.9	19.5	15.9	13.3	16.7	20.5	16.8	23.9	17.9	15.5	18.9	27.8	0.9	42.9
	四国	(648)	41.4	45.5	24.4	17.3	11.7	19.4	21.9	16.2	25.5	20.8	16.8	21.5	31.3	0.2	38.1
	九州・沖縄（小計）	(2,323)	38.1	45.7	23.0	18.0	12.9	17.6	21.1	17.3	25.1	20.3	16.1	20.2	29.7	0.3	39.8
	北九州	(1,183)	35.1	44.2	22.2	17.2	11.2	15.5	20.4	16.1	23.9	17.5	14.5	17.9	26.6	0.4	41.8
	南九州・沖縄	(1,140)	41.1	47.3	23.8	18.9	14.6	19.9	21.8	18.5	26.4	23.2	17.7	22.6	32.9	0.3	37.7
療養所有無	療養所のある都道府県（小計）	(5,064)	37.1	44.6	23.4	17.6	12.6	17.2	20.2	16.8	22.7	19.4	14.9	19.0	27.5	0.5	41.9
	青森県	(202)	29.7	41.6	17.8	15.8	8.9	12.4	10.9	13.9	15.3	16.8	10.9	17.3	24.8	1.0	49.0
	宮城県	(383)	32.9	39.2	19.6	12.0	9.4	10.7	17.5	13.1	17.5	18.3	12.8	16.7	23.8	0.0	49.1
	群馬県	(325)	37.8	49.5	22.2	19.1	14.5	19.7	21.8	14.8	20.6	18.5	14.8	19.4	27.4	0.6	38.2
	東京都	(2,312)	34.5	42.1	24.0	17.5	12.2	16.2	20.4	16.7	21.5	17.6	13.9	17.1	26.0	0.6	44.6
	静岡県	(607)	33.6	43.5	22.9	17.5	10.9	14.7	18.5	16.3	22.2	16.5	12.4	17.3	22.7	0.7	43.2
	岡山県	(308)	47.1	48.1	22.1	17.2	14.9	20.1	22.4	16.9	28.9	21.8	18.5	22.7	29.9	0.6	36.4
	香川県	(166)	48.2	52.4	26.5	18.1	13.3	27.1	19.3	18.7	28.9	25.3	18.7	27.1	32.5	0.6	33.7
	熊本県	(288)	48.6	54.2	27.4	22.9	17.4	23.3	29.5	19.4	33.7	30.9	21.5	27.4	37.8	0.7	28.1
	鹿児島県	(250)	43.2	48.4	22.8	18.4	15.6	20.0	20.8	22.4	26.4	22.4	16.8	20.4	31.2	0.0	36.0
	沖縄県	(223)	43.5	50.7	26.5	20.2	14.3	23.8	19.7	19.7	24.2	25.6	21.5	24.7	39.9	0.0	35.0
	療養所のない都道府県	(15,852)	33.6	40.4	20.8	15.9	11.3	14.8	19.4	15.7	22.1	17.4	13.7	18.0	25.9	0.5	45.4

ハンセン病元患者（回復者）・家族に対する偏見差別による被害事例の認知度を年齢別に比較すると、年齢が高くなるにつれて認知度が高くなる傾向がみられた。また、高齢層に着目すると、80～99 歳より 70～79 歳の方が被害事例の認知度が高かった。

「⑮知っているものはない」と回答した割合は、30～39 歳が 57.1%、18～29 歳が 54.3%の順に高く、70～79 歳が 30.4%と最も低かった。

「②近隣や地域の人々から差別や排除行為を受けること」の被害事例としての認知度は、70～79 歳が 56.9%と最も高く、30～39 歳が 28.5%、18～29 歳が 27.4%の順に低かった。

「①家族や親戚から差別や排除行為を受けること」の被害事例としての認知度は、70～79 歳が 47.2%と最も高く、18～29 歳が 23.8%、30～39 歳が 23.4%の順に低かった。

「⑬ハンセン病元患者（回復者）やその家族であるということを誰にも言えず、秘密を抱えて生きていかざるを得ないこと」の被害事例としての認知度は、70～79 歳が 41.3%と最も高く、30～39 歳が 14.3%、18～29 歳が 12.9%の順に低かった。

表 26　Q11 ハンセン病元患者（回復者）・家族に対する偏見差別による被害事例の認知度
［性別・年齢別］（複数回答）

(%)		n=	①家族や親戚から差別や排除行為を受けること	②近隣や地域の人々から差別や排除行為を受けること	③通学している学校で他の生徒から集団的ないじめや排除行為を受けること	④通学している学校で教師から差別や排除行為を受けること	⑤医療従事者・介護従事者から差別や排除行為を受けること	⑥国・都道府県・市区町村等の行政職員から差別や排除行為を受けること	⑦ハンセン病元患者（回復者）やその家族であることを理由に就職試験で落とされること	⑧職場で同僚等から差別や排除行為を受けること	⑨ハンセン病元患者（回復者）やその家族であることを理由に交際を断られる、あるいは離婚させられること	⑩ハンセン病についての誤った認識をハンセン病元患者（回復者）やその家族が持つことにより、親密な家族関係が築けないこと	⑪家族を責めたり、恨んだり、忌避したりして、家族関係が破綻すること	⑫家族であるハンセン病元患者（回復者）との関係を断ったり、あるいは距離をおいたりして、家族関係が破綻すること	⑬ハンセン病元患者（回復者）やその家族であるということを誰にも言えず、秘密を抱えて生きていかざるを得ないこと	⑭その他	⑮左記の中に知っているものはない
全体		(20,916)	34.4	41.4	21.5	16.3	11.6	15.4	19.6	15.9	22.3	17.8	14.0	18.3	26.3	0.5	44.6
性別	男性	(10,141)	31.9	38.5	19.7	15.3	11.2	15.2	18.1	14.6	19.4	15.3	12.1	15.2	21.7	0.5	46.3
	女性	(10,707)	36.9	44.2	23.1	17.2	11.9	15.5	21.1	17.2	25.1	20.2	15.7	21.2	30.6	0.5	42.9
	どちらでもない	(68)	32.4	35.3	26.5	20.6	19.1	14.7	17.6	16.2	16.2	19.1	11.8	16.2	23.5	1.5	50.0
年齢別	18～29歳	(2,943)	23.8	27.4	18.9	14.2	10.8	12.6	12.2	10.7	10.7	9.7	8.8	10.2	12.9	0.1	54.3
	20～29歳	(2,407)	22.0	25.2	17.0	13.0	9.9	11.3	10.8	9.6	9.6	9.1	8.1	9.6	12.3	0.0	57.5
	30～39歳	(2,759)	23.4	28.5	18.1	13.8	9.4	10.1	12.3	11.3	12.0	10.4	8.8	10.2	14.3	0.2	57.1
	40～49歳	(3,579)	27.3	33.4	18.8	14.1	9.8	12.4	15.5	13.8	16.5	13.2	10.5	12.2	18.4	0.4	53.6
	50～59歳	(3,249)	34.8	42.8	20.9	16.2	12.2	15.9	19.1	15.6	23.9	18.0	14.0	18.1	26.1	0.8	44.8
	60～69歳	(3,060)	43.2	51.5	24.5	18.9	13.6	18.5	24.9	19.7	30.8	23.5	18.2	24.9	36.4	0.6	34.2
	70～79歳	(3,707)	47.2	56.9	25.7	19.9	13.3	20.6	28.4	21.4	33.4	26.8	20.0	29.2	41.3	0.6	30.4
	80～99歳	(1,619)	41.6	49.0	23.4	16.1	11.8	16.7	26.1	18.8	28.7	24.0	18.0	22.9	34.9	0.7	36.9
性別・年齢別	男性（小計）	(10,141)	31.9	38.5	19.7	15.3	11.2	15.2	18.1	14.6	19.4	15.3	12.1	15.2	21.7	0.5	46.3
	18～29歳	(1,477)	23.4	24.9	17.5	14.4	10.8	12.5	12.1	10.1	8.8	8.9	8.3	9.7	11.4	0.0	54.0
	20～29歳	(1,211)	22.3	23.5	16.2	13.7	10.4	11.6	11.5	9.7	8.4	8.3	7.9	9.9	11.1	0.0	56.9
	30～39歳	(1,390)	21.3	24.8	15.5	12.5	9.4	10.1	12.1	9.9	10.8	9.6	7.6	9.1	11.9	0.2	57.5
	40～49歳	(1,796)	26.2	31.2	17.7	13.3	10.2	12.8	14.5	12.7	14.8	11.8	9.4	10.9	15.1	0.5	54.4
	50～59歳	(1,623)	31.3	39.3	18.9	14.5	11.8	15.3	17.1	13.9	20.5	15.0	12.1	14.5	20.0	1.2	47.8
	60～69歳	(1,497)	39.3	47.5	22.8	17.3	12.6	18.8	22.8	18.5	26.8	20.0	16.0	19.4	29.3	0.5	37.2
	70～79歳	(1,515)	45.0	56.8	24.3	19.9	13.3	21.7	26.5	20.5	30.0	23.3	17.8	25.3	36.1	0.6	31.4
	80～99歳	(843)	40.5	50.3	22.9	15.1	10.0	15.8	25.0	18.3	27.3	21.5	15.5	19.9	33.3	0.2	36.9
	女性（小計）	(10,707)	36.9	44.2	23.1	17.2	11.9	15.5	21.1	17.2	25.1	20.2	15.7	21.2	30.6	0.5	42.9
	18～29歳	(1,442)	24.3	29.9	20.2	14.1	10.9	12.6	12.3	11.3	12.6	10.4	9.4	10.6	14.4	0.2	54.6
	20～29歳	(1,175)	21.7	27.0	17.8	12.2	9.4	10.9	10.0	9.4	10.7	9.7	8.2	9.1	13.4	0.1	58.1
	30～39歳	(1,358)	25.3	32.0	20.7	15.0	9.3	10.1	12.3	12.7	13.2	11.3	9.9	11.3	16.7	0.1	57.0
	40～49歳	(1,771)	28.6	35.9	20.0	15.1	9.3	12.1	16.7	15.1	18.4	14.7	11.7	13.7	21.9	0.3	52.7
	50～59歳	(1,620)	38.4	46.4	22.9	17.8	12.7	16.5	21.0	17.4	27.2	20.9	16.0	21.8	32.1	0.4	41.8
	60～69歳	(1,559)	46.9	55.3	26.1	20.3	14.4	18.3	26.8	20.8	34.8	26.8	20.4	30.2	43.2	0.6	31.5
	70～79歳	(2,188)	48.8	57.0	26.6	20.0	13.3	19.9	29.8	22.1	35.9	29.3	21.6	31.9	44.9	0.7	29.7
	80～99歳	(769)	42.7	47.6	23.7	16.8	13.5	17.4	26.9	19.1	30.2	26.7	20.7	25.9	36.5	1.2	36.9

ハンセン病元患者（回復者）・家族に対する偏見差別による被害事例の認知度を就業形態別、職種別に比較すると、全ての項目において、教育関係の専門職、福祉関係の専門職、医療関係の専門職は、全体平均より認知度が高かった。

「②近隣や地域の人々から差別や排除行為を受けること」を知っていると回答した割合は、公務員が 42.0%、教育関係の専門職が 51.3%、福祉関係の専門職が 46.7%、医療関係の専門職が 51.1%であった。

「①家族や親戚から差別や排除行為を受けること」を知っていると回答した割合は、公務員が 37.8%、教育関係の専門職が 45.7%、福祉関係の専門職が 39.6%、医療関係の専門職が 44.9%であった。

「⑬ハンセン病元患者（回復者）やその家族であるということを誰にも言えず、秘密を抱えて生きていかざるを得ないこと」を知っていると回答した割合は、公務員が 25.9%、教育関係の専門職が 36.5%、福祉関係の専門職が 31.5%、医療関係の専門職が 34.1%であった。

学歴別・年齢別に比較すると、被害事例の認知度は、全ての項目で最終学歴が短大未満より短大以上で高かった。

表 27　Q11 ハンセン病元患者（回復者）・家族に対する偏見差別による被害事例の認知度
［就業形態別｜職種別｜学歴別・年齢別］（複数回答）

		(%) n=	①家族や親戚から差別や排除行為を受けること	②近隣や地域の人々から差別や排除行為を受けること	③通学している学校で他の生徒から集団的ないじめや排除行為を受けること	④通学している学校で教師から差別や排除行為を受けること	⑤医療従事者・介護従事者から差別や排除行為を受けること	⑥国・都道府県・市区町村等の行政職員から差別や排除行為を受けること	⑦ハンセン病元患者（回復者）やその家族であることを理由に就職試験で落とされること	⑧職場で同僚等から差別や排除行為を受けること	⑨ハンセン病元患者（回復者）やその家族であることを理由に交際を断られる、あるいは離婚させられること	⑩ハンセン病についての誤った認識をハンセン病元患者（回復者）やその家族が持つことにより、親密な家族関係が築けないこと	⑪家族を責めたり、恨んだり、忌避したりして、家族関係が破綻すること	⑫家族であるハンセン病元患者（回復者）との関係を断ったり、あるいは距離をおいたりして、家族関係が破綻すること	⑬ハンセン病元患者（回復者）やその家族であるということを誰にも言えず、秘密を抱えて生きていかざるを得ないこと	⑭その他	⑮左記の中に知っているものはない
全体		(20,916)	34.4	41.4	21.5	16.3	11.6	15.4	19.6	15.9	22.3	17.8	14.0	18.3	26.3	0.5	44.6
就業形態別	公務員	(829)	37.8	42.0	21.7	17.7	14.8	17.7	19.3	14.7	24.0	18.0	14.2	18.6	25.9	1.0	38.1
	雇用者	(780)	34.6	40.0	21.4	18.3	13.7	17.7	20.3	15.6	20.5	16.8	14.2	18.1	22.1	0.0	41.5
	正規の被雇用者	(5,305)	27.2	32.5	19.2	14.5	10.7	13.0	14.6	12.9	15.9	12.5	10.3	12.8	17.0	0.4	51.5
	非正規の被雇用者	(3,773)	32.3	39.7	21.0	15.3	10.4	13.5	18.8	16.4	20.9	17.5	13.8	16.9	25.8	0.3	48.4
	自営業者・自由業	(1,301)	36.8	46.0	23.8	19.1	14.1	19.8	22.0	18.7	24.1	20.3	16.5	20.7	29.6	0.9	40.2
	自営業の家族従事者等	(127)	35.4	42.5	23.6	17.3	9.4	16.5	18.1	14.2	24.4	19.7	20.5	19.7	31.5	0.0	41.7
	内職	(9)	44.4	44.4	33.3	22.2	11.1	11.1	33.3	11.1	33.3	33.3	11.1	33.3	55.6	0.0	44.4
	学生	(874)	31.8	37.1	25.4	19.8	15.2	17.6	18.3	15.0	15.8	13.4	11.2	13.6	16.9	0.2	43.5
	無職	(7,845)	39.8	48.0	22.3	16.7	11.4	16.4	23.1	17.5	27.6	21.7	16.2	22.7	33.5	0.6	39.9
	その他	(73)	38.4	43.8	17.8	15.1	15.1	15.1	26.0	20.5	28.8	21.9	15.1	23.3	30.1	1.4	41.1
職種別	教育関係の専門職	(1,113)	45.7	51.3	29.0	21.7	14.6	20.9	26.0	21.7	32.0	26.3	20.5	27.6	36.5	0.5	32.4
	福祉関係の専門職	(651)	39.6	46.7	27.3	23.3	16.3	20.0	27.3	21.8	29.5	24.0	19.5	24.9	31.5	0.6	37.2
	医療関係の専門職	(914)	44.9	51.1	30.3	23.1	18.6	20.7	26.4	22.2	27.0	23.3	20.9	23.1	34.1	0.7	31.6
	上記以外の専門職	(1,253)	38.5	47.7	22.9	18.6	12.7	17.2	21.0	16.8	25.3	19.3	14.8	19.1	28.7	0.4	37.9
	管理的職業	(1,646)	41.0	49.3	23.9	18.8	14.3	19.1	23.3	17.9	25.0	19.9	15.4	20.7	28.3	0.3	35.5
	事務・営業系の職業	(6,596)	35.4	42.2	20.9	16.1	11.1	15.0	19.6	15.4	23.6	18.6	14.7	19.2	28.1	0.6	43.8
	技能・労務・作業系の職業	(4,944)	28.2	35.3	18.9	13.5	9.8	12.6	16.0	13.6	17.2	13.6	10.7	13.8	20.9	0.3	51.6
	農林漁業職	(191)	33.0	42.9	19.9	16.8	8.9	16.2	18.3	13.6	22.0	18.8	11.0	15.2	22.5	0.0	46.1
	その他	(186)	35.5	40.9	22.0	22.0	15.1	17.2	25.3	20.4	23.1	21.5	15.6	19.4	29.0	1.6	44.6
	現在無職	(1,013)	37.6	47.7	21.5	14.9	10.5	15.1	21.3	17.8	26.4	20.2	15.3	22.3	32.4	1.1	41.4
	働いたことはない	(2,408)	26.3	30.6	17.3	12.9	9.5	12.4	15.4	12.7	15.6	13.2	9.6	13.3	17.9	0.2	55.8
学歴別・年齢別	短大未満（小計）	(9,903)	29.8	35.9	18.7	14.0	9.8	12.9	17.2	13.8	18.9	15.1	11.9	15.6	23.5	0.5	50.8
	18～29歳	(1,245)	19.0	21.0	15.5	10.8	8.0	8.8	9.3	8.0	6.7	6.3	6.7	7.0	8.9	0.1	62.7
	20～29歳	(959)	15.8	18.4	13.1	9.4	6.5	7.5	7.4	6.9	5.6	5.6	5.9	5.8	7.8	0.0	67.2
	30～39歳	(1,174)	18.4	23.0	16.8	11.8	7.4	8.3	10.2	10.6	9.1	8.0	8.3	8.3	11.4	0.1	64.1
	40～49歳	(1,616)	22.2	27.0	16.4	12.3	8.1	10.3	12.9	12.1	12.5	10.5	8.6	10.1	15.7	0.3	61.0
	50～59歳	(1,650)	29.5	35.5	17.0	12.8	9.6	12.9	15.0	13.6	19.0	14.5	11.3	13.8	22.1	0.8	51.8
	60～69歳	(1,329)	37.2	44.5	21.5	16.9	11.7	16.2	21.1	16.6	26.0	19.8	14.4	21.4	32.4	0.5	41.4
	70～79歳	(1,900)	41.5	51.6	22.2	17.1	11.1	17.4	26.2	18.1	29.6	23.0	16.8	25.1	37.6	0.6	36.4
	80～99歳	(989)	37.2	43.7	21.3	16.0	12.4	15.1	23.7	16.4	26.1	21.9	16.0	21.1	32.1	0.9	41.6
	短大以上（小計）	(11,003)	38.6	46.3	23.9	18.3	13.2	17.5	21.8	17.8	25.3	20.3	15.9	20.7	28.7	0.5	39.0
	18～29歳	(1,698)	27.3	32.0	21.3	16.7	12.9	15.3	14.3	12.7	13.6	12.1	10.4	12.5	15.9	0.1	48.2
	20～29歳	(1,448)	26.0	29.8	19.6	15.3	12.2	13.8	13.0	11.5	12.2	11.3	9.5	12.1	15.3	0.1	51.1
	30～39歳	(1,584)	27.1	32.6	19.1	15.3	10.9	11.5	13.8	11.9	14.2	12.2	9.2	11.7	16.4	0.3	51.9
	40～49歳	(1,961)	31.6	38.7	20.8	15.7	11.1	14.1	17.7	15.2	19.8	15.5	12.0	14.0	20.7	0.5	47.5
	50～59歳	(1,598)	40.3	50.4	24.8	19.5	14.8	18.9	23.3	17.8	28.8	21.7	16.8	22.5	30.2	0.8	37.6
	60～69歳	(1,727)	47.9	57.0	26.9	20.5	15.1	20.4	27.8	22.2	34.6	26.4	21.2	27.7	39.5	0.6	28.7
	70～79歳	(1,805)	53.2	62.4	29.3	23.0	15.6	24.0	30.7	24.9	37.5	30.9	23.3	33.5	45.2	0.7	24.0
	80～99歳	(630)	48.6	57.5	26.7	16.2	10.8	19.2	29.8	22.7	32.9	27.3	21.3	25.6	39.4	0.5	29.5

（3）ハンセン病問題に関する歴史的事実・考え方に対する意見

ハンセン病問題に関する歴史的事実・考え方に対する意見を地域別に比較すると、療養所の有無で回答傾向に大きな差はみられなかった。

療養所のある都道府県別にみると、「②ハンセン病患者を『療養所』に強制的に隔離してきたことは、有効な薬が開発され治療法が確立された後であっても、やむを得ない措置であった」という誤った言説に対し、「そう思う」「どちらかといえばそう思う」の合計、つまり誤りを支持する傾向の回答割合が、香川県で 13.9%、鹿児島県で 13.6%とやや高かった。

「④かつて『療養所』においては、結婚の時に『子どもを生めなくする手術をすること』を条件とされていたことは、有効な薬が開発され治療法が確立された後であっても、仕方がないことであった」という誤った言説に対し、「そう思う」「どちらかといえばそう思う」の合計、つまり誤りを支持する傾向の回答割合が、青森県で 9.4%、香川県で 9.6%とやや高かった。

「⑤ハンセン病元患者（回復者）にとっては、専門性がある医療・福祉を受けられる『療養所』の中で暮らすことのほうが、『療養所』の外で暮らすよりもよい」という考え方に対し、「そう思う」「どちらかといえばそう思う」と回答した割合は、宮城県で 18.8%、香川県で 18.1%と高かった。

「⑥ハンセン病元患者（回復者）にとっては、偏見・差別を受けづらい『療養所』の中で暮らすことのほうが、『療養所』の外で暮らすよりもよい」という考え方に対し、「そう思う」「どちらかといえばそう思う」と回答した割合は、宮城県、群馬県、岡山県、鹿児島県で 16.0～16.6%と高かった。

一方で、「⑦ハンセン病患者の自由が拘束されることは仕方のない側面もある」という考え方に対し、「そう思う」「どちらかといえばそう思う」と回答した割合は、熊本県で 4.5%であり、全体平均の 8.0%より顕著に低かった。

表 28 Q12 ハンセン病問題に関する歴史的事実・考え方に対する意見[地域別](1/2)

(%)		n=	①ハンセン病患者を「療養所」に強制的に隔離してきたことは、有効な薬が開発され治療法が確立されるまでは、やむを得ない措置であった	②ハンセン病患者を「療養所」に強制的に隔離してきたことは、有効な薬が開発され治療法が確立された後であっても、やむを得ない措置であった	③かつて「療養所」においては、結婚の時に「子どもを生めなくする手術をすること」を条件とされていたことは、有効な薬が開発され治療法が確立されるまでは、仕方がないことであった	④かつて「療養所」においては、結婚の時に「子どもを生めなくする手術をすること」を条件とされていたことは、有効な薬が開発され治療法が確立された後であっても、仕方がないことであった	⑤ハンセン病元患者（回復者）にとっては、専門性がある医療・福祉を受けられる「療養所」の中で暮らすことのほうが、「療養所」の外で暮らすよりもよい	⑥ハンセン病元患者（回復者）にとっては、偏見・差別を受けづらい「療養所」の中で暮らすことのほうが、「療養所」の外で暮らすよりもよい	⑦ハンセン病患者の自由が拘束されることは仕方のない側面もある	⑧ハンセン病元患者（回復者）の宿泊を「他の宿泊客への迷惑になる」ことを理由として拒否した事件における、ホテル側の言い分には一理あり、ホテル側の対応は認められる
			「そう思う」「どちらかといえばそう思う」の割合							
全体		(20,916)	27.4	11.2	14.1	7.9	15.2	13.6	8.0	11.2
地域	北海道	(888)	25.2	7.9	11.8	5.6	12.4	10.8	8.4	9.3
	東北	(1,444)	28.0	11.6	14.2	8.2	18.2	15.7	7.9	11.8
	関東	(7,193)	27.3	11.1	14.0	8.0	14.9	13.6	8.0	11.6
	中部（小計）	(3,820)	26.4	11.8	15.0	8.4	16.6	14.5	8.5	11.6
	甲信越	(858)	24.7	10.3	12.7	6.4	15.5	13.5	8.3	10.8
	北陸	(514)	25.7	12.8	15.6	9.7	17.1	15.2	9.5	10.1
	東海	(2,448)	27.2	12.2	15.7	8.7	16.8	14.6	8.3	12.2
	近畿	(3,382)	27.9	11.3	13.6	7.8	14.5	12.4	7.9	10.4
	中国	(1,218)	28.2	10.2	12.6	6.4	14.5	13.5	8.0	10.0
	四国	(648)	30.2	12.2	17.3	9.0	16.2	15.0	9.3	11.4
	九州・沖縄（小計）	(2,323)	27.3	11.7	14.0	8.0	14.5	13.5	7.1	11.0
	北九州	(1,183)	28.7	12.3	15.4	8.7	16.0	14.6	8.9	12.4
	南九州・沖縄	(1,140)	25.8	11.1	12.6	7.3	12.9	12.4	5.3	9.5
療養所有無	療養所のある都道府県(小計)	(5,064)	28.1	11.4	13.9	7.7	15.5	14.8	7.7	11.7
	青森県	(202)	27.7	9.4	11.9	9.4	14.9	14.4	6.9	9.9
	宮城県	(383)	26.4	9.1	10.2	6.8	18.8	16.2	6.3	10.7
	群馬県	(325)	29.2	11.4	13.2	7.1	16.0	16.3	6.8	13.8
	東京都	(2,312)	27.9	11.4	14.6	8.3	15.3	14.2	8.3	12.5
	静岡県	(607)	28.3	12.4	14.8	6.4	15.7	15.5	8.7	10.2
	岡山県	(308)	31.8	10.4	12.3	6.5	15.3	16.6	9.4	11.4
	香川県	(166)	33.1	13.9	21.1	9.6	18.1	14.5	7.8	10.2
	熊本県	(288)	28.1	11.5	11.1	5.9	14.9	12.5	4.5	9.0
	鹿児島県	(250)	25.6	13.6	14.8	8.0	15.2	16.0	6.0	8.4
	沖縄県	(223)	25.6	12.1	13.0	8.5	11.7	13.0	6.3	15.2
	療養所のない都道府県	(15,852)	27.1	11.1	14.1	7.9	15.1	13.3	8.1	11.0

表 29 Q12 ハンセン病問題に関する歴史的事実・考え方に対する意見[地域別](2/2)

(%)		n=	①ハンセン病患者を「療養所」に強制的に隔離してきたことは、有効な薬が開発され治療法が確立されるまでは、やむを得ない措置であった	②ハンセン病患者を「療養所」に強制的に隔離してきたことは、有効な薬が開発され治療法が確立された後であっても、やむを得ない措置であった	③かつて「療養所」においては、結婚の時に「子どもを生めなくする手術をすること」を条件とされていたことは、有効な薬が開発され治療法が確立されるまでは、仕方がないことであった	④かつて「療養所」においては、結婚の時に「子どもを生めなくする手術をすること」を条件とされていたことは、有効な薬が開発され治療法が確立された後であっても、仕方がないことであった	⑤ハンセン病元患者（回復者）にとっては、専門性がある医療・福祉を受けられる「療養所」の中で暮らすことのほうが、「療養所」の外で暮らすよりもよい	⑥ハンセン病元患者（回復者）にとっては、偏見・差別を受けづらい「療養所」の中で暮らすことのほうが、「療養所」の外で暮らすよりもよい	⑦ハンセン病患者の自由が拘束されることは仕方のない側面もある	⑧ハンセン病元患者（回復者）の宿泊を「他の宿泊客への迷惑になる」ことを理由として拒否した事件における、ホテル側の言い分には一理あり、ホテル側の対応は認められる
			「どちらともいえない」の割合							
全体		(20,916)	27.7	22.2	24.0	19.0	34.7	35.3	22.0	27.8
地域	北海道	(888)	26.6	21.4	24.1	17.9	33.4	36.6	19.7	25.8
	東北	(1,444)	30.0	24.6	26.5	21.3	35.4	38.4	25.1	30.8
	関東	(7,193)	27.8	21.7	23.5	18.3	35.0	34.8	22.0	27.5
	中部（小計）	(3,820)	28.0	23.2	23.7	20.0	33.5	34.6	21.8	28.5
	甲信越	(858)	27.7	20.0	22.1	17.7	31.0	32.6	20.0	29.0
	北陸	(514)	30.7	25.9	27.2	21.2	35.6	37.0	23.0	31.9
	東海	(2,448)	27.5	23.7	23.6	20.5	33.9	34.8	22.1	27.7
	近畿	(3,382)	26.2	21.0	23.5	18.9	33.1	33.9	21.1	27.5
	中国	(1,218)	26.8	21.4	25.8	18.7	35.7	35.6	20.8	26.4
	四国	(648)	28.4	23.6	27.9	19.4	37.3	35.8	22.1	26.5
	九州・沖縄（小計）	(2,323)	28.1	22.9	23.5	19.0	37.0	37.5	23.0	28.3
	北九州	(1,183)	27.7	23.1	24.4	19.6	34.0	34.7	23.5	29.4
	南九州・沖縄	(1,140)	28.5	22.7	22.5	18.3	40.2	40.4	22.5	27.2
療養所有無	療養所のある都道府県(小計)	(5,064)	27.9	21.7	24.2	19.2	35.7	35.9	21.8	27.5
	青森県	(202)	32.2	29.7	29.2	27.2	42.6	43.6	33.2	36.1
	宮城県	(383)	26.9	19.8	25.1	16.7	32.4	34.7	20.6	27.9
	群馬県	(325)	29.2	21.2	26.8	20.3	35.7	37.2	24.3	30.2
	東京都	(2,312)	27.4	21.4	23.3	18.5	34.1	34.4	21.6	26.6
	静岡県	(607)	27.5	22.7	22.6	21.1	32.5	32.6	19.9	26.7
	岡山県	(308)	24.0	17.9	25.6	17.2	36.0	34.7	17.2	25.0
	香川県	(166)	31.3	28.3	33.7	21.7	42.2	38.0	23.5	33.1
	熊本県	(288)	28.5	19.8	22.6	16.3	41.0	41.0	19.8	25.7
	鹿児島県	(250)	32.8	23.6	23.2	25.2	40.8	41.2	25.2	32.0
	沖縄県	(223)	27.8	20.2	22.0	14.3	41.7	40.4	21.1	23.3
	療養所のない都道府県	(15,852)	27.6	22.4	24.0	19.0	34.4	35.2	22.0	27.9

ハンセン病問題に関する歴史的事実・考え方に対する意見を年齢別に比較すると、誤った言説も含めた全ての項目について、中年層に比べて若年層と高齢層で、「そう思う」「どちらかといえばそう思う」と回答する割合が高かった。

「②ハンセン病患者を『療養所』に強制的に隔離してきたことは、有効な薬が開発され治療法が確立された後であっても、やむを得ない措置であった」という誤った言説に対し、「そう思う」「どちらかといえばそう思う」の合計、つまり誤りを支持する傾向の回答割合は、18～29 歳が 17.1%と最も高く、50～59 歳が 7.6%と最も低かった。

「④かつて『療養所』においては、結婚の時に『子どもを生めなくする手術をすること』を条件とされていたことは、有効な薬が開発され治療法が確立された後であっても、仕方がないことであった」という誤った言説に対し、「そう思う」「どちらかといえばそう思う」の合計、つまり誤りを支持する傾向の回答割合は、18～29 歳が 13.0%、80～99 歳が 11.3%の順に高く、50～79 歳では 4.9～5.8%と低かった。

「⑤ハンセン病元患者（回復者）にとっては、専門性がある医療・福祉を受けられる「療養所」の中で暮らすことのほうが、『療養所』の外で暮らすよりもよい」という考え方に対し、「そう思う」「どちらかといえばそう思う」と回答した割合は、80～99 歳が 22.2%と最も高く、50～59 歳が 11.8%と最も低かった。

「⑥ハンセン病元患者（回復者）にとっては、偏見・差別を受けづらい『療養所』の中で暮らすことのほうが、『療養所』の外で暮らすよりもよい」という考え方に対し、「そう思う」「どちらかといえばそう思う」と回答した割合は、18～29 歳が 17.8%と最も高く、50～59 歳が 10.4%と最も低かった。

表 30　Q12 ハンセン病問題に関する歴史的事実・考え方に対する意見[性別・年齢別](1/2)

(%)		n=	①ハンセン病患者を「療養所」に強制的に隔離してきたことは、有効な薬が開発され治療法が確立されるまでは、やむを得ない措置であった	②ハンセン病患者を「療養所」に強制的に隔離してきたことは、有効な薬が開発され治療法が確立された後であっても、やむを得ない措置であった	③かつて「療養所」においては、結婚の時に「子どもを生めなくする手術をすること」を条件とされていたことは、有効な薬が開発され治療法が確立されるまでは、仕方がないことであった	④かつて「療養所」においては、結婚の時に「子どもを生めなくする手術をすること」を条件とされていたことは、有効な薬が開発され治療法が確立された後であっても、仕方がないことであった	⑤ハンセン病元患者（回復者）にとっては、専門性がある医療・福祉を受けられる「療養所」の中で暮らすことのほうが、「療養所」の外で暮らすよりもよい	⑥ハンセン病元患者（回復者）にとっては、偏見・差別を受けづらい「療養所」の中で暮らすことのほうが、「療養所」の外で暮らすよりもよい	⑦ハンセン病患者の自由が拘束されることは仕方のない側面もある	⑧ハンセン病元患者（回復者）の宿泊を「他の宿泊客への迷惑になる」ことを理由として拒否した事件における、ホテル側の言い分には一理あり、ホテル側の対応は認められる
			「そう思う」「どちらかといえばそう思う」の割合							
全体		(20,916)	27.4	11.2	14.1	7.9	15.2	13.6	8.0	11.2
性別	男性	(10,141)	26.9	12.6	16.1	9.4	15.5	14.2	9.0	13.2
	女性	(10,707)	27.9	9.9	12.2	6.4	14.9	13.1	7.1	9.3
	どちらでもない	(68)	22.1	7.4	11.8	7.4	16.2	14.7	7.4	8.8
年齢別	18～29歳	(2,943)	24.5	17.1	21.1	13.0	18.8	17.8	12.0	17.2
	20～29歳	(2,407)	23.3	16.6	20.3	13.1	17.5	16.7	11.0	16.3
	30～39歳	(2,759)	24.1	13.6	15.1	9.7	14.3	13.4	8.8	13.0
	40～49歳	(3,579)	24.0	10.1	12.5	7.7	13.0	12.3	7.1	10.7
	50～59歳	(3,249)	22.5	7.6	9.5	5.3	11.8	10.4	5.4	8.6
	60～69歳	(3,060)	26.1	7.7	9.8	4.9	13.9	12.0	6.1	7.9
	70～79歳	(3,707)	34.9	10.2	13.4	5.8	16.3	14.2	7.6	9.4
	80～99歳	(1,619)	40.4	15.2	21.7	11.3	22.2	17.7	11.5	13.5
性別・年齢別	男性（小計）	(10,141)	26.9	12.6	16.1	9.4	15.5	14.2	9.0	13.2
	18～29歳	(1,477)	25.3	21.2	25.7	16.5	20.3	20.4	13.9	21.2
	20～29歳	(1,211)	24.2	21.0	25.4	16.7	19.2	19.8	12.9	20.3
	30～39歳	(1,390)	22.9	15.3	19.1	12.8	15.0	14.7	10.6	15.9
	40～49歳	(1,796)	23.0	12.1	14.7	9.9	13.1	12.4	8.7	12.8
	50～59歳	(1,623)	21.6	8.0	10.2	6.2	10.8	9.6	5.8	9.4
	60～69歳	(1,497)	24.4	7.8	10.2	5.3	13.9	12.2	6.3	8.8
	70～79歳	(1,515)	33.5	9.7	13.0	5.5	15.8	13.3	7.5	10.2
	80～99歳	(843)	46.9	16.7	24.4	10.8	24.4	20.2	12.0	15.7
	女性（小計）	(10,707)	27.9	9.9	12.2	6.4	14.9	13.1	7.1	9.3
	18～29歳	(1,442)	23.9	13.0	16.6	9.7	17.3	15.0	10.1	13.0
	20～29歳	(1,175)	22.6	12.3	15.3	9.6	15.8	13.4	9.2	12.2
	30～39歳	(1,358)	25.4	11.8	11.0	6.5	13.4	11.9	6.9	10.0
	40～49歳	(1,771)	25.2	8.0	10.3	5.4	13.0	12.3	5.5	8.7
	50～59歳	(1,620)	23.2	7.2	8.8	4.4	12.7	11.1	5.1	7.8
	60～69歳	(1,559)	27.6	7.6	9.4	4.6	14.0	11.9	5.9	7.2
	70～79歳	(2,188)	35.8	10.6	13.7	6.0	16.6	14.8	7.6	8.9
	80～99歳	(769)	33.6	13.7	18.9	11.8	19.9	15.2	11.1	11.2

表 31　Q12 ハンセン病問題に関する歴史的事実・考え方に対する意見[性別・年齢別](2/2)

		(%) n=	①ハンセン病患者を「療養所」に強制的に隔離してきたことは、有効な薬が開発され治療法が確立されるまでは、やむを得ない措置であった	②ハンセン病患者を「療養所」に強制的に隔離してきたことは、有効な薬が開発され治療法が確立された後であっても、やむを得ない措置であった	③かつて「療養所」においては、結婚の時に「子どもを生めなくする手術をすること」を条件とされていたことは、有効な薬が開発され治療法が確立されるまでは、仕方がないことであった	④かつて「療養所」においては、結婚の時に「子どもを生めなくする手術をすること」を条件とされていたことは、有効な薬が開発され治療法が確立された後であっても、仕方がないことであった	⑤ハンセン病元患者（回復者）にとっては、専門性がある医療・福祉を受けられる「療養所」の中で暮らすことのほうが、「療養所」の外で暮らすよりもよい	⑥ハンセン病元患者（回復者）にとっては、偏見・差別を受けづらい「療養所」の中で暮らすことのほうが、「療養所」の外で暮らすよりもよい	⑦ハンセン病患者の自由が拘束されることは仕方のない側面もある	⑧ハンセン病元患者（回復者）の宿泊を「他の宿泊客への迷惑になる」ことを理由として拒否した事件における、ホテル側の言い分には一理あり、ホテル側の対応は認められる
			「どちらともいえない」の割合							
全体		(20,916)	27.7	22.2	24.0	19.0	34.7	35.3	22.0	27.8
性別	男性	(10,141)	27.5	22.8	25.0	20.5	35.9	35.9	23.4	29.1
	女性	(10,707)	27.9	21.6	23.2	17.6	33.7	34.8	20.6	26.6
	どちらでもない	(68)	23.5	19.1	22.1	20.6	27.9	29.4	19.1	33.8
年齢別	18～29歳	(2,943)	24.4	20.6	19.5	18.5	27.9	29.1	21.2	24.1
	20～29歳	(2,407)	24.3	20.2	20.2	18.2	27.9	29.0	21.0	24.6
	30～39歳	(2,759)	24.4	21.7	20.1	17.7	30.8	31.2	20.4	25.0
	40～49歳	(3,579)	26.7	22.4	24.0	19.4	33.5	33.3	22.0	27.3
	50～59歳	(3,249)	29.7	23.1	25.6	19.5	37.1	38.1	21.9	27.3
	60～69歳	(3,060)	32.1	22.4	25.9	18.4	37.5	38.0	21.9	28.5
	70～79歳	(3,707)	29.1	21.6	26.6	18.9	38.3	39.7	22.7	31.1
	80～99歳	(1,619)	25.9	24.8	26.5	22.0	37.9	37.6	24.6	33.0
性別・年齢別	男性（小計）	(10,141)	27.5	22.8	25.0	20.5	35.9	35.9	23.4	29.1
	18～29歳	(1,477)	25.5	22.5	21.1	21.0	29.0	29.2	23.2	26.5
	20～29歳	(1,211)	25.5	21.8	21.6	20.7	28.9	28.8	23.1	27.0
	30～39歳	(1,390)	25.2	24.0	22.2	20.9	32.4	32.5	21.4	27.6
	40～49歳	(1,796)	27.6	23.0	24.7	20.8	35.6	34.7	24.1	28.5
	50～59歳	(1,623)	29.3	23.4	26.2	21.3	38.3	38.5	24.1	28.7
	60～69歳	(1,497)	32.3	23.6	27.3	20.0	38.7	38.2	23.7	30.5
	70～79歳	(1,515)	28.2	20.5	27.3	18.7	39.0	41.0	23.7	31.0
	80～99歳	(843)	21.6	23.0	26.3	21.2	38.6	37.7	23.7	32.4
	女性（小計）	(10,707)	27.9	21.6	23.2	17.6	33.7	34.8	20.6	26.6
	18～29歳	(1,442)	23.4	18.9	18.0	16.0	26.9	29.0	19.3	21.6
	20～29歳	(1,175)	23.5	18.8	18.9	15.6	27.1	29.2	18.8	22.0
	30～39歳	(1,358)	23.5	19.2	18.0	14.4	29.3	30.0	19.4	22.4
	40～49歳	(1,771)	25.7	21.8	23.3	17.8	31.3	31.9	19.9	26.0
	50～59歳	(1,620)	30.2	23.0	24.9	17.7	36.0	37.7	19.7	25.9
	60～69歳	(1,559)	31.9	21.2	24.6	16.9	36.3	37.8	20.2	26.5
	70～79歳	(2,188)	29.7	22.3	26.1	19.1	37.8	38.8	22.0	31.1
	80～99歳	(769)	30.6	26.8	26.7	22.8	37.2	37.5	25.6	33.7

ハンセン病問題に関する歴史的事実・考え方に対する意見を就業形態別、職種別に比較すると、誤った言説も含めた全ての項目について、教育関係の専門職は、「そう思う」「どちらかといえばそう思う」と回答する割合が全体平均に比べてやや低かった。一方で、医療関係の専門職は、「⑦ハンセン病患者の自由が拘束されることは仕方のない側面もある」という言説以外の全ての項目について、「そう思う」「どちらかといえばそう思う」と回答する割合が全体平均に比べて高かった。公務員、福祉関係の専門職には明確な傾向はみられなかった。

「②ハンセン病患者を『療養所』に強制的に隔離してきたことは、有効な薬が開発され治療法が確立された後であっても、やむを得ない措置であった」という誤った言説に対し、「そう思う」「どちらかといえばそう思う」の合計、つまり誤りを支持する傾向の回答割合は、全体平均 11.2%に対して、公務員で 13.1%、教育関係の専門職で 10.1%、福祉関係の専門職で 14.3%、医療関係の専門職で 11.8%であった。

「④かつて『療養所』においては、結婚の時に『子どもを生めなくする手術をすること』を条件とされていたことは、有効な薬が開発され治療法が確立された後であっても、仕方がないことであった」という誤った言説に対し、「そう思う」「どちらかといえばそう思う」の合計、つまり誤りを支持する傾向の回答割合は、全体平均 7.9%に対して、公務員で 10.5%、教育関係の専門職で 7.5%、福祉関係の専門職で 11.2%、医療関係の専門職で 9.2%であった。

「⑤ハンセン病元患者（回復者）にとっては、専門性がある医療・福祉を受けられる「療養所」の中で暮らすことのほうが、『療養所』の外で暮らすよりもよい」という考え方に対し、「そう思う」「どちらかといえばそう思う」と回答した割合は、全体平均 15.2%に対して、公務員で 12.9%、教育関係の専門職で 15.5%、福祉関係の専門職で 15.2%、医療関係の専門職で 18.2%であった。

「⑥ハンセン病元患者（回復者）にとっては、偏見・差別を受けづらい『療養所』の中で暮らすことのほうが、『療養所』の外で暮らすよりもよい」という考え方に対し、「そう思う」「どちらかといえばそう思う」と回答した割合は、全体平均 13.6%に対して、公務員で 12.5%、教育関係の専門職で 13.4%、福祉関係の専門職で 12.4%、医療関係の専門職で 14.8%であった。

学歴別・年齢別に比較すると、最終学歴が短大未満と短大以上で回答傾向に大きな差はみられなかった。

表 32　Q12 ハンセン病問題に関する歴史的事実・考え方に対する意見
［就業形態別｜職種別｜学歴別・年齢別］(1/2)

(%)		n=	①ハンセン病患者を「療養所」に強制的に隔離してきたことは、有効な薬が開発され治療法が確立されるまでは、やむを得ない措置であった	②ハンセン病患者を「療養所」に強制的に隔離してきたことは、有効な薬が開発され治療法が確立された後であっても、やむを得ない措置であった	③かつて「療養所」においては、結婚の時に「子どもを生めなくする手術をすること」を条件とされていたことは、有効な薬が開発され治療法が確立されるまでは、仕方がないことであった	④かつて「療養所」においては、結婚の時に「子どもを生めなくする手術をすること」を条件とされていたことは、有効な薬が開発され治療法が確立された後であっても、仕方がないことであった	⑤ハンセン病元患者（回復者）にとっては、専門性がある医療・福祉を受けられる「療養所」の中で暮らすことのほうが、「療養所」の外で暮らすよりもよい	⑥ハンセン病元患者（回復者）にとっては、偏見・差別を受けづらい「療養所」の中で暮らすことのほうが、「療養所」の外で暮らすよりもよい	⑦ハンセン病患者の自由が拘束されることは仕方のない側面もある	⑧ハンセン病元患者（回復者）の宿泊を「他の宿泊客への迷惑になる」ことを理由として拒否した事件における、ホテル側の言い分には一理あり、ホテル側の対応は認められる
			「そう思う」「どちらかといえばそう思う」の割合							
全体		(20,916)	27.4	11.2	14.1	7.9	15.2	13.6	8.0	11.2
就業形態別	公務員	(829)	23.6	13.1	17.4	10.5	12.9	12.5	8.4	13.9
	雇用者	(780)	25.5	13.5	17.9	10.0	14.2	13.1	7.6	12.6
	正規の被雇用者	(5,305)	24.0	13.7	15.7	10.6	14.9	14.3	8.6	13.3
	非正規の被雇用者	(3,773)	24.9	8.9	11.7	5.6	13.7	11.9	6.1	9.0
	自営業者・自由業	(1,301)	28.3	11.5	13.7	8.7	14.7	13.3	9.0	11.3
	自営業の家族従事者等	(127)	29.9	17.3	17.3	13.4	26.8	22.0	11.8	12.6
	内職	(9)	44.4	0.0	11.1	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	学生	(874)	28.3	17.4	20.5	11.0	22.2	19.8	14.0	18.2
	無職	(7,845)	31.1	9.4	12.7	6.1	15.7	13.5	7.7	9.5
	その他	(73)	24.7	8.2	13.7	8.2	12.3	8.2	8.2	8.2
職種別	教育関係の専門職	(1,113)	25.1	10.1	13.1	7.5	15.5	13.4	6.6	8.8
	福祉関係の専門職	(651)	24.0	14.3	13.7	11.2	15.2	12.4	6.5	11.4
	医療関係の専門職	(914)	31.0	11.8	15.0	9.2	18.2	14.8	7.7	12.5
	上記以外の専門職	(1,253)	29.4	10.3	14.2	8.6	14.6	13.8	8.5	10.8
	管理的職業	(1,646)	31.3	12.3	16.3	8.1	16.2	14.3	8.0	12.3
	事務・営業系の職業	(6,596)	28.2	10.3	13.7	7.6	14.8	13.1	7.7	10.6
	技能・労務・作業系の職業	(4,944)	26.0	11.0	13.2	7.5	14.7	13.5	7.9	11.6
	農林漁業職	(191)	25.7	13.1	18.3	8.4	17.8	18.8	12.0	12.0
	その他	(186)	24.2	9.7	15.1	7.0	14.0	11.8	11.3	12.4
	現在無職	(1,013)	32.4	10.9	11.0	4.2	15.8	14.3	7.9	9.8
	働いたことはない	(2,408)	23.0	13.5	16.2	9.1	15.5	14.5	9.6	12.2
学歴別・年齢別	短大未満（小計）	(9,903)	26.4	11.9	13.8	8.1	16.0	14.2	8.3	11.1
	18～29歳	(1,245)	22.8	17.3	20.9	13.1	18.9	18.1	11.6	17.9
	20～29歳	(959)	21.1	16.1	18.9	12.9	16.8	16.6	9.7	16.6
	30～39歳	(1,174)	22.1	13.4	14.2	8.5	14.2	11.8	8.3	12.4
	40～49歳	(1,616)	23.0	10.4	11.0	7.6	13.3	12.1	7.5	10.3
	50～59歳	(1,650)	22.2	8.8	9.5	6.1	12.8	11.3	5.8	8.4
	60～69歳	(1,329)	25.4	9.0	9.4	5.5	14.5	12.7	7.1	8.1
	70～79歳	(1,900)	34.1	11.3	14.3	6.8	17.6	16.1	8.2	9.6
	80～99歳	(989)	35.6	15.4	20.6	11.5	23.5	18.7	11.9	13.4
	短大以上（小計）	(11,003)	28.2	10.6	14.4	7.6	14.5	13.1	7.8	11.3
	18～29歳	(1,698)	25.7	16.8	21.3	13.0	18.7	17.6	12.3	16.6
	20～29歳	(1,448)	24.8	16.9	21.3	13.2	18.0	16.7	11.9	16.1
	30～39歳	(1,584)	25.6	13.6	15.7	10.6	14.3	14.5	9.2	13.4
	40～49歳	(1,961)	24.9	9.8	13.8	7.7	12.7	12.4	6.7	11.1
	50～59歳	(1,598)	22.8	6.4	9.6	4.4	10.8	9.4	5.1	8.8
	60～69歳	(1,727)	26.6	6.7	10.0	4.3	13.4	11.4	5.3	7.8
	70～79歳	(1,805)	35.8	9.0	12.4	4.8	15.0	12.3	7.0	9.3
	80～99歳	(630)	47.9	14.9	23.5	11.0	20.2	16.2	10.8	13.5

表 33 Q12 ハンセン病問題に関する歴史的事実・考え方に対する意見
［就業形態別｜職種別｜学歴別・年齢別］(2/2)

		(%) n=	①ハンセン病患者を「療養所」に強制的に隔離してきたことは、有効な薬が開発され治療法が確立されるまでは、やむを得ない措置であった	②ハンセン病患者を「療養所」に強制的に隔離してきたことは、有効な薬が開発され治療法が確立された後であっても、やむを得ない措置であった	③かつて「療養所」においては、結婚の時に「子どもを生めなくする手術をすること」を条件とされていたことは、有効な薬が開発され治療法が確立されるまでは、仕方がないことであった	④かつて「療養所」においては、結婚の時に「子どもを生めなくする手術をすること」を条件とされていたことは、有効な薬が開発され治療法が確立された後であっても、仕方がないことであった	⑤ハンセン病元患者（回復者）にとっては、専門性がある医療・福祉を受けられる「療養所」の中で暮らすことのほうが、「療養所」の外で暮らすよりもよい	⑥ハンセン病元患者（回復者）にとっては、偏見・差別を受けづらい「療養所」の中で暮らすことのほうが、「療養所」の外で暮らすよりもよい	⑦ハンセン病患者の自由が拘束されることは仕方のない側面もある	⑧ハンセン病元患者（回復者）の宿泊を「他の宿泊客への迷惑になる」ことを理由として拒否した事件における、ホテル側の言い分には一理あり、ホテル側の対応は認められる
			「どちらともいえない」の割合							
全体		(20,916)	27.7	22.2	24.0	19.0	34.7	35.3	22.0	27.8
就業形態別	公務員	(829)	26.1	18.9	19.3	15.4	34.1	34.5	21.1	24.4
	雇用者	(780)	27.6	21.8	22.7	18.2	33.3	32.3	20.6	26.3
	正規の被雇用者	(5,305)	27.3	23.0	25.1	20.9	34.6	33.8	22.5	27.9
	非正規の被雇用者	(3,773)	28.2	23.0	24.2	18.7	33.3	35.2	20.7	27.7
	自営業者・自由業	(1,301)	27.2	21.8	24.8	19.2	35.7	35.3	21.4	27.8
	自営業の家族従事者等	(127)	28.3	19.7	27.6	21.3	36.2	27.6	23.6	32.3
	内職	(9)	22.2	33.3	33.3	22.2	66.7	44.4	22.2	33.3
	学生	(874)	22.9	17.5	16.1	17.5	26.4	29.3	20.6	22.0
	無職	(7,845)	28.4	22.3	24.6	18.5	36.3	37.6	22.7	28.9
	その他	(73)	35.6	28.8	20.5	19.2	35.6	35.6	23.3	32.9
職種別	教育関係の専門職	(1,113)	27.6	19.0	21.0	14.8	31.7	32.9	17.3	24.0
	福祉関係の専門職	(651)	28.9	19.0	25.0	18.6	31.5	32.0	20.7	27.0
	医療関係の専門職	(914)	27.6	20.7	22.9	17.2	33.8	36.3	19.4	25.9
	上記以外の専門職	(1,253)	28.3	21.4	24.2	18.6	35.0	36.2	21.8	27.5
	管理的職業	(1,646)	27.7	22.1	24.4	19.0	37.2	36.9	21.7	27.9
	事務・営業系の職業	(6,596)	27.1	21.4	23.5	17.6	34.5	35.3	21.3	27.0
	技能・労務・作業系の職業	(4,944)	28.0	24.4	26.4	21.0	36.6	36.5	23.8	30.1
	農林漁業職	(191)	28.8	19.9	21.5	15.7	30.4	32.5	19.9	27.2
	その他	(186)	21.5	16.7	19.4	18.8	28.5	31.2	18.3	25.8
	現在無職	(1,013)	27.5	21.9	23.3	19.0	35.3	37.1	24.0	30.0
	働いたことはない	(2,408)	28.4	24.0	22.9	22.2	32.7	32.8	23.5	27.5
学歴別・年齢別	短大未満（小計）	(9,903)	28.6	24.1	25.7	20.9	34.6	35.9	23.7	29.8
	18～29歳	(1,245)	24.7	23.5	20.9	19.8	26.1	28.4	22.4	24.1
	20～29歳	(959)	24.8	23.7	22.2	19.5	26.8	28.7	22.3	25.4
	30～39歳	(1,174)	23.9	22.1	20.2	18.0	29.4	31.1	20.3	25.0
	40～49歳	(1,616)	25.9	23.4	24.9	20.5	31.9	32.9	22.5	28.1
	50～59歳	(1,650)	29.9	25.0	27.9	21.6	36.8	38.7	24.1	30.4
	60～69歳	(1,329)	33.2	23.8	29.1	21.4	38.1	38.6	24.5	30.2
	70～79歳	(1,900)	31.8	24.2	28.4	21.8	40.3	41.3	25.5	35.2
	80～99歳	(989)	28.9	27.1	26.4	23.0	36.8	37.6	26.3	33.9
	短大以上（小計）	(11,003)	26.9	20.5	22.5	17.3	34.8	34.8	20.4	26.1
	18～29歳	(1,698)	24.1	18.5	18.6	17.6	29.2	29.6	20.3	24.1
	20～29歳	(1,448)	24.0	17.9	18.9	17.3	28.7	29.2	20.1	24.0
	30～39歳	(1,584)	24.9	21.3	20.0	17.4	31.9	31.4	20.4	25.1
	40～49歳	(1,961)	27.4	21.6	23.2	18.4	34.9	33.7	21.7	26.7
	50～59歳	(1,598)	29.5	21.2	23.3	17.3	37.4	37.5	19.7	24.2
	60～69歳	(1,727)	31.3	21.2	23.5	16.2	37.0	37.5	20.0	27.1
	70～79歳	(1,805)	26.2	18.8	24.8	15.8	36.2	38.1	19.8	26.8
	80～99歳	(630)	21.1	21.3	26.7	20.5	39.7	37.5	21.9	31.6

（4）ハンセン病・ハンセン病元患者（回復者）に対する考え方

ハンセン病・ハンセン病元患者（回復者）に対する考え方を地域別に比較すると、療養所の有無で回答傾向に大きな差はみられなかった。

療養所のある都道府県別に、ハンセン病・ハンセン病元患者（回復者）に対する包摂的な考え方に対する回答傾向をみると、「②ハンセン病元患者（回復者）も、地域で普通に隣人として暮らせることが望ましい」という考え方に対し、「そう思う」「どちらかといえばそう思う」と回答した割合は、群馬県、岡山県、熊本県、鹿児島県、沖縄県で 66.0～72.2%と高かった。

「④ハンセン病元患者（回復者）も、そうでない人も、人としての価値は変わらない」という考え方に対し、「そう思う」「どちらかといえばそう思う」と回答した割合は、岡山県、熊本県、沖縄県で 75.0～77.1%と高かった。

「⑩たとえ目立つハンセン病の後遺症が残っていても、公共の場で堂々とふるまえる社会がよい」という考え方に対し、「そう思う」「どちらかといえばそう思う」と回答した割合は、岡山県、熊本県、沖縄県で 71.9～73.7%と高かった。

「⑪機会があれば、自分もハンセン病療養所を訪ねてみたい」という考え方に対し、「そう思う」「どちらかといえばそう思う」と回答した割合は、岡山県、香川県、熊本県、鹿児島県、沖縄県で 24.0～30.0%と高かった。

次に、療養所のある都道府県別に、ハンセン病・ハンセン病元患者（回復者）に対する非包摂的な考え方に対する回答傾向をみると、「①ハンセン病と聞くと、できるだけ距離をとりたいと思うのは当然な反応だ」という考え方に対し、「そう思う」「どちらかといえばそう思う」と回答した割合は、沖縄県で 11.2%、熊本県で 12.8%と低かった。

「③ハンセン病元患者（回復者）とは、たとえ治っていたとしても、関りを持ちたくない」という考え方に対し、「そう思わない」「どちらかといえばそう思わない」と回答した割合は、岡山県、熊本県、鹿児島県、沖縄県で 62.3～64.9%と高かった。

「⑤自分の身内にハンセン病元患者（回復者）がいなくて、よかったと思う」という考え方に対し、「そう思う」「どちらかといえばそう思う」と回答した割合は、熊本県で 26.4%、鹿児島県で 27.6%と低かった。

「⑦ハンセン病にかかるというのは、どこか遠い世界での出来事だと感じる」という考え方に対し、「そう思う」「どちらかといえばそう思う」と回答した割合は、香川県、熊本県、鹿児島県で 34.4～36.1%と低かった。

「⑨ハンセン病の後遺症が残っている姿を写真や映像で見せると、見た人が驚くだろうから、好ましくない」という考え方に対し、「そう思う」「どちらかといえばそう思う」と回答した割合は、沖縄県で 8.5%と低かった。

さらに、療養所のある都道府県別に、ハンセン病問題に関する学習啓発に対する考え方に対する回答傾向をみると、「⑫ハンセン病の問題について、子どもを対象とした学校教育の機会を増やすべきだ」という考え方に対し、「そう思う」「どちらかといえばそう思う」と回答した割合は、岡山県、熊本県、鹿児島県、沖縄県で 56.8～60.1%と高かった。

「⑬ハンセン病の問題について、大人を対象とした啓発の機会（講演会・研修会・広報等）を増やすべきだ」という考え方に対し、「そう思う」「どちらかといえばそう思う」と回答した割合も、岡山県、熊本県、鹿児島県、沖縄県で 55.2～60.5%と高かった。

また、「⑭現在行われている、ハンセン病の問題を扱う学校教育や啓発の方法や内容は評価できる」という考え方に対し、「そう思う」「どちらかといえばそう思う」と回答した割合は、岡山県、香川県、熊本県、沖縄県で 38.0～39.8%と高かった。

表 34　Q13 ハンセン病・ハンセン病元患者（回復者）に対する考え方［地域別］（1/3）

(%)		n=	①ハンセン病と聞くと、できるだけ距離をとりたいと思うのは当然な反応だ	②ハンセン病元患者（回復者）も、地域で普通に隣人として暮らせることが望ましい	③ハンセン病元患者（回復者）とは、たとえ治っていたとしても、関りを持ちたくない	④ハンセン病元患者（回復者）も、そうでない人も、人としての価値は変わらない	⑤自分の身内にハンセン病元患者（回復者）がいなくて、よかったと思う	⑥ハンセン病元患者（回復者）は、たとえ治っていたとしても、自分たちとは違う人たちだと感じる	⑦ハンセン病にかかるというのは、どこか遠い世界での出来事だと感じる	⑧時代や場所が違ったら、自分もハンセン病になったかもしれないと思う	⑨ハンセン病の後遺症が残っている姿を写真や映像で見せると、見た人が驚くだろうから、好ましくない	⑩たとえ目立つハンセン病の後遺症が残っていても、公共の場で堂々とふるまえる社会がよい	⑪機会があれば、自分もハンセン病療養所を訪ねてみたい	⑫ハンセン病の問題について、子どもを対象とした学校教育の機会を増やすべきだ	⑬ハンセン病の問題について、大人を対象とした啓発の機会（講演会・研修会・広報等）を増やすべきだ	⑭現在行われている、ハンセン病の問題を扱う学校教育や啓発（講演会・研修会・広報等）の方法や内容は評価できる
			「そう思う」「どちらかといえばそう思う」の割合													
全体		(20,916)	16.0	60.8	5.7	68.8	31.7	6.6	40.0	39.6	11.3	63.1	18.1	50.5	50.4	28.6
地域	北海道	(888)	14.8	63.1	4.8	70.8	32.2	5.7	40.9	41.8	10.2	64.4	15.3	51.5	52.1	26.8
	東北	(1,444)	16.7	58.3	6.1	67.5	34.7	6.9	39.8	40.5	12.3	60.3	16.3	50.0	50.8	27.1
	関東	(7,193)	16.1	60.1	5.9	67.6	31.7	6.7	40.2	38.7	10.9	62.3	18.4	50.1	49.9	28.1
	中部（小計）	(3,820)	16.5	60.1	6.1	68.7	33.6	6.7	40.5	38.5	11.5	62.6	16.5	50.5	49.9	27.3
	甲信越	(858)	16.0	62.4	5.6	71.0	34.1	5.8	41.1	40.7	10.7	66.8	18.4	53.6	51.9	27.6
	北陸	(514)	16.9	58.8	5.3	66.1	34.2	7.6	37.7	37.9	12.5	58.0	15.4	45.3	45.7	24.1
	東海	(2,448)	16.6	59.5	6.4	68.4	33.3	6.8	40.8	37.9	11.5	62.1	16.0	50.4	50.1	27.9
	近畿	(3,382)	16.0	59.2	5.5	67.3	29.8	6.3	39.3	38.5	11.7	62.1	16.3	48.2	48.2	27.3
	中国	(1,218)	15.5	63.3	4.3	71.4	31.8	6.1	42.2	41.3	11.7	66.3	20.1	51.8	52.1	28.6
	四国	(648)	16.4	65.1	6.0	72.8	31.9	7.4	38.9	41.5	12.8	67.6	20.8	51.4	51.9	35.6
	九州・沖縄（小計）	(2,323)	14.9	65.1	5.6	72.4	29.5	6.5	38.5	42.9	11.0	66.6	22.9	54.2	53.8	33.4
	北九州	(1,183)	16.8	63.5	6.4	71.6	30.3	6.3	41.7	42.4	11.9	65.1	21.0	52.7	51.9	32.8
	南九州・沖縄	(1,140)	13.0	66.8	4.8	73.2	28.8	6.7	35.2	43.3	10.0	68.1	24.9	55.7	55.8	34.1
療養所有無	療養所のある都道府県（小計）	(5,064)	15.4	61.6	5.5	70.2	31.5	6.6	40.0	40.5	11.3	64.5	20.2	51.8	52.1	29.4
	青森県	(202)	17.8	58.9	4.5	70.8	33.7	7.4	35.6	37.1	12.4	60.9	14.9	51.5	54.0	24.3
	宮城県	(383)	13.8	58.0	6.5	68.7	32.9	4.2	41.5	40.5	11.5	62.4	16.7	51.4	53.0	25.8
	群馬県	(325)	15.4	67.4	4.3	73.8	30.5	7.1	42.8	45.8	11.1	65.8	22.2	56.3	56.3	27.7
	東京都	(2,312)	15.8	57.9	5.8	66.7	30.1	6.9	40.5	37.8	11.2	61.5	18.4	47.9	48.7	27.2
	静岡県	(607)	15.7	63.4	4.6	73.6	34.6	5.6	42.0	39.5	10.7	66.7	14.5	53.7	53.0	26.2
	岡山県	(308)	17.5	66.9	4.2	75.0	39.3	7.1	42.2	43.5	13.0	73.7	28.9	56.8	55.2	38.0
	香川県	(166)	17.5	62.0	8.4	68.7	36.1	6.6	36.1	41.6	15.1	62.0	25.3	51.2	49.4	39.8
	熊本県	(288)	12.8	72.2	5.2	77.1	26.4	6.6	34.7	48.6	10.1	71.9	29.9	56.9	57.3	38.2
	鹿児島県	(250)	14.4	66.0	4.8	74.0	27.6	8.4	34.4	45.2	12.4	66.8	24.0	58.4	58.0	33.2
	沖縄県	(223)	11.2	67.7	5.8	75.8	30.9	5.8	39.9	46.2	8.5	72.2	30.0	60.1	60.5	39.0
	療養所のない都道府県	(15,852)	16.2	60.6	5.8	68.4	31.8	6.6	40.0	39.3	11.3	62.7	17.4	50.1	49.9	28.3

表 35　Q13 ハンセン病・ハンセン病元患者（回復者）に対する考え方［地域別］（2/3）

		(%) n=	①ハンセン病と聞くと、できるだけ距離をとりたいと思うのは当然な反応だ	②ハンセン病元患者（回復者）も、地域で普通に隣人として暮らせることが望ましい	③ハンセン病元患者（回復者）とは、たとえ治っていたとしても、関りを持ちたくない	④ハンセン病元患者（回復者）も、そうでない人も、人としての価値は変わらない	⑤自分の身内にハンセン病元患者（回復者）がいなくて、よかったと思う	⑥ハンセン病元患者（回復者）は、たとえ治っていたとしても、自分たちとは違う人たちだと感じる	⑦ハンセン病にかかるというのは、どこか遠い世界での出来事だと感じる	⑧時代や場所が違ったら、自分もハンセン病になったかもしれないと思う	⑨ハンセン病の後遺症が残っている姿を写真や映像で見せると、見た人が驚くだろうから、好ましくない	⑩たとえ目立つハンセン病の後遺症が残っていても、公共の場で堂々とふるまえる社会がよい	⑪機会があれば、自分もハンセン病療養所を訪ねてみたい	⑫ハンセン病の問題について、子どもを対象とした学校教育の機会を増やすべきだ	⑬ハンセン病の問題について、大人を対象とした啓発の機会（講演会・研修会・広報等）を増やすべきだ	⑭現在行われている、ハンセン病の問題を扱う学校教育や啓発（講演会・研修会・広報等）の方法や内容は評価できる
			「どちらともいえない」の割合													
全体		(20,916)	29.3	17.4	24.4	12.7	31.2	21.4	24.8	30.0	34.8	17.4	33.9	25.6	27.1	36.0
地域	北海道	(888)	27.3	14.4	21.6	10.6	30.3	18.4	24.0	27.3	32.7	15.9	34.0	24.0	26.2	36.4
	東北	(1,444)	31.5	20.2	27.4	15.2	29.1	23.5	25.7	29.3	35.7	20.2	34.8	26.9	27.3	38.0
	関東	(7,193)	29.0	17.6	24.1	13.0	31.1	20.7	24.5	30.3	34.4	17.3	33.4	25.2	27.2	35.5
	中部（小計）	(3,820)	30.5	17.7	25.9	13.1	30.8	23.6	25.0	31.1	36.7	18.0	34.4	25.5	27.4	36.4
	甲信越	(858)	28.9	16.3	24.4	11.3	30.1	22.3	25.8	31.1	35.2	14.8	33.7	24.0	26.6	36.5
	北陸	(514)	34.6	17.1	27.8	14.2	32.3	24.1	26.1	29.6	38.5	19.6	33.7	28.6	29.6	39.1
	東海	(2,448)	30.3	18.4	26.0	13.6	30.8	24.0	24.6	31.5	36.8	18.7	34.8	25.4	27.2	35.7
	近畿	(3,382)	28.8	16.7	24.3	12.0	31.8	20.6	24.6	29.6	34.5	16.6	32.8	25.6	26.6	35.4
	中国	(1,218)	27.9	17.7	22.7	11.5	31.2	19.1	24.0	30.4	32.6	16.3	35.0	25.9	25.4	37.9
	四国	(648)	28.9	17.0	24.5	10.8	30.1	22.2	26.2	29.3	33.8	16.2	35.0	27.8	28.5	36.3
	九州・沖縄（小計）	(2,323)	29.0	16.4	22.8	12.4	33.0	22.1	25.3	29.8	34.7	17.3	34.7	25.7	27.8	35.8
	北九州	(1,183)	30.1	17.2	23.3	12.5	32.2	23.2	24.6	29.4	34.2	18.9	32.6	26.1	29.0	35.2
	南九州・沖縄	(1,140)	27.8	15.5	22.3	12.2	33.8	21.0	26.0	30.2	35.3	15.8	36.8	25.3	26.6	36.3
療養所有無	療養所のある都道府県（小計）	(5,064)	29.3	17.7	24.0	12.5	31.8	20.6	24.7	30.5	34.0	17.3	34.4	25.0	26.2	36.5
	青森県	(202)	32.2	19.8	30.2	13.4	32.7	24.8	28.2	33.7	39.6	24.3	41.6	29.7	28.2	40.1
	宮城県	(383)	30.8	20.6	24.3	14.6	26.6	24.0	23.5	26.6	31.1	18.5	31.1	25.3	25.3	36.3
	群馬県	(325)	28.3	14.2	25.2	9.2	32.9	18.2	20.9	26.5	35.1	16.0	36.9	24.3	25.2	39.4
	東京都	(2,312)	30.1	19.1	24.2	13.5	32.1	20.5	24.9	30.6	33.7	17.7	33.3	25.6	26.6	35.9
	静岡県	(607)	29.7	16.8	23.9	11.2	32.1	19.8	23.1	33.1	33.9	15.3	35.3	23.7	25.7	36.7
	岡山県	(308)	25.0	15.6	22.7	11.4	26.6	16.6	23.7	30.2	31.2	15.3	31.8	24.7	25.6	37.3
	香川県	(166)	23.5	18.1	25.9	12.7	31.3	25.9	24.7	31.3	34.3	20.5	33.7	25.9	29.5	39.8
	熊本県	(288)	29.5	13.2	24.3	12.8	38.2	23.6	27.4	30.6	38.5	14.6	41.3	25.7	27.4	39.6
	鹿児島県	(250)	28.8	17.2	19.2	10.8	36.8	17.6	26.8	30.4	34.0	18.8	35.6	22.0	24.4	34.0
	沖縄県	(223)	26.9	13.0	20.2	10.3	26.9	17.5	26.9	30.9	32.7	14.3	32.7	21.5	22.9	30.5
	療養所のない都道府県	(15,852)	29.3	17.3	24.5	12.8	31.0	21.7	24.8	29.9	35.0	17.4	33.7	25.7	27.4	35.9

表 36　Q13 ハンセン病・ハンセン病元患者（回復者）に対する考え方［地域別］（3/3）

(%)		n=	①ハンセン病と聞くと、できるだけ距離をとりたいと思うのは当然な反応だ	②ハンセン病元患者（回復者）も、地域で普通に隣人として暮らせることが望ましい	③ハンセン病元患者（回復者）とは、たとえ治っていたとしても、関りを持ちたくない	④ハンセン病元患者（回復者）も、そうでない人も、人としての価値は変わらない	⑤自分の身内にハンセン病元患者（回復者）がいなくて、よかったと思う	⑥ハンセン病元患者（回復者）は、たとえ治っていたとしても、自分たちとは違う人たちだと感じる	⑦ハンセン病にかかるというのは、どこか遠い世界での出来事だと感じる	⑧時代や場所が違ったら、自分もハンセン病になったかもしれないと思う	⑨ハンセン病の後遺症が残っている姿を写真や映像で見せると、見た人が驚くだろうから、好ましくない	⑩たとえ目立つハンセン病の後遺症が残っていても、公共の場で堂々とふるまえる社会がよい	⑪機会があれば、自分もハンセン病療養所を訪ねてみたい	⑫ハンセン病の問題について、子どもを対象とした学校教育の機会を増やすべきだ	⑬ハンセン病の問題について、大人を対象とした啓発の機会（講演会・研修会・広報等）を増やすべきだ	⑭現在行われている、ハンセン病の問題を扱う学校教育や啓発（講演会・研修会・広報等）の方法や内容は評価できる
			「そう思わない」「どちらかといえばそう思わない」の割合													
全体		(20,916)	39.3	8.9	56.1	7.1	18.5	58.0	21.4	11.8	35.7	6.4	30.8	9.0	8.0	9.9
地域	北海道	(888)	40.3	7.7	59.0	5.6	17.3	59.5	19.3	10.4	37.6	4.7	30.6	7.7	6.0	8.7
	東北	(1,444)	37.0	9.5	53.5	7.6	18.2	56.2	22.1	12.6	34.1	7.1	31.9	9.8	8.9	11.5
	関東	(7,193)	38.6	8.8	55.5	7.3	17.9	58.0	20.9	11.7	35.7	6.5	30.6	9.1	7.7	9.9
	中部（小計）	(3,820)	37.0	8.8	53.8	6.3	16.9	54.6	20.1	11.4	32.7	6.0	31.0	8.5	7.5	9.8
	甲信越	(858)	38.8	7.7	55.7	5.7	16.3	56.9	18.5	8.9	33.8	5.0	28.8	6.3	6.2	9.0
	北陸	(514)	34.4	11.9	52.9	8.6	16.5	52.7	20.8	13.6	32.1	8.4	35.4	10.5	9.1	11.7
	東海	(2,448)	36.9	8.6	53.4	6.0	17.1	54.2	20.5	11.8	32.4	5.9	30.8	8.9	7.6	9.6
	近畿	(3,382)	38.9	10.2	55.5	8.2	19.3	58.6	21.5	12.4	34.9	7.3	32.8	9.8	9.4	10.3
	中国	(1,218)	43.2	7.2	60.8	6.7	19.8	62.4	21.4	11.0	39.2	5.7	29.4	9.1	9.5	11.5
	四国	(648)	43.7	8.6	58.8	8.2	20.4	60.2	24.1	13.0	39.7	6.0	29.3	9.3	7.9	8.0
	九州・沖縄（小計）	(2,323)	43.8	8.5	60.1	6.7	21.7	60.4	24.6	12.0	39.4	6.2	28.5	8.4	7.2	8.5
	北九州	(1,183)	40.4	8.7	58.6	6.8	21.3	59.2	21.8	11.6	37.8	5.8	31.5	9.0	7.2	8.8
	南九州・沖縄	(1,140)	47.4	8.3	61.8	6.6	22.0	61.7	27.5	12.5	41.1	6.5	25.3	7.8	7.2	8.2
療養所有無	療養所のある都道府県（小計）	(5,064)	41.1	8.9	57.5	7.1	19.0	59.7	22.9	11.8	37.9	6.0	29.6	9.2	8.2	9.7
	青森県	(202)	34.7	7.9	54.5	7.4	16.8	56.4	24.3	10.4	30.7	5.9	28.7	8.9	7.9	10.4
	宮城県	(383)	41.5	10.4	55.9	6.8	21.9	56.9	22.5	14.9	40.5	5.5	34.2	9.7	8.9	14.1
	群馬県	(325)	41.5	8.0	58.8	6.8	17.2	62.8	24.3	11.7	38.8	6.2	27.1	6.5	5.5	8.9
	東京都	(2,312)	38.6	9.4	55.3	7.8	18.7	57.7	20.8	12.7	36.0	6.7	30.4	10.0	8.7	10.3
	静岡県	(607)	39.0	7.2	58.0	5.9	16.3	60.5	22.7	9.6	37.2	5.6	34.1	8.4	7.1	7.6
	岡山県	(308)	48.1	9.4	63.0	6.2	17.9	67.2	25.0	11.4	45.5	4.2	28.6	9.7	11.0	8.8
	香川県	(166)	48.2	10.8	55.4	11.4	19.3	56.6	28.9	12.0	36.1	7.2	30.7	10.2	10.2	6.0
	熊本県	(288)	50.3	8.3	64.9	4.5	22.6	62.8	30.2	8.3	42.0	7.3	19.8	10.4	8.3	7.6
	鹿児島県	(250)	44.4	7.6	62.8	7.2	21.6	64.0	27.2	11.6	40.4	4.8	26.4	6.8	6.8	9.2
	沖縄県	(223)	47.5	7.6	62.3	4.5	23.3	64.1	21.1	9.4	43.9	2.2	23.8	5.8	4.9	8.5
	療養所のない都道府県	(15,852)	38.8	8.9	55.7	7.1	18.4	57.5	20.9	11.8	35.0	6.6	31.2	9.0	7.9	9.9

ハンセン病・ハンセン病元患者（回復者）に対する考え方のうち、ハンセン病・ハンセン病元患者（回復者）に対する包摂的な考え方に対する回答傾向を年齢別に比較すると、「②ハンセン病元患者（回復者）も、地域で普通に隣人として暮らせることが望ましい」という考え方に対し、「そう思う」「どちらかといえばそう思う」と回答した割合は、70～79 歳が 74.7%と最も高く、18～29 歳が 45.6%と最も低く、年齢が高くなるにつれて高くなる傾向がみられた。

「④ハンセン病元患者（回復者）も、そうでない人も、人としての価値は変わらない」という考え方に対し、「そう思う」「どちらかといえばそう思う」と回答した割合は、70～79 歳が 82.9%と最も高く、18～29 歳が 52.6%と最も低く、年齢が高くなるにつれて高くなる傾向がみられた。

「⑩たとえ目立つハンセン病の後遺症が残っていても、公共の場で堂々とふるまえる社会がよい」という考え方に対し、「そう思う」「どちらかといえばそう思う」と回答した割合は、70～79 歳が 76.8%と最も高く、18～29 歳が 49.9%と最も低く、年齢が高くなるにつれて高くなる傾向がみられた。

「⑪機会があれば、自分もハンセン病療養所を訪ねてみたい」という考え方に対し、「そう思う」「どちらかといえばそう思う」と回答した割合は、中年層に比べて若年層と高齢層で高かった。

次に、年齢別に、ハンセン病・ハンセン病元患者（回復者）に対する非包摂的な考え方に対する回答傾向をみると、「①ハンセン病と聞くと、できるだけ距離をとりたいと思うのは当然な反応だ」という考え方に対し、「そう思う」「どちらかといえばそう思う」と回答した割合は、80～99 歳で 25.6%、70～79 歳で 20.4%と高く、40～49 歳で 11.6%と低かった。「そう思わない」「どちらかといえばそう思わない」と回答した割合は、60～69 歳が 42.4%で最も高かった。

「⑤自分の身内にハンセン病元患者（回復者）がいなくて、よかったと思う」という考え方に対し、「そう思う」「どちらかといえばそう思う」と回答した割合は、80～99 歳が 47.4%で最も高く、30～39 歳が 22.5%、18～29 歳が 23.8%の順で低く、年齢が高くなるにつれて高くなる傾向がみられた。

「⑦ハンセン病にかかるというのは、どこか遠い世界での出来事だと感じる」という考え方に対し、「そう思う」「どちらかといえばそう思う」と回答した割合は、80～99 歳が 32.4%と顕著に低く、それ以外の年齢層は全体平均と大きな差はみられなかった。

さらに、年齢別に、ハンセン病問題に関する学習啓発に対する考え方に対する回答傾向をみると、「⑫ハンセン病の問題について、子どもを対象とした学校教育の機会を増やすべきだ」「⑬ハンセン病の問題について、大人を対象とした啓発の機会（講演会・研修会・広報等）を増やすべきだ」という考え方に対し、「そう思う」「どちらかといえばそう思う」と回答した割合は、年齢が高くなるにつれて高くなる傾向がみられた。

また、「⑭現在行われている、ハンセン病の問題を扱う学校教育や啓発の方法や内容は評価できる」という考え方に対し、「そう思う」「どちらかといえばそう思う」と回答した割合は、中年層に比べて若年層と高齢層で高かった。

②④⑦⑧⑩⑫⑬などの項目では性別によって少なからぬ差異が示された。

表 37　Q13 ハンセン病・ハンセン病元患者（回復者）に対する考え方［性別・年齢別］（1/3）

		(%) n=	①ハンセン病と聞くと、できるだけ距離をとりたいと思うのは当然な反応だ	②ハンセン病元患者（回復者）も、地域で普通に隣人として暮らせることが望ましい	③ハンセン病元患者（回復者）とは、たとえ治っていたとしても、関りを持ちたくない	④ハンセン病元患者（回復者）も、そうでない人も、人としての価値は変わらない	⑤自分の身内にハンセン病元患者（回復者）がいなくて、よかったと思う	⑥ハンセン病元患者（回復者）は、たとえ治っていたとしても、自分たちとは違う人たちだと感じる	⑦ハンセン病にかかるというのは、どこか遠い世界での出来事だと感じる	⑧時代や場所が違ったら、自分もハンセン病になったかもしれないと思う	⑨ハンセン病の後遺症が残っている姿を写真や映像で見せると、見た人が驚くだろうから、好ましくない	⑩たとえ目立つハンセン病の後遺症が残っていても、公共の場で堂々とふるまえる社会がよい	⑪機会があれば、自分もハンセン病療養所を訪ねてみたい	⑫ハンセン病の問題について、子どもを対象とした学校教育の機会を増やすべきだ	⑬ハンセン病の問題について、大人を対象とした啓発の機会（講演会・研修会・広報等）を増やすべきだ	⑭現在行われている、ハンセン病の問題を扱う学校教育や啓発（講演会・研修会・広報等）の方法や内容は評価できる
			「そう思う」「どちらかといえばそう思う」の割合													
全体		(20,916)	16.0	60.8	5.7	68.8	31.7	6.6	40.0	39.6	11.3	63.1	18.1	50.5	50.4	28.6
性別	男性	(10,141)	17.5	56.8	6.6	64.2	32.5	8.0	36.9	35.6	12.9	58.4	17.5	45.6	46.2	26.9
	女性	(10,707)	14.6	64.8	4.8	73.3	31.1	5.2	42.9	43.4	9.8	67.7	18.6	55.2	54.5	30.2
	どちらでもない	(68)	7.4	54.4	7.4	63.2	16.2	8.8	30.9	30.9	7.4	52.9	22.1	44.1	44.1	27.9
年齢別	18～29歳	(2,943)	16.6	45.6	8.0	52.6	23.8	12.5	41.1	36.8	15.4	49.9	19.6	40.7	41.5	30.2
	20～29歳	(2,407)	15.4	43.8	7.4	50.9	22.5	11.7	40.2	35.6	14.3	48.1	18.5	38.3	39.3	28.6
	30～39歳	(2,759)	13.7	49.7	6.8	56.3	22.5	8.5	42.2	37.3	11.4	52.0	16.7	39.9	39.0	24.2
	40～49歳	(3,579)	11.6	54.7	4.6	62.8	24.8	5.9	41.4	38.4	9.2	56.2	16.5	43.4	43.2	23.8
	50～59歳	(3,249)	12.5	61.8	4.0	70.1	28.6	4.5	39.4	40.1	7.8	64.0	16.7	48.9	48.7	25.1
	60～69歳	(3,060)	15.8	70.4	4.3	79.6	35.6	4.0	40.7	41.9	9.1	71.8	17.9	57.2	56.0	29.8
	70～79歳	(3,707)	20.4	74.7	6.1	82.9	44.4	5.0	39.4	43.6	12.1	76.8	19.9	64.3	64.3	34.6
	80～99歳	(1,619)	25.6	69.2	7.5	77.6	47.4	6.5	32.4	36.8	18.1	72.0	20.8	61.1	63.2	34.4
性別・年齢別	男性（小計）	(10,141)	17.5	56.8	6.6	64.2	32.5	8.0	36.9	35.6	12.9	58.4	17.5	45.6	46.2	26.9
	18～29歳	(1,477)	19.3	39.9	10.0	47.2	24.6	16.0	37.5	32.5	17.7	46.5	19.9	35.1	37.4	32.0
	20～29歳	(1,211)	18.3	38.3	9.6	45.3	23.0	14.9	36.3	30.5	17.3	44.8	18.9	32.8	35.0	30.1
	30～39歳	(1,390)	14.7	44.5	9.1	49.6	24.0	11.3	37.6	32.0	13.7	47.0	17.1	34.6	34.7	24.2
	40～49歳	(1,796)	11.6	50.6	5.0	57.5	24.8	7.1	38.4	33.6	10.2	50.7	15.9	37.4	38.1	24.1
	50～59歳	(1,623)	12.8	56.7	4.7	64.2	28.9	5.5	35.3	36.1	9.2	57.8	15.2	42.9	42.9	23.5
	60～69歳	(1,497)	17.8	66.7	4.7	76.6	36.3	4.5	38.3	36.8	9.6	67.7	18.2	52.8	52.2	25.7
	70～79歳	(1,515)	22.8	73.5	6.0	80.9	46.2	5.3	37.2	42.3	13.3	72.7	17.8	60.8	61.8	29.8
	80～99歳	(843)	30.2	72.0	8.4	80.0	52.6	6.6	32.3	36.3	21.2	73.5	20.6	63.9	65.4	31.9
	女性（小計）	(10,707)	14.6	64.8	4.8	73.3	31.1	5.2	42.9	43.4	9.8	67.7	18.6	55.2	54.5	30.2
	18～29歳	(1,442)	14.1	51.5	6.0	58.0	23.2	8.9	45.0	41.2	13.2	53.4	19.3	46.1	45.8	28.8
	20～29歳	(1,175)	12.6	49.4	5.1	56.3	22.3	8.5	44.3	40.9	11.4	51.3	18.1	43.8	43.6	27.3
	30～39歳	(1,358)	12.7	54.8	4.3	63.0	20.9	5.6	46.8	42.7	9.0	57.2	16.3	45.4	43.3	24.0
	40～49歳	(1,771)	11.6	59.2	4.1	68.4	24.8	4.6	44.5	43.5	8.1	62.0	17.1	49.7	48.4	23.5
	50～59歳	(1,620)	12.2	66.9	3.3	75.9	28.3	3.5	43.5	44.1	6.5	70.1	18.1	54.8	54.4	26.6
	60～69歳	(1,559)	13.9	73.9	3.9	82.6	35.1	3.6	43.1	46.8	8.6	75.6	17.5	61.2	59.5	33.7
	70～79歳	(2,188)	18.8	75.6	6.1	84.3	43.1	4.8	41.0	44.6	11.2	79.7	21.3	66.7	66.2	37.9
	80～99歳	(769)	20.8	66.3	6.6	75.3	42.1	6.2	32.6	37.5	14.7	70.4	20.7	58.1	61.2	37.1

表 38　Q13 ハンセン病・ハンセン病元患者（回復者）に対する考え方［性別・年齢別］（2/3）

		(%) n=	①ハンセン病と聞くと、できるだけ距離をとりたいと思うのは当然な反応だ	②ハンセン病元患者（回復者）も、地域で普通に隣人として暮らせることが望ましい	③ハンセン病元患者（回復者）とは、たとえ治っていたとしても、関りを持ちたくない	④ハンセン病元患者（回復者）も、そうでない人も、人としての価値は変わらない	⑤自分の身内にハンセン病元患者（回復者）がいなくて、よかったと思う	⑥ハンセン病元患者（回復者）は、たとえ治っていたとしても、自分たちとは違う人たちだと感じる	⑦ハンセン病にかかるというのは、どこか遠い世界での出来事だと感じる	⑧時代や場所が違ったら、自分もハンセン病になったかもしれないと思う	⑨ハンセン病の後遺症が残っている姿を写真や映像で見せると、見た人が驚くだろうから、好ましくない	⑩たとえ目立つハンセン病の後遺症が残っていても、公共の場で堂々とふるまえる社会がよい	⑪機会があれば、自分もハンセン病療養所を訪ねてみたい	⑫ハンセン病の問題について、子どもを対象とした学校教育の機会を増やすべきだ	⑬ハンセン病の問題について、大人を対象とした啓発の機会（講演会・研修会・広報等）を増やすべきだ	⑭現在行われている、ハンセン病の問題を扱う学校教育や啓発（講演会・研修会・広報等）の方法や内容は評価できる
			「どちらともいえない」の割合													
全体		(20,916)	29.3	17.4	24.4	12.7	31.2	21.4	24.8	30.0	34.8	17.4	33.9	25.6	27.1	36.0
性別	男性	(10,141)	30.0	19.5	27.0	15.1	32.3	23.7	26.3	32.3	37.5	20.5	35.5	28.6	30.2	38.7
	女性	(10,707)	28.7	15.4	21.9	10.4	30.1	19.3	23.4	28.0	32.2	14.4	32.4	22.7	24.2	33.6
	どちらでもない	(68)	19.1	13.2	17.6	14.7	25.0	16.2	14.7	22.1	29.4	17.6	26.5	23.5	23.5	25.0
年齢別	18～29歳	(2,943)	24.8	18.2	19.1	16.0	26.7	19.6	18.3	22.3	27.8	19.1	25.6	23.0	25.4	26.9
	20～29歳	(2,407)	25.5	18.7	19.5	16.4	26.7	20.4	18.7	22.4	28.1	19.8	25.6	23.6	26.4	27.7
	30～39歳	(2,759)	26.5	17.5	21.0	15.3	29.5	20.8	19.9	23.0	29.2	18.8	27.5	24.8	27.2	30.5
	40～49歳	(3,579)	28.9	18.8	23.6	14.7	32.0	22.1	24.0	27.9	34.2	19.2	31.9	27.6	29.3	35.3
	50～59歳	(3,249)	29.8	18.0	24.1	13.1	33.7	21.5	26.7	30.6	36.3	17.6	35.7	27.6	29.0	38.4
	60～69歳	(3,060)	32.2	16.9	27.0	9.7	34.8	21.0	28.4	35.6	38.1	16.6	38.3	27.4	29.5	41.9
	70～79歳	(3,707)	32.6	15.2	28.1	9.2	31.3	21.5	28.1	36.0	39.7	14.5	40.4	23.9	24.7	40.7
	80～99歳	(1,619)	28.7	17.2	28.7	10.7	28.0	24.6	28.3	35.9	37.7	15.0	37.6	23.3	22.7	37.4
性別・年齢別	男性（小計）	(10,141)	30.0	19.5	27.0	15.1	32.3	23.7	26.3	32.3	37.5	20.5	35.5	28.6	30.2	38.7
	18～29歳	(1,477)	26.2	21.3	20.6	18.3	27.4	21.1	19.7	24.0	29.9	20.6	27.0	25.9	28.4	28.5
	20～29歳	(1,211)	27.2	21.9	20.7	18.7	27.1	22.2	20.1	24.8	30.0	21.0	27.3	26.2	30.0	29.3
	30～39歳	(1,390)	28.9	19.3	23.7	18.6	31.0	23.9	21.9	25.8	32.8	21.9	28.9	28.5	29.9	32.4
	40～49歳	(1,796)	30.6	20.9	25.9	17.2	32.5	24.4	25.4	30.7	37.5	22.7	33.4	30.8	32.5	37.1
	50～59歳	(1,623)	30.8	20.9	27.8	16.5	36.0	24.6	29.2	32.0	38.8	22.1	37.6	31.9	33.4	40.9
	60～69歳	(1,497)	33.9	19.2	30.9	11.8	36.0	24.2	30.8	40.2	41.8	19.9	40.3	30.9	33.4	47.2
	70～79歳	(1,515)	30.8	16.4	30.6	10.8	32.7	22.6	29.9	37.4	43.0	18.0	42.6	26.4	27.1	44.3
	80～99歳	(843)	27.0	17.0	30.7	10.3	28.1	26.0	27.3	38.2	38.3	15.5	40.1	22.4	22.7	40.5
	女性（小計）	(10,707)	28.7	15.4	21.9	10.4	30.1	19.3	23.4	28.0	32.2	14.4	32.4	22.7	24.2	33.6
	18～29歳	(1,442)	23.7	15.2	17.6	13.7	26.3	18.2	17.1	20.5	25.7	17.8	24.1	20.2	22.4	25.4
	20～29歳	(1,175)	24.0	15.5	18.4	14.1	26.5	18.6	17.4	20.0	26.4	18.8	23.7	21.2	22.9	26.0
	30～39歳	(1,358)	24.2	15.8	18.3	12.0	28.1	17.7	18.0	20.3	25.7	15.8	26.4	20.9	24.4	28.6
	40～49歳	(1,771)	27.2	16.6	21.1	12.1	31.5	19.7	22.5	25.0	30.7	15.5	30.4	24.3	25.9	33.5
	50～59歳	(1,620)	28.8	15.1	20.3	9.7	31.2	18.4	24.1	29.2	33.6	13.1	33.6	23.2	24.6	35.8
	60～69歳	(1,559)	30.6	14.7	23.2	7.8	33.6	18.0	26.1	31.2	34.6	13.5	36.4	24.1	25.8	36.8
	70～79歳	(2,188)	33.8	14.5	26.3	8.1	30.4	20.7	27.0	35.0	37.4	12.1	38.9	22.2	23.0	38.2
	80～99歳	(769)	30.7	17.3	26.7	10.9	27.7	23.3	29.4	33.4	37.2	14.3	34.9	24.1	22.5	34.3

表 39 Q13 ハンセン病・ハンセン病元患者(回復者)に対する考え方[性別・年齢別](3/3)

(%)		n=	①ハンセン病と聞くと、できるだけ距離をとりたいと思うのは当然な反応だ	②ハンセン病元患者（回復者）も、地域で普通に隣人として暮らせることが望ましい	③ハンセン病元患者（回復者）とは、たとえ治っていたとしても、関りを持ちたくない	④ハンセン病元患者（回復者）も、そうでない人も、人としての価値は変わらない	⑤自分の身内にハンセン病元患者（回復者）がいなくて、よかったと思う	⑥ハンセン病元患者（回復者）は、たとえ治っていたとしても、自分たちとは違う人たちだと感じる	⑦ハンセン病にかかるというのは、どこか遠い世界での出来事だと感じる	⑧時代や場所が違ったら、自分もハンセン病になったかもしれないと思う	⑨ハンセン病の後遺症が残っている姿を写真や映像で見せると、見た人が驚くだろうから、好ましくない	⑩たとえ目立つハンセン病の後遺症が残っていても、公共の場で堂々とふるまえる社会がよい	⑪機会があれば、自分もハンセン病療養所を訪ねてみたい	⑫ハンセン病の問題について、子どもを対象とした学校教育の機会を増やすべきだ	⑬ハンセン病の問題について、大人を対象とした啓発の機会（講演会・研修会・広報等）を増やすべきだ	⑭現在行われている、ハンセン病の問題を扱う学校教育や啓発（講演会・研修会・広報等）の方法や内容は評価できる
			「そう思わない」「どちらかといえばそう思わない」の割合													
全体		(20,916)	39.3	8.9	56.1	7.1	18.5	58.0	21.4	11.8	35.7	6.4	30.8	9.0	8.0	9.9
性別	男性	(10,141)	38.3	11.3	53.4	9.1	18.1	54.7	23.0	14.1	32.8	8.2	31.4	11.4	9.8	11.4
	女性	(10,707)	40.3	6.6	58.7	5.2	18.8	61.1	19.8	9.5	38.5	4.7	30.2	6.7	6.2	8.4
	どちらでもない	(68)	54.4	19.1	58.8	8.8	35.3	61.8	33.8	23.5	45.6	19.1	29.4	17.6	19.1	17.6
年齢別	18～29歳	(2,943)	36.5	17.3	53.2	14.5	24.9	47.7	20.6	17.8	31.5	11.3	33.0	17.0	14.0	13.6
	20～29歳	(2,407)	35.9	17.7	52.3	14.9	25.1	46.8	20.2	18.1	31.2	11.6	33.1	17.7	14.4	13.5
	30～39歳	(2,759)	36.8	13.2	51.9	11.1	22.7	50.0	18.9	14.4	33.9	10.1	32.0	13.3	12.8	12.4
	40～49歳	(3,579)	39.8	9.9	54.5	7.9	19.7	54.1	17.8	11.0	34.6	8.0	30.6	10.1	9.4	10.7
	50～59歳	(3,249)	40.7	6.4	57.5	5.0	17.6	59.2	19.1	8.9	36.0	4.7	29.0	7.3	6.4	8.7
	60～69歳	(3,060)	42.4	5.2	59.5	3.7	15.7	66.0	22.2	9.1	39.8	3.7	31.4	5.1	4.6	7.9
	70～79歳	(3,707)	40.5	4.7	59.4	3.4	14.6	67.1	25.5	9.7	39.5	2.9	30.2	4.3	3.8	7.6
	80～99歳	(1,619)	36.9	5.7	55.5	4.5	13.7	60.2	28.9	14.0	32.5	4.4	29.0	6.4	5.1	8.2
性別・年齢別	男性（小計）	(10,141)	38.3	11.3	53.4	9.1	18.1	54.7	23.0	14.1	32.8	8.2	31.4	11.4	9.8	11.4
	18～29歳	(1,477)	34.0	20.7	51.3	17.4	25.5	43.7	22.7	21.5	29.2	13.3	33.1	20.4	16.0	14.5
	20～29歳	(1,211)	33.1	20.6	50.5	17.7	25.8	42.7	22.4	21.8	28.1	13.5	32.4	21.4	15.8	14.1
	30～39歳	(1,390)	36.0	18.5	49.1	14.8	23.5	46.5	22.7	18.8	30.4	14.0	33.4	17.0	16.0	14.7
	40～49歳	(1,796)	40.1	13.0	52.7	10.7	20.0	51.0	19.4	13.5	32.0	10.7	31.6	13.7	12.2	12.3
	50～59歳	(1,623)	40.0	7.9	53.0	6.5	16.2	55.2	20.1	10.8	32.7	5.5	29.8	9.1	7.8	9.7
	60～69歳	(1,497)	39.4	6.5	55.6	4.7	15.5	62.5	22.4	10.0	36.8	4.6	30.9	6.4	5.3	9.7
	70～79歳	(1,515)	40.5	5.3	57.4	3.8	12.5	65.4	26.6	10.5	36.0	3.6	31.6	5.3	4.6	9.0
	80～99歳	(843)	36.1	5.2	54.9	4.0	10.9	60.7	31.8	15.2	31.8	3.8	28.9	6.0	4.5	9.3
	女性（小計）	(10,707)	40.3	6.6	58.7	5.2	18.8	61.1	19.8	9.5	38.5	4.7	30.2	6.7	6.2	8.4
	18～29歳	(1,442)	38.6	13.7	55.1	11.7	23.9	51.7	18.2	14.1	33.6	9.1	33.0	13.3	11.9	12.3
	20～29歳	(1,175)	38.4	14.6	54.1	12.1	23.8	50.9	17.8	14.2	34.0	9.4	34.0	13.8	12.9	12.5
	30～39歳	(1,358)	37.3	7.8	54.8	7.2	21.6	53.5	14.9	9.9	37.3	6.0	30.5	9.6	9.4	10.0
	40～49歳	(1,771)	39.4	6.7	56.4	5.1	19.4	57.4	16.0	8.2	37.2	5.2	29.5	6.4	6.5	9.1
	50～59歳	(1,620)	41.4	4.9	61.9	3.5	19.0	63.2	18.0	6.9	39.4	4.0	28.3	5.5	5.0	7.7
	60～69歳	(1,559)	45.2	3.8	63.2	2.8	16.0	69.2	21.9	8.2	42.5	2.8	31.9	3.9	4.0	6.3
	70～79歳	(2,188)	40.5	4.3	60.8	3.1	16.0	68.2	24.6	9.1	41.9	2.4	29.2	3.6	3.2	6.6
	80～99歳	(769)	37.5	6.4	56.0	5.1	16.5	59.7	25.9	12.6	33.0	4.9	29.3	6.6	5.6	7.2

ハンセン病・ハンセン病元患者（回復者）に対する考え方を就業形態別、職種別に比較した。

まず、ハンセン病・ハンセン病元患者（回復者）に対する包摂的な考え方に対する回答傾向をみると、「②ハンセン病元患者（回復者）も、地域で普通に隣人として暮らせることが望ましい」という考え方に対し、「そう思う」「どちらかといえばそう思う」と回答した割合は、公務員が 59.8%、教育関係の専門職が 69.5%、福祉関係の専門職が 62.7%、医療関係の専門職が 67.3%であった。一方、「そう思わない」「どちらかといえばそう思わない」と回答した割合は、公務員が 15.4%、教育関係の専門職が 9.5%、福祉関係の専門職で 11.2%、医療関係の専門職で 10.0%であり、全体平均の 8.9%より高かった。

「④ハンセン病元患者（回復者）も、そうでない人も、人としての価値は変わらない」という考え方に対し、「そう思う」「どちらかといえばそう思う」と回答した割合は、公務員が 65.7%、教育関係の専門職が 77.6%、福祉関係の専門職が 69.3%、医療関係の専門職が 73.9%であった。一方、「そう思わない」「どちらかといえばそう思わない」と回答した割合は、公務員が 11.9%、教育関係の専門職で 7.4%、福祉関係の専門職で 8.6%、医療関係の専門職で 9.0%であり、全体平均の 7.1%より高かった。

「⑩たとえ目立つハンセン病の後遺症が残っていても、公共の場で堂々とふるまえる社会がよい」という考え方に対し、「そう思う」「どちらかといえばそう思う」と回答した割合は、公務員が 60.2%、教育関係の専門職が 71.0%、福祉関係の専門職が 65.9%、医療関係の専門職が 69.7%であった。一方、「そう思わない」「どちらかといえばそう思わない」と回答した割合は、公務員が 11.2%、教育関係の専門職は 6.9%、福祉関係の専門職で 9.2%であり、全体平均の 6.4%より高かった。

「⑪機会があれば、自分もハンセン病療養所を訪ねてみたい」という考え方に対し、「そう思う」「どちらかといえばそう思う」と回答した割合は、公務員が 26.8%、教育関係の専門職が 27.1%、福祉関係の専門職が 28.4%、医療関係の専門職が 28.2%で、全体平均の 18.1%より顕著に高かった。

次に、ハンセン病・ハンセン病元患者（回復者）に対する非包摂的な考え方に対する回答傾向をみると、「①ハンセン病と聞くと、できるだけ距離をとりたいと思うのは当然な反応だ」という考え方に対し、「そう思う」「どちらかといえばそう思う」と回答した割合は、公務員が 13.0%、教育関係の専門職が 13.7%、福祉関係の専門職が 15.1%、医療関係の専門職が 15.1%であり、全国平均の 16.0%より低かった。

「③ハンセン病元患者（回復者）とは、たとえ治っていたとしても、関りを持ちたくない」という考え方に対し、「そう思う」「どちらかといえばそう思う」と回答した割合は、全体平均 5.7%に対し、公務員が 7.6%、教育関係の専門職が 4.9%、福祉関係の専門職が 5.7%、医療関係の専門職が 5.5%であった。

「⑤自分の身内にハンセン病元患者（回復者）がいなくて、よかったと思う」という考え方に対し、「そう思う」「どちらかといえばそう思う」と回答した割合は、公務員が 27.0%、教育関係の専門職が 30.6%、福祉関係の専門職が 26.1%、医療関係の専門職が 28.3%であり、全体平均の 31.7%より低かった。

「⑦ハンセン病にかかるというのは、どこか遠い世界での出来事だと感じる」という考え方に対し、「そう思う」「どちらかといえばそう思う」と回答した割合は、公務員が 40.8%、教育関係の専門職が 38.5%、福祉関係の専門職が 38.1%、医療関係の専門職が 38.9%で、全体平均の 40.0%と大きな差はみられなかった。

さらに、ハンセン病問題に関する学習啓発に対する考え方に対する回答傾向をみると、「⑫ハンセン病の問題について、子どもを対象とした学校教育の機会を増やすべきだ」という考え方に対し、「そう思う」「どちらかといえばそう思う」と回答した割合は、公務員は 46.7%で全体平均の 50.5%より低かったが、教育関係の専門職が 58.3%、福祉関係の専門職が 55.0%、医療関係の専門職が 59.3%で全

体平均より高かった。

「⑬ハンセン病の問題について、大人を対象とした啓発の機会（講演会・研修会・広報等）を増やすべきだ」という考え方に対し、「そう思う」「どちらかといえばそう思う」と回答した割合も、公務員は 48.9%で全体平均の 50.4%より低かったが、教育関係の専門職が 61.5%、福祉関係の専門職が 57.5%、医療関係の専門職が 57.9%で全体平均より高かった。

また、「⑭現在行われている、ハンセン病の問題を扱う学校教育や啓発の方法や内容は評価できる」という考え方に対し、「そう思う」「どちらかといえばそう思う」と回答した割合は、公務員、教育関係の専門職、福祉関係の専門職、医療関係の専門職のいずれも 34.3～35.1%であり、全体平均の 28.6%より高かった。

学歴別・年齢別に比較すると、最終学歴が短大未満と短大以上で回答傾向に大きな差はみられなかった。

表 40　Q13 ハンセン病・ハンセン病元患者(回復者)に対する考え方
［就業形態別｜職種別｜学歴別・年齢別］(1/3)

(%)		n=	①ハンセン病と聞くと、できるだけ距離をとりたいと思うのは当然な反応だ	②ハンセン病元患者（回復者）も、地域で普通に隣人として暮らせることが望ましい	③ハンセン病元患者（回復者）とは、たとえ治っていたとしても、関りを持ちたくない	④ハンセン病元患者（回復者）も、そうでない人も、人としての価値は変わらない	⑤自分の身内にハンセン病元患者（回復者）がいなくて、よかったと思う	⑥ハンセン病元患者（回復者）は、たとえ治っていたとしても、自分たちとは違う人たちだと感じる	⑦ハンセン病にかかるというのは、どこか遠い世界での出来事だと感じる	⑧時代や場所が違ったら、自分もハンセン病になったかもしれないと思う	⑨ハンセン病の後遺症が残っている姿を写真や映像で見せると、見た人が驚くだろうから、好ましくない	⑩たとえ目立つハンセン病の後遺症が残っていても、公共の場で堂々とふるまえる社会がよい	⑪機会があれば、自分もハンセン病療養所を訪ねてみたい	⑫ハンセン病の問題について、子どもを対象とした学校教育の機会を増やすべきだ	⑬ハンセン病の問題について、大人を対象とした啓発の機会（講演会・研修会・広報等）を増やすべきだ	⑭現在行われている、ハンセン病の問題を扱う学校教育や啓発（講演会・研修会・広報等）の方法や内容は評価できる
			「そう思う」「どちらかといえばそう思う」の割合													
全体		(20,916)	16.0	60.8	5.7	68.8	31.7	6.6	40.0	39.6	11.3	63.1	18.1	50.5	50.4	28.6
就業形態別	公務員	(829)	13.0	59.8	7.6	65.7	27.0	11.5	40.8	40.5	13.5	60.2	26.8	46.7	48.9	34.3
	雇用者	(780)	14.7	55.0	6.3	63.1	32.8	7.9	39.2	37.4	13.2	57.4	19.7	44.5	44.0	29.5
	正規の被雇用者	(5,305)	14.6	51.0	6.5	58.2	26.1	8.2	38.9	36.1	11.6	53.2	16.5	41.4	41.0	26.9
	非正規の被雇用者	(3,773)	13.8	60.4	4.5	68.5	28.4	4.9	41.4	40.4	9.2	63.0	17.4	50.0	50.4	26.8
	自営業者・自由業	(1,301)	15.8	64.9	6.1	71.9	32.7	5.8	38.7	39.5	10.8	66.5	19.0	49.4	49.3	27.3
	自営業の家族従事者等	(127)	18.9	63.0	8.7	66.1	30.7	11.0	46.5	41.7	11.8	66.9	17.3	54.3	58.3	30.7
	内職	(9)	0.0	55.6	0.0	66.7	11.1	0.0	33.3	33.3	0.0	55.6	33.3	66.7	66.7	33.3
	学生	(874)	20.3	55.7	8.1	62.6	26.0	13.8	47.0	45.0	17.2	57.7	25.6	51.4	52.2	36.3
	無職	(7,845)	17.9	68.3	5.1	77.3	38.1	4.9	39.5	41.2	11.1	70.7	17.4	57.9	57.4	29.1
	その他	(73)	17.8	60.3	11.0	69.9	38.4	5.5	34.2	35.6	13.7	72.6	28.8	52.1	54.8	32.9
職種別	教育関係の専門職	(1,113)	13.7	69.5	4.9	77.6	30.6	6.3	38.5	44.7	10.1	71.0	27.1	58.3	61.5	35.1
	福祉関係の専門職	(651)	15.1	62.7	5.7	69.3	26.1	8.3	38.1	45.2	11.7	65.9	28.4	55.0	57.5	35.0
	医療関係の専門職	(914)	15.1	67.3	5.5	73.9	28.3	7.4	38.9	50.1	11.4	69.7	28.2	59.3	57.9	34.7
	上記以外の専門職	(1,253)	17.2	63.8	6.7	71.3	33.2	7.7	42.9	37.9	11.0	65.8	16.8	52.2	50.3	26.2
	管理的職業	(1,646)	17.2	65.2	6.6	73.1	38.7	6.3	35.9	38.4	13.7	65.1	20.5	52.8	54.4	27.7
	事務・営業系の職業	(6,596)	15.4	62.9	5.2	71.3	32.1	5.8	43.0	39.7	10.3	65.2	16.5	51.8	50.9	28.0
	技能・労務・作業系の職業	(4,944)	16.3	57.3	5.7	64.8	30.6	6.3	39.5	38.6	11.5	59.5	15.7	46.4	46.1	26.6
	農林漁業職	(191)	13.1	57.1	6.8	62.8	33.0	7.3	35.1	39.8	16.8	57.6	18.8	41.4	45.0	26.2
	その他	(186)	15.6	53.8	4.3	64.5	29.6	4.3	41.4	34.9	10.8	58.6	18.8	43.5	43.0	30.1
	現在無職	(1,013)	18.3	68.8	5.2	79.5	40.9	5.1	40.1	42.3	11.7	71.8	17.1	60.2	59.5	30.2
	働いたことはない	(2,408)	16.4	48.4	6.7	56.3	27.1	8.7	35.7	34.6	12.3	52.6	16.1	41.9	42.5	28.4
学歴別・年齢別	短大未満（小計）	(9,903)	15.9	57.2	5.8	66.2	31.5	6.5	37.0	38.1	11.6	60.6	16.2	48.1	47.7	27.8
	18～29歳	(1,245)	16.0	40.6	8.4	48.8	22.5	12.1	36.5	33.0	16.5	45.4	16.1	37.0	36.4	28.0
	20～29歳	(959)	13.9	38.6	7.1	46.4	20.5	10.4	34.5	32.1	14.3	43.1	14.2	34.2	33.4	25.8
	30～39歳	(1,174)	13.4	45.6	6.1	53.6	20.6	6.8	39.2	35.9	10.5	49.2	15.8	38.5	38.0	22.5
	40～49歳	(1,616)	11.8	49.8	4.8	59.9	23.5	5.9	36.8	36.8	9.8	52.8	14.8	40.8	40.0	22.6
	50～59歳	(1,650)	12.1	56.9	3.9	65.0	27.8	4.7	35.8	37.6	8.5	59.7	14.7	46.0	45.8	23.8
	60～69歳	(1,329)	15.1	67.0	4.1	77.9	35.5	4.4	39.2	42.4	9.4	69.3	14.6	54.4	51.8	29.4
	70～79歳	(1,900)	20.8	70.8	6.7	79.7	44.1	6.1	38.5	42.6	12.2	74.8	18.7	60.5	61.1	34.6
	80～99歳	(989)	23.5	65.6	7.1	73.5	45.3	6.5	31.0	35.4	16.2	68.1	19.1	56.9	58.4	33.7
	短大以上（小計）	(11,003)	16.1	64.1	5.7	71.2	32.0	6.6	42.7	41.0	11.1	65.5	19.8	52.6	52.8	29.3
	18～29歳	(1,698)	17.1	49.4	7.6	55.4	24.7	12.8	44.5	39.5	14.5	53.2	22.2	43.3	45.3	31.9
	20～29歳	(1,448)	16.4	47.3	7.5	53.8	23.8	12.6	43.9	37.8	14.4	51.4	21.4	41.0	43.2	30.5
	30～39歳	(1,584)	14.0	52.7	7.3	58.3	23.9	9.7	44.5	38.4	12.1	54.2	17.4	41.0	39.7	25.4
	40～49歳	(1,961)	11.5	58.9	4.4	65.2	25.9	5.8	45.2	39.8	8.6	59.1	17.8	45.6	45.8	24.8
	50～59歳	(1,598)	13.0	66.9	4.1	75.3	29.4	4.3	43.1	42.6	7.1	68.5	18.6	51.9	51.7	26.3
	60～69歳	(1,727)	16.3	73.1	4.3	81.1	35.7	3.7	41.8	41.6	8.7	73.7	20.4	59.2	59.2	30.1
	70～79歳	(1,805)	20.0	78.8	5.4	86.3	44.7	4.0	40.3	44.7	12.0	78.9	21.2	68.2	67.8	34.6
	80～99歳	(630)	29.0	74.9	8.3	84.1	50.8	6.5	34.6	39.0	21.1	77.9	23.3	67.6	70.8	35.6

表 41　Q13 ハンセン病・ハンセン病元患者(回復者)に対する考え方
［就業形態別｜職種別｜学歴別・年齢別］(2/3)

(%)		n=	①ハンセン病と聞くと、できるだけ距離をとりたいと思うのは当然な反応だ	②ハンセン病元患者（回復者）も、地域で普通に隣人として暮らせることが望ましい	③ハンセン病元患者（回復者）とは、たとえ治っていたとしても、関りを持ちたくない	④ハンセン病元患者（回復者）も、そうでない人も、人としての価値は変わらない	⑤自分の身内にハンセン病元患者（回復者）がいなくて、よかったと思う	⑥ハンセン病元患者（回復者）は、たとえ治っていたとしても、自分たちとは違う人たちだと感じる	⑦ハンセン病にかかるというのは、どこか遠い世界での出来事だと感じる	⑧時代や場所が違ったら、自分もハンセン病になったかもしれないと思う	⑨ハンセン病の後遺症が残っている姿を写真や映像で見せると、見た人が驚くだろうから、好ましくない	⑩たとえ目立つハンセン病の後遺症が残っていても、公共の場で堂々とふるまえる社会がよい	⑪機会があれば、自分もハンセン病療養所を訪ねてみたい	⑫ハンセン病の問題について、子どもを対象とした学校教育の機会を増やすべきだ	⑬ハンセン病の問題について、大人を対象とした啓発の機会（講演会・研修会・広報等）を増やすべきだ	⑭現在行われている、ハンセン病の問題を扱う学校教育や啓発（講演会・研修会・広報等）の方法や内容は評価できる
			「どちらともいえない」の割合													
全体		(20,916)	29.3	17.4	24.4	12.7	31.2	21.4	24.8	30.0	34.8	17.4	33.9	25.6	27.1	36.0
就業形態別	公務員	(829)	28.6	15.8	21.4	13.8	34.9	19.4	25.2	29.3	29.8	18.5	31.6	28.1	30.4	34.3
	雇用者	(780)	30.0	20.4	26.9	15.0	31.4	24.4	24.7	31.3	35.1	22.6	34.9	29.9	32.4	36.5
	正規の被雇用者	(5,305)	29.0	20.3	24.9	17.0	32.2	23.6	24.6	28.4	34.3	21.8	32.4	27.6	30.1	35.1
	非正規の被雇用者	(3,773)	29.1	16.7	23.2	11.7	30.9	21.2	23.7	29.0	33.6	16.2	32.7	24.6	25.4	35.6
	自営業者・自由業	(1,301)	30.0	15.9	23.1	11.8	31.3	21.1	25.1	31.5	35.9	15.7	33.8	27.7	29.5	39.0
	自営業の家族従事者等	(127)	32.3	21.3	24.4	18.9	37.8	18.9	25.2	30.7	34.6	13.4	30.7	23.6	21.3	30.7
	内職	(9)	33.3	11.1	11.1	11.1	22.2	11.1	11.1	11.1	22.2	11.1	33.3	11.1	11.1	22.2
	学生	(874)	23.2	16.5	17.3	13.4	27.8	15.8	16.4	19.9	26.1	16.4	25.6	21.1	22.3	25.3
	無職	(7,845)	30.0	15.9	25.6	9.9	30.5	20.7	26.2	32.4	37.0	14.8	36.7	24.2	25.3	37.8
	その他	(73)	37.0	23.3	30.1	17.8	31.5	24.7	30.1	39.7	34.2	15.1	34.2	23.3	27.4	41.1
職種別	教育関係の専門職	(1,113)	26.9	13.1	20.5	8.1	32.6	16.8	24.7	28.8	30.8	13.1	34.1	22.5	21.9	36.4
	福祉関係の専門職	(651)	29.0	17.5	22.4	13.5	33.6	22.1	22.6	26.4	31.3	15.7	31.6	23.8	22.3	34.4
	医療関係の専門職	(914)	26.5	15.3	19.0	10.8	32.6	18.1	23.7	26.0	30.0	17.0	33.9	21.9	25.4	36.2
	上記以外の専門職	(1,253)	28.9	17.3	25.1	12.0	32.7	20.5	24.5	33.6	34.8	18.0	34.8	25.5	28.6	37.3
	管理的職業	(1,646)	32.1	18.7	28.9	13.2	32.6	23.3	28.8	34.9	39.0	19.4	38.6	28.4	28.7	41.7
	事務・営業系の職業	(6,596)	28.9	16.5	23.7	11.9	30.7	20.5	23.7	29.6	35.0	16.2	33.4	24.4	27.0	35.5
	技能・労務・作業系の職業	(4,944)	30.2	18.6	25.2	14.3	31.3	23.1	25.5	30.4	36.2	18.9	34.0	27.4	28.7	36.6
	農林漁業職	(191)	30.9	19.4	27.7	17.3	28.3	24.1	25.1	30.4	31.9	21.5	39.3	29.3	32.5	39.3
	その他	(186)	30.6	20.4	25.8	14.0	30.1	25.3	24.7	31.7	35.5	16.7	30.6	28.0	30.6	32.3
	現在無職	(1,013)	30.0	13.7	22.1	6.6	28.6	17.5	24.3	30.2	34.6	12.8	35.4	22.9	23.0	35.2
	働いたことはない	(2,408)	28.6	20.4	25.7	16.6	30.0	24.0	25.1	28.1	33.3	19.6	31.4	27.0	27.5	32.4
学歴別・年齢別	短大未満（小計）	(9,903)	30.4	18.5	25.3	13.4	31.2	23.0	25.7	30.5	35.4	17.9	33.7	26.2	27.6	35.9
	18～29歳	(1,245)	23.5	18.6	19.4	16.8	26.7	21.8	19.5	22.7	27.6	20.1	25.1	22.1	25.5	26.0
	20～29歳	(959)	24.9	18.9	20.0	17.8	26.8	23.3	20.3	23.4	28.6	21.2	25.8	22.7	27.2	27.1
	30～39歳	(1,174)	24.5	16.7	20.4	14.1	28.8	20.4	18.3	21.5	28.2	18.4	25.1	24.0	24.2	28.2
	40～49歳	(1,616)	28.3	20.0	23.5	14.4	32.1	21.8	25.4	27.3	32.7	19.2	31.2	27.8	29.3	34.6
	50～59歳	(1,650)	32.8	19.9	25.2	15.3	33.7	23.3	27.3	32.6	37.8	18.5	35.3	28.1	30.1	38.5
	60～69歳	(1,329)	34.8	18.7	28.8	10.5	35.5	22.9	30.2	35.5	39.7	18.1	39.6	28.7	31.1	41.2
	70～79歳	(1,900)	35.2	17.5	29.7	11.5	31.6	24.6	28.2	36.1	40.7	15.3	39.8	26.4	26.7	41.7
	80～99歳	(989)	30.1	17.8	29.0	11.2	27.7	26.1	29.7	35.0	38.6	16.2	36.9	24.9	24.3	37.1
	短大以上（小計）	(11,003)	28.3	16.3	23.5	12.1	31.1	20.0	23.9	29.7	34.2	16.8	34.0	25.0	26.7	36.2
	18～29歳	(1,698)	25.8	17.8	18.8	15.5	26.7	18.0	17.5	22.0	27.9	18.4	25.9	23.7	25.3	27.6
	20～29歳	(1,448)	25.8	18.5	19.2	15.5	26.6	18.5	17.7	21.8	27.8	18.9	25.4	24.2	25.9	28.0
	30～39歳	(1,584)	27.9	18.2	21.4	16.2	30.1	21.1	21.0	24.1	30.0	19.1	29.4	25.4	29.4	32.2
	40～49歳	(1,961)	29.5	17.7	23.6	14.9	31.9	22.3	22.8	28.4	35.3	19.1	32.5	27.5	29.2	35.8
	50～59歳	(1,598)	26.7	16.1	23.0	10.8	33.7	19.6	26.1	28.6	34.7	16.6	36.1	27.0	28.0	38.3
	60～69歳	(1,727)	30.1	15.5	25.7	9.1	34.3	19.5	27.0	35.7	36.9	15.5	37.3	26.5	28.3	42.4
	70～79歳	(1,805)	29.8	12.9	26.3	6.8	31.1	18.2	28.1	35.9	38.7	13.7	40.9	21.3	22.5	39.6
	80～99歳	(630)	26.5	16.2	28.3	9.8	28.4	22.4	26.0	37.3	36.2	13.2	38.6	20.8	20.2	37.9

表 42　Q13 ハンセン病・ハンセン病元患者(回復者)に対する考え方
[就業形態別｜職種別｜学歴別・年齢別](3/3)

		(%) n=	①ハンセン病と聞くと、できるだけ距離をとりたいと思うのは当然な反応だ	②ハンセン病元患者（回復者）も、地域で普通に隣人として暮らせることが望ましい	③ハンセン病元患者（回復者）とは、たとえ治っていたとしても、関りを持ちたくない	④ハンセン病元患者（回復者）も、そうでない人も、人としての価値は変わらない	⑤自分の身内にハンセン病元患者（回復者）がいなくて、よかったと思う	⑥ハンセン病元患者（回復者）は、たとえ治っていたとしても、自分たちとは違う人たちだと感じる	⑦ハンセン病にかかるというのは、どこか遠い世界での出来事だと感じる	⑧時代や場所が違ったら、自分もハンセン病になったかもしれないと思う	⑨ハンセン病の後遺症が残っている姿を写真や映像で見せると、見た人が驚くだろうから、好ましくない	⑩たとえ目立つハンセン病の後遺症が残っていても、公共の場で堂々とふるまえる社会がよい	⑪機会があれば、自分もハンセン病療養所を訪ねてみたい	⑫ハンセン病の問題について、子どもを対象とした学校教育の機会を増やすべきだ	⑬ハンセン病の問題について、大人を対象とした啓発の機会（講演会・研修会・広報等）を増やすべきだ	⑭現在行われている、ハンセン病の問題を扱う学校教育や啓発（講演会・研修会・広報等）の方法や内容は評価できる
			「そう思わない」「どちらかといえばそう思わない」の割合													
全体		(20,916)	39.3	8.9	56.1	7.1	18.5	58.0	21.4	11.8	35.7	6.4	30.8	9.0	8.0	9.9
就業形態別	公務員	(829)	47.0	15.4	61.0	11.9	23.9	59.6	23.6	16.2	43.5	11.2	29.1	14.8	11.7	13.9
	雇用者	(780)	42.3	12.1	53.5	10.4	20.9	53.6	23.7	13.7	35.6	7.6	30.0	11.5	10.1	13.3
	正規の被雇用者	(5,305)	38.0	13.2	52.5	10.8	20.6	51.3	20.4	14.7	32.6	9.5	32.3	13.5	11.9	11.8
	非正規の被雇用者	(3,773)	38.5	7.7	56.1	6.3	18.6	57.3	18.9	9.4	35.9	5.4	29.7	7.8	6.9	8.9
	自営業者・自由業	(1,301)	40.2	7.6	57.9	6.0	17.5	60.3	23.5	11.9	37.7	6.0	30.8	8.8	8.1	10.1
	自営業の家族従事者等	(127)	40.2	8.7	58.3	7.1	18.9	62.2	21.3	12.6	37.0	9.4	36.2	11.0	10.2	9.4
	内職	(9)	55.6	22.2	88.9	11.1	44.4	88.9	33.3	22.2	77.8	11.1	22.2	11.1	11.1	11.1
	学生	(874)	39.2	13.6	59.7	12.0	26.3	54.0	21.2	16.1	36.0	10.6	31.4	13.4	11.1	12.4
	無職	(7,845)	39.5	5.3	57.7	3.9	15.6	63.0	22.4	9.8	36.5	3.8	30.5	5.3	4.9	8.0
	その他	(73)	32.9	5.5	46.6	2.7	13.7	60.3	23.3	12.3	39.7	4.1	20.5	9.6	6.8	4.1
職種別	教育関係の専門職	(1,113)	49.0	9.5	65.0	7.4	23.8	67.4	26.7	13.4	46.8	6.9	26.4	8.9	7.5	10.0
	福祉関係の専門職	(651)	45.9	11.2	61.9	8.6	24.7	58.8	28.6	13.2	44.5	9.2	26.4	9.8	8.9	9.4
	医療関係の専門職	(914)	50.0	10.0	67.6	9.0	24.4	66.0	28.8	12.8	47.8	6.1	27.1	10.2	8.0	11.5
	上記以外の専門職	(1,253)	41.3	9.4	57.5	7.8	17.4	60.6	21.1	12.5	39.3	5.9	34.3	9.7	9.3	11.7
	管理的職業	(1,646)	41.7	7.8	55.5	6.1	16.3	61.2	26.0	12.6	36.3	6.3	28.9	8.0	7.3	11.3
	事務・営業系の職業	(6,596)	39.6	7.9	56.9	6.1	17.9	59.7	20.2	11.5	35.3	6.0	32.7	8.8	7.5	9.6
	技能・労務・作業系の職業	(4,944)	35.6	8.8	53.4	7.4	17.5	54.3	18.5	10.5	31.7	6.4	30.7	9.0	8.4	9.5
	農林漁業職	(191)	39.8	9.4	50.3	6.8	18.3	55.0	24.6	12.6	30.9	5.8	28.3	14.1	8.4	6.8
	その他	(186)	37.1	8.6	52.7	7.5	18.3	54.3	16.7	10.2	31.7	8.1	29.0	10.8	9.1	8.6
	現在無職	(1,013)	37.2	4.5	59.4	2.9	13.1	64.0	21.8	8.7	36.3	2.9	30.4	3.8	3.8	6.0
	働いたことはない	(2,408)	34.5	12.7	48.6	10.3	20.6	47.7	20.3	14.2	31.2	8.6	30.2	11.1	10.1	11.1
学歴別・年齢別	短大未満（小計）	(9,903)	36.0	8.7	52.9	6.9	16.9	54.2	20.7	10.8	32.4	6.1	30.3	8.3	7.6	9.1
	18～29歳	(1,245)	34.1	17.4	48.1	14.4	22.9	42.2	18.8	17.0	27.5	10.7	32.0	17.3	14.9	14.2
	20～29歳	(959)	33.2	17.6	47.1	14.1	22.8	41.3	18.4	16.2	26.9	10.5	31.5	17.9	15.0	13.6
	30～39歳	(1,174)	35.3	13.1	49.5	11.2	21.3	48.0	19.4	13.5	31.6	9.5	33.0	11.8	12.4	11.5
	40～49歳	(1,616)	37.8	10.1	52.0	8.2	18.7	51.9	17.8	11.1	32.4	8.1	30.1	9.3	9.0	10.7
	50～59歳	(1,650)	35.2	6.4	53.6	4.8	16.2	54.2	18.6	7.3	30.8	5.0	28.4	7.2	6.2	7.9
	60～69歳	(1,329)	38.2	5.0	55.9	3.6	13.5	61.9	20.1	6.5	36.0	3.4	30.1	4.4	4.1	6.8
	70～79歳	(1,900)	36.0	4.7	55.7	3.3	13.5	61.6	24.6	9.7	36.2	2.7	30.2	4.1	3.5	6.4
	80～99歳	(989)	35.0	6.3	53.3	5.7	13.0	56.1	26.6	13.0	30.3	4.7	28.8	6.4	5.7	7.9
	短大以上（小計）	(11,003)	42.4	9.1	59.1	7.3	20.0	61.4	22.0	12.7	38.7	6.8	31.3	9.7	8.3	10.6
	18～29歳	(1,698)	38.2	17.3	56.9	14.6	26.3	51.8	21.9	18.4	34.5	11.8	33.8	16.7	13.4	13.1
	20～29歳	(1,448)	37.7	17.7	55.7	15.4	26.5	50.5	21.5	19.3	34.0	12.3	34.2	17.5	14.0	13.5
	30～39歳	(1,584)	37.9	13.3	53.8	11.0	23.7	51.5	18.5	15.1	35.7	10.5	31.3	14.5	13.1	13.1
	40～49歳	(1,961)	41.4	9.7	56.5	7.7	20.6	56.0	17.8	10.9	36.4	8.0	31.0	10.9	9.7	10.8
	50～59歳	(1,598)	46.4	6.4	61.5	5.1	19.0	64.5	19.5	10.5	41.3	4.4	29.7	7.4	6.6	9.5
	60～69歳	(1,727)	45.6	5.3	62.2	3.8	17.3	69.1	23.9	11.1	42.6	3.9	32.4	5.7	5.0	8.9
	70～79歳	(1,805)	45.4	4.7	63.4	3.5	15.7	72.9	26.4	9.7	42.9	3.2	30.1	4.7	4.2	8.9
	80～99歳	(630)	39.8	4.9	59.0	2.7	14.6	66.7	32.5	15.6	35.9	4.0	29.4	6.3	4.3	8.7

（5）ハンセン病元患者（回復者）・家族に対する態度

ハンセン病元患者（回復者）・家族に対する態度を地域別に比較すると、療養所の有無で回答傾向に大きな差はみられなかった。

療養所のある都道府県別にみると、熊本県、鹿児島県、沖縄県では、全ての項目について「とても抵抗を感じる」「やや抵抗を感じる」と回答し抵抗感を示した割合が全体平均より低かった。

「①近所に住むこと」に抵抗感がある割合は、沖縄県で 5.8％と低かった。

「②同じ職場で働くこと」に抵抗感がある割合は、鹿児島県で 6.4％と低かった。

「③同じ学校に通うこと」に抵抗感がある割合は、鹿児島県で 4.4％と低かった。

「④同じ医療機関・福祉施設に通院・通所すること」に抵抗感がある割合は、沖縄県で 5.4％と低かった。

「⑤同じ医療機関・福祉施設に入院・入所すること」に抵抗感がある割合は、沖縄県で 6.3％と低かった。

「⑥食事をともにすること」「⑦手をつなぐ等の身体に触れること」「⑧ホテルなどで同じ浴場を利用すること」「⑨ハンセン病元患者（回復者）の家族とあなたの家族が結婚すること」に抵抗感がある割合は、いずれも沖縄県で低かった。

表 43　Q14 ハンセン病元患者（回復者）・家族に対する態度［地域別］（1/2）

(%)		n=	①近所に住むこと	②同じ職場で働くこと	③同じ学校に通うこと	④同じ医療機関・福祉施設に通院・通所すること	⑤同じ医療機関・福祉施設に入院・入所すること	⑥食事をともにすること	⑦手をつなぐ等の身体に触れること	⑧ホテルなどで同じ浴場を利用すること	⑨ハンセン病元患者（回復者）の家族とあなたの家族が結婚すること
			「とても抵抗を感じる」「やや抵抗を感じる」の割合								
全体		(20,916)	9.3	9.5	8.2	7.5	9.6	12.0	18.5	19.8	21.8
地域	北海道	(888)	7.3	8.2	7.0	6.5	8.4	10.4	15.9	16.7	18.1
	東北	(1,444)	9.8	9.7	7.8	7.4	9.8	11.4	18.4	19.5	23.4
	関東	(7,193)	9.5	9.5	8.3	7.7	9.9	12.5	18.8	20.2	21.2
	中部（小計）	(3,820)	10.0	10.7	9.3	8.4	10.1	13.1	19.4	20.8	24.1
	甲信越	(858)	9.4	9.8	8.9	8.2	8.7	11.4	17.0	18.4	22.8
	北陸	(514)	7.6	8.9	8.0	6.4	10.1	11.5	18.7	20.8	23.9
	東海	(2,448)	10.7	11.4	9.8	8.9	10.5	14.1	20.4	21.6	24.6
	近畿	(3,382)	9.2	9.3	8.2	7.5	10.3	12.4	18.7	19.9	21.3
	中国	(1,218)	7.8	8.7	7.1	5.7	7.4	10.3	17.0	18.6	20.5
	四国	(648)	8.0	8.3	6.9	6.9	8.3	9.7	18.4	20.2	22.5
	九州・沖縄（小計）	(2,323)	8.9	8.8	7.4	7.0	8.6	11.0	17.2	18.6	21.6
	北九州	(1,183)	10.2	10.2	8.7	8.1	10.4	12.5	19.4	20.7	23.0
	南九州・沖縄	(1,140)	7.5	7.4	6.1	5.9	6.7	9.4	14.9	16.5	20.2
療養所有無	療養所のある都道府県（小計）	(5,064)	9.1	9.4	8.0	7.6	9.1	11.4	18.3	19.6	21.4
	青森県	(202)	12.4	11.4	7.9	8.4	10.4	11.4	16.3	16.8	21.8
	宮城県	(383)	8.9	9.1	8.4	7.3	9.7	12.0	17.8	20.4	23.0
	群馬県	(325)	10.8	8.9	7.7	5.5	8.0	9.8	18.2	18.2	22.2
	東京都	(2,312)	9.0	9.3	8.2	7.7	9.4	11.6	18.2	20.1	20.0
	静岡県	(607)	9.6	10.4	8.9	8.9	10.4	15.0	22.6	23.9	26.5
	岡山県	(308)	9.1	11.4	8.4	8.4	9.1	11.4	19.8	19.5	23.7
	香川県	(166)	11.4	10.8	9.6	9.6	9.6	10.8	19.9	21.1	24.7
	熊本県	(288)	7.6	8.7	7.3	6.6	6.6	9.7	15.3	15.6	17.7
	鹿児島県	(250)	8.4	6.4	4.4	6.0	7.2	9.2	16.0	18.0	21.6
	沖縄県	(223)	5.8	7.2	5.8	5.4	6.3	6.3	13.0	12.6	16.6
	療養所のない都道府県	(15,852)	9.3	9.5	8.2	7.5	9.7	12.2	18.5	19.8	21.9

表 44 Q14 ハンセン病元患者(回復者)・家族に対する態度[地域別](2/2)

		(%) n=	①近所に住むこと	②同じ職場で働くこと	③同じ学校に通うこと	④同じ医療機関・福祉施設に通院・通所すること	⑤同じ医療機関・福祉施設に入院・入所すること	⑥食事をともにすること	⑦手をつなぐ等の身体に触れること	⑧ホテルなどで同じ浴場を利用すること	⑨ハンセン病元患者(回復者)の家族とあなたの家族が結婚すること
			「どちらともいえない」の割合								
全体		(20,916)	25.6	23.6	22.8	20.7	21.6	24.3	28.0	26.0	31.0
地域	北海道	(888)	24.2	21.6	19.7	17.2	18.0	22.2	28.5	25.1	34.6
	東北	(1,444)	27.4	25.7	24.9	21.5	23.1	26.6	30.7	28.3	32.5
	関東	(7,193)	24.8	23.3	22.5	20.7	21.1	23.7	27.2	25.5	30.9
	中部(小計)	(3,820)	27.1	24.7	23.9	21.6	23.1	26.3	29.4	27.7	31.1
	甲信越	(858)	24.8	21.9	22.0	18.6	21.7	23.4	29.4	27.2	29.4
	北陸	(514)	29.8	28.4	26.3	23.7	24.3	29.2	31.7	30.0	35.2
	東海	(2,448)	27.4	24.9	24.1	22.1	23.4	26.8	28.9	27.5	30.8
	近畿	(3,382)	25.3	22.5	22.1	20.5	21.3	23.5	26.7	24.4	29.8
	中国	(1,218)	25.5	23.1	21.9	20.9	21.8	22.7	27.2	24.7	31.0
	四国	(648)	29.2	26.2	25.6	22.4	23.0	27.5	29.3	27.8	34.0
	九州・沖縄(小計)	(2,323)	25.1	23.1	22.3	19.4	21.2	23.5	28.8	25.7	29.7
	北九州	(1,183)	27.4	24.9	24.4	20.5	22.6	24.3	28.5	26.7	28.8
	南九州・沖縄	(1,140)	22.7	21.1	20.0	18.2	19.8	22.6	29.0	24.7	30.7
療養所有無	療養所のある都道府県(小計)	(5,064)	24.3	22.9	21.9	19.8	21.0	23.8	27.7	25.2	30.3
	青森県	(202)	23.8	25.2	25.2	21.8	22.8	25.7	36.6	33.2	38.6
	宮城県	(383)	24.8	23.5	24.0	20.6	23.2	24.0	29.0	25.6	28.2
	群馬県	(325)	24.6	23.4	20.0	21.2	18.8	22.8	27.4	23.7	30.8
	東京都	(2,312)	23.8	22.7	22.0	20.1	20.9	24.0	27.0	24.5	30.0
	静岡県	(607)	29.2	24.9	23.1	20.3	22.9	24.4	25.4	24.2	29.2
	岡山県	(308)	25.0	21.8	19.8	18.8	20.8	22.7	26.3	26.3	29.5
	香川県	(166)	27.7	26.5	25.9	21.7	22.9	26.5	27.7	26.5	30.7
	熊本県	(288)	20.8	20.8	18.8	17.0	18.4	22.6	28.5	26.7	31.9
	鹿児島県	(250)	22.0	24.0	23.2	19.2	20.8	27.6	27.6	26.0	30.4
	沖縄県	(223)	19.7	17.0	16.1	14.3	17.5	16.6	31.8	22.9	30.9
	療養所のない都道府県	(15,852)	26.1	23.8	23.0	20.9	21.8	24.5	28.2	26.2	31.2

ハンセン病元患者（回復者）・家族に対する態度を年齢別に比較すると、全ての項目について「とても抵抗を感じる」「やや抵抗を感じる」と回答し抵抗感を示した割合は、中年層に比べて若年層と高齢層で高い傾向がみられた。

「①近所に住むこと」に抵抗感がある割合は、80～99 歳が 12.9%で最も高く、18～29 歳が 12.4%で続き、50～59 歳が 6.4%で最も低かった。

「②同じ職場で働くこと」に抵抗感がある割合は、80～99 歳が 13.5%で最も高く、70～79 歳が 10.8%、18～29 歳が 10.4%で続き、50～59 歳が 7.4%で最も低かった。

「③同じ学校に通うこと」に抵抗感がある割合は、80～99 歳が 12.3%で最も高く、70～79 歳が 9.4%、18～29 歳が 9.2%で続き、50～59 歳が 6.0%で最も低かった。

「④同じ医療機関・福祉施設に通院・通所すること」に抵抗感がある割合は、80～99 歳が 10.8%で最も高く、18～29 歳が 9.7%で続き、50～59 歳が 5.2%で最も低かった。

「⑤同じ医療機関・福祉施設に入院・入所すること」に抵抗感がある割合は、80～99 歳、18～29 歳がいずれも 13.7%で最も高く、50～59 歳が 6.5%で最も低かった。

「⑥食事をともにすること」に抵抗感がある割合は、80～99 歳が 17.7%で最も高く、18～29 歳が 15.3%で続き、50～59 歳が 8.8%で最も低かった。

「⑦手をつなぐ等の身体に触れること」に抵抗感がある割合は、80～99 歳が 25.2%で最も高く、70～79 歳が 21.2%、18～29 歳が 20.8%で続き、50～59 歳が 14.2%で最も低かった。

「⑧ホテルなどで同じ浴場を利用すること」に抵抗感がある割合は、80～99 歳が 25.1%で最も高く、70～79 歳、18～29 歳がいずれも 22.4%で続き、50～59 歳が 16.5%で最も低かった。

「⑨ハンセン病元患者（回復者）の家族とあなたの家族が結婚すること」に抵抗感がある割合は、80～99 歳が 31.3%で最も高く、70～79 歳が 26.7%、60～69 歳が 23.0%で続き、高齢層が高かった。ついで、18～29 歳が 20.1%で、30～59 歳は 18%台であった。

表 45　Q14 ハンセン病元患者（回復者）・家族に対する態度［性別・年齢別］（1/2）

(%)		n=	①近所に住むこと	②同じ職場で働くこと	③同じ学校に通うこと	④同じ医療機関・福祉施設に通院・通所すること	⑤同じ医療機関・福祉施設に入院・入所すること	⑥食事をともにすること	⑦手をつなぐ等の身体に触れること	⑧ホテルなどで同じ浴場を利用すること	⑨ハンセン病元患者（回復者）の家族とあなたの家族が結婚すること
			「とても抵抗を感じる」「やや抵抗を感じる」の割合								
全体		(20,916)	9.3	9.5	8.2	7.5	9.6	12.0	18.5	19.8	21.8
性別	男性	(10,141)	10.2	10.0	8.5	8.0	10.2	12.7	18.3	19.0	21.8
	女性	(10,707)	8.4	9.0	7.9	7.1	9.0	11.4	18.7	20.7	21.8
	どちらでもない	(68)	5.9	5.9	1.5	2.9	4.4	7.4	7.4	4.4	11.8
年齢別	18～29歳	(2,943)	12.4	10.4	9.2	9.7	13.7	15.3	20.8	22.4	20.1
	20～29歳	(2,407)	11.8	10.2	8.7	8.6	12.0	14.6	19.8	21.5	19.6
	30～39歳	(2,759)	9.2	9.0	8.0	7.2	10.0	11.7	17.0	19.8	18.4
	40～49歳	(3,579)	7.8	8.0	7.0	7.0	8.2	10.5	16.3	17.6	18.8
	50～59歳	(3,249)	6.4	7.4	6.0	5.2	6.5	8.8	14.2	16.5	18.1
	60～69歳	(3,060)	8.4	9.1	7.3	6.1	7.8	10.5	17.8	17.4	23.0
	70～79歳	(3,707)	9.9	10.8	9.4	8.3	9.8	12.8	21.2	22.4	26.7
	80～99歳	(1,619)	12.9	13.5	12.3	10.8	13.7	17.7	25.2	25.1	31.3
性別・年齢別	男性（小計）	(10,141)	10.2	10.0	8.5	8.0	10.2	12.7	18.3	19.0	21.8
	18～29歳	(1,477)	14.8	10.8	9.5	10.8	15.0	16.0	19.4	20.7	21.7
	20～29歳	(1,211)	14.4	10.9	9.3	10.6	14.0	15.6	18.8	20.3	21.4
	30～39歳	(1,390)	10.4	9.7	8.4	8.0	11.7	13.2	16.5	18.4	18.3
	40～49歳	(1,796)	8.1	7.7	6.5	7.0	8.2	9.9	14.6	14.6	17.5
	50～59歳	(1,623)	6.8	7.4	6.3	5.3	6.3	8.9	13.6	15.5	17.3
	60～69歳	(1,497)	9.1	10.6	8.5	6.1	8.0	11.7	18.8	18.1	23.9
	70～79歳	(1,515)	9.8	11.0	9.6	8.9	9.9	13.3	21.9	21.9	25.7
	80～99歳	(843)	15.5	15.9	13.9	12.0	15.2	20.3	29.4	29.1	35.0
	女性（小計）	(10,707)	8.4	9.0	7.9	7.1	9.0	11.4	18.7	20.7	21.8
	18～29歳	(1,442)	10.1	10.1	9.1	8.7	12.4	14.6	22.5	24.3	18.6
	20～29歳	(1,175)	9.2	9.5	8.2	6.8	10.1	13.7	21.1	23.0	18.0
	30～39歳	(1,358)	7.9	8.3	7.7	6.4	8.2	10.1	17.5	21.3	18.3
	40～49歳	(1,771)	7.5	8.5	7.5	6.9	8.2	11.2	18.0	20.6	20.2
	50～59歳	(1,620)	6.0	7.4	5.7	5.2	6.7	8.7	14.8	17.5	19.0
	60～69歳	(1,559)	7.8	7.7	6.2	6.2	7.6	9.4	16.9	16.8	22.1
	70～79歳	(2,188)	9.9	10.6	9.3	7.8	9.7	12.5	20.7	22.9	27.5
	80～99歳	(769)	10.1	11.1	10.7	9.6	12.1	15.0	20.8	20.9	27.4

表 46　Q14 ハンセン病元患者（回復者）・家族に対する態度［性別・年齢別］（2/2）

		(%) n=	①近所に住むこと	②同じ職場で働くこと	③同じ学校に通うこと	④同じ医療機関・福祉施設に通院・通所すること	⑤同じ医療機関・福祉施設に入院・入所すること	⑥食事をともにすること	⑦手をつなぐ等の身体に触れること	⑧ホテルなどで同じ浴場を利用すること	⑨ハンセン病元患者（回復者）の家族とあなたの家族が結婚すること
			「どちらともいえない」の割合								
全体		(20,916)	25.6	23.6	22.8	20.7	21.6	24.3	28.0	26.0	31.0
性別	男性	(10,141)	27.7	25.0	24.6	22.5	23.5	25.4	28.6	26.3	31.7
	女性	(10,707)	23.8	22.3	21.1	19.0	19.9	23.4	27.6	25.7	30.4
	どちらでもない	(68)	19.1	8.8	11.8	14.7	13.2	14.7	16.2	16.2	20.6
年齢別	18～29歳	(2,943)	22.4	20.2	18.4	19.6	19.3	20.9	21.5	19.9	24.1
	20～29歳	(2,407)	22.4	20.4	18.8	20.0	19.9	20.8	21.6	20.4	24.4
	30～39歳	(2,759)	23.1	20.8	19.9	19.6	19.8	22.1	25.8	23.3	28.5
	40～49歳	(3,579)	23.9	21.5	21.3	20.3	21.4	23.2	27.0	25.0	29.1
	50～59歳	(3,249)	26.0	23.5	23.8	20.3	21.9	24.6	29.5	26.4	31.5
	60～69歳	(3,060)	26.9	24.4	23.7	20.6	21.5	25.3	31.2	29.3	34.3
	70～79歳	(3,707)	29.3	27.5	26.2	21.9	24.0	28.3	32.1	29.5	36.3
	80～99歳	(1,619)	28.3	28.4	27.1	23.0	23.8	25.6	27.9	28.4	32.6
性別・年齢別	男性（小計）	(10,141)	27.7	25.0	24.6	22.5	23.5	25.4	28.6	26.3	31.7
	18～29歳	(1,477)	25.0	22.2	19.9	21.6	21.1	21.1	22.7	20.6	22.7
	20～29歳	(1,211)	25.2	22.5	20.6	21.8	21.5	21.7	22.8	21.0	23.6
	30～39歳	(1,390)	23.9	20.9	20.6	20.6	20.6	21.9	25.1	22.6	29.2
	40～49歳	(1,796)	25.7	22.5	22.6	21.7	22.6	23.9	27.5	25.5	29.5
	50～59歳	(1,623)	28.2	25.8	26.4	23.2	25.1	27.5	32.1	27.6	32.9
	60～69歳	(1,497)	29.5	25.3	25.9	23.4	24.2	27.1	32.1	30.9	35.7
	70～79歳	(1,515)	32.0	30.4	28.4	23.8	26.3	28.9	32.3	29.4	38.2
	80～99歳	(843)	31.1	30.6	30.7	23.7	24.9	27.9	27.9	28.2	35.0
	女性（小計）	(10,707)	23.8	22.3	21.1	19.0	19.9	23.4	27.6	25.7	30.4
	18～29歳	(1,442)	19.9	18.4	17.0	17.6	17.6	20.7	20.3	19.2	25.3
	20～29歳	(1,175)	19.7	18.5	17.1	18.2	18.3	20.1	20.4	19.8	25.1
	30～39歳	(1,358)	22.3	20.8	19.4	18.7	18.9	22.4	26.7	24.2	28.1
	40～49歳	(1,771)	22.2	20.5	20.0	19.1	20.3	22.5	26.7	24.6	28.7
	50～59歳	(1,620)	23.8	21.4	21.3	17.4	18.6	21.7	26.9	25.3	30.2
	60～69歳	(1,559)	24.5	23.6	21.7	18.0	18.9	23.5	30.3	27.8	33.0
	70～79歳	(2,188)	27.4	25.5	24.6	20.6	22.3	27.7	31.9	29.4	35.1
	80～99歳	(769)	25.2	26.0	23.0	22.2	22.8	23.1	28.1	28.6	29.9

ハンセン病元患者（回復者）・家族に対する態度を就業形態別、職種別に比較すると、教育関係の専門職、医療関係の専門職は全ての項目について「とても抵抗を感じる」「やや抵抗を感じる」と回答し抵抗感を示した割合が全体平均より低かった。福祉関係の専門職は、「④同じ医療機関・福祉施設に通院・通所すること」「⑤同じ医療機関・福祉施設に入院・入所すること」に抵抗感を示した割合は全体平均より高かったが、それ以外の項目について抵抗感がある割合は全体平均より低かった。公務員には明確な傾向はみられなかった。

なお、9 項目のうち、①、⑤～⑧の項目については学生で抵抗感を感じる割合が高い傾向がみられた。

学歴別・年齢別に比較すると、最終学歴が短大未満と短大以上で回答傾向に大きな差はみられなかった。

表 47　Q14 ハンセン病元患者(回復者)・家族に対する態度[就業形態別｜職種別｜学歴別・年齢別](1/2)

(%)		n=	①近所に住むこと	②同じ職場で働くこと	③同じ学校に通うこと	④同じ医療機関・福祉施設に通院・通所すること	⑤同じ医療機関・福祉施設に入院・入所すること	⑥食事をともにすること	⑦手をつなぐ等の身体に触れること	⑧ホテルなどで同じ浴場を利用すること	⑨ハンセン病元患者（回復者）の家族とあなたの家族が結婚すること
			「とても抵抗を感じる」「やや抵抗を感じる」の割合								
全体		(20,916)	9.3	9.5	8.2	7.5	9.6	12.0	18.5	19.8	21.8
就業形態別	公務員	(829)	9.8	8.1	6.2	6.5	9.3	11.0	16.2	16.9	20.0
	雇用者	(780)	9.5	9.0	6.3	7.7	9.7	11.7	17.4	18.2	21.5
	正規の被雇用者	(5,305)	9.9	9.7	8.6	7.7	9.7	12.4	17.3	19.3	20.5
	非正規の被雇用者	(3,773)	7.6	9.1	7.4	6.7	8.6	11.1	18.4	20.3	21.5
	自営業者・自由業	(1,301)	7.8	9.1	7.2	7.1	9.1	10.2	16.1	17.0	18.4
	自営業の家族従事者等	(127)	7.9	9.4	7.9	7.1	8.7	9.4	17.3	14.2	17.3
	内職	(9)	0.0	11.1	11.1	11.1	11.1	0.0	22.2	22.2	11.1
	学生	(874)	14.4	10.4	9.5	10.4	15.2	16.5	23.6	23.7	19.9
	無職	(7,845)	9.3	9.7	8.6	7.6	9.5	12.3	19.5	20.5	23.8
	その他	(73)	6.8	8.2	11.0	5.5	6.8	11.0	19.2	19.2	23.3
職種別	教育関係の専門職	(1,113)	6.8	6.7	6.2	5.3	7.2	9.3	16.1	17.8	21.0
	福祉関係の専門職	(651)	7.7	8.1	7.8	8.8	10.4	10.6	15.1	18.1	20.1
	医療関係の専門職	(914)	7.9	6.6	5.8	5.6	8.1	8.5	14.4	17.7	20.8
	上記以外の専門職	(1,253)	9.3	9.7	7.8	6.9	9.1	11.9	18.1	18.0	19.5
	管理的職業	(1,646)	10.3	10.6	8.9	7.7	10.6	13.7	19.0	20.1	24.3
	事務・営業系の職業	(6,596)	9.1	9.6	8.3	7.0	8.7	11.6	19.0	20.4	21.9
	技能・労務・作業系の職業	(4,944)	9.3	9.9	8.4	8.1	9.9	12.3	18.4	19.6	21.8
	農林漁業職	(191)	10.5	9.9	7.9	9.9	11.5	12.6	18.8	17.3	20.4
	その他	(186)	7.0	8.1	8.1	6.5	9.1	14.5	19.9	19.9	22.6
	現在無職	(1,013)	9.1	9.9	8.8	7.8	9.5	13.5	21.9	24.4	27.4
	働いたことはない	(2,408)	11.0	9.9	8.8	9.1	12.3	13.7	18.8	19.6	20.0
学歴別・年齢別	短大未満（小計）	(9,903)	9.2	9.8	8.4	7.9	9.8	12.3	18.3	19.9	21.9
	18～29歳	(1,245)	11.7	10.5	9.1	10.3	14.1	15.3	19.8	22.5	20.1
	20～29歳	(959)	10.6	10.1	8.0	8.3	11.7	14.0	19.4	22.1	19.5
	30～39歳	(1,174)	7.6	8.6	7.0	6.9	9.1	11.1	15.1	19.1	16.4
	40～49歳	(1,616)	7.5	8.2	7.2	6.7	8.0	11.7	16.0	17.8	18.8
	50～59歳	(1,650)	7.0	7.9	6.2	6.1	7.0	9.1	14.1	16.7	18.7
	60～69歳	(1,329)	8.6	9.0	7.0	6.5	7.9	9.9	18.0	17.6	22.5
	70～79歳	(1,900)	10.9	12.2	11.1	9.0	11.2	14.2	22.8	23.5	27.9
	80～99歳	(989)	11.9	12.3	11.5	10.9	13.1	15.7	23.3	22.4	28.9
	短大以上（小計）	(11,003)	9.3	9.2	8.0	7.2	9.3	11.8	18.6	19.7	21.7
	18～29歳	(1,698)	13.0	10.4	9.3	9.2	13.4	15.3	21.6	22.3	20.1
	20～29歳	(1,448)	12.5	10.3	9.1	8.8	12.2	15.0	20.1	21.1	19.7
	30～39歳	(1,584)	10.4	9.3	8.8	7.4	10.7	12.1	18.4	20.3	19.9
	40～49歳	(1,961)	8.1	7.9	6.8	7.2	8.3	9.5	16.5	17.4	18.9
	50～59歳	(1,598)	5.8	6.9	5.7	4.4	5.9	8.4	14.2	16.2	17.5
	60～69歳	(1,727)	8.3	9.1	7.5	5.8	7.7	11.0	17.6	17.3	23.4
	70～79歳	(1,805)	8.8	9.4	7.7	7.5	8.3	11.4	19.5	21.2	25.4
	80～99歳	(630)	14.4	15.4	13.5	10.6	14.4	20.8	28.3	29.2	34.9

表 48 Q14 ハンセン病元患者(回復者)・家族に対する態度[就業形態別｜職種別｜学歴別・年齢別](2/2)

(%)		n=	①近所に住むこと	②同じ職場で働くこと	③同じ学校に通うこと	④同じ医療機関・福祉施設に通院・通所すること	⑤同じ医療機関・福祉施設に入院・入所すること	⑥食事をともにすること	⑦手をつなぐ等の身体に触れること	⑧ホテルなどで同じ浴場を利用すること	⑨ハンセン病元患者（回復者）の家族とあなたの家族が結婚すること
			「どちらともいえない」の割合								
全体		(20,916)	25.6	23.6	22.8	20.7	21.6	24.3	28.0	26.0	31.0
就業形態別	公務員	(829)	24.5	22.2	20.7	22.1	21.7	22.9	26.2	23.9	30.2
	雇用者	(780)	26.3	24.9	25.6	22.1	22.9	24.7	27.7	24.2	30.6
	正規の被雇用者	(5,305)	26.3	23.3	22.5	21.5	22.0	23.8	27.1	24.9	29.4
	非正規の被雇用者	(3,773)	25.4	23.0	22.5	20.4	21.6	24.6	29.2	27.2	30.5
	自営業者・自由業	(1,301)	23.9	21.9	22.1	19.8	20.7	22.4	26.5	24.6	30.6
	自営業の家族従事者等	(127)	25.2	23.6	19.7	17.3	16.5	23.6	24.4	21.3	32.3
	内職	(9)	22.2	22.2	33.3	22.2	22.2	22.2	22.2	11.1	11.1
	学生	(874)	20.7	19.3	17.3	17.6	17.0	20.4	20.3	17.5	23.1
	無職	(7,845)	26.1	24.7	23.7	20.5	22.0	25.4	29.5	27.7	33.3
	その他	(73)	42.5	32.9	30.1	24.7	28.8	24.7	32.9	34.2	35.6
職種別	教育関係の専門職	(1,113)	24.6	21.4	20.4	18.6	18.9	22.3	27.4	24.7	31.1
	福祉関係の専門職	(651)	24.6	20.9	19.8	18.0	18.9	21.7	26.7	24.0	31.6
	医療関係の専門職	(914)	22.2	18.8	17.5	16.4	17.1	20.2	27.5	22.6	28.3
	上記以外の専門職	(1,253)	25.6	22.3	22.8	20.4	20.7	22.7	27.8	26.0	32.6
	管理的職業	(1,646)	28.1	27.1	25.5	22.5	23.7	26.1	30.4	28.3	34.7
	事務・営業系の職業	(6,596)	24.9	23.0	22.3	20.5	21.6	24.5	27.9	25.7	30.5
	技能・労務・作業系の職業	(4,944)	26.5	24.0	23.5	21.0	21.8	24.5	28.6	26.8	31.3
	農林漁業職	(191)	30.4	26.2	26.7	19.4	27.2	30.9	30.9	28.8	36.1
	その他	(186)	23.1	22.6	23.1	21.5	22.6	19.9	21.0	20.4	22.6
	現在無職	(1,013)	23.3	24.8	22.8	19.3	20.8	25.9	27.9	25.8	30.6
	働いたことはない	(2,408)	27.1	25.2	24.2	23.4	24.1	25.3	26.9	26.1	29.7
学歴別・年齢別	短大未満（小計）	(9,903)	26.9	24.8	24.2	21.4	22.8	25.1	28.9	27.1	32.1
	18～29歳	(1,245)	23.3	20.7	19.8	20.7	20.9	21.4	22.7	20.2	25.9
	20～29歳	(959)	23.8	21.1	20.9	21.7	21.8	21.0	22.3	21.0	26.7
	30～39歳	(1,174)	24.2	20.0	19.5	17.9	18.8	19.6	24.9	23.7	30.2
	40～49歳	(1,616)	24.3	21.6	21.7	20.7	22.2	23.2	27.5	24.3	28.5
	50～59歳	(1,650)	27.6	25.9	26.4	22.0	23.9	26.3	30.9	28.5	32.7
	60～69歳	(1,329)	27.4	26.0	25.0	21.1	22.8	27.7	32.5	31.0	36.0
	70～79歳	(1,900)	31.2	29.1	27.8	23.9	25.6	29.5	32.6	30.6	36.7
	80～99歳	(989)	28.4	29.3	27.5	22.0	24.0	25.6	28.3	29.8	32.9
	短大以上（小計）	(11,003)	24.5	22.4	21.5	20.0	20.6	23.6	27.3	25.0	30.0
	18～29歳	(1,698)	21.8	19.8	17.4	18.8	18.1	20.5	20.6	19.7	22.7
	20～29歳	(1,448)	21.5	20.0	17.5	18.9	18.6	20.7	21.2	20.0	22.9
	30～39歳	(1,584)	22.3	21.3	20.3	20.9	20.5	23.9	26.5	23.0	27.2
	40～49歳	(1,961)	23.6	21.3	20.9	20.0	20.8	23.1	26.6	25.7	29.5
	50～59歳	(1,598)	24.3	21.1	21.1	18.5	19.8	22.9	28.0	24.3	30.4
	60～69歳	(1,727)	26.5	23.2	22.8	20.3	20.6	23.4	30.1	28.0	32.9
	70～79歳	(1,805)	27.3	25.9	24.5	19.7	22.4	27.0	31.6	28.3	35.9
	80～99歳	(630)	28.1	27.0	26.3	24.6	23.7	25.6	27.3	26.2	32.1

（6）ハンセン病強制隔離政策の認知度

ハンセン病強制隔離政策の認知度を地域別に比較すると、全ての項目について、療養所のある都道府県の認知度は療養所のない都道府県を上回っていた。特に、「⑦現在も『ハンセン病療養所』があり、ハンセン病が治った後も暮らし続けている人がいること」を「知っている」「少し知っている」と回答した割合は、療養所のある都道府県で 41.4%、療養所のない都道府県 34.6%であり、その差が大きかった。

療養所のある都道府県別にみると、全ての項目について認知度が最も高かったのは熊本県であり、香川県、鹿児島県、沖縄県も全ての項目の認知度が全体平均より高かった。

特に、熊本県は、「⑤平成 13（2001）年に強制隔離政策を違憲とする熊本地裁判決が下されたこと」の認知度が 57.6%、「⑥令和元（2019）年にハンセン病患者家族に対する偏見や差別の被害を認める熊本地裁判決が下されたこと」の認知度が 60.1%、「⑦現在も『ハンセン病療養所』があり、ハンセン病が治った後も暮らし続けている人がいること」の認知度が 70.5%であり、全体平均のそれぞれ 29.6%、29.9%、36.2%に比べて顕著に高かった。

また、「①明治後期以降、ハンセン病患者を強制的に収容する『強制隔離政策』が行われたこと」については、熊本県の認知度 71.2%に次いで岡山県の認知度が 70.8%と顕著に高かった。「③有効な薬が開発され、治療法が確立されたが、強制隔離政策はそのまま継続されたこと」、「④平成 8（1996）年に強制隔離政策を主体とした『らい予防法』が廃止されたこと」、「⑦現在も『ハンセン病療養所』があり、ハンセン病が治った後も暮らし続けている人がいること」の 3 項目については、熊本県に次いで、岡山県、香川県の認知度が顕著に高かった。

表 49 Q15 ハンセン病強制隔離政策の認知度[地域別]

(%)		n=	①明治後期以降、ハンセン病患者を強制的に収容する「強制隔離政策」が行われたこと	②戦前および戦後にかけて、全てのハンセン病患者を強制隔離する、官民一体の「無らい県運動」が行なわれたこと	③有効な薬が開発され、治療法が確立されたが、強制隔離政策はそのまま継続されたこと	④平成８（１９９６）年に強制隔離政策を主体とした「らい予防法」が廃止されたこと	⑤平成１３（２００１）年に強制隔離政策を違憲とする熊本地裁判決が下されたこと	⑥令和元（２０１９）年にハンセン病患者家族に対する偏見や差別の被害を認める熊本地裁判決が下されたこと	⑦現在も「ハンセン病療養所」があり、ハンセン病が治った後も暮らし続けている人がいること
			「知っている」「少し知っている」の割合						
全体		(20,916)	52.8	32.4	41.6	34.1	29.6	29.9	36.2
地域	北海道	(888)	52.5	31.1	40.5	32.1	30.9	29.5	32.9
	東北	(1,444)	49.2	32.0	40.0	33.2	29.1	30.3	34.4
	関東	(7,193)	52.5	32.8	41.2	33.5	28.8	29.6	35.0
	中部（小計）	(3,820)	49.3	30.3	38.9	31.4	28.1	28.6	32.6
	甲信越	(858)	51.9	30.2	40.4	31.9	30.1	30.3	33.7
	北陸	(514)	47.5	30.2	38.5	27.8	27.6	27.0	30.4
	東海	(2,448)	48.7	30.4	38.4	31.9	27.5	28.3	32.7
	近畿	(3,382)	52.7	30.5	40.4	33.9	28.4	28.7	34.5
	中国	(1,218)	59.0	33.8	44.7	37.8	30.1	26.1	42.2
	四国	(648)	60.3	38.6	50.9	41.8	31.6	31.0	48.5
	九州・沖縄（小計）	(2,323)	57.0	35.3	46.3	37.5	35.0	36.4	44.0
	北九州	(1,183)	54.9	33.5	43.4	35.8	31.6	33.4	37.6
	南九州・沖縄	(1,140)	59.1	37.2	49.3	39.3	38.4	39.6	50.5
療養所有無	療養所のある都道府県(小計)	(5,064)	55.9	34.9	44.7	36.1	30.9	32.0	41.4
	青森県	(202)	48.0	29.7	35.6	30.2	23.3	25.7	35.6
	宮城県	(383)	49.9	32.6	40.7	33.4	28.5	32.1	39.7
	群馬県	(325)	56.9	35.7	45.8	34.5	28.6	31.7	40.0
	東京都	(2,312)	53.2	33.2	40.9	33.6	28.5	29.8	35.1
	静岡県	(607)	53.9	29.2	41.2	32.9	28.2	28.5	35.6
	岡山県	(308)	70.8	43.5	59.7	46.8	35.4	29.5	59.4
	香川県	(166)	63.3	44.0	60.2	47.0	30.7	33.7	61.4
	熊本県	(288)	71.2	47.9	60.4	49.0	57.6	60.1	70.5
	鹿児島県	(250)	56.0	36.8	48.0	38.8	35.2	32.4	49.6
	沖縄県	(223)	60.1	37.7	49.8	39.9	31.4	34.5	45.3
	療養所のない都道府県	(15,852)	51.9	31.6	40.6	33.4	29.2	29.3	34.6

ハンセン病強制隔離政策の認知度を年齢別に比較すると、全ての項目について、年齢が高くなるにつれて認知度が高くなる傾向がみられた。

「①明治後期以降、ハンセン病患者を強制的に収容する『強制隔離政策』が行われたこと」については、18～29 歳が 30.7%と最も低かった。それ以外の項目については、30～39 歳が最も低かった。

表 50　Q15 ハンセン病強制隔離政策の認知度［性別・年齢別］

(%)		n=	①明治後期以降、ハンセン病患者を強制的に収容する「強制隔離政策」が行われたこと	②戦前および戦後にかけて、全てのハンセン病患者を強制隔離する、官民一体の「無らい県運動」が行なわれたこと	③有効な薬が開発され、治療法が確立されたが、強制隔離政策はそのまま継続されたこと	④平成８（１９９６）年に強制隔離政策を主体とした「らい予防法」が廃止されたこと	⑤平成１３（２００１）年に強制隔離政策を違憲とする熊本地裁判決が下されたこと	⑥令和元（２０１９）年にハンセン病患者家族に対する偏見や差別の被害を認める熊本地裁判決が下されたこと	⑦現在も「ハンセン病療養所」があり、ハンセン病が治った後も暮らし続けている人がいること
			「知っている」「少し知っている」の割合						
全体		(20,916)	52.8	32.4	41.6	34.1	29.6	29.9	36.2
性別	男性	(10,141)	53.5	35.9	43.1	36.1	33.1	32.7	36.9
	女性	(10,707)	52.4	29.0	40.2	32.1	26.3	27.2	35.5
	どちらでもない	(68)	38.2	27.9	35.3	29.4	19.1	32.4	32.4
年齢別	18～29歳	(2,943)	30.7	27.5	32.2	25.7	22.9	27.1	27.8
	20～29歳	(2,407)	28.2	26.1	30.0	23.8	20.9	24.8	25.8
	30～39歳	(2,759)	31.2	22.3	26.9	20.9	17.0	19.9	21.6
	40～49歳	(3,579)	40.2	23.3	30.0	23.1	19.2	21.0	26.5
	50～59歳	(3,249)	53.9	27.4	39.3	32.0	25.5	25.9	33.2
	60～69歳	(3,060)	69.2	37.5	52.2	42.7	36.3	34.2	44.7
	70～79歳	(3,707)	75.9	45.6	58.3	48.8	45.1	42.1	52.3
	80～99歳	(1,619)	72.1	48.5	55.7	49.7	45.9	43.7	50.9
性別・年齢別	男性（小計）	(10,141)	53.5	35.9	43.1	36.1	33.1	32.7	36.9
	18～29歳	(1,477)	32.4	32.7	35.3	29.3	28.2	32.6	31.8
	20～29歳	(1,211)	30.1	32.0	33.5	27.7	26.2	30.5	29.5
	30～39歳	(1,390)	31.2	27.5	30.1	25.2	21.9	23.8	25.0
	40～49歳	(1,796)	42.8	28.5	33.4	26.8	22.9	25.0	29.3
	50～59歳	(1,623)	54.2	31.5	40.2	34.0	29.4	29.1	33.0
	60～69歳	(1,497)	69.1	39.7	53.0	44.1	39.3	36.1	43.7
	70～79歳	(1,515)	77.9	48.0	59.5	49.7	49.7	44.0	50.9
	80～99歳	(843)	76.9	51.2	56.9	51.5	48.4	44.7	52.4
	女性（小計）	(10,707)	52.4	29.0	40.2	32.1	26.3	27.2	35.5
	18～29歳	(1,442)	29.1	22.1	28.8	22.1	17.5	21.3	23.6
	20～29歳	(1,175)	26.2	19.8	26.2	19.8	15.4	18.9	21.8
	30～39歳	(1,358)	31.0	16.9	23.4	16.4	12.1	15.7	17.9
	40～49歳	(1,771)	37.8	18.1	26.6	19.5	15.5	17.1	23.7
	50～59歳	(1,620)	53.6	23.2	38.4	30.0	21.5	22.6	33.5
	60～69歳	(1,559)	69.3	35.3	51.4	41.4	33.5	32.4	45.5
	70～79歳	(2,188)	74.6	43.9	57.4	48.1	42.0	40.8	53.3
	80～99歳	(769)	67.1	45.8	54.6	47.9	43.4	43.0	49.4

ハンセン病強制隔離政策の認知度を就業形態別、職種別に比較すると、ほぼ全ての項目について、公務員、教育関係の専門職、福祉関係の専門職、医療関係の専門職の認知度は、全体平均より高かった。

「①明治後期以降、ハンセン病患者を強制的に収容する『強制隔離政策』が行われたこと」の認知度は、公務員が 56.3%、教育関係の専門職が 64.7%、福祉関係の専門職が 51.9%、医療関係の専門職が 60.6%であった。

「④平成 8(1996)年に強制隔離政策を主体とした『らい予防法』が廃止されたこと」の認知度は、公務員が 46.2%、教育関係の専門職が 48.8%、福祉関係の専門職が 40.1%、医療関係の専門職が 44.6%であり、全体平均の 34.1%より高かった。

学歴別・年齢別に比較すると、全ての項目について、いずれの年齢においても最終学歴が短大未満より短大以上で認知度が高かった。

表 51　Q15 ハンセン病強制隔離政策の認知度[就業形態別｜職種別｜学歴別･年齢別]

		(%) n=	①明治後期以降、ハンセン病患者を強制的に収容する「強制隔離政策」が行われたこと	②戦前および戦後にかけて、全てのハンセン病患者を強制隔離する、官民一体の「無らい県運動」が行なわれたこと	③有効な薬が開発され、治療法が確立されたが、強制隔離政策はそのまま継続されたこと	④平成８（１９９６）年に強制隔離政策を主体とした「らい予防法」が廃止されたこと	⑤平成１３（２００１）年に強制隔離政策を違憲とする熊本地裁判決が下されたこと	⑥令和元（２０１９）年にハンセン病患者家族に対する偏見や差別の被害を認める熊本地裁判決が下されたこと	⑦現在も「ハンセン病療養所」があり、ハンセン病が治った後も暮らし続けている人がいること
			「知っている」「少し知っている」の割合						
全体		(20,916)	52.8	32.4	41.6	34.1	29.6	29.9	36.2
就業形態別	公務員	(829)	56.3	41.3	49.9	46.2	37.5	38.4	43.5
	雇用者	(780)	57.3	40.8	47.3	43.2	38.5	36.9	40.3
	正規の被雇用者	(5,305)	41.1	28.3	34.0	26.8	22.9	25.7	29.5
	非正規の被雇用者	(3,773)	46.3	25.4	35.1	27.8	23.0	23.9	30.5
	自営業者・自由業	(1,301)	62.1	39.7	48.7	40.3	36.1	34.1	41.9
	自営業の家族従事者等	(127)	54.3	31.5	44.1	34.6	28.3	29.9	40.2
	内職	(9)	44.4	11.1	33.3	22.2	22.2	11.1	33.3
	学生	(874)	40.8	32.6	40.5	33.3	27.6	33.4	33.5
	無職	(7,845)	62.9	35.5	47.2	38.8	34.6	33.0	41.5
	その他	(73)	53.4	30.1	43.8	37.0	35.6	34.2	37.0
職種別	教育関係の専門職	(1,113)	64.7	44.7	57.1	48.8	41.5	40.3	49.3
	福祉関係の専門職	(651)	51.9	36.7	45.2	40.1	32.1	32.7	44.7
	医療関係の専門職	(914)	60.6	40.6	51.2	44.6	36.3	37.3	46.4
	上記以外の専門職	(1,253)	59.6	37.6	48.5	39.1	34.4	33.1	38.2
	管理的職業	(1,646)	69.5	46.4	54.4	47.1	44.8	42.9	46.2
	事務・営業系の職業	(6,596)	53.9	30.2	40.7	32.9	27.7	28.3	36.0
	技能・労務・作業系の職業	(4,944)	44.2	26.9	33.7	26.3	23.8	24.2	29.2
	農林漁業職	(191)	49.7	33.0	42.4	31.4	29.8	24.6	32.5
	その他	(186)	51.1	32.8	40.9	28.5	24.2	26.3	33.9
	現在無職	(1,013)	58.7	30.0	42.3	35.0	29.9	30.1	38.1
	働いたことはない	(2,408)	42.6	28.2	35.7	29.3	25.1	27.8	30.8
学歴別・年齢別	短大未満（小計）	(9,903)	45.8	27.4	35.4	28.1	25.2	25.7	31.8
	18～29歳	(1,245)	23.1	23.5	27.6	21.2	19.4	23.2	24.4
	20～29歳	(959)	19.5	20.6	24.2	18.2	15.6	19.6	20.8
	30～39歳	(1,174)	22.6	17.0	20.0	14.7	12.7	15.6	17.4
	40～49歳	(1,616)	31.9	18.9	22.9	16.1	14.8	16.2	21.3
	50～59歳	(1,650)	45.6	21.8	32.1	24.3	19.6	20.5	26.4
	60～69歳	(1,329)	58.8	29.5	43.3	32.4	27.8	27.0	36.8
	70～79歳	(1,900)	67.4	39.3	50.3	42.1	39.8	37.3	47.6
	80～99歳	(989)	65.4	42.6	50.7	45.5	42.4	40.7	46.8
	短大以上（小計）	(11,003)	59.2	36.8	47.1	39.4	33.5	33.7	40.2
	18～29歳	(1,698)	36.3	30.4	35.5	29.0	25.4	29.9	30.3
	20～29歳	(1,448)	34.0	29.7	33.8	27.6	24.4	28.3	29.1
	30～39歳	(1,584)	37.7	26.2	31.9	25.4	20.3	23.1	24.7
	40～49歳	(1,961)	47.0	26.9	35.8	28.9	22.8	25.0	30.8
	50～59歳	(1,598)	62.3	33.2	46.7	40.0	31.5	31.3	40.2
	60～69歳	(1,727)	77.3	43.6	59.1	50.7	42.9	39.8	50.8
	70～79歳	(1,805)	84.9	52.2	66.6	55.8	50.7	47.1	57.2
	80～99歳	(630)	82.5	57.8	63.7	56.2	51.4	48.4	57.3

3 一般的な人権問題

(1)一般的な差別に対する考え方

一般的な差別に対する考え方を地域別に比較すると、療養所の有無で回答傾向に大きな差はみられなかった。

療養所のある都道府県別にみると、「①差別は、人間として最も恥ずべき行為である」、「②あらゆる差別をなくすために、行政は努力する必要がある」、「④差別の解決のためには、何が差別であるかを具体的に示すことが必要である」、「⑤それぞれの差別の原因は何かをしっかりと見極めることが大事である」、「⑦悪質な差別は法律によって規制すべきである」について、「そう思う」「どちらかといえばそう思う」と回答した割合は、熊本県が最も高かった。

「③差別されている人の言葉をきちんと聞く必要がある」、「⑥差別を目の前にした時に差別反対の意思表示をすることが大事である」について、「そう思う」「どちらかといえばそう思う」と回答した割合は、沖縄県が最も高かった。一方で、沖縄県では、「⑨差別の訴え全てに対応することには無理がある」について、「そう思う」「どちらかといえばそう思う」と回答した割合も高かった。

表 52 Q16 一般的な差別に対する考え方[地域別](1/2)

(%)		n=	①差別は、人間として最も恥ずべき行為である	②あらゆる差別をなくすために、行政は努力する必要がある	③差別されている人の言葉をきちんと聞く必要がある	④差別の解決のためには、何が差別であるかを具体的に示すことが必要である	⑤それぞれの差別の原因は何かをしっかりと見極めることが大事である	⑥差別を目の前にした時に差別反対の意思表示をすることが大事である	⑦悪質な差別は法律によって規制すべきである	⑧差別されている人も自分たちが世の中に受け入れられるように努力することが必要である	⑨差別の訴え全てに対応することには無理がある	⑩差別を問題にすることによって、問題が解決しにくくなる側面がある
			「そう思う」「どちらかといえばそう思う」の割合									
全体		(20,916)	80.8	80.5	84.4	81.1	83.6	74.9	75.7	59.6	48.5	36.6
地域	北海道	(888)	83.7	84.1	88.2	82.9	86.1	77.6	78.0	61.4	48.0	33.2
	東北	(1,444)	80.1	79.4	85.2	80.3	83.7	74.3	75.4	60.6	47.6	36.6
	関東	(7,193)	80.2	80.3	83.7	81.4	83.5	74.0	75.2	60.2	48.7	36.2
	中部（小計）	(3,820)	80.3	80.9	84.9	81.4	83.5	74.6	75.3	59.1	49.1	37.0
	甲信越	(858)	81.6	82.1	86.9	82.4	83.9	76.0	76.7	59.7	46.5	33.9
	北陸	(514)	77.8	77.6	81.3	77.4	81.9	70.8	71.2	58.8	48.6	38.1
	東海	(2,448)	80.4	81.1	84.9	81.9	83.7	74.9	75.7	58.9	50.1	37.8
	近畿	(3,382)	80.2	79.1	83.0	79.6	82.6	73.5	75.4	58.2	48.0	37.1
	中国	(1,218)	80.8	80.8	84.2	80.1	83.1	76.3	75.3	58.4	47.5	35.4
	四国	(648)	79.6	80.2	81.8	79.0	83.0	75.6	74.1	57.3	45.4	34.9
	九州・沖縄（小計）	(2,323)	83.8	81.9	86.6	83.0	85.0	78.4	78.4	60.2	49.8	38.7
	北九州	(1,183)	82.9	80.1	85.1	81.6	83.5	76.9	77.3	61.1	50.2	39.3
	南九州・沖縄	(1,140)	84.7	83.7	88.1	84.6	86.5	79.9	79.6	59.3	49.5	38.0
療養所有無	療養所のある都道府県(小計)	(5,064)	80.9	81.0	84.5	81.7	83.9	75.0	76.3	60.4	49.3	36.8
	青森県	(202)	80.2	80.2	84.7	81.2	82.7	72.8	76.7	58.4	43.6	31.7
	宮城県	(383)	82.5	80.9	87.2	81.7	84.1	76.2	80.2	59.5	47.0	34.2
	群馬県	(325)	83.1	84.0	87.7	84.9	85.8	77.8	78.5	61.8	51.1	36.9
	東京都	(2,312)	78.8	78.7	81.9	79.4	82.4	72.2	73.7	60.3	49.4	37.2
	静岡県	(607)	82.5	84.7	87.5	86.2	86.2	76.3	79.4	62.6	50.7	37.6
	岡山県	(308)	79.9	79.5	84.4	80.8	82.5	77.3	75.6	63.6	51.0	36.7
	香川県	(166)	76.5	78.9	78.3	76.5	80.7	72.9	69.9	52.4	43.4	36.1
	熊本県	(288)	87.5	87.5	88.9	86.8	89.9	81.3	83.3	60.1	47.2	39.2
	鹿児島県	(250)	84.8	82.8	87.2	82.4	84.4	76.0	78.8	57.6	45.6	39.2
	沖縄県	(223)	84.3	84.8	89.2	86.1	87.0	84.8	78.5	61.4	60.5	34.5
	療養所のない都道府県	(15,852)	80.7	80.3	84.3	81.0	83.5	74.8	75.5	59.3	48.3	36.5

表 53 Q16 一般的な差別に対する考え方[地域別](2/2)

		(%) n=	①差別は、人間として最も恥ずべき行為である	②あらゆる差別をなくすために、行政は努力する必要がある	③差別されている人の言葉をきちんと聞く必要がある	④差別の解決のためには、何が差別であるかを具体的に示すことが必要である	⑤それぞれの差別の原因は何かをしっかりと見極めることが大事である	⑥差別を目の前にした時に差別反対の意思表示をすることが大事である	⑦悪質な差別は法律によって規制すべきである	⑧差別されている人も自分たちが世の中に受け入れられるように努力することが必要である	⑨差別の訴え全てに対応することには無理がある	⑩差別を問題にすることによって、問題が解決しにくくなる側面がある
			「どちらともいえない」の割合									
全体		(20,916)	13.5	14.0	11.5	14.6	12.7	20.7	18.3	30.2	35.5	43.7
地域	北海道	(888)	11.4	10.5	7.9	13.6	10.4	19.3	16.7	29.4	36.7	47.0
	東北	(1,444)	13.2	14.6	10.7	16.1	13.0	20.6	18.5	30.4	37.2	44.0
	関東	(7,193)	13.8	14.1	12.2	14.3	12.8	21.3	18.8	29.5	35.0	43.4
	中部（小計）	(3,820)	13.9	14.1	11.1	14.4	13.1	21.3	18.7	31.1	35.4	44.4
	甲信越	(858)	12.6	12.5	9.4	14.2	12.8	20.4	18.4	30.8	34.1	44.1
	北陸	(514)	15.0	16.5	15.2	17.1	14.4	23.3	21.6	30.7	38.1	47.1
	東海	(2,448)	14.1	14.2	10.9	13.9	13.0	21.2	18.3	31.3	35.3	44.0
	近畿	(3,382)	14.3	15.1	12.7	15.8	13.5	22.1	18.2	31.2	35.4	43.5
	中国	(1,218)	14.0	13.4	11.6	16.1	12.4	19.0	19.2	30.4	35.7	44.0
	四国	(648)	15.0	13.6	13.1	16.7	12.8	19.4	19.9	31.0	38.9	43.4
	九州・沖縄（小計）	(2,323)	11.0	13.3	9.8	12.4	11.1	17.9	16.2	29.2	34.6	41.9
	北九州	(1,183)	11.5	14.8	10.8	13.7	11.8	19.3	16.4	29.2	34.6	41.6
	南九州・沖縄	(1,140)	10.5	11.8	8.8	11.0	10.4	16.5	16.0	29.2	34.6	42.3
療養所有無	療養所のある都道府県(小計)	(5,064)	13.6	13.7	11.7	14.1	12.5	20.7	18.0	30.1	35.7	43.6
	青森県	(202)	14.4	15.8	10.4	15.3	12.4	23.8	19.3	28.7	38.1	46.0
	宮城県	(383)	11.5	13.6	8.4	15.1	13.1	19.8	13.6	32.6	38.1	45.2
	群馬県	(325)	11.1	11.7	8.9	12.6	12.9	19.4	16.9	27.7	34.8	44.3
	東京都	(2,312)	14.9	15.3	14.0	16.1	13.5	22.4	19.9	31.0	35.9	44.1
	静岡県	(607)	13.0	11.2	9.2	10.2	10.7	20.9	16.0	28.5	35.1	41.8
	岡山県	(308)	14.3	14.3	11.7	14.9	13.0	17.9	18.8	28.2	34.1	42.5
	香川県	(166)	19.3	15.1	16.9	14.5	14.5	20.5	21.7	34.9	39.8	42.2
	熊本県	(288)	10.1	8.0	8.0	10.1	8.7	16.3	12.8	29.9	39.9	45.8
	鹿児島県	(250)	10.0	12.4	9.2	12.0	10.8	19.6	16.0	26.0	35.2	38.8
	沖縄県	(223)	11.7	12.6	9.0	9.0	10.8	13.9	17.5	30.0	24.2	42.2
	療養所のない都道府県	(15,852)	13.4	14.1	11.5	14.8	12.7	20.7	18.4	30.2	35.4	43.7

一般的な差別に対する考え方を年齢別に比較すると、偏見差別の解消のための取り組みに対して積極的な傾向を示す①～⑦の項目について、「そう思う」「どちらかといえばそう思う」と回答した割合は、年齢が高くなるにつれて高くなる傾向がみられ、若年層では低かった。

一方、差別の解消のための取り組みに対して消極的な傾向を示す⑧～⑩の項目のうち、「⑧差別されている人も自分たちが世の中に受け入れられるように努力することが必要である」について、「そう思う」「どちらかといえばそう思う」と回答した割合は、高齢層が高かった。一方、「⑨差別の訴え全てに対応することには無理がある」「⑩差別を問題にすることによって、問題が解決しにくくなる側面がある」について、「そう思う」「どちらかといえばそう思う」と回答した割合は、若年層が高かった。

表 54　Q16 一般的な差別に対する考え方［性別・年齢別］（1/2）

(%)		n=	①差別は、人間として最も恥ずべき行為である	②あらゆる差別をなくすために、行政は努力する必要がある	③差別されている人の言葉をきちんと聞く必要がある	④差別の解決のためには、何が差別であるかを具体的に示すことが必要である	⑤それぞれの差別の原因は何かをしっかりと見極めることが大事である	⑥差別を目の前にした時に差別反対の意思表示をすることが大事である	⑦悪質な差別は法律によって規制すべきである	⑧差別されている人も自分たちが世の中に受け入れられるように努力することが必要である	⑨差別の訴え全てに対応することには無理がある	⑩差別を問題にすることによって、問題が解決しにくくなる側面がある
			「そう思う」「どちらかといえばそう思う」の割合									
全体		(20,916)	80.8	80.5	84.4	81.1	83.6	74.9	75.7	59.6	48.5	36.6
性別	男性	(10,141)	76.6	76.4	80.3	77.5	80.1	71.4	72.3	60.7	47.3	38.1
	女性	(10,707)	84.9	84.5	88.4	84.6	87.0	78.2	79.0	58.5	49.7	35.1
	どちらでもない	(68)	58.8	64.7	69.1	69.1	69.1	58.8	63.2	52.9	44.1	42.6
年齢別	18～29歳	(2,943)	68.6	68.8	73.6	70.6	73.2	67.0	63.5	53.1	56.5	46.2
	20～29歳	(2,407)	67.2	67.5	72.4	69.5	72.0	65.6	62.0	52.2	55.4	44.8
	30～39歳	(2,759)	69.2	68.6	75.1	72.4	75.1	64.6	65.1	51.6	54.5	41.6
	40～49歳	(3,579)	76.8	74.2	80.5	76.1	79.4	69.8	70.8	54.7	52.9	39.6
	50～59歳	(3,249)	82.9	82.4	86.4	82.0	84.9	74.5	76.5	58.2	46.1	33.4
	60～69歳	(3,060)	89.3	88.4	91.3	88.6	90.7	81.7	84.1	62.6	43.4	31.1
	70～79歳	(3,707)	91.3	92.7	93.6	90.8	92.6	85.2	86.4	67.7	42.1	30.2
	80～99歳	(1,619)	87.2	89.3	90.2	88.3	89.7	82.1	84.7	73.8	43.3	35.0
性別・年齢別	男性（小計）	(10,141)	76.6	76.4	80.3	77.5	80.1	71.4	72.3	60.7	47.3	38.1
	18～29歳	(1,477)	63.6	62.7	68.4	66.5	68.4	63.2	60.3	53.2	55.5	47.5
	20～29歳	(1,211)	62.3	61.2	67.1	64.9	67.4	61.5	58.7	52.5	54.9	46.2
	30～39歳	(1,390)	63.4	62.0	68.1	67.5	70.6	59.3	59.0	52.6	53.8	43.9
	40～49歳	(1,796)	70.4	68.6	74.8	71.4	74.6	65.7	65.9	56.7	52.2	40.9
	50～59歳	(1,623)	78.3	77.8	81.9	77.7	80.9	70.5	72.3	60.4	46.6	36.2
	60～69歳	(1,497)	86.9	87.0	89.0	84.8	88.2	78.8	81.7	63.9	42.1	32.5
	70～79歳	(1,515)	89.2	91.5	91.9	89.7	91.0	83.1	85.8	67.5	38.0	29.1
	80～99歳	(843)	89.9	92.8	93.2	91.5	92.9	85.5	87.9	78.8	39.5	36.2
	女性（小計）	(10,707)	84.9	84.5	88.4	84.6	87.0	78.2	79.0	58.5	49.7	35.1
	18～29歳	(1,442)	73.9	75.2	78.9	75.0	78.1	71.2	66.9	53.1	57.8	44.9
	20～29歳	(1,175)	72.5	73.9	77.8	74.2	76.8	70.1	65.3	51.9	56.1	43.2
	30～39歳	(1,358)	75.3	75.5	82.4	77.5	79.8	69.9	71.4	50.6	55.3	39.2
	40～49歳	(1,771)	83.3	80.0	86.3	80.8	84.4	74.1	75.8	52.7	53.6	38.2
	50～59歳	(1,620)	87.5	87.1	90.9	86.2	88.9	78.4	80.7	56.0	45.5	30.7
	60～69歳	(1,559)	91.5	89.8	93.5	92.2	93.1	84.3	86.3	61.4	44.7	29.8
	70～79歳	(2,188)	92.8	93.6	94.9	91.7	93.8	86.7	86.9	67.8	45.0	31.0
	80～99歳	(769)	84.7	85.8	87.3	85.0	86.5	78.5	81.5	68.5	47.5	33.8

表 55　Q16 一般的な差別に対する考え方[性別・年齢別](2/2)

(%)		n=	①差別は、人間として最も恥ずべき行為である	②あらゆる差別をなくすために、行政は努力する必要がある	③差別されている人の言葉をきちんと聞く必要がある	④差別の解決のためには、何が差別であるかを具体的に示すことが必要である	⑤それぞれの差別の原因は何かをしっかりと見極めることが大事である	⑥差別を目の前にした時に差別反対の意思表示をすることが大事である	⑦悪質な差別は法律によって規制すべきである	⑧差別されている人も自分たちが世の中に受け入れられるように努力することが必要である	⑨差別の訴え全てに対応することには無理がある	⑩差別を問題にすることによって、問題が解決しにくくなる側面がある
			「どちらともいえない」の割合									
全体		(20,916)	13.5	14.0	11.5	14.6	12.7	20.7	18.3	30.2	35.5	43.7
性別	男性	(10,141)	16.0	16.4	14.5	17.2	15.1	23.2	20.3	28.8	35.4	42.1
	女性	(10,707)	11.0	11.7	8.7	12.2	10.3	18.4	16.4	31.5	35.6	45.2
	どちらでもない	(68)	22.1	19.1	20.6	17.6	17.6	23.5	19.1	23.5	32.4	29.4
年齢別	18～29歳	(2,943)	18.8	19.7	17.4	20.5	18.7	24.4	23.2	31.5	29.4	38.1
	20～29歳	(2,407)	19.4	20.6	18.1	21.4	19.4	25.4	24.1	32.3	30.3	39.3
	30～39歳	(2,759)	20.2	21.0	17.2	19.7	18.0	26.7	24.7	34.2	32.3	42.0
	40～49歳	(3,579)	16.1	18.5	14.5	18.8	16.3	25.0	22.6	33.9	34.3	44.1
	50～59歳	(3,249)	13.4	14.0	11.1	15.2	12.7	22.2	19.2	32.7	40.0	47.3
	60～69歳	(3,060)	9.2	9.9	7.6	10.1	8.0	17.0	13.9	29.7	39.2	46.6
	70～79歳	(3,707)	7.3	6.1	5.4	8.1	6.4	13.6	11.7	25.3	36.3	43.1
	80～99歳	(1,619)	9.2	7.7	6.9	8.5	7.4	14.6	11.4	20.1	36.6	44.2
性別・年齢別	男性（小計）	(10,141)	16.0	16.4	14.5	17.2	15.1	23.2	20.3	28.8	35.4	42.1
	18～29歳	(1,477)	21.9	24.1	20.9	23.8	22.1	27.5	25.2	31.5	30.5	37.6
	20～29歳	(1,211)	22.6	25.4	21.7	24.8	22.9	28.5	25.9	32.0	30.8	39.1
	30～39歳	(1,390)	22.5	24.2	21.7	22.2	20.8	29.9	27.8	32.4	31.7	39.9
	40～49歳	(1,796)	19.7	21.3	18.4	21.4	19.3	27.1	24.8	31.8	33.7	43.2
	50～59歳	(1,623)	16.5	16.9	14.5	18.5	16.0	25.2	22.1	30.8	38.8	44.9
	60～69歳	(1,497)	11.4	11.0	9.6	13.5	10.0	19.4	15.6	28.7	38.4	44.0
	70～79歳	(1,515)	8.7	6.9	6.7	9.0	7.7	15.5	12.3	24.4	37.2	42.2
	80～99歳	(843)	7.7	5.6	5.6	7.0	5.6	12.7	9.6	16.3	37.8	42.7
	女性（小計）	(10,707)	11.0	11.7	8.7	12.2	10.3	18.4	16.4	31.5	35.6	45.2
	18～29歳	(1,442)	15.6	15.2	13.7	17.2	15.1	20.9	21.2	31.5	28.2	38.6
	20～29歳	(1,175)	16.1	15.8	14.3	18.0	15.8	22.0	22.4	32.7	29.7	39.7
	30～39歳	(1,358)	17.7	17.7	12.5	17.0	15.1	23.6	21.4	36.2	33.0	44.3
	40～49歳	(1,771)	12.5	15.6	10.6	16.1	13.4	23.0	20.4	36.0	34.8	45.2
	50～59歳	(1,620)	10.2	11.0	7.7	12.0	9.5	19.1	16.4	34.7	41.3	49.8
	60～69歳	(1,559)	7.1	9.0	5.7	6.8	6.2	14.8	12.3	30.7	40.0	49.2
	70～79歳	(2,188)	6.3	5.5	4.4	7.5	5.4	12.2	11.2	26.0	35.6	43.6
	80～99歳	(769)	10.7	9.9	8.3	10.0	9.4	16.6	13.4	24.2	35.4	46.0

一般的な差別に対する考え方を就業形態別、職種別に比較すると、偏見差別の解決のための取り組みに対して積極的な傾向を示す①～⑦の項目について、「そう思う」「どちらかといえばそう思う」と回答した割合は、教育関係の専門職、医療関係の専門職で全体平均より高く、公務員は全体平均より低い傾向があった。福祉関係の専門職は明確な傾向はみられなかった。

一方、差別の解消のための取り組みに対して消極的な傾向を示す⑧～⑩の項目のうち、「⑨差別の訴え全てに対応することには無理がある」について、「そう思う」「どちらかといえばそう思う」と回答した割合は、教育関係の専門職が 43.9％で全体平均の 48.5％より低く、医療関係の専門職が 55.5％で高かった。

また、「⑩差別を問題にすることによって、問題が解決しにくくなる側面がある」について、「そう思う」「どちらかといえばそう思う」と回答した割合は、医療関係の専門職が 42.5％で全体平均の 36.6％より高かった。

なお、学生が、「⑨差別の訴え全てに対応することには無理がある」について、「そう思う」「どちらかといえばそう思う」と回答した割合は 60.6％、「⑩差別を問題にすることによって、問題が解決しにくくなる側面がある」について、「そう思う」「どちらかといえばそう思う」と回答した割合は 50.6％であり、相対的に高かった。

学歴別・年齢別に比較すると、最終学歴が短大未満と短大以上で回答傾向に大きな差はみられなかった。

表 56 Q16 一般的な差別に対する考え方[就業形態別｜職種別｜学歴別･年齢別](1/2)

(%)		n=	①差別は、人間として最も恥ずべき行為である	②あらゆる差別をなくすために、行政は努力する必要がある	③差別されている人の言葉をきちんと聞く必要がある	④差別の解決のためには、何が差別であるかを具体的に示すことが必要である	⑤それぞれの差別の原因は何かをしっかりと見極めることが大事である	⑥差別を目の前にした時に差別反対の意思表示をすることが大事である	⑦悪質な差別は法律によって規制すべきである	⑧差別されている人も自分たちが世の中に受け入れられるように努力することが必要である	⑨差別の訴え全てに対応することには無理がある	⑩差別を問題にすることによって、問題が解決しにくくなる側面がある
			「そう思う」「どちらかといえばそう思う」の割合									
全体		(20,916)	80.8	80.5	84.4	81.1	83.6	74.9	75.7	59.6	48.5	36.6
就業形態別	公務員	(829)	75.8	74.4	78.3	75.4	78.4	71.8	70.0	58.4	47.9	39.1
	雇用者	(780)	76.0	75.9	77.8	75.6	79.2	70.9	69.9	60.5	49.1	39.4
	正規の被雇用者	(5,305)	73.9	72.9	77.5	74.2	77.1	68.7	68.5	56.9	52.4	41.3
	非正規の被雇用者	(3,773)	82.2	81.2	86.1	82.0	84.1	74.9	76.5	56.1	48.6	35.8
	自営業者・自由業	(1,301)	78.8	79.5	84.5	81.7	83.9	74.9	75.2	62.4	45.7	36.0
	自営業の家族従事者等	(127)	78.7	80.3	85.0	84.3	85.8	78.0	80.3	60.6	52.0	33.9
	内職	(9)	55.6	66.7	77.8	66.7	66.7	66.7	66.7	33.3	33.3	11.1
	学生	(874)	75.3	75.1	79.3	76.3	79.5	73.2	69.2	57.4	60.6	50.6
	無職	(7,845)	86.7	87.2	90.0	86.9	89.2	79.8	82.1	62.8	44.8	31.9
	その他	(73)	84.9	84.9	89.0	87.7	87.7	86.3	82.2	65.8	60.3	31.5
職種別	教育関係の専門職	(1,113)	85.4	85.3	88.9	85.2	86.5	83.3	81.4	59.3	43.9	33.9
	福祉関係の専門職	(651)	79.6	80.8	84.0	80.3	81.7	75.7	75.1	57.0	48.8	38.7
	医療関係の専門職	(914)	81.9	81.6	86.2	82.6	85.1	79.9	77.1	61.3	55.5	42.5
	上記以外の専門職	(1,253)	79.8	78.1	84.0	80.0	83.6	73.6	75.5	59.1	47.1	35.0
	管理的職業	(1,646)	84.9	84.2	86.3	83.5	86.8	77.2	78.4	65.9	45.4	35.8
	事務・営業系の職業	(6,596)	82.8	82.3	85.7	82.6	85.1	75.8	77.4	60.0	48.9	35.9
	技能・労務・作業系の職業	(4,944)	78.0	78.4	83.2	79.6	82.5	72.6	73.8	58.1	49.7	37.0
	農林漁業職	(191)	74.9	74.9	80.6	83.2	80.6	73.3	72.8	53.9	48.2	35.6
	その他	(186)	75.3	78.5	79.0	77.4	80.1	73.1	71.5	56.5	41.9	26.9
	現在無職	(1,013)	89.5	89.4	91.9	89.1	91.5	81.1	83.6	62.4	47.9	31.4
	働いたことはない	(2,408)	73.4	72.8	76.8	73.7	75.4	67.6	67.4	56.8	48.0	40.5
学歴別・年齢別	短大未満（小計）	(9,903)	79.9	80.0	83.8	80.6	82.5	73.3	74.6	58.7	47.9	36.4
	18～29歳	(1,245)	64.7	65.9	70.1	68.5	70.4	63.9	60.6	50.1	53.1	43.9
	20～29歳	(959)	63.1	64.4	68.4	67.6	68.8	61.9	58.6	48.1	51.6	41.3
	30～39歳	(1,174)	66.1	67.1	75.6	71.2	73.3	62.0	63.9	48.8	53.5	39.8
	40～49歳	(1,616)	76.2	73.4	79.6	76.5	77.7	68.6	68.6	52.5	51.5	38.6
	50～59歳	(1,650)	82.4	81.0	85.5	80.9	83.4	72.2	75.0	56.8	46.7	35.2
	60～69歳	(1,329)	88.5	88.0	90.5	87.4	89.8	79.5	83.3	62.0	43.3	31.2
	70～79歳	(1,900)	90.3	92.1	92.6	89.5	91.4	83.1	84.7	67.6	43.4	31.9
	80～99歳	(989)	86.0	88.3	88.3	86.8	88.2	80.4	82.7	73.1	45.2	37.1
	短大以上（小計）	(11,003)	81.5	81.0	84.9	81.6	84.6	76.3	76.7	60.3	49.1	36.7
	18～29歳	(1,698)	71.4	71.0	76.1	72.2	75.2	69.2	65.7	55.4	59.1	47.9
	20～29歳	(1,448)	70.0	69.5	75.0	70.8	74.1	68.0	64.3	55.0	57.9	47.1
	30～39歳	(1,584)	71.5	69.7	74.8	73.2	76.5	66.5	66.0	53.8	55.4	43.1
	40～49歳	(1,961)	77.3	74.9	81.2	75.7	80.9	70.9	72.5	56.5	54.0	40.5
	50～59歳	(1,598)	83.3	83.9	87.3	83.0	86.4	76.8	78.0	59.7	45.5	31.6
	60～69歳	(1,727)	89.9	88.8	91.8	89.5	91.4	83.3	84.7	63.1	43.4	30.9
	70～79歳	(1,805)	92.2	93.3	94.6	92.2	93.9	87.4	88.2	67.6	40.7	28.4
	80～99歳	(630)	89.0	91.0	93.3	90.8	92.1	84.8	87.9	74.9	40.3	31.7

表 57 Q16 一般的な差別に対する考え方[就業形態別｜職種別｜学歴別･年齢別](2/2)

(%)		n=	①差別は、人間として最も恥ずべき行為である	②あらゆる差別をなくすために、行政は努力する必要がある	③差別されている人の言葉をきちんと聞く必要がある	④差別の解決のためには、何が差別であるかを具体的に示すことが必要である	⑤それぞれの差別の原因は何かをしっかりと見極めることが大事である	⑥差別を目の前にした時に差別反対の意思表示をすることが大事である	⑦悪質な差別は法律によって規制すべきである	⑧差別されている人も自分たちが世の中に受け入れられるように努力することが必要である	⑨差別の訴え全てに対応することには無理がある	⑩差別を問題にすることによって、問題が解決しにくくなる側面がある
			「どちらともいえない」の割合									
全体		(20,916)	13.5	14.0	11.5	14.6	12.7	20.7	18.3	30.2	35.5	43.7
就業形態別	公務員	(829)	14.0	16.4	14.5	18.6	15.9	21.1	20.0	27.6	36.7	38.7
	雇用者	(780)	16.5	17.3	16.9	19.2	16.2	24.4	22.7	28.2	31.8	39.7
	正規の被雇用者	(5,305)	17.6	18.6	16.1	19.4	17.3	24.8	22.6	31.8	34.0	42.4
	非正規の被雇用者	(3,773)	12.5	14.0	10.4	14.4	12.7	21.4	18.7	33.4	37.0	45.2
	自営業者・自由業	(1,301)	16.4	14.7	12.1	13.9	13.0	21.1	19.4	29.5	36.6	43.3
	自営業の家族従事者等	(127)	15.0	13.4	11.8	13.4	10.2	15.0	15.0	27.6	34.6	46.5
	内職	(9)	33.3	22.2	22.2	33.3	22.2	33.3	22.2	44.4	55.6	55.6
	学生	(874)	15.2	16.4	14.0	16.1	15.3	19.6	19.9	27.3	25.6	33.6
	無職	(7,845)	10.1	9.9	7.8	10.7	8.5	17.5	14.4	28.5	37.0	45.8
	その他	(73)	11.0	9.6	5.5	9.6	8.2	8.2	12.3	26.0	26.0	52.1
職種別	教育関係の専門職	(1,113)	9.8	10.1	7.5	11.1	9.9	12.8	13.7	28.7	34.3	40.3
	福祉関係の専門職	(651)	14.4	14.1	11.5	15.5	13.8	20.3	18.9	31.8	32.9	41.6
	医療関係の専門職	(914)	13.3	13.1	10.1	13.5	12.0	16.6	17.7	30.5	30.1	39.4
	上記以外の専門職	(1,253)	14.2	16.1	12.3	16.3	13.3	22.3	18.3	30.1	35.2	43.2
	管理的職業	(1,646)	10.9	11.6	10.8	13.2	10.1	19.4	17.1	25.1	35.6	41.4
	事務・営業系の職業	(6,596)	12.1	13.2	10.7	13.6	11.9	20.1	17.3	30.1	36.1	43.8
	技能・労務・作業系の職業	(4,944)	15.7	15.4	12.6	16.2	13.7	23.0	20.2	31.6	36.0	46.3
	農林漁業職	(191)	17.8	16.2	13.1	12.0	15.7	22.5	19.9	31.9	35.6	41.4
	その他	(186)	15.6	15.6	17.2	16.7	15.1	23.1	21.5	31.7	38.7	50.0
	現在無職	(1,013)	8.8	8.8	6.6	9.8	7.2	17.3	13.1	29.6	35.3	47.0
	働いたことはない	(2,408)	17.1	17.8	15.6	18.2	17.3	24.2	22.3	31.2	35.8	41.8
学歴別・年齢別	短大未満（小計）	(9,903)	14.0	14.2	11.9	15.0	13.5	22.1	19.2	31.3	37.1	45.9
	18～29歳	(1,245)	21.8	21.9	19.8	22.3	20.3	27.1	25.1	34.0	31.4	40.9
	20～29歳	(959)	22.8	23.3	21.3	23.4	21.4	28.8	27.0	36.4	32.6	43.2
	30～39歳	(1,174)	22.3	21.0	16.2	20.8	19.4	28.8	24.7	36.5	34.0	44.0
	40～49歳	(1,616)	15.7	18.4	15.0	18.3	17.0	25.9	23.9	35.4	35.5	46.0
	50～59歳	(1,650)	13.2	15.1	11.9	15.9	14.1	23.7	20.4	34.8	41.1	48.2
	60～69歳	(1,329)	9.9	10.4	7.8	10.8	8.7	19.2	14.6	30.6	41.6	50.3
	70～79歳	(1,900)	8.1	6.5	6.2	9.1	7.6	15.5	13.3	25.9	37.9	45.8
	80～99歳	(989)	9.4	7.9	7.9	9.0	8.4	16.0	12.8	20.6	36.7	44.8
	短大以上（小計）	(11,003)	13.1	13.8	11.2	14.3	12.0	19.4	17.6	29.2	34.0	41.7
	18～29歳	(1,698)	16.6	18.0	15.5	19.1	17.6	22.4	21.8	29.6	28.0	36.0
	20～29歳	(1,448)	17.2	18.9	16.0	20.0	18.2	23.1	22.2	29.6	28.8	36.7
	30～39歳	(1,584)	18.6	21.0	17.9	18.9	16.9	25.2	24.7	32.4	31.0	40.5
	40～49歳	(1,961)	16.4	18.5	14.1	19.2	15.8	24.2	21.5	32.5	33.3	42.4
	50～59歳	(1,598)	13.6	12.8	10.3	14.5	11.3	20.6	18.0	30.6	38.9	46.4
	60～69歳	(1,727)	8.7	9.6	7.4	9.5	7.5	15.4	13.3	29.0	37.3	43.9
	70～79歳	(1,805)	6.4	5.6	4.5	7.1	5.2	11.6	10.0	24.7	34.6	40.3
	80～99歳	(630)	8.9	7.5	5.4	7.6	5.9	12.5	9.2	19.2	36.5	43.3

（2）日本の人権課題の認知度

日本の人権課題の認知度を地域別に比較すると、療養所の有無で回答傾向に大きな差はみられなかった。

「⑨ハンセン病元患者（回復者）やその家族」の人権課題としての認知度は、療養所のある都道府県で49.5%、療養所のない都道府県で46.7%であった。

療養所のある都道府県別に認知度をみると、熊本県で 62.2%、岡山県で 58.8%、香川県 56.0%、鹿児島県 54.8%の順に高かった。

また、これらの県で「⑨ハンセン病元患者（回復者）やその家族」の人権課題としての認知度の順位をみると、熊本県は 3 位、岡山県、香川県、鹿児島県は 4 位で、全体平均の 7 位を上回っていた。

表 58　Q17 日本の人権課題の認知度［地域別］（複数回答）

		(%) n=	①女性	②子ども	③高齢者	④障害のある人	⑤部落差別（同和問題）	⑥アイヌの人々	⑦外国人	⑧感染症	⑨ハンセン病元患者（回復者）やその家族	⑩刑を終えて出所した人やその家族	⑪犯罪被害者やその家族	⑫インターネット上の人権侵害	⑬北朝鮮当局によって拉致された被害者等	⑭ホームレス	⑮性的マイノリティ	⑯人身取引（性的サービスや労働の強要等）	⑰震災等の災害に起因する人権問題	⑱その他	⑲知っているものはない	⑨ハンセン病元患者（回復者）やその家族の認知度順位
全体		(20,916)	57.0	35.8	32.1	70.1	62.0	54.9	34.6	43.1	47.4	45.2	41.7	47.6	34.6	35.6	52.0	27.6	21.1	0.6	10.5	7
地域	北海道	(888)	57.0	36.8	30.4	71.4	52.7	70.5	30.7	41.7	46.3	44.0	41.4	47.0	36.7	37.2	52.5	28.0	18.2	0.5	9.1	7
	東北	(1,444)	55.1	35.7	31.7	66.4	48.3	51.0	29.0	42.1	44.1	43.1	40.9	44.3	35.2	33.8	50.1	28.8	24.3	0.5	12.3	7
	関東	(7,193)	57.7	37.2	32.1	70.5	59.7	56.9	36.5	42.7	46.9	45.8	42.6	48.5	35.3	35.6	54.1	28.0	22.7	0.7	10.8	7
	中部（小計）	(3,820)	57.5	34.9	32.2	69.7	59.4	52.6	33.5	43.6	44.7	44.4	39.9	46.4	32.2	35.4	50.5	26.3	19.7	0.4	10.5	7
	甲信越	(858)	60.1	34.7	33.4	71.4	64.9	56.8	32.8	46.7	50.6	47.3	44.1	50.2	34.5	35.8	55.7	28.1	22.0	0.7	9.2	6
	北陸	(514)	55.4	35.4	30.4	67.1	54.3	47.3	29.2	40.5	42.2	41.6	37.2	41.8	31.1	28.4	45.7	24.9	18.5	0.2	13.2	6
	東海	(2,448)	56.9	34.9	32.1	69.6	58.6	52.3	34.7	43.2	43.2	44.0	39.0	46.0	31.6	36.8	49.7	26.0	19.2	0.4	10.4	8
	近畿	(3,382)	56.3	33.6	31.5	70.7	69.7	53.2	35.8	43.3	47.8	45.1	41.5	47.7	33.6	35.4	51.7	27.5	19.4	0.5	10.6	6
	中国	(1,218)	57.6	35.0	32.0	70.3	70.0	55.3	34.6	42.2	50.8	46.8	42.1	48.6	35.7	35.8	50.9	27.2	20.0	0.5	10.8	6
	四国	(648)	56.0	36.3	34.3	72.2	77.3	56.0	34.9	45.8	55.4	51.2	45.8	47.8	36.4	38.1	53.2	27.2	21.9	0.0	7.6	5
	九州・沖縄（小計）	(2,323)	55.9	36.0	33.1	70.2	66.0	51.0	33.4	44.0	51.3	43.9	41.8	48.2	35.5	36.0	49.8	28.1	20.6	0.6	9.7	4
	北九州	(1,183)	55.8	35.6	32.6	70.1	69.6	51.9	32.2	42.7	48.9	41.9	40.3	46.9	35.1	35.6	49.3	26.9	20.8	0.4	9.8	6
	南九州・沖縄	(1,140)	56.1	36.4	33.7	70.4	62.4	50.1	34.7	45.4	53.8	45.9	43.2	49.6	36.0	36.5	50.4	29.4	20.4	0.9	9.6	4
療養所有無	療養所のある都道府県（小計）	(5,064)	57.4	37.1	32.4	70.1	59.4	54.6	36.2	43.8	49.5	45.9	42.4	48.5	35.5	35.6	53.5	28.9	21.8	0.7	10.6	6
	青森県	(202)	50.5	30.7	26.7	66.3	45.0	50.5	26.2	38.1	45.0	40.1	37.6	44.6	32.7	28.2	46.0	25.2	21.8	0.0	13.4	5
	宮城県	(383)	57.2	37.3	31.6	66.8	51.4	55.9	31.6	44.9	46.5	41.3	40.7	47.5	37.6	38.1	55.4	32.1	24.0	0.8	11.0	7
	群馬県	(325)	58.2	35.7	33.8	72.3	64.3	56.3	34.5	48.0	51.1	50.5	43.7	50.8	35.1	32.9	51.7	24.9	20.6	0.0	11.1	6
	東京都	(2,312)	59.2	39.4	32.5	70.4	59.2	57.1	39.2	42.7	46.8	46.3	43.7	48.8	36.9	36.3	55.1	29.5	23.3	0.8	11.0	7
	静岡県	(607)	54.4	33.1	32.8	70.8	55.7	52.1	36.4	45.1	46.8	45.3	40.2	48.1	31.3	34.4	52.2	27.2	19.9	0.7	9.6	7
	岡山県	(308)	59.4	34.1	29.9	67.9	69.2	51.6	31.8	39.6	58.8	46.8	38.6	46.4	30.2	34.1	52.6	27.6	16.2	0.6	10.1	4
	香川県	(166)	57.8	32.5	30.1	69.9	78.9	53.6	34.3	44.6	56.0	48.2	41.6	39.8	36.7	33.7	54.8	30.1	19.3	0.0	7.8	4
	熊本県	(288)	52.4	34.4	34.0	72.6	70.1	50.0	31.9	48.6	62.2	48.6	46.2	51.0	37.2	38.2	50.0	30.9	17.4	1.0	7.6	3
	鹿児島県	(250)	55.6	39.6	33.2	70.8	57.2	50.4	33.2	44.4	54.8	42.8	39.2	45.6	36.0	31.2	47.2	25.2	22.8	0.8	13.2	4
	沖縄県	(223)	58.3	39.0	36.3	70.0	50.7	50.2	40.8	45.7	52.9	47.1	45.3	57.8	35.9	42.6	57.4	33.2	22.9	1.3	10.3	5
	療養所のない都道府県	(15,852)	56.8	35.4	32.0	70.1	62.9	55.0	34.1	42.9	46.7	44.9	41.5	47.3	34.3	35.6	51.6	27.2	20.9	0.5	10.5	7

日本の人権課題の認知度を年齢別に比較すると、「⑨ハンセン病元患者（回復者）やその家族」の人権課題としての認知度は、年齢が高くなるにつれて高くなる傾向がみられ、70～79 歳が 66.6%と最も高く、18～29 歳が 25.4%と最も低かった。

また、「⑨ハンセン病元患者（回復者）やその家族」の人権課題としての認知度の順位をみると、18～29 歳、30～39 歳では 14 位であるのに対し、60～69 歳では 4 位、70～79 歳、80～99 歳では 3 位であった。

表 59　Q17 日本の人権課題の認知度［性別・年齢別］（複数回答）

		(%) n=	①女性	②子ども	③高齢者	④障害のある人	⑤部落差別（同和問題）	⑥アイヌの人々	⑦外国人	⑧感染症	⑨ハンセン病元患者（回復者）やその家族	⑩刑を終えて出所した人やその家族	⑪犯罪被害者やその家族	⑫インターネット上の人権侵害	⑬北朝鮮当局によって拉致された被害者等	⑭ホームレス	⑮性的マイノリティ	⑯人身取引（性的サービスや労働の強要等）	⑰震災等の災害に起因する人権問題	⑱その他	⑲知っているものはない	⑨ハンセン病元患者（回復者）やその家族の認知度順位
全体		(20,916)	57.0	35.8	32.1	70.1	62.0	54.9	34.6	43.1	47.4	45.2	41.7	47.6	34.6	35.6	52.0	27.6	21.1	0.6	10.5	7
性別	男性	(10,141)	51.1	30.7	28.2	65.6	60.5	52.3	31.6	39.1	45.3	40.6	35.4	44.5	32.7	33.6	47.9	26.7	18.9	0.7	12.3	6
	女性	(10,707)	62.5	40.6	35.8	74.5	63.5	57.5	37.4	46.9	49.4	49.5	47.7	50.5	36.3	37.6	55.9	28.5	23.2	0.4	8.8	8
	どちらでもない	(68)	54.4	39.7	27.9	63.2	51.5	44.1	35.3	47.1	35.3	35.3	47.1	44.1	42.6	32.4	57.4	26.5	32.4	0.0	17.6	11
年齢別	18～29歳	(2,943)	62.7	40.1	33.1	64.5	40.2	42.4	37.7	39.3	25.4	29.5	30.5	35.8	23.1	32.8	46.6	18.3	17.6	0.5	15.1	14
	20～29歳	(2,407)	60.7	38.4	31.3	62.2	38.3	41.1	35.6	38.0	23.8	27.9	29.9	34.5	22.1	32.5	45.0	17.7	17.1	0.5	17.0	14
	30～39歳	(2,759)	63.2	41.9	31.7	67.6	46.4	45.0	37.5	42.1	30.7	35.0	37.5	43.4	28.9	34.6	49.0	21.8	19.9	0.5	13.7	14
	40～49歳	(3,579)	58.2	36.4	28.9	67.8	55.6	50.0	35.2	41.3	37.6	39.6	40.7	47.6	31.7	34.6	50.6	23.4	19.8	0.6	13.1	10
	50～59歳	(3,249)	57.3	35.8	32.0	72.7	65.9	57.5	36.9	45.2	50.0	46.4	45.4	51.8	36.8	37.7	55.6	27.4	22.7	0.8	10.2	7
	60～69歳	(3,060)	54.9	35.2	34.1	74.8	74.4	64.9	35.1	45.6	61.1	52.5	47.2	53.5	40.5	38.2	58.6	31.4	23.1	0.4	6.9	4
	70～79歳	(3,707)	52.2	31.7	33.6	73.0	77.6	65.4	30.9	46.3	66.6	59.7	47.9	52.6	42.9	37.0	54.5	37.1	23.5	0.4	6.1	3
	80～99歳	(1,619)	47.1	26.4	31.3	69.5	75.8	57.6	25.6	39.1	62.6	53.7	39.9	45.0	36.8	32.5	45.0	35.7	20.5	1.0	8.7	3
性別・年齢別	男性（小計）	(10,141)	51.1	30.7	28.2	65.6	60.5	52.3	31.6	39.1	45.3	40.6	35.4	44.5	32.7	33.6	47.9	26.7	18.9	0.7	12.3	6
	18～29歳	(1,477)	51.7	31.1	28.1	57.3	37.3	38.7	33.6	34.1	23.5	25.5	26.2	31.2	21.5	29.5	40.2	16.7	14.9	0.7	18.3	14
	20～29歳	(1,211)	49.9	30.6	26.8	55.0	35.4	37.2	31.5	33.1	22.1	23.7	26.1	30.4	20.8	29.1	38.5	16.6	14.5	0.7	20.2	14
	30～39歳	(1,390)	54.0	34.1	28.4	60.1	43.5	41.1	32.7	36.8	28.1	29.9	31.5	38.3	26.2	31.6	42.9	20.4	17.2	0.6	17.4	14
	40～49歳	(1,796)	49.4	30.2	24.6	61.3	53.0	46.9	30.0	35.2	35.4	33.9	33.6	42.9	29.4	32.0	44.9	20.4	17.2	0.8	15.9	7
	50～59歳	(1,623)	51.9	31.3	27.6	68.0	65.1	55.9	35.2	42.0	47.3	41.8	39.4	47.9	34.1	36.7	51.3	27.3	20.8	1.1	12.4	7
	60～69歳	(1,497)	52.2	31.9	30.0	72.3	74.1	62.9	33.0	42.6	59.6	48.2	40.3	51.6	38.8	35.9	56.2	31.5	20.4	0.5	7.3	4
	70～79歳	(1,515)	51.6	29.2	31.3	72.1	79.0	65.1	30.6	43.7	67.2	57.3	40.6	54.0	43.4	37.0	53.7	39.3	21.8	0.5	5.4	3
	80～99歳	(843)	45.1	24.4	28.6	70.5	78.9	57.8	22.4	39.6	64.9	53.4	35.6	45.1	37.7	31.1	44.8	36.3	21.1	1.1	7.0	3
	女性（小計）	(10,707)	62.5	40.6	35.8	74.5	63.5	57.5	37.4	46.9	49.4	49.5	47.7	50.5	36.3	37.6	55.9	28.5	23.2	0.4	8.8	8
	18～29歳	(1,442)	74.3	49.2	38.3	72.1	43.0	46.0	41.7	44.6	27.3	33.4	34.7	40.4	24.5	35.9	52.8	19.7	20.0	0.3	11.7	14
	20～29歳	(1,175)	72.2	46.5	36.1	69.9	41.3	44.9	39.5	42.7	25.4	31.9	33.4	38.5	23.0	35.8	51.4	18.6	19.4	0.3	13.4	14
	30～39歳	(1,358)	72.7	49.7	34.9	75.0	49.3	48.8	42.3	47.3	33.0	40.2	43.4	48.5	31.5	37.6	55.1	23.2	22.4	0.4	9.9	14
	40～49歳	(1,771)	67.1	42.7	33.4	74.5	58.3	53.4	40.7	47.6	40.1	45.7	48.0	52.6	34.2	37.4	56.4	26.4	22.5	0.3	10.2	12
	50～59歳	(1,620)	62.8	40.3	36.4	77.2	66.7	59.1	38.7	48.3	52.7	50.9	51.4	55.7	39.4	38.7	59.7	27.6	24.8	0.5	8.1	7
	60～69歳	(1,559)	57.5	38.3	37.9	77.2	74.7	66.8	36.9	48.4	62.6	56.6	53.8	55.3	41.9	40.5	60.9	31.2	25.5	0.3	6.5	4
	70～79歳	(2,188)	52.7	33.4	35.2	73.6	76.6	65.7	31.1	48.2	66.2	61.5	53.0	51.6	42.7	37.1	55.2	35.6	24.7	0.3	6.5	3
	80～99歳	(769)	49.0	28.6	34.2	68.7	72.7	57.5	29.1	38.5	60.3	54.2	44.6	44.9	35.6	34.2	45.1	35.0	19.6	0.9	10.4	3

日本の人権課題の認知度を就業形態別、職種別に比較すると、「⑨ハンセン病元患者（回復者）やその家族」の人権課題としての認知度は、公務員が 47.7%、教育関係の専門職が 58.0%、福祉関係の専門職が 49.1%、医療関係の専門職が 51.4%であった。

また、これらの職種等で「⑨ハンセン病元患者（回復者）やその家族」の人権課題としての認知度の順位をみると、いずれも 6 位で、全体平均の 7 位を上回っていた。

学歴別・年齢別に比較すると、「⑨ハンセン病元患者（回復者）やその家族」の人権課題としての認知度は、最終学歴が短大未満で 42.3%、短大以上で 52.0%であった。

また、「⑨ハンセン病元患者（回復者）やその家族」の人権課題としての認知度の順位は、最終学歴が短大未満で 8 位、短大以上で 6 位であった。

表 60　Q17 日本の人権課題の認知度[就業形態別｜職種別｜学歴別・年齢別]（複数回答）

		(%) n=	①女性	②子ども	③高齢者	④障害のある人	⑤部落差別（同和問題）	⑥アイヌの人々	⑦外国人	⑧感染症	⑨ハンセン病元患者（回復者）やその家族	⑩刑を終えて出所した人やその家族	⑪犯罪被害者やその家族	⑫インターネット上の人権侵害	⑬北朝鮮当局によって拉致された被害者等	⑭ホームレス	⑮性的マイノリティ	⑯人身取引（性的サービスや労働の強要等）	⑰震災等の災害に起因する人権問題	⑱その他	⑲知っているものはない	⑨ハンセン病元患者（回復者）やその家族の認知度順位
全体		(20,916)	57.0	35.8	32.1	70.1	62.0	54.9	34.6	43.1	47.4	45.2	41.7	47.6	34.6	35.6	52.0	27.6	21.1	0.6	10.5	7
就業形態別	公務員	(826)	62.8	44.2	35.8	67.7	64.4	58.8	39.2	43.5	47.7	40.0	39.7	44.1	36.1	34.9	54.5	25.4	19.5	0.5	9.9	6
	雇用者	(773)	56.4	35.7	30.3	67.4	64.7	56.3	35.7	44.2	49.7	41.8	39.7	46.4	34.8	34.8	51.6	32.9	20.6	0.1	9.8	6
	正規の被雇用者	(5,301)	55.6	34.1	28.6	65.5	52.2	47.5	32.9	39.0	35.3	35.5	35.3	41.5	27.9	32.0	47.5	21.2	17.7	0.5	13.6	9
	非正規の被雇用者	(3,736)	58.8	37.8	32.4	72.4	58.6	53.2	35.0	45.3	44.2	44.5	43.5	49.7	33.4	36.9	54.0	25.3	21.2	0.5	10.4	9
	自営業者・自由業	(1,281)	55.0	33.4	31.6	69.3	67.7	58.2	37.5	42.3	54.7	49.4	43.4	51.9	41.0	39.5	53.9	34.0	25.1	1.5	9.8	5
	自営業の家族従事者等	(127)	54.3	34.6	30.7	70.9	64.6	54.3	33.1	43.3	47.2	45.7	44.9	50.4	38.6	34.6	45.7	23.6	20.5	0.0	12.6	6
	学生	(873)	72.9	45.8	40.3	73.7	50.9	53.7	47.1	45.9	33.6	34.1	32.1	41.0	26.6	36.0	55.0	19.6	19.4	0.2	8.7	13
	無職	(7,728)	54.9	34.1	33.0	72.3	69.9	59.7	33.0	44.1	56.9	53.1	46.2	51.1	39.3	36.7	53.3	32.3	23.1	0.5	8.9	4
	その他	(271)	60.1	41.7	41.7	75.3	70.1	60.9	36.5	53.5	59.0	57.2	50.9	53.5	38.0	43.5	54.6	40.6	25.8	1.8	9.6	5
職種別	教育関係の専門職	(1,111)	66.1	49.3	43.4	78.5	72.4	65.8	44.2	52.8	58.0	53.1	48.5	55.9	43.4	42.2	61.7	35.3	29.4	0.4	5.8	6
	福祉関係の専門職	(638)	61.8	45.6	45.3	76.0	60.3	53.6	37.8	48.3	49.1	46.1	43.9	48.7	36.7	39.2	54.2	30.9	25.1	0.5	10.0	6
	医療関係の専門職	(911)	63.7	41.6	35.6	73.0	59.3	53.0	33.4	49.2	51.4	46.4	42.7	47.0	33.6	37.3	55.1	25.7	23.1	0.8	8.9	6
	上記以外の専門職	(1,103)	55.7	34.0	29.0	68.4	65.7	58.5	36.1	39.9	51.7	45.1	40.7	51.5	37.4	35.2	54.5	30.6	22.4	1.2	8.7	6
	管理的職業	(1,579)	54.8	33.4	31.7	70.0	74.2	61.6	33.2	43.6	59.7	50.8	41.9	52.0	40.2	38.1	54.3	35.2	21.8	0.4	7.4	4
	事務・営業系の職業	(6,398)	58.6	36.2	31.4	71.1	66.2	58.1	35.9	43.7	48.6	45.7	44.1	49.6	35.6	35.3	54.8	27.0	21.2	0.4	9.0	7
	技能・労務・作業系の職業	(3,559)	52.0	31.4	28.2	66.2	55.2	49.1	31.6	39.3	41.3	41.2	37.5	43.7	30.6	34.0	46.6	24.9	19.1	0.7	12.8	7
	農林漁業職	(191)	54.5	34.0	32.5	72.3	56.0	50.3	35.6	42.4	40.3	44.5	42.4	41.9	33.0	30.4	40.3	24.6	20.4	1.0	9.4	9
	その他	(3,025)	57.9	35.3	32.8	73.9	61.1	54.8	34.2	45.9	47.8	49.2	45.6	50.3	35.8	38.7	52.3	29.4	21.2	0.8	9.1	8
	働いたことはない	(2,401)	53.1	33.2	30.4	62.8	49.6	45.6	31.3	36.6	36.5	36.4	33.2	36.4	27.1	29.5	44.3	21.4	17.4	0.4	19.0	7
学歴別・年齢別	短大未満（小計）	(9,887)	52.5	32.2	30.2	68.0	55.6	48.5	30.1	41.7	42.3	43.4	40.0	44.4	31.4	33.7	46.5	25.3	19.0	0.4	12.4	8
	18～29歳	(1,241)	59.4	38.9	31.8	62.1	31.7	34.7	34.8	37.1	18.9	28.0	27.5	32.8	19.8	29.7	38.4	16.3	15.2	0.2	18.4	15
	20～29歳	(959)	57.8	36.8	30.2	59.5	29.4	33.1	32.8	35.2	16.8	26.8	26.6	31.9	18.6	29.8	36.2	16.0	14.6	0.2	21.0	15
	30～39歳	(1,174)	61.5	38.6	30.3	66.9	38.7	38.3	34.3	42.1	25.4	34.0	36.6	42.2	26.7	34.4	44.9	21.0	20.0	0.4	15.4	15
	40～49歳	(1,612)	54.2	31.8	28.2	65.6	46.9	41.2	31.5	40.5	31.1	37.2	39.0	45.2	28.7	35.0	46.3	21.0	17.4	0.6	15.1	13
	50～59歳	(1,647)	54.1	32.2	30.5	71.1	57.6	50.9	32.9	44.0	43.6	44.8	43.5	49.4	32.4	36.1	51.1	24.8	20.8	0.6	12.4	9
	60～69歳	(1,329)	49.1	30.7	31.1	70.4	66.3	57.7	29.3	43.0	53.4	49.2	45.7	48.9	36.7	35.4	52.6	27.7	20.9	0.1	9.0	4
	70～79歳	(1,898)	46.2	28.1	30.2	70.2	70.9	58.3	25.3	44.7	61.0	55.6	44.2	46.9	38.3	33.6	47.6	33.0	19.9	0.4	7.9	3
	80～99歳	(986)	44.6	26.3	29.2	68.1	72.5	54.8	22.5	37.9	57.1	50.5	40.0	40.7	34.4	29.8	40.6	31.5	17.4	0.8	10.1	3
	短大以上（小計）	(10,990)	60.9	39.0	33.9	72.0	67.9	60.7	38.6	44.3	52.0	46.7	43.2	50.5	37.4	37.3	57.0	29.7	23.1	0.7	8.9	6
	18～29歳	(1,697)	65.1	41.0	34.1	66.2	46.4	48.1	39.9	41.0	30.2	30.5	32.8	38.1	25.6	35.1	52.6	19.7	19.3	0.6	12.8	14
	20～29歳	(1,447)	62.7	39.5	32.0	64.0	44.3	46.4	37.5	39.7	28.5	28.5	32.1	36.2	24.5	34.3	50.9	18.9	18.8	0.7	14.3	14
	30～39歳	(1,583)	64.6	44.4	32.7	68.1	52.1	49.9	39.8	42.1	34.6	35.8	38.2	44.3	30.6	34.7	52.0	22.4	19.8	0.6	12.4	13
	40～49歳	(1,961)	61.5	40.2	29.4	69.6	62.7	57.3	38.1	41.8	42.9	41.6	42.1	49.6	34.2	34.2	54.1	25.2	21.7	0.6	11.4	7
	50～59歳	(1,596)	60.5	39.4	33.5	74.2	74.5	64.2	41.0	46.3	56.5	47.9	47.3	54.3	41.3	39.4	60.2	30.2	24.7	1.0	8.0	6
	60～69歳	(1,723)	59.3	38.7	36.4	78.2	80.7	70.4	39.5	47.6	67.2	55.1	48.3	57.2	43.4	40.5	63.3	34.2	24.8	0.6	5.3	4
	70～79歳	(1,803)	58.5	35.4	37.2	75.8	84.6	72.8	36.8	48.0	72.5	64.0	51.7	58.5	47.9	40.5	61.8	41.3	27.2	0.3	4.3	4
	80～99歳	(627)	51.2	27.0	34.6	72.1	81.0	61.9	30.5	41.1	71.1	58.9	39.7	51.8	40.7	36.5	51.8	42.3	25.4	1.3	6.5	3

（3）人権問題に関する相談窓口の認知度

人権問題に関する相談窓口の認知度を地域別に比較すると、療養所の有無で回答傾向に大きな差はみられなかった。

療養所のある都道府県別にみると、「②人権擁護委員」の認知度は、香川県で 41.6%であり、全体平均の 33.2%より高かった。「③警察」の認知度は、沖縄県で 27.8%であり、全体平均の 21.3%より高かった。

表 61　Q18 人権問題に関する相談窓口の認知度[地域別]（複数回答）

		(%) n=	①法務局	②人権擁護委員	③警察	④都道府県の相談窓口	⑤市（区）町村の相談窓口	⑥弁護士会の相談窓口	⑦法テラス	⑧民間運動団体	⑨民間の相談窓口	⑩その他	⑪知っているものはない
全体		(20,916)	27.0	33.2	21.3	31.0	34.1	25.7	24.8	18.2	18.2	0.0	34.5
地域	北海道	(888)	30.0	33.1	23.1	29.8	31.5	28.5	24.8	18.6	18.0	0.1	36.1
	東北	(1,444)	30.4	34.8	23.7	31.5	32.7	27.4	28.2	17.0	17.2	0.1	32.9
	関東	(7,193)	26.4	30.9	20.6	30.4	32.4	24.9	24.5	19.2	18.6	0.0	36.0
	中部（小計）	(3,820)	26.6	34.1	21.6	29.7	34.1	24.2	24.0	16.6	17.4	0.0	34.5
	甲信越	(858)	29.0	38.7	24.2	33.8	36.9	26.3	27.3	17.2	18.6	0.0	31.2
	北陸	(514)	29.6	35.0	22.2	27.2	31.5	22.6	21.6	15.2	14.8	0.0	37.0
	東海	(2,448)	25.1	32.3	20.5	28.8	33.7	23.8	23.4	16.7	17.4	0.0	35.2
	近畿	(3,382)	23.9	31.9	20.9	30.8	36.4	26.8	22.9	19.1	19.5	0.2	34.6
	中国	(1,218)	28.3	36.1	21.8	31.8	36.6	26.5	25.6	16.6	15.8	0.0	33.4
	四国	(648)	31.8	42.0	23.0	36.1	38.7	27.9	27.9	18.7	18.1	0.0	31.0
	九州・沖縄（小計）	(2,323)	28.5	35.8	20.8	33.2	35.5	26.0	26.1	18.0	18.4	0.0	31.6
	北九州	(1,183)	27.5	33.1	19.7	31.2	35.1	26.7	24.3	18.0	17.5	0.0	32.1
	南九州・沖縄	(1,140)	29.6	38.5	21.9	35.3	35.9	25.4	28.0	18.0	19.4	0.0	31.0
療養所有無	療養所のある都道府県(小計)	(5,064)	27.9	33.1	21.1	31.9	33.8	26.1	26.6	18.3	18.7	0.0	34.7
	青森県	(202)	26.7	32.7	19.8	27.7	32.2	24.3	27.2	13.9	15.3	0.0	36.6
	宮城県	(383)	31.3	37.3	22.2	31.3	32.6	27.7	28.7	19.1	17.8	0.0	33.7
	群馬県	(325)	28.0	37.2	19.1	32.9	36.6	28.9	21.2	17.5	15.7	0.0	34.2
	東京都	(2,312)	27.3	29.9	20.6	31.8	32.4	25.2	26.8	19.4	19.8	0.0	36.5
	静岡県	(607)	24.1	30.6	21.3	27.7	35.4	25.5	25.0	18.1	18.9	0.0	33.8
	岡山県	(308)	30.5	36.0	24.7	34.4	36.7	29.9	28.2	17.5	14.9	0.0	31.5
	香川県	(166)	29.5	41.6	18.1	36.7	38.6	28.3	22.3	18.1	19.3	0.0	33.1
	熊本県	(288)	30.6	39.6	20.8	36.5	34.7	25.7	27.1	16.3	20.5	0.0	30.2
	鹿児島県	(250)	33.2	38.0	18.8	34.4	36.0	25.6	29.2	16.0	17.6	0.0	32.0
	沖縄県	(223)	26.0	35.9	27.8	32.7	33.6	25.6	29.6	17.0	20.6	0.0	32.3
	療養所のない都道府県	(15,852)	26.7	33.2	21.4	30.7	34.2	25.6	24.2	18.2	18.1	0.1	34.5

人権問題に関する相談窓口の認知度を年齢別に比較すると、「③警察」以外の項目については年齢が高くなるにつれて認知度が高くなる傾向がみられた。

性別による差異は法務局についてみられたが、全般的には小さかった。

表 62　Q18 人権問題に関する相談窓口の認知度[性別・年齢別](複数回答)

(%)		n=	①法務局	②人権擁護委員	③警察	④都道府県の相談窓口	⑤市（区）町村の相談窓口	⑥弁護士会の相談窓口	⑦法テラス	⑧民間運動団体	⑨民間の相談窓口	⑩その他	⑪知っているものはない
全体		(20,916)	27.0	33.2	21.3	31.0	34.1	25.7	24.8	18.2	18.2	0.0	34.5
性別	男性	(10,141)	31.5	35.8	21.4	31.2	33.0	25.2	24.6	18.8	16.1	0.0	33.5
	女性	(10,707)	22.7	30.9	21.2	30.7	35.2	26.2	25.0	17.7	20.2	0.0	35.4
	どちらでもない	(68)	23.5	16.2	19.1	29.4	32.4	29.4	23.5	22.1	20.6	1.5	38.2
年齢別	18～29歳	(2,943)	15.4	13.8	27.1	23.6	25.1	14.6	20.6	11.8	14.5	0.0	43.9
	20～29歳	(2,407)	14.5	13.0	25.1	21.6	23.1	13.8	18.5	11.2	13.5	0.0	47.1
	30～39歳	(2,759)	17.1	15.0	20.3	22.2	26.0	16.5	21.1	13.8	14.9	0.0	47.4
	40～49歳	(3,579)	18.9	18.9	16.7	25.1	28.1	21.1	22.8	15.4	16.1	0.0	44.3
	50～59歳	(3,249)	23.2	27.1	17.6	27.4	31.6	25.7	25.2	18.4	18.5	0.0	37.6
	60～69歳	(3,060)	32.1	42.4	20.2	34.8	37.5	31.2	29.2	20.8	19.5	0.1	26.4
	70～79歳	(3,707)	42.1	60.6	22.7	42.8	45.6	36.1	28.1	25.4	23.3	0.1	18.6
	80～99歳	(1,619)	45.8	63.2	29.0	45.2	49.8	37.9	26.4	22.2	20.5	0.1	19.1
性別・年齢別	男性（小計）	(10,141)	31.5	35.8	21.4	31.2	33.0	25.2	24.6	18.8	16.1	0.0	33.5
	18～29歳	(1,477)	19.0	17.4	27.5	23.9	25.1	15.0	21.1	12.7	14.3	0.0	42.0
	20～29歳	(1,211)	18.3	16.7	26.1	22.6	23.4	14.7	19.0	12.1	13.5	0.0	44.9
	30～39歳	(1,390)	21.0	18.1	21.3	22.8	25.5	17.6	21.4	15.1	13.7	0.0	46.5
	40～49歳	(1,796)	23.7	21.5	17.6	25.7	26.9	21.2	23.6	15.7	14.5	0.0	42.4
	50～59歳	(1,623)	26.6	29.9	16.6	27.5	30.1	25.8	25.0	19.7	16.9	0.0	36.4
	60～69歳	(1,497)	37.1	45.2	18.7	33.7	34.9	28.1	26.9	22.0	16.0	0.1	26.0
	70～79歳	(1,515)	48.6	63.6	22.2	44.2	45.7	35.2	27.9	25.3	19.9	0.1	17.4
	80～99歳	(843)	55.9	71.9	31.4	49.2	52.1	39.9	27.3	23.0	18.1	0.1	14.9
	女性（小計）	(10,707)	22.7	30.9	21.2	30.7	35.2	26.2	25.0	17.7	20.2	0.0	35.4
	18～29歳	(1,442)	11.7	10.3	26.8	23.4	25.1	13.7	20.0	10.7	14.6	0.1	45.8
	20～29歳	(1,175)	10.3	9.4	24.0	20.4	22.6	12.5	17.8	10.1	13.3	0.1	49.4
	30～39歳	(1,358)	13.0	11.7	19.3	21.4	26.4	15.2	20.6	12.2	16.0	0.0	48.5
	40～49歳	(1,771)	14.1	16.3	15.9	24.5	29.4	21.2	22.2	15.2	17.8	0.1	46.2
	50～59歳	(1,620)	19.8	24.3	18.5	27.3	33.3	25.7	25.4	17.2	20.1	0.0	38.9
	60～69歳	(1,559)	27.3	39.7	21.6	35.8	40.2	34.2	31.4	19.7	23.0	0.1	26.8
	70～79歳	(2,188)	37.6	58.6	23.1	41.8	45.7	36.7	28.2	25.5	25.7	0.1	19.4
	80～99歳	(769)	34.7	54.0	26.3	40.7	47.3	35.8	25.4	21.3	23.1	0.0	23.7

人権問題に関する相談窓口の認知度を就業形態別、職種別に比較すると、全ての項目について、教育関係の専門職、福祉関係の専門職の認知度は全体平均を上回っており、特に教育関係の専門職の認知度が高い傾向がみられた。

「⑤市(区)町村の相談窓口」の認知度は、公務員が 39.8%、教育関係の専門職が 43.7%、福祉関係の専門職が 43.0%、医療関係の専門職が 35.9%であった。

「②人権擁護委員」の認知度は、公務員が 36.3%、教育関係の専門職が 45.8%、福祉関係の専門職が 39.3%、医療関係の専門職が 32.6%であった。

「④都道府県の相談窓口」の認知度は、公務員が 32.7%、教育関係の専門職が 39.1%、福祉関係の専門職が 37.9%、医療関係の専門職が 33.4%であった。

「①法務局」の認知度は、公務員が 41.9%、教育関係の専門職が 38.5%、福祉関係の専門職が 27.8%、医療関係の専門職が 24.4%であった。

学歴別・年齢別を比較すると、全ての項目について、いずれの年齢においても最終学歴が短大未満より短大以上で認知度が高かった。

表 63　Q18 人権問題に関する相談窓口の認知度[就業形態別｜職種別｜学歴別･年齢別](複数回答)

		(%) n=	①法務局	②人権擁護委員	③警察	④都道府県の相談窓口	⑤市（区）町村の相談窓口	⑥弁護士会の相談窓口	⑦法テラス	⑧民間運動団体	⑨民間の相談窓口	⑩その他	⑪知っているものはない
全体		(20,916)	27.0	33.2	21.3	31.0	34.1	25.7	24.8	18.2	18.2	0.0	34.5
就業形態別	公務員	(829)	41.9	36.3	23.6	32.7	39.8	26.8	29.6	19.9	17.4	0.0	24.6
	雇用者	(780)	34.0	35.8	22.3	33.7	33.8	26.2	29.2	20.5	17.8	0.0	29.1
	正規の被雇用者	(5,305)	20.1	22.1	19.4	25.2	26.9	20.1	21.5	15.4	15.6	0.0	41.5
	非正規の被雇用者	(3,773)	19.6	26.6	19.4	28.4	32.3	23.6	22.8	17.3	18.4	0.1	40.2
	自営業者・自由業	(1,301)	33.7	37.4	20.8	33.1	35.0	29.6	30.4	21.8	19.8	0.2	31.9
	自営業の家族従事者等	(127)	26.0	35.4	19.7	33.1	35.4	29.9	21.3	14.2	14.2	0.0	29.9
	内職	(9)	0.0	22.2	44.4	22.2	33.3	44.4	22.2	44.4	33.3	0.0	33.3
	学生	(874)	20.0	17.0	35.0	32.3	33.0	17.5	31.1	15.4	18.5	0.0	31.0
	無職	(7,845)	32.5	44.2	21.8	35.1	39.3	30.5	25.4	20.0	19.8	0.0	29.5
	その他	(73)	37.0	42.5	17.8	41.1	35.6	35.6	31.5	20.5	16.4	0.0	28.8
職種別	教育関係の専門職	(1,113)	38.5	45.8	27.9	39.1	43.7	33.1	30.5	26.6	24.2	0.0	22.5
	福祉関係の専門職	(651)	27.8	39.3	24.7	37.9	43.0	30.4	31.8	22.0	20.6	0.2	27.2
	医療関係の専門職	(914)	24.4	32.6	22.8	33.4	35.9	28.8	26.4	20.0	21.2	0.0	32.1
	上記以外の専門職	(1,253)	30.2	32.6	18.6	29.9	34.2	27.0	25.9	20.3	15.9	0.1	34.7
	管理的職業	(1,646)	43.3	52.7	24.2	40.3	41.5	34.2	31.6	22.9	18.0	0.2	22.2
	事務・営業系の職業	(6,596)	28.0	32.7	20.3	30.6	34.0	25.3	25.6	17.8	18.5	0.0	33.4
	技能・労務・作業系の職業	(4,944)	20.4	26.5	19.8	26.9	30.4	22.7	20.6	15.8	16.9	0.1	40.4
	農林漁業職	(191)	25.1	39.3	22.5	27.7	35.6	22.5	20.4	13.6	14.7	0.0	33.0
	その他	(186)	20.4	28.5	14.0	28.5	30.6	29.0	28.0	21.5	22.0	0.5	43.5
	現在無職	(1,013)	30.3	41.6	25.2	39.0	41.9	34.5	25.4	20.8	23.3	0.0	29.3
	働いたことはない	(2,408)	19.6	24.3	20.9	25.2	26.4	17.4	20.6	13.6	14.7	0.0	44.0
学歴別・年齢別	短大未満（小計）	(9,903)	22.2	30.9	20.4	28.2	31.8	23.8	21.7	15.8	17.2	0.0	38.5
	18～29歳	(1,245)	12.5	10.4	24.6	20.2	21.0	11.3	15.7	9.6	12.4	0.0	50.6
	20～29歳	(959)	10.8	9.0	21.6	16.9	18.2	10.4	13.0	8.4	11.3	0.0	55.4
	30～39歳	(1,174)	11.8	11.4	19.3	17.8	21.6	15.1	17.5	11.1	13.2	0.0	52.7
	40～49歳	(1,616)	13.9	16.8	16.5	22.6	27.0	20.0	20.9	12.7	14.5	0.0	49.4
	50～59歳	(1,650)	17.6	23.5	17.2	24.8	29.0	23.0	22.5	15.3	18.0	0.0	41.4
	60～69歳	(1,329)	24.0	36.9	19.6	29.8	32.7	28.1	25.3	16.8	19.0	0.0	31.8
	70～79歳	(1,900)	35.6	56.1	21.4	39.5	42.8	32.3	24.9	22.4	21.6	0.1	23.2
	80～99歳	(989)	40.0	58.9	27.3	41.6	47.6	34.9	22.9	20.7	19.9	0.0	22.0
	短大以上（小計）	(11,003)	31.3	35.3	22.1	33.5	36.2	27.5	27.6	20.5	19.2	0.1	30.9
	18～29歳	(1,698)	17.5	16.4	29.0	26.2	28.1	17.0	24.1	13.3	16.0	0.1	38.9
	20～29歳	(1,448)	16.9	15.7	27.3	24.7	26.3	16.1	22.1	13.1	15.1	0.1	41.6
	30～39歳	(1,584)	21.0	17.7	21.1	25.5	29.3	17.6	23.6	15.8	16.2	0.0	43.6
	40～49歳	(1,961)	23.1	20.6	16.9	27.1	29.0	22.0	24.4	17.6	17.4	0.1	40.1
	50～59歳	(1,598)	29.0	30.7	18.0	30.1	34.4	28.4	27.9	21.6	19.0	0.1	33.7
	60～69歳	(1,727)	38.4	46.6	20.6	38.6	41.3	33.6	32.3	24.0	20.0	0.1	22.3
	70～79歳	(1,805)	49.0	65.4	24.0	46.3	48.6	40.2	31.5	28.7	25.2	0.1	13.8
	80～99歳	(630)	54.8	70.0	31.6	50.8	53.3	42.7	32.1	24.6	21.4	0.2	14.6

第四章　設問間クロス集計の結果

本章では、ハンセン病問題に関する学習・啓発経験が偏見差別の解消に与える効果、ハンセン病に関する医学的知識やハンセン病問題に関する知識が偏見差別意識に与える影響等の観点から実施したクロス集計の結果を示す。

1　ハンセン病問題に関する学習・啓発経験とハンセン病に関する医学的知識の関係

（1）学習・啓発経験とハンセン病（病気）の認知度の関係

ハンセン病（病気）の認知度を学習・啓発経験別に比較すると、学習や啓発を受けているほど、ハンセン病（病気）の認知度が高い傾向がみられた。

学習を受けた経験別にみると、「①病気について詳しく知っている」と回答した割合は、「①小学校の授業で受けた」「②中学校の授業で受けた」「③高校の授業で受けた」が 14.0～18.2％であるのに対し、「⑪受けたことはない」は 3.1％、「⑫はっきり覚えていない」は 1.2％と低かった。

啓発を受けた経験別にみると、「①病気について詳しく知っている」と回答した割合は、「⑤中学生向けのパンフレット『ハンセン病の向こう側』」が 24.1％、「①法務省主催『ハンセン病問題に関する”親と子のシンポジウム”』」が 47.1％、「③国立ハンセン病資料館、国立ハンセン病療養所の資料館等の展示」が 30.4％であるのに対し、経験者が多い「⑫テレビ番組」「⑧新聞や雑誌の記事・広告」「⑨インターネット（ウェブサイト）の記事・広告」は 8.3～14.5％と低かった。

ハンセン病元患者（回復者）・家族・問題に取り組んでいる人と会った経験別にみると、「①病気について詳しく知っている」と回答した割合は、「①元患者（回復者）と会ったことがある」「②元患者（回復者）の家族と会ったことがある」「③ハンセン病問題に取り組んでいる人と会ったことがある」「④ハンセン病療養所に行ったことがある」が 33.2～38.9％であるのに対し、「⑫出会いや経験はない」は 2.7％と低かった。

表 64 Q5 ハンセン病(病気)の認知度[ハンセン病問題に関する学習・啓発経験別]

		(%) n=	①病気について詳しく知っている	②病気について多少は知っている	③名前は聞いたことがある	④全く知らない
全体		(20,916)	5.0	33.0	52.2	9.8
Q7 ハンセン病元患者（回復者）・家族・問題に取り組んでいる人と会った経験	①元患者（回復者）と会ったことがある（学校・職場等での学習、講演会・展示会等のイベントなども含む）	(702)	33.5	47.6	13.7	5.3
	②元患者（回復者）の家族と会ったことがある（学校・職場等での学習、講演会・展示会等のイベントなども含む）	(311)	38.9	43.1	12.9	5.1
	③ハンセン病問題に取り組んでいる人と会ったことがある（学校・職場等での学習、講演会・展示会等のイベントなども含む）	(671)	33.2	51.7	13.4	1.6
	④ハンセン病療養所に行ったことがある	(419)	35.8	53.2	9.5	1.4
	⑤元患者（回復者）やその家族のことを取り上げた情報に接したことがある（学校・職場等での学習、講演会・展示会等のイベント、パンフレット、新聞や雑誌の記事、書籍、ビデオ・DVD、テレビ番組、ラジオ、映画、展示等）	(1,995)	17.1	65.8	16.5	0.6
	⑥自分がハンセン病問題に取り組んでいる（いた）	(82)	53.7	34.1	11.0	1.2
	⑦自分の家族・親戚にハンセン病問題に取り組んでいる人がいる（いた）	(104)	37.5	44.2	14.4	3.8
	⑧自分の友人・知人にハンセン病問題に取り組んでいる人がいる（いた）	(177)	37.9	50.3	10.2	1.7
	⑨自分がハンセン病元患者（回復者）、またはその家族である	(68)	50.0	35.3	8.8	5.9
	⑩自分の親戚にハンセン病元患者（回復者）、またはその家族がいる（いた）	(76)	42.1	31.6	25.0	1.3
	⑪自分の友人・知人にハンセン病元患者（回復者）、またはその家族がいる（いた）	(101)	28.7	42.6	26.7	2.0
	⑫出会いはない/経験はない	(17,800)	2.7	27.9	58.2	11.2
Q8 ハンセン病問題の学習を受けた経験	①小学校の授業で受けた	(917)	15.7	46.3	36.8	1.2
	②中学校の授業で受けた	(1,360)	14.0	51.2	33.5	1.4
	③高校の授業で受けた	(1,068)	18.2	54.4	26.1	1.3
	④高等専門学校、専門学校または短期大学の授業で受けた	(404)	31.2	51.2	15.3	2.2
	⑤大学または大学院の講義で受けた	(505)	30.9	49.5	17.8	1.8
	⑥職場の研修で受けた	(388)	32.0	53.9	12.4	1.8
	⑦一般市民対象の講演会、講座などで受けた	(463)	26.8	59.2	12.5	1.5
	⑧テレビ・映画・youtubeなど映像を見た	(59)	15.3	54.2	28.8	1.7
	⑨書籍を読んだ	(10)	20.0	70.0	10.0	0.0
	⑩その他の場所で受けた	(53)	24.5	60.4	15.1	0.0
	⑪受けたことはない	(11,584)	3.1	32.7	54.3	9.9
	⑫はっきり覚えていない	(5,673)	1.2	20.6	63.2	15.0
Q9 ハンセン病問題の啓発活動に参加・接触した経験	①法務省主催「ハンセン病問題に関する『親と子のシンポジウム』」	(242)	47.1	36.4	11.2	5.4
	②講演会・展示会等のイベント（「親と子のシンポジウム」以外）	(564)	31.6	47.3	16.3	4.8
	③国立ハンセン病資料館、国立ハンセン病療養所の資料館等の展示（語り部の映像視聴、学芸員による講話を含む）	(997)	30.4	52.0	13.3	4.3
	④国や地方公共団体等が配布する広報紙	(2,085)	17.7	61.9	18.8	1.6
	⑤中学生向けのパンフレット「ハンセン病の向こう側」	(856)	24.1	51.8	20.1	4.1
	⑥「ハンセン病の向こう側」以外のパンフレット（国立ハンセン病資料館や地方公共団体等が作成しているもの）	(1,306)	24.9	59.2	13.3	2.6
	⑦掲示物（ポスター・看板等）	(2,803)	16.1	56.8	25.6	1.4
	⑧新聞や雑誌の記事・広告	(5,857)	10.9	58.6	29.8	0.7
	⑨インターネット（ウェブサイト）の記事・広告	(3,296)	14.5	56.3	27.7	1.5
	⑩書籍	(1,526)	23.7	60.6	13.4	2.3
	⑪ビデオ・DVD	(927)	24.2	53.8	18.8	3.2
	⑫テレビ番組	(7,874)	8.3	52.9	37.7	1.1
	⑬ラジオ	(1,023)	19.6	55.8	21.4	3.2
	⑭映画	(1,583)	17.3	59.4	20.6	2.7
	⑮学校教育を通じて	(23)	8.7	43.5	47.8	0.0
	⑯その他（自由記述あり）	(66)	12.1	59.1	27.3	1.5

（2）学習・啓発経験とハンセン病（病気）に対する印象の関係

ハンセン病（病気）に対する印象を学習・啓発経験別に比較すると、学習や啓発を受けているほど、正答率が高い傾向がみられた。

学習を受けた経験別にみると、全体で最も正答率が高かった「①遺伝する病気である」について、「そう思わない」「あまりそう思わない」と正答方向で回答した割合は、「①小学校の授業で受けた」「②中学校の授業で受けた」「③高校の授業で受けた」が 62.8～65.4％であるのに対し、「⑪受けたことはない」は 65.7％、「⑫はっきり覚えていない」は 55.1％であり、大きな差はみられなかった。

一方、全体で最も正答率が低かった「④感染しても発症に至ることがまれな病気である」について、「そう思う」「ややそう思う」と正答方向で回答した割合は、「①小学校の授業で受けた」「②中学校の授業で受けた」「③高校の授業で受けた」が 45.4～55.3％であるのに対し、「⑪受けたことはない」は 33.8％、「⑫はっきり覚えていない」は 25.6％と低かった。

啓発を受けた経験別にみると、全体平均で最も正答率が高かった「①遺伝する病気である」について、「そう思わない」「あまりそう思わない」と正答方向で回答した割合は、経験者が多い「⑫テレビ番組」「⑧新聞や雑誌の記事・広告」「⑨インターネット（ウェブサイト）の記事・広告」が 74.2～82.1％であるのに対し、「⑤中学生向けのパンフレット『ハンセン病の向こう側』」は 61.1％、「①法務省主催『ハンセン病問題に関する”親と子のシンポジウム”』」は 44.2％と低かった。「③国立ハンセン病資料館、国立ハンセン病療養所の資料館等の展示」は 72.3％であった。

全体平均で最も正答率が低かった「④感染しても発症に至ることがまれな病気である」について、「そう思う」「ややそう思う」と正答方向で回答した割合は、「⑤中学生向けのパンフレット『ハンセン病の向こう側』」「①法務省主催『ハンセン病問題に関する”親と子のシンポジウム”』」「③国立ハンセン病資料館、国立ハンセン病療養所の資料館等の展示」が 61.2～74.0％であるのに対し、経験者が多い「⑫テレビ番組」「⑧新聞や雑誌の記事・広告」「⑨インターネット（ウェブサイト）の記事・広告」は 47.4～55.3％と低かった。

ハンセン病元患者（回復者）・家族・問題に取り組んでいる人と会った経験別にみると、全体平均で最も正答率が高かった「①遺伝する病気である」について、「そう思わない」「あまりそう思わない」と正答方向で回答した割合は、「①元患者（回復者）と会ったことがある」が 63.5％、「②元患者（回復者）の家族と会ったことがある」が 58.5％、「③ハンセン病問題に取り組んでいる人と会ったことがある」が 72.6％、「④ハンセン病療養所に行ったことがある」が 79％であるのに対し、「⑫出会いや経験はない」は 60.9％であった。

全体平均で最も正答率が低かった「④感染しても発症に至ることがまれな病気である」について、「そう思う」「ややそう思う」と正答方向で回答した割合は、「①元患者（回復者）と会ったことがある」「②元患者（回復者）の家族と会ったことがある」「③ハンセン病問題に取り組んでいる人と会ったことがある」「④ハンセン病療養所に行ったことがある」が 63.7～66.1％であるのに対し、「⑫出会いや経験はない」は 31.0％と低かった。

表 65 Q6 ハンセン病に対する印象[ハンセン病問題に関する学習・啓発経験別]

		(%) n=	①遺伝する病気である	②「らい菌」に感染することで起こる病気である	③早めに治療すれば後遺症もなく治る病気である	④感染しても発症に至ることがまれな病気である	⑤致死性の弱い病気である
			「そう思わない」「あまりそう思わない」の割合	「そう思う」「ややそう思う」の割合			
全体		(20,916)	63.3	43.3	49.4	35.0	41.8
Q7 ハンセン病元患者（回復者）・家族・問題に取り組んでいる人と会った経験	①元患者（回復者）と会ったことがある（学校・職場等での学習、講演会・展示会等のイベントなども含む）	(702)	63.5	72.5	74.8	66.1	66.4
	②元患者（回復者）の家族と会ったことがある（学校・職場等での学習、講演会・展示会等のイベントなども含む）	(311)	58.5	71.7	71.1	66.6	61.1
	③ハンセン病問題に取り組んでいる人と会ったことがある（学校・職場等での学習、講演会・展示会等のイベントなども含む）	(671)	72.6	72.1	75.6	65.7	68.4
	④ハンセン病療養所に行ったことがある	(419)	79.0	76.4	80.9	63.7	70.6
	⑤元患者（回復者）やその家族のことを取り上げた情報に接したことがある（学校・職場等での学習、講演会・展示会等のイベント、パンフレット、新聞や雑誌の記事、書籍、ビデオ・DVD、テレビ番組、ラジオ、映画、展示等）	(1,995)	82.2	75.6	75.9	57.3	69.8
	⑥自分がハンセン病問題に取り組んでいる（いた）	(82)	46.3	76.8	72.0	67.1	64.6
	⑦自分の家族・親戚にハンセン病問題に取り組んでいる人がいる（いた）	(104)	49.0	67.3	70.2	61.5	63.5
	⑧自分の友人・知人にハンセン病問題に取り組んでいる人がいる（いた）	(177)	59.9	80.8	76.3	64.4	72.3
	⑨自分がハンセン病元患者（回復者）、またはその家族である	(68)	35.3	73.5	75.0	77.9	67.6
	⑩自分の親戚にハンセン病元患者（回復者）、またはその家族がいる（いた）	(76)	44.7	64.5	69.7	71.1	67.1
	⑪自分の友人・知人にハンセン病元患者（回復者）、またはその家族がいる（いた）	(101)	58.4	65.3	61.4	56.4	60.4
	⑫出会いはない/経験はない	(17,800)	60.9	38.4	45.1	31.0	37.4
Q8 ハンセン病問題の学習を受けた経験	①小学校の授業で受けた	(917)	62.8	56.4	61.2	45.4	49.5
	②中学校の授業で受けた	(1,360)	65.4	61.1	66.2	52.2	53.8
	③高校の授業で受けた	(1,068)	63.9	65.2	69.2	55.3	56.0
	④高等専門学校、専門学校または短期大学の授業で受けた	(404)	63.4	73.5	73.8	65.3	66.8
	⑤大学または大学院の講義で受けた	(505)	67.1	72.3	69.7	58.4	61.8
	⑥職場の研修で受けた	(388)	75.3	70.4	77.3	63.9	66.0
	⑦一般市民対象の講演会、講座などで受けた	(463)	77.3	73.7	82.3	65.4	71.3
	⑧テレビ・映画・youtubeなど映像を見た	(59)	86.4	61.0	61.0	49.2	64.4
	⑨書籍を読んだ	(10)	90.0	60.0	90.0	40.0	70.0
	⑩その他の場所で受けた	(53)	90.6	79.2	84.9	54.7	64.2
	⑪受けたことはない	(11,584)	65.7	42.9	49.3	33.8	42.6
	⑫はっきり覚えていない	(5,673)	55.1	31.6	37.7	25.6	30.3
Q9 ハンセン病問題の啓発活動に参加・接触した経験	①法務省主催「ハンセン病問題に関する『親と子のシンポジウム』」	(242)	44.2	72.7	77.3	74.0	66.1
	②講演会・展示会等のイベント（「親と子のシンポジウム」以外）	(564)	63.3	69.9	74.5	64.9	64.7
	③国立ハンセン病資料館、国立ハンセン病療養所の資料館等の展示（語り部の映像視聴、学芸員による講話を含む）	(997)	72.3	67.8	74.2	61.2	65.4
	④国や地方公共団体等が配布する広報紙	(2,085)	77.5	69.8	78.9	61.2	66.5
	⑤中学生向けのパンフレット「ハンセン病の向こう側」	(856)	61.1	64.1	70.9	61.4	58.9
	⑥「ハンセン病の向こう側」以外のパンフレット（国立ハンセン病資料館や地方公共団体等が作成しているもの）	(1,306)	76.6	69.8	80.5	64.1	68.8
	⑦掲示物（ポスター・看板等）	(2,803)	75.8	65.0	73.8	57.9	63.6
	⑧新聞や雑誌の記事・広告	(5,857)	82.1	66.5	72.9	52.6	63.5
	⑨インターネット（ウェブサイト）の記事・広告	(3,296)	74.2	66.8	71.3	55.3	62.8
	⑩書籍	(1,526)	79.6	74.3	80.3	64.5	68.9
	⑪ビデオ・DVD	(927)	71.2	68.0	72.6	59.7	64.3
	⑫テレビ番組	(7,874)	78.6	59.7	65.5	47.4	57.8
	⑬ラジオ	(1,023)	74.7	61.1	77.0	61.9	64.6
	⑭映画	(1,583)	80.0	70.1	74.7	55.0	65.5
	⑮学校教育を通じて	(23)	60.9	52.2	69.6	43.5	47.8
	⑯その他（自由記述あり）	(66)	80.3	63.6	74.2	59.1	69.7

2 ハンセン病に関する学習・啓発経験とハンセン病問題に関する知識の関係

(1)学習・啓発経験とハンセン病元患者(回復者)・家族に対する偏見差別による被害事例の認知度の関係

ハンセン病元患者(回復者)・家族に対する偏見差別による被害事例の認知度を学習・啓発経験別に比較すると、学習や啓発を受けているほど、被害事例の認知度が高い傾向がみられた。

学習を受けた経験別にみると、「⑮知っているものはない」と回答した割合は、「①小学校の授業で受けた」「②中学校の授業で受けた」「③高校の授業で受けた」が 13.9～18.2%であるのに対し、「⑪受けたことはない」は 45.5%、「⑫はっきり覚えていない」は 60.5%と高かった。

「②近隣や地域の人々から差別や排除行為を受けること」を「知っている」と回答した割合は、「①小学校の授業で受けた」「②中学校の授業で受けた」「③高校の授業で受けた」が 56.5～58.2%であるのに対し、「⑪受けたことはない」は 42.7%、「⑫はっきり覚えていない」は 28.5%と低かった。それ以外の項目においても、同様の傾向がみられた。

啓発を受けた経験別にみると、「⑮知っているものはない」と回答した割合は、「⑤中学生向けのパンフレット『ハンセン病の向こう側』」「①法務省主催『ハンセン病問題に関する”親と子のシンポジウム”』」「③国立ハンセン病資料館、国立ハンセン病療養所の資料館等の展示」が 7.0～11.8%であるのに対し、経験者が多い「⑫テレビ番組」「⑧新聞や雑誌の記事・広告」「⑨インターネット(ウェブサイト)の記事・広告」は 14.0～19.5%と高かった。

「②近隣や地域の人々から差別や排除行為を受けること」を「知っている」と回答した割合は、経験者が多い「⑫テレビ番組」「⑧新聞や雑誌の記事・広告」「⑨インターネット(ウェブサイト)の記事・広告」が 63.7～68.5%であるのに対し、「⑤中学生向けのパンフレット『ハンセン病の向こう側』」は 53.7%、「①法務省主催『ハンセン病問題に関する”親と子のシンポジウム”』」は 46.7%と低かった。「③国立ハンセン病資料館、国立ハンセン病療養所の資料館等の展示」は 60.0%であった。被害事例⑬においても、同様の傾向がみられた。

一方、「④通学している学校で教師から差別や排除行為を受けること」と回答した割合は、経験者が多い「⑫テレビ番組」「⑧新聞や雑誌の記事・広告」「⑨インターネット(ウェブサイト)の記事・広告」が 26.4～33.3%であるのに対し、「⑤中学生向けのパンフレット『ハンセン病の向こう側』」「①法務省主催『ハンセン病問題に関する”親と子のシンポジウム”』」「③国立ハンセン病資料館、国立ハンセン病療養所の資料館等の展示」は 35.6～38.0%と高かった。被害事例⑤においても、同様の傾向がみられた。

被害事例①、③、⑥～⑫については、経験者が多い「⑫テレビ番組」「⑧新聞や雑誌の記事・広告」「⑨インターネット(ウェブサイト)の記事・広告」と「⑤中学生向けのパンフレット『ハンセン病の向こう側』」「①法務省主催『ハンセン病問題に関する”親と子のシンポジウム”』」「③国立ハンセン病資料館、国立ハンセン病療養所の資料館等の展示」の回答傾向に大きな差はみられなかった。

ハンセン病元患者(回復者)・家族・問題に取り組んでいる人と会った経験別にみると、「⑮知っている

ものはない」と回答した割合は、「①元患者（回復者）と会ったことがある」「②元患者（回復者）の家族と会ったことがある」「③ハンセン病問題に取り組んでいる人と会ったことがある」「④ハンセン病療養所に行ったことがある」が 3.2～7.7％であるのに対し、「⑫出会いはない/経験はない」は 51.2％と高かった。

「②近隣や地域の人々から差別や排除行為を受けること」を「知っている」と回答した割合は、「①元患者（回復者）と会ったことがある」「②元患者（回復者）の家族と会ったことがある」「③ハンセン病問題に取り組んでいる人と会ったことがある」「④ハンセン病療養所に行ったことがある」が 56.8～71.4％であるのに対し、「⑫出会いはない/経験はない」は 36.4％と低かった。それ以外の項目においても、同様の傾向がみられた。

表 66 Q11 ハンセン病元患者(回復者)・家族に対する偏見差別による被害事例の認知度
[ハンセン病問題に関する学習・啓発経験別](1/2)

		(%) n=	①家族や親戚から差別や排除行為を受けること	②近隣や地域の人々から差別や排除行為を受けること	③通学している学校で他の生徒から集団的ないじめや排除行為を受けること	④通学している学校で教師から差別や排除行為を受けること	⑤医療従事者・介護従事者から差別や排除行為を受けること	⑥国・都道府県・市区町村等の行政職員から差別や排除行為を受けること	⑦ハンセン病元患者（回復者）やその家族であることを理由に就職試験で落とされること	⑧職場で同僚等から差別や排除行為を受けること
全体		(20,916)	34.4	41.4	21.5	16.3	11.6	15.4	19.6	15.9
Q7 ハンセン病元患者（回復者）・家族・問題に取り組んでいる人と会った経験	①元患者（回復者）と会ったことがある（学校・職場等での学習、講演会・展示会等のイベントなども含む）	(702)	65.0	56.8	40.0	37.7	31.8	31.1	37.2	27.2
	②元患者（回復者）の家族と会ったことがある（学校・職場等での学習、講演会・展示会等のイベントなども含む）	(311)	48.2	60.8	51.4	45.3	36.7	36.7	37.9	29.3
	③ハンセン病問題に取り組んでいる人と会ったことがある（学校・職場等での学習、講演会・展示会等のイベントなども含む）	(671)	65.4	67.2	49.2	42.8	36.7	38.5	45.0	34.7
	④ハンセン病療養所に行ったことがある	(419)	69.5	71.4	44.9	43.4	35.6	38.9	45.8	34.4
	⑤元患者（回復者）やその家族のことを取り上げた情報に接したことがある（学校・職場等での学習、講演会・展示会等のイベント、パンフレット、新聞や雑誌の記事、書籍、ビデオ・DVD、テレビ番組、ラジオ、映画、展示等）	(1,995)	72.0	79.4	46.9	39.4	31.8	39.3	47.7	37.3
	⑥自分がハンセン病問題に取り組んでいる（いた）	(82)	61.0	59.8	53.7	53.7	58.5	47.6	37.8	39.0
	⑦自分の家族・親戚にハンセン病問題に取り組んでいる人がいる（いた）	(104)	55.8	49.0	39.4	36.5	41.3	33.7	44.2	30.8
	⑧自分の友人・知人にハンセン病問題に取り組んでいる人がいる（いた）	(177)	60.5	57.6	44.6	44.6	33.9	34.5	43.5	30.5
	⑨自分がハンセン病元患者（回復者）、またはその家族である	(68)	58.8	47.1	54.4	60.3	54.4	44.1	44.1	33.8
	⑩自分の親戚にハンセン病元患者（回復者）、またはその家族がいる（いた）	(76)	51.3	43.4	38.2	47.4	39.5	35.5	35.5	30.3
	⑪自分の友人・知人にハンセン病元患者（回復者）、またはその家族がいる（いた）	(101)	50.5	50.5	35.6	39.6	34.7	27.7	27.7	24.8
	⑫出会いはない/経験はない	(17,800)	29.0	36.4	17.8	12.9	8.7	12.2	16.0	13.3
Q8 ハンセン病問題の学習を受けた経験	①小学校の授業で受けた	(917)	53.3	58.2	39.5	33.7	23.7	27.7	31.4	27.6
	②中学校の授業で受けた	(1,360)	52.8	57.6	39.6	33.2	22.6	28.5	33.0	28.2
	③高校の授業で受けた	(1,068)	53.1	56.5	39.6	34.6	26.0	28.3	35.4	27.1
	④高等専門学校、専門学校または短期大学の授業で受けた	(404)	51.5	58.4	40.8	34.7	30.4	31.4	35.9	28.7
	⑤大学または大学院の講義で受けた	(505)	52.3	57.2	44.0	34.9	28.9	26.9	34.1	28.7
	⑥職場の研修で受けた	(388)	60.8	62.4	39.9	37.9	31.4	32.7	36.6	31.4
	⑦一般市民対象の講演会、講座などで受けた	(463)	61.3	69.8	44.7	40.4	32.6	38.4	46.2	38.2
	⑧テレビ・映画・youtubeなど映像を見た	(59)	62.7	67.8	39.0	23.7	22.0	25.4	33.9	37.3
	⑨書籍を読んだ	(10)	60.0	70.0	40.0	30.0	0.0	40.0	40.0	10.0
	⑩その他の場所で受けた	(53)	73.6	86.8	49.1	37.7	28.3	30.2	34.0	34.0
	⑪受けたことはない	(11,584)	34.8	42.7	20.0	14.7	10.4	14.9	19.4	15.5
	⑫はっきり覚えていない	(5,673)	22.9	28.5	14.5	10.6	7.0	9.5	12.4	10.2
Q9 ハンセン病問題の啓発活動に参加・接触した経験	①法務省主催「ハンセン病問題に関する『親と子のシンポジウム』」	(242)	52.5	46.7	41.3	38.0	38.0	33.9	34.3	23.6
	②講演会・展示会等のイベント（「親と子のシンポジウム」以外）	(564)	54.4	56.2	42.2	37.1	30.7	32.4	37.2	28.2
	③国立ハンセン病資料館、国立ハンセン病療養所の資料館等の展示（語り部の映像視聴、学芸員による講話を含む）	(997)	59.5	60.0	41.8	36.4	31.0	32.9	39.0	31.5
	④国や地方公共団体等が配布する広報紙	(2,085)	61.1	69.4	41.2	33.8	26.8	31.8	43.5	33.4
	⑤中学生向けのパンフレット「ハンセン病の向こう側」	(856)	51.2	53.7	39.5	35.6	27.6	30.3	34.0	25.6
	⑥「ハンセン病の向こう側」以外のパンフレット（国立ハンセン病資料館や地方公共団体等が作成しているもの）	(1,306)	61.3	67.5	43.5	36.8	29.9	34.5	43.0	33.2
	⑦掲示物（ポスター・看板等）	(2,803)	57.0	65.6	40.7	33.1	24.0	29.0	39.9	32.2
	⑧新聞や雑誌の記事・広告	(5,857)	59.0	68.5	36.9	29.0	21.5	28.3	37.8	29.9
	⑨インターネット（ウェブサイト）の記事・広告	(3,296)	57.0	64.9	40.6	33.3	26.0	30.5	37.5	31.6
	⑩書籍	(1,526)	63.7	68.4	41.5	37.4	29.9	33.6	42.1	34.3
	⑪ビデオ・DVD	(927)	60.2	64.1	44.3	37.2	30.2	34.4	40.1	31.8
	⑫テレビ番組	(7,874)	54.4	63.7	33.8	26.4	19.7	26.0	33.6	26.7
	⑬ラジオ	(1,023)	55.8	58.8	36.5	32.5	27.4	31.3	38.0	28.7
	⑭映画	(1,583)	60.9	65.1	36.8	30.1	23.2	28.5	37.1	28.0
	⑮学校教育を通じて	(23)	56.5	56.5	43.5	34.8	21.7	34.8	34.8	34.8
	⑯その他（自由記述あり）	(66)	57.6	74.2	39.4	36.4	28.8	31.8	31.8	39.4

表 67　Q11 ハンセン病元患者(回復者)・家族に対する偏見差別による被害事例の認知度
[ハンセン病問題に関する学習・啓発経験別](2/2)

		n=	⑨ハンセン病元患者（回復者）やその家族であることを理由に交際を断られる、あるいは離婚させられること	⑩ハンセン病についての誤った認識をハンセン病元患者（回復者）やその家族が持つことにより、親密な家族関係が築けないこと	⑪家族を責めたり、恨んだり、忌避したりして、家族関係が破綻すること	⑫家族であるハンセン病元患者（回復者）との関係を断ったり、あるいは距離をおいたりして、家族関係が破綻すること	⑬ハンセン病元患者（回復者）やその家族であるということを誰にも言えず、秘密を抱えて生きていかざるを得ないこと	⑭その他	⑮左記の中に知っているものはない
		(%)							
全体		(20,916)	22.3	17.8	14.0	18.3	26.3	0.5	44.6
Q7 ハンセン病元患者（回復者）・家族・問題に取り組んでいる人と会った経験	①元患者（回復者）と会ったことがある（学校・職場等での学習、講演会・展示会等のイベントなども含む）	(702)	35.8	32.5	27.5	32.9	36.6	0.9	7.7
	②元患者（回復者）の家族と会ったことがある（学校・職場等での学習、講演会・展示会等のイベントなども含む）	(311)	32.5	30.5	28.3	32.2	31.8	0.0	3.2
	③ハンセン病問題に取り組んでいる人と会ったことがある（学校・職場等での学習、講演会・展示会等のイベントなども含む）	(671)	45.0	38.5	34.3	42.2	47.2	0.9	4.8
	④ハンセン病療養所に行ったことがある	(419)	49.9	40.1	34.1	42.0	50.1	1.0	7.4
	⑤元患者（回復者）やその家族のことを取り上げた情報に接したことがある（学校・職場等での学習、講演会・展示会等のイベント、パンフレット、新聞や雑誌の記事、書籍、ビデオ・DVD、テレビ番組、ラジオ、映画、展示等）	(1,995)	55.9	45.6	38.0	49.2	59.9	1.3	4.5
	⑥自分がハンセン病問題に取り組んでいる（いた）	(82)	43.9	40.2	39.0	48.8	43.9	0.0	2.4
	⑦自分の家族・親戚にハンセン病問題に取り組んでいる人がいる（いた）	(104)	39.4	41.3	28.8	35.6	39.4	0.0	3.8
	⑧自分の友人・知人にハンセン病問題に取り組んでいる人がいる（いた）	(177)	41.8	43.5	34.5	40.7	44.6	1.1	5.6
	⑨自分がハンセン病元患者（回復者）、またはその家族である	(68)	41.2	41.2	32.4	50.0	36.8	0.0	0.0
	⑩自分の親戚にハンセン病元患者（回復者）、またはその家族がいる（いた）	(76)	43.4	38.2	36.8	51.3	36.8	0.0	6.6
	⑪自分の友人・知人にハンセン病元患者（回復者）、またはその家族がいる（いた）	(101)	34.7	35.6	30.7	38.6	47.5	0.0	11.9
	⑫出会いはない/経験はない	(17,800)	18.2	14.3	10.9	14.4	22.2	0.4	51.2
Q8 ハンセン病問題の学習を受けた経験	①小学校の授業で受けた	(917)	31.0	26.0	23.7	27.0	34.0	0.3	18.2
	②中学校の授業で受けた	(1,360)	32.6	27.4	25.0	28.8	35.9	0.3	17.4
	③高校の授業で受けた	(1,068)	32.3	28.7	23.6	27.6	36.1	0.3	13.9
	④高等専門学校、専門学校または短期大学の授業で受けた	(404)	33.9	30.7	27.5	33.2	39.9	0.7	15.6
	⑤大学または大学院の講義で受けた	(505)	33.5	28.7	26.9	30.5	35.0	0.4	15.8
	⑥職場の研修で受けた	(388)	44.1	37.6	31.7	36.6	43.8	1.3	9.3
	⑦一般市民対象の講演会、講座などで受けた	(463)	49.0	42.3	33.3	42.5	54.2	0.2	6.5
	⑧テレビ・映画・youtubeなど映像を見た	(59)	37.3	39.0	27.1	42.4	50.8	6.8	18.6
	⑨書籍を読んだ	(10)	30.0	50.0	20.0	50.0	30.0	0.0	20.0
	⑩その他の場所で受けた	(53)	56.6	34.0	26.4	43.4	64.2	1.9	5.7
	⑪受けたことはない	(11,584)	23.3	18.5	14.0	19.1	27.8	0.6	45.5
	⑫はっきり覚えていない	(5,673)	13.9	10.6	8.3	10.9	17.1	0.2	60.5
Q9 ハンセン病問題の啓発活動に参加・接触した経験	①法務省主催「ハンセン病問題に関する『親と子のシンポジウム』」	(242)	28.9	24.8	26.0	30.6	27.3	0.0	7.0
	②講演会・展示会等のイベント（「親と子のシンポジウム」以外）	(564)	33.9	28.9	25.4	34.4	39.0	0.7	10.3
	③国立ハンセン病資料館、国立ハンセン病療養所の資料館等の展示（語り部の映像視聴、学芸員による講話を含む）	(997)	40.3	35.8	30.2	37.3	44.2	1.0	11.6
	④国や地方公共団体等が配布する広報紙	(2,085)	47.5	38.0	31.8	39.0	51.9	0.6	10.8
	⑤中学生向けのパンフレット「ハンセン病の向こう側」	(856)	31.2	28.7	23.0	28.0	34.1	0.0	11.8
	⑥「ハンセン病の向こう側」以外のパンフレット（国立ハンセン病資料館や地方公共団体等が作成しているもの）	(1,306)	46.1	38.8	32.6	40.7	50.2	0.8	9.3
	⑦掲示物（ポスター・看板等）	(2,803)	42.6	35.6	29.9	35.9	48.9	0.4	13.4
	⑧新聞や雑誌の記事・広告	(5,857)	43.9	35.6	27.7	36.5	49.6	0.9	14.3
	⑨インターネット（ウェブサイト）の記事・広告	(3,296)	41.2	34.9	28.7	35.4	45.1	0.7	14.0
	⑩書籍	(1,526)	46.4	41.5	35.1	42.3	50.7	1.2	11.4
	⑪ビデオ・DVD	(927)	40.8	35.4	30.4	37.1	43.4	1.1	13.1
	⑫テレビ番組	(7,874)	38.7	31.4	25.1	32.4	44.9	0.9	19.5
	⑬ラジオ	(1,023)	39.7	33.7	29.7	34.4	42.8	1.0	15.3
	⑭映画	(1,583)	42.2	36.1	29.7	37.8	49.0	0.8	15.9
	⑮学校教育を通じて	(23)	39.1	34.8	39.1	39.1	34.8	0.0	26.1
	⑯その他（自由記述あり）	(66)	45.5	39.4	28.8	39.4	51.5	12.1	19.7

（2）学習・啓発経験とハンセン病強制隔離政策の認知度の関係

ハンセン病強制隔離政策の認知度を学習・啓発経験別に比較すると、学習や啓発を受けているほど、認知度が高い傾向がみられた。

学習を受けた経験別にみると、「①明治後期以降、ハンセン病患者を強制的に収容する『強制隔離政策』が行われたこと」に対し、「知っている」「少し知っている」と回答した割合は、「①小学校の授業で受けた」「②中学校の授業で受けた」「③高校の授業で受けた」が 65.0～70.3%であるのに対し、「⑪受けたことはない」は 55.3%、「⑫はっきり覚えていない」は 36.9%と低かった。それ以外の項目においても、同様の傾向がみられた。

啓発を受けた経験別にみると、「①明治後期以降、ハンセン病患者を強制的に収容する『強制隔離政策』が行われたこと」に対し、「知っている」「少し知っている」と回答した割合は、経験者が多い「⑫テレビ番組」「⑧新聞や雑誌の記事・広告」「⑨インターネット(ウェブサイト)の記事・広告」が 78.0～84.3%であるのに対し、「⑤中学生向けのパンフレット『ハンセン病の向こう側』」は 69.9%と低かった。「①法務省主催『ハンセン病問題に関する”親と子のシンポジウム”』」は 73.6%、「③国立ハンセン病資料館、国立ハンセン病療養所の資料館等の展示」は 75.6%であった。しかし、それ以外の項目においては、啓発①③⑤の経験者は、啓発⑧⑨⑫に比べて強制隔離政策についての認知度が高い傾向がみられた。

ハンセン病元患者（回復者）・家族・問題に取り組んでいる人と会った経験別にみると、「①明治後期以降、ハンセン病患者を強制的に収容する『強制隔離政策』が行われたこと」に対し、「知っている」「少し知っている」と回答した割合は、「①元患者（回復者）と会ったことがある」「②元患者（回復者）の家族と会ったことがある」「③ハンセン病問題に取り組んでいる人と会ったことがある」「④ハンセン病療養所に行ったことがある」が 70.8～84.5%であるのに対し、「⑫出会いはない/経験はない」は 47.7%と低かった。それ以外の項目においても、同様の傾向がみられた。

表 68 Q15 ハンセン病強制隔離政策の認知度[ハンセン病問題に関する学習・啓発経験別]

		(%) n=	①明治後期以降、ハンセン病患者を強制的に収容する「強制隔離政策」が行われたこと	②戦前および戦後にかけて、全てのハンセン病患者を強制隔離する、官民一体の「無らい県運動」が行なわれたこと	③有効な薬が開発され、治療法が確立されたが、強制隔離政策はそのまま継続されたこと	④平成８（１９９６）年に強制隔離政策を主体とした「らい予防法」が廃止されたこと	⑤平成１３（２００１）年に強制隔離政策を違憲とする熊本地裁判決が下されたこと	⑥令和元（２０１９）年にハンセン病患者家族に対する偏見や差別の被害を認める熊本地裁判決が下されたこと	⑦現在も「ハンセン病療養所」があり、ハンセン病が治った後も暮らし続けている人がいること
			「知っている」「少し知っている」の割合						
全体		(20,916)	52.8	32.4	41.6	34.1	29.6	29.9	36.2
Q7 ハンセン病元患者（回復者）・家族・問題に取り組んでいる人と会った経験	①元患者（回復者）と会ったことがある（学校・職場等での学習、講演会・展示会等のイベントなども含む）	(702)	70.8	73.9	79.8	71.2	66.4	67.1	76.8
	②元患者（回復者）の家族と会ったことがある（学校・職場等での学習、講演会・展示会等のイベントなども含む）	(311)	71.7	76.5	75.2	71.1	69.8	73.0	80.1
	③ハンセン病問題に取り組んでいる人と会ったことがある（学校・職場等での学習、講演会・展示会等のイベントなども含む）	(671)	81.5	76.3	83.9	76.0	67.8	70.0	78.2
	④ハンセン病療養所に行ったことがある	(419)	84.5	74.0	85.4	75.9	70.6	65.6	87.8
	⑤元患者（回復者）やその家族のことを取り上げた情報に接したことがある（学校・職場等での学習、講演会・展示会等のイベント、パンフレット、新聞や雑誌の記事、書籍、ビデオ・DVD、テレビ番組、ラジオ、映画、展示等）	(1,995)	89.9	64.5	81.2	73.4	62.3	59.4	74.7
	⑥自分がハンセン病問題に取り組んでいる（いた）	(82)	76.8	84.1	84.1	74.4	82.9	82.9	85.4
	⑦自分の家族・親戚にハンセン病問題に取り組んでいる人がいる（いた）	(104)	73.1	75.0	76.0	58.7	64.4	68.3	74.0
	⑧自分の友人・知人にハンセン病問題に取り組んでいる人がいる（いた）	(177)	78.5	75.1	74.6	74.0	66.1	67.8	73.4
	⑨自分がハンセン病元患者（回復者）、またはその家族である	(68)	70.6	85.3	85.3	70.6	69.1	79.4	83.8
	⑩自分の親戚にハンセン病元患者（回復者）、またはその家族がいる（いた）	(76)	67.1	75.0	75.0	69.7	68.4	76.3	80.3
	⑪自分の友人・知人にハンセン病元患者（回復者）、またはその家族がいる（いた）	(101)	61.4	68.3	67.3	62.4	66.3	66.3	70.3
	⑫出会いはない/経験はない	(17,800)	47.7	26.6	35.1	27.8	24.1	24.7	29.7
Q8 ハンセン病問題の学習を受けた経験	①小学校の授業で受けた	(917)	65.0	50.6	57.7	49.5	45.1	48.5	51.5
	②中学校の授業で受けた	(1,360)	69.6	56.3	64.5	55.3	50.8	55.1	55.9
	③高校の授業で受けた	(1,068)	70.3	63.7	68.6	62.5	58.2	61.4	65.0
	④高等専門学校、専門学校または短期大学の授業で受けた	(404)	71.0	60.9	69.1	64.4	54.7	56.4	64.6
	⑤大学または大学院の講義で受けた	(505)	70.5	61.8	68.9	65.7	55.4	57.0	63.6
	⑥職場の研修で受けた	(388)	81.4	70.6	79.4	74.2	64.2	66.8	75.5
	⑦一般市民対象の講演会、講座などで受けた	(463)	86.2	77.3	81.6	76.0	72.6	72.4	78.8
	⑧テレビ・映画・youtubeなど映像を見た	(59)	84.7	55.9	54.2	52.5	44.1	45.8	50.8
	⑨書籍を読んだ	(10)	80.0	80.0	80.0	60.0	50.0	50.0	70.0
	⑩その他の場所で受けた	(53)	98.1	71.7	92.5	71.7	64.2	54.7	79.2
	⑪受けたことはない	(11,584)	55.3	29.6	40.9	32.5	28.4	27.4	35.0
	⑫はっきり覚えていない	(5,673)	36.9	21.5	27.6	22.1	18.3	20.0	23.9
Q9 ハンセン病問題の啓発活動に参加・接触した経験	①法務省主催「ハンセン病問題に関する『親と子のシンポジウム』」	(242)	73.6	81.0	79.3	79.8	76.0	76.4	83.5
	②講演会・展示会等のイベント（「親と子のシンポジウム」以外）	(564)	70.7	80.3	80.0	73.8	69.9	72.5	79.3
	③国立ハンセン病資料館、国立ハンセン病療養所の資料館等の展示（語り部の映像視聴、学芸員による講話を含む）	(997)	75.6	74.8	80.1	74.7	68.7	70.9	78.8
	④国や地方公共団体等が配布する広報紙	(2,085)	84.7	68.8	78.6	72.4	66.6	66.5	74.4
	⑤中学生向けのパンフレット「ハンセン病の向こう側」	(856)	69.9	70.0	74.9	69.2	64.8	69.3	69.7
	⑥「ハンセン病の向こう側」以外のパンフレット（国立ハンセン病資料館や地方公共団体等が作成しているもの）	(1,306)	82.5	73.0	80.2	75.6	69.9	69.8	76.5
	⑦掲示物（ポスター・看板等）	(2,803)	79.4	61.3	72.1	64.9	58.4	59.4	66.1
	⑧新聞や雑誌の記事・広告	(5,857)	84.3	56.2	71.5	62.3	55.7	54.3	64.7
	⑨インターネット（ウェブサイト）の記事・広告	(3,296)	78.0	59.2	69.9	62.0	55.6	56.8	62.5
	⑩書籍	(1,526)	85.8	72.2	81.7	76.3	67.6	65.6	75.7
	⑪ビデオ・DVD	(927)	78.2	69.3	75.7	70.3	63.1	63.3	72.8
	⑫テレビ番組	(7,874)	78.4	49.4	64.0	54.2	48.2	47.5	57.5
	⑬ラジオ	(1,023)	77.0	68.7	74.3	68.7	65.4	65.0	70.9
	⑭映画	(1,583)	84.3	62.0	73.9	66.7	56.9	54.6	68.7
	⑮学校教育を通じて	(23)	65.2	39.1	56.5	65.2	43.5	43.5	34.8
	⑯その他（自由記述あり）	(66)	86.4	50.0	72.7	57.6	53.0	50.0	66.7

3 ハンセン病問題に関する学習・啓発経験とハンセン病に対する偏見差別意識の関係

(1)学習・啓発経験とハンセン病に係る偏見差別に関する経験等の関係

ハンセン病に係る偏見差別に関する経験等を学習・啓発経験別に比較すると、学習や啓発を受けているほど、偏見差別に関する経験がある割合や社会に現存するハンセン病に対する偏見差別の認知度が高い傾向がみられた。

学習を受けた経験別にみると、「③ハンセン病元患者(回復者)やその家族が差別を受けていると聞いたことがある」と回答した割合は、「①小学校の授業で受けた」「②中学校の授業で受けた」「③高校の授業で受けた」が 48.1～50.9%と半数にとどまっているのに対し、「⑪受けたことはない」は 28.8%、「⑫はっきり覚えていない」は 21.0%とさらに低かった。偏見差別に関する経験①②④においても、同様の傾向がみられた。

次に、「⑤現在、世の中にハンセン病元患者(回復者)やその家族に対する偏見や差別があると思う」と回答した割合は、「①小学校の授業で受けた」「②中学校の授業で受けた」「③高校の授業で受けた」が 49.1～51.0%にとどまっているのに対し、「⑪受けたことはない」は 40.9%、「⑫はっきり覚えていない」は 29.8%とさらに低かった。

また、「⑥自分自身は偏見や差別の意識を持っていないと思う」と回答した割合は、「①小学校の授業で受けた」「②中学校の授業で受けた」「③高校の授業で受けた」が 67.8～70.2%であるのに対し、「⑪受けたことはない」は 67.1%、「⑫はっきり覚えていない」は 57.0%とやや低いが、大きな差はみられなかった。

啓発を受けた経験別にみると、「③ハンセン病元患者(回復者)やその家族が差別を受けていると聞いたことがある」と回答した割合は、「⑤中学生向けのパンフレット『ハンセン病の向こう側』」「①法務省主催『ハンセン病問題に関する”親と子のシンポジウム”』」「③国立ハンセン病資料館、国立ハンセン病療養所の資料館等の展示」が 55.7～63.2%にとどまっているのに対し、経験者が多い「⑫テレビ番組」「⑧新聞や雑誌の記事・広告」「⑨インターネット(ウェブサイト)の記事・広告」は 48.3～52.9%とさらに低かった。偏見差別に関する経験①②④においても、同様の傾向がみられた。

次に、「⑤現在、世の中にハンセン病元患者(回復者)やその家族に対する偏見や差別があると思う」と回答した割合は、「⑤中学生向けのパンフレット『ハンセン病の向こう側』」「①法務省主催『ハンセン病問題に関する”親と子のシンポジウム”』」「③国立ハンセン病資料館、国立ハンセン病療養所の資料館等の展示」が 57.1～63.2%にとどまっているのに対し、経験者が多い「⑫テレビ番組」「⑧新聞や雑誌の記事・広告」「⑨インターネット(ウェブサイト)の記事・広告」は 57.2～62.6%であり、大きな差はみられなかった。

また、「⑥自分自身は偏見や差別の意識を持っていないと思う」と回答した割合は、「⑤中学生向けのパンフレット『ハンセン病の向こう側』」「①法務省主催『ハンセン病問題に関する”親と子のシンポジウム”』」「③国立ハンセン病資料館、国立ハンセン病療養所の資料館等の展示」が 70.2～75.0%であるのに対し、経験者が多い「⑫テレビ番組」「⑧新聞や雑誌の記事・広告」「⑨インターネット(ウェブサイト)の記事・広告」は 76.2～79.7%とやや高かった。

ハンセン病に係る偏見差別に関する経験等をハンセン病元患者（回復者）・家族・問題に取り組んでいる人と会った経験別にみると、「③ハンセン病元患者（回復者）やその家族が差別を受けていると聞いたことがある」と回答した割合は、「①元患者（回復者）と会ったことがある」「②元患者（回復者）の家族と会ったことがある」「③ハンセン病問題に取り組んでいる人と会ったことがある」「④ハンセン病療養所に行ったことがある」が 58.2～67.4％であるのに対し、「⑫出会いはない/経験はない」は 24.4％と顕著に低かった。偏見差別に関する経験①②④においても、同様の傾向がみられた。

次に、「⑤現在、世の中にハンセン病元患者（回復者）やその家族に対する偏見や差別があると思う」と回答した割合は、「①元患者（回復者）と会ったことがある」「②元患者（回復者）の家族と会ったことがある」「③ハンセン病問題に取り組んでいる人と会ったことがある」「④ハンセン病療養所に行ったことがある」が 55.8～64.0％であるのに対し、「⑫出会いはない/経験はない」は 35.5％と顕著に低かった。

また、「⑥自分自身は偏見や差別の意識を持っていないと思う」と回答した割合は、「①元患者（回復者）と会ったことがある」「②元患者（回復者）の家族と会ったことがある」「③ハンセン病問題に取り組んでいる人と会ったことがある」「④ハンセン病療養所に行ったことがある」が 66.6～77.1％であるのに対し、「⑫出会いはない/経験はない」は 62.4％とやや低かった。

表 69　Q10 ハンセン病に係る偏見差別に関する経験等[ハンセン病問題に関する学習・啓発経験別]

		(%) n=	①自分の家族・親戚などが偏見や差別に基づく言動をしているのを見聞きしたことがある	②自分の友人・知人など身近な人が偏見や差別に基づく言動をしているのを見聞きしたことがある	③ハンセン病元患者（回復者）やその家族が差別を受けていると聞いたことがある	④自分や身近な人がハンセン病元患者（回復者）やその家族として、偏見や差別による被害を受けている（いた）	⑤現在、世の中にハンセン病元患者（回復者）やその家族に対する偏見や差別がある	⑥自分自身は偏見や差別の意識を持っていないと思う
			「ある」の割合				「あると思う」の割合	「持っていないと思う」の割合
全体		(20,916)	7.3	8.4	30.0	4.7	39.6	64.6
Q7 ハンセン病元患者（回復者）・家族・問題に取り組んでいる人と会った経験	①元患者（回復者）と会ったことがある（学校・職場等での学習、講演会・展示会等のイベントなども含む）	(702)	30.3	36.2	59.1	29.3	55.8	69.5
	②元患者（回復者）の家族と会ったことがある（学校・職場等での学習、講演会・展示会等のイベントなども含む）	(311)	38.3	51.4	58.2	44.4	58.8	66.6
	③ハンセン病問題に取り組んでいる人と会ったことがある（学校・職場等での学習、講演会・展示会等のイベントなども含む）	(671)	25.6	30.6	67.4	24.0	62.7	74.8
	④ハンセン病療養所に行ったことがある	(419)	21.2	25.8	65.4	20.8	64.0	77.1
	⑤元患者（回復者）やその家族のことを取り上げた情報に接したことがある（学校・職場等での学習、講演会・展示会等のイベント、パンフレット、新聞や雑誌の記事、書籍、ビデオ・DVD、テレビ番組、ラジオ、映画、展示等）	(1,995)	14.6	16.8	67.6	9.9	68.7	82.9
	⑥自分がハンセン病問題に取り組んでいる（いた）	(82)	52.4	62.2	64.6	53.7	68.3	79.3
	⑦自分の家族・親戚にハンセン病問題に取り組んでいる人がいる（いた）	(104)	40.4	50.0	59.6	45.2	56.7	70.2
	⑧自分の友人・知人にハンセン病問題に取り組んでいる人がいる（いた）	(177)	41.2	41.8	61.6	33.9	64.4	77.4
	⑨自分がハンセン病元患者（回復者）、またはその家族である	(68)	58.8	69.1	57.4	63.2	60.3	75.0
	⑩自分の親戚にハンセン病元患者（回復者）、またはその家族がいる（いた）	(76)	56.6	60.5	53.9	57.9	52.6	69.7
	⑪自分の友人・知人にハンセン病元患者（回復者）、またはその家族がいる（いた）	(101)	41.6	53.5	57.4	44.6	56.4	71.3
	⑫出会いはない/経験はない	(17,800)	5.4	6.1	24.4	2.9	35.5	62.4
Q8 ハンセン病問題の学習を受けた経験	①小学校の授業で受けた	(917)	16.7	19.6	48.1	13.5	49.1	67.8
	②中学校の授業で受けた	(1,360)	16.3	20.0	48.5	14.6	49.8	69.5
	③高校の授業で受けた	(1,068)	20.3	25.2	50.9	19.0	51.0	70.2
	④高等専門学校、専門学校または短期大学の授業で受けた	(404)	23.0	27.7	52.0	21.3	53.2	67.6
	⑤大学または大学院の講義で受けた	(505)	18.2	23.8	51.7	18.6	54.5	71.9
	⑥職場の研修で受けた	(388)	22.4	26.0	58.2	20.9	57.7	74.7
	⑦一般市民対象の講演会、講座などで受けた	(463)	24.6	28.1	59.4	19.0	67.4	77.1
	⑧テレビ・映画・youtubeなど映像を見た	(59)	13.6	8.5	50.8	6.8	45.8	76.3
	⑨書籍を読んだ	(10)	10.0	10.0	50.0	0.0	50.0	50.0
	⑩その他の場所で受けた	(53)	13.2	9.4	71.7	15.1	77.4	83.0
	⑪受けたことはない	(11,584)	5.4	5.7	28.8	2.6	40.9	67.1
	⑫はっきり覚えていない	(5,673)	5.0	6.2	21.0	2.9	29.8	57.0
Q9 ハンセン病問題の啓発活動に参加・接触した経験	①法務省主催「ハンセン病問題に関する『親と子のシンポジウム』」	(242)	54.5	59.5	58.3	54.1	63.2	70.2
	②講演会・展示会等のイベント（「親と子のシンポジウム」以外）	(564)	31.2	44.9	64.0	37.8	64.2	73.0
	③国立ハンセン病資料館、国立ハンセン病療養所の資料館等の展示（語り部の映像視聴、学芸員による講話を含む）	(997)	26.0	34.0	63.2	28.3	63.1	75.0
	④国や地方公共団体等が配布する広報紙	(2,085)	18.5	21.4	60.6	14.0	65.1	80.2
	⑤中学生向けのパンフレット「ハンセン病の向こう側」	(856)	28.4	35.4	55.7	28.5	57.1	72.9
	⑥「ハンセン病の向こう側」以外のパンフレット（国立ハンセン病資料館や地方公共団体等が作成しているもの）	(1,306)	21.9	26.5	62.9	19.1	65.5	79.0
	⑦掲示物（ポスター・看板等）	(2,803)	16.5	18.7	55.3	11.5	62.1	79.2
	⑧新聞や雑誌の記事・広告	(5,857)	11.6	12.5	52.9	8.1	62.6	79.7
	⑨インターネット（ウェブサイト）の記事・広告	(3,296)	15.0	17.8	52.7	11.3	58.8	76.3
	⑩書籍	(1,526)	20.2	22.7	59.4	16.4	65.1	77.9
	⑪ビデオ・DVD	(927)	23.0	28.7	59.9	21.4	58.9	76.2
	⑫テレビ番組	(7,874)	10.3	10.9	48.3	7.1	57.2	76.2
	⑬ラジオ	(1,023)	22.2	26.3	54.5	20.2	59.3	73.5
	⑭映画	(1,583)	17.2	18.4	52.6	13.4	62.1	78.4
	⑮学校教育を通じて	(23)	13.0	4.3	47.8	4.3	52.2	69.6
	⑯その他（自由記述あり）	(66)	16.7	18.2	68.2	6.1	63.6	77.3

（2）学習・啓発経験とハンセン病問題に関する歴史的事実・考え方に対する意見の関係

ハンセン病問題に関する歴史的事実・考え方に対する意見を学習・啓発経験別に比較すると、学習や啓発を受けているほど、誤った言説を支持する傾向の回答割合が高い傾向がみられた。

学習を受けた経験別にみると、「②ハンセン病患者を『療養所』に強制的に隔離してきたことは、有効な薬が開発され治療法が確立された後であっても、やむを得ない措置であった」という誤った言説に対し、「そう思う」「どちらかといえばそう思う」の合計、つまり誤りを支持する傾向の回答割合は、「①小学校の授業で受けた」「②中学校の授業で受けた」「③高校の授業で受けた」が 20.4～26.6％であるのに対し、「⑪受けたことはない」は 9.3％、「⑫はっきり覚えていない」は 8.7％と低かった。それ以外の項目においても、同様の傾向がみられた。

啓発を受けた経験別にみると、「②ハンセン病患者を『療養所』に強制的に隔離してきたことは、有効な薬が開発され治療法が確立された後であっても、やむを得ない措置であった」という誤った言説に対し、「そう思う」「どちらかといえばそう思う」の合計、つまり誤りを支持する傾向の回答割合は、「⑤中学生向けのパンフレット『ハンセン病の向こう側』」が 33.1％、「①法務省主催『ハンセン病問題に関する”親と子のシンポジウム”』」が 55.4％、「③国立ハンセン病資料館、国立ハンセン病療養所の資料館等の展示」が 27.0％であるのに対し、経験者が多い「⑫テレビ番組」「⑧新聞や雑誌の記事・広告」「⑨インターネット（ウェブサイト）の記事・広告」は 12.0～16.3％と低かった。それ以外の項目においても、同様の傾向がみられた。

ハンセン病元患者（回復者）・家族・問題に取り組んでいる人と会った経験別にみると、「②ハンセン病患者を『療養所』に強制的に隔離してきたことは、有効な薬が開発され治療法が確立された後であっても、やむを得ない措置であった」という誤った言説に対し、「そう思う」「どちらかといえばそう思う」の合計、つまり誤りを支持する傾向の回答割合は、「①元患者（回復者）と会ったことがある」「②元患者（回復者）の家族と会ったことがある」「③ハンセン病問題に取り組んでいる人と会ったことがある」「④ハンセン病療養所に行ったことがある」が 22.7～48.9％であるのに対し、「⑫出会いはない/経験はない」は 10.0％と低かった。それ以外の項目においても、同様の傾向がみられた。

表 70 Q12 ハンセン病問題に関する歴史的事実・考え方に対する意見
［ハンセン病問題に関する学習・啓発経験別］

		(%) n=	①ハンセン病患者を「療養所」に強制的に隔離してきたことは、有効な薬が開発され治療法が確立されるまでは、やむを得ない措置であった	②ハンセン病患者を「療養所」に強制的に隔離してきたことは、有効な薬が開発され治療法が確立された後であっても、やむを得ない措置であった	③かつて「療養所」においては、結婚の時に「子どもを生めなくする手術をすること」を条件とされていたことは、有効な薬が開発され治療法が確立されるまでは、仕方がないことであった	④かつて「療養所」においては、結婚の時に「子どもを生めなくする手術をすること」を条件とされていたことは、有効な薬が開発され治療法が確立された後であっても、仕方がないことであった	⑤ハンセン病元患者（回復者）にとっては、専門性がある医療・福祉を受けられる「療養所」の中で暮らすことのほうが、「療養所」の外で暮らすよりもよい	⑥ハンセン病元患者（回復者）にとっては、偏見・差別を受けづらい「療養所」の中で暮らすことのほうが、「療養所」の外で暮らすよりもよい	⑦ハンセン病患者の自由が拘束されることは仕方のない側面もある	⑧ハンセン病元患者（回復者）の宿泊を「他の宿泊客への迷惑になる」ことを理由として拒否した事件における、ホテル側の言い分には一理あり、ホテル側の対応は認められる
			「そう思う」「どちらかといえばそう思う」の割合							
全体		(20,916)	27.4	11.2	14.1	7.9	15.2	13.6	8.0	11.2
Q7 ハンセン病元患者（回復者）・家族・問題に取り組んでいる人と会った経験	①元患者（回復者）と会ったことがある（学校・職場等での学習、講演会・展示会等のイベントなども含む）	(702)	39.3	35.2	38.3	27.1	30.2	30.8	18.4	30.9
	②元患者（回復者）の家族と会ったことがある（学校・職場等での学習、講演会・展示会等のイベントなども含む）	(311)	47.3	46.9	46.0	37.6	37.0	37.3	25.4	38.6
	③ハンセン病問題に取り組んでいる人と会ったことがある（学校・職場等での学習、講演会・展示会等のイベントなども含む）	(671)	35.0	26.8	28.6	21.2	28.0	26.7	15.6	24.6
	④ハンセン病療養所に行ったことがある	(419)	36.3	22.7	26.0	17.2	24.1	24.1	13.1	19.6
	⑤元患者（回復者）やその家族のことを取り上げた情報に接したことがある（学校・職場等での学習、講演会・展示会等のイベント、パンフレット、新聞や雑誌の記事、書籍、ビデオ・DVD、テレビ番組、ラジオ、映画、展示等）	(1,995)	34.2	12.3	17.4	8.3	16.7	16.4	9.0	12.7
	⑥自分がハンセン病問題に取り組んでいる（いた）	(82)	53.7	52.4	54.9	41.5	43.9	46.3	31.7	48.8
	⑦自分の家族・親戚にハンセン病問題に取り組んでいる人がいる（いた）	(104)	40.4	41.3	51.9	44.2	36.5	34.6	30.8	43.3
	⑧自分の友人・知人にハンセン病問題に取り組んでいる人がいる（いた）	(177)	40.7	39.0	36.2	31.6	31.6	29.4	23.2	29.4
	⑨自分がハンセン病元患者（回復者）、またはその家族である	(68)	64.7	66.2	66.2	55.9	63.2	50.0	45.6	64.7
	⑩自分の親戚にハンセン病元患者（回復者）、またはその家族がいる（いた）	(76)	56.6	57.9	52.6	50.0	52.6	43.4	35.5	53.9
	⑪自分の友人・知人にハンセン病元患者（回復者）、またはその家族がいる（いた）	(101)	40.6	33.7	43.6	35.6	35.6	34.7	27.7	37.6
	⑫出会いはない/経験はない	(17,800)	26.1	10.0	12.5	6.8	14.2	12.4	7.4	10.1
Q8 ハンセン病問題の学習を受けた経験	①小学校の授業で受けた	(917)	31.3	20.4	21.7	14.7	23.2	22.4	13.1	18.1
	②中学校の授業で受けた	(1,360)	32.4	21.4	21.9	14.8	22.3	21.9	13.2	18.5
	③高校の授業で受けた	(1,068)	34.5	26.6	27.3	18.4	25.4	25.7	15.9	22.0
	④高等専門学校、専門学校または短期大学の授業で受けた	(404)	42.1	30.2	29.7	21.8	26.0	23.5	15.6	23.0
	⑤大学または大学院の講義で受けた	(505)	33.3	19.6	26.3	18.2	25.5	22.4	10.9	19.2
	⑥職場の研修で受けた	(388)	35.1	25.0	28.1	18.6	21.6	21.6	13.9	20.9
	⑦一般市民対象の講演会、講座などで受けた	(463)	35.6	21.6	26.3	16.2	24.2	19.9	13.6	20.5
	⑧テレビ・映画・youtubeなど映像を見た	(59)	42.4	20.3	18.6	13.6	32.2	25.4	16.9	20.3
	⑨書籍を読んだ	(10)	50.0	0.0	0.0	10.0	0.0	10.0	0.0	20.0
	⑩その他の場所で受けた	(53)	39.6	9.4	18.9	7.5	9.4	9.4	11.3	13.2
	⑪受けたことはない	(11,584)	27.9	9.3	12.2	6.3	14.5	12.7	7.4	10.2
	⑫はっきり覚えていない	(5,673)	22.2	8.7	11.8	6.2	11.9	10.5	6.3	8.7
Q9 ハンセン病問題の啓発活動に参加・接触した経験	①法務省主催「ハンセン病問題に関する『親と子のシンポジウム』」	(242)	54.1	55.4	62.0	50.4	46.3	44.2	29.3	47.9
	②講演会・展示会等のイベント（「親と子のシンポジウム」以外）	(564)	41.0	37.6	41.1	29.3	32.1	31.6	20.7	34.0
	③国立ハンセン病資料館、国立ハンセン病療養所の資料館等の展示（語り部の映像視聴、学芸員による講話を含む）	(997)	37.6	27.0	32.1	22.4	25.8	27.3	15.7	23.5
	④国や地方公共団体等が配布する広報紙	(2,085)	37.7	18.4	22.1	12.9	21.9	20.2	12.6	17.1
	⑤中学生向けのパンフレット「ハンセン病の向こう側」	(856)	38.1	33.1	35.4	25.5	30.7	30.0	20.1	28.5
	⑥「ハンセン病の向こう側」以外のパンフレット（国立ハンセン病資料館や地方公共団体等が作成しているもの）	(1,306)	37.8	22.2	25.0	16.8	23.1	21.6	12.9	19.2
	⑦掲示物（ポスター・看板等）	(2,803)	36.1	17.9	20.0	12.0	21.5	19.5	11.4	15.6
	⑧新聞や雑誌の記事・広告	(5,857)	34.9	12.5	16.5	8.6	18.1	15.8	8.9	12.1
	⑨インターネット（ウェブサイト）の記事・広告	(3,296)	34.1	16.3	20.0	11.9	20.0	18.7	11.2	15.9
	⑩書籍	(1,526)	37.6	18.0	22.0	14.5	20.8	19.5	13.1	17.9
	⑪ビデオ・DVD	(927)	34.4	25.8	26.5	19.2	23.7	23.3	15.6	21.0
	⑫テレビ番組	(7,874)	32.5	12.0	15.8	8.5	17.4	15.3	8.4	11.9
	⑬ラジオ	(1,023)	38.0	26.0	28.0	19.7	25.4	21.9	16.2	20.7
	⑭映画	(1,583)	37.1	18.1	19.4	13.3	21.1	19.4	10.5	15.4
	⑮学校教育を通じて	(23)	39.1	13.0	17.4	8.7	30.4	21.7	8.7	21.7
	⑯その他（自由記述あり）	(66)	43.9	15.2	16.7	6.1	19.7	18.2	10.6	16.7

（3）学習・啓発経験とハンセン病・ハンセン病元患者（回復者）に対する考え方の関係

ハンセン病・ハンセン病元患者（回復者）に対する考え方を学習・啓発経験別に比較すると、経験の有無で回答傾向に差があった。

学習を受けた経験別に、ハンセン病・ハンセン病元患者（回復者）に対する包摂的な考え方に対する回答傾向をみると、「②ハンセン病元患者（回復者）も、地域で普通に隣人として暮らせることが望ましい」という考え方に対し、「そう思う」「どちらかといえばそう思う」と回答した割合は、「①小学校の授業で受けた」「②中学校の授業で受けた」「③高校の授業で受けた」が 63.3～67.6％であるのに対し、「⑪受けたことはない」は 64.8％で大きな差はみられず、「⑫はっきり覚えていない」は 49.2％と低かった。他方で、「そう思わない」「あまりそう思わない」と回答した割合も、学校の授業、職場研修といった学習経験者に比べて、「⑪受けたことはない」「⑫はっきり覚えていない」者が低かった。包摂的な考え方④においても、同様の傾向がみられた。

同じく包摂的な「⑩たとえ目立つハンセン病の後遺症が残っていても、公共の場で堂々とふるまえる社会がよい」という考え方に対し、「そう思う」「どちらかといえばそう思う」と回答した割合は、「①小学校の授業で受けた」「②中学校の授業で受けた」「③高校の授業で受けた」が 68.9～69.7％であるのに対し、「⑪受けたことはない」は 66.8％で大きな差はみられず、「⑫はっきり覚えていない」は 51.5％と低かった。包摂的な考え方⑧⑪においても、同様の傾向がみられた。他方で、包摂的な考え方⑧⑩では、「そう思わない」「あまりそう思わない」と回答した割合も、学校の授業、職場研修といった学習経験者に比べて、「⑪受けたことはない」「⑫はっきり覚えていない」者が低かった。

次に、学習を受けた経験別に、ハンセン病・ハンセン病元患者（回復者）に対する非包摂的な考え方に対する回答傾向をみると、「①ハンセン病と聞くと、できるだけ距離をとりたいと思うのは当然な反応だ」という考え方に対し、「そう思う」「どちらかといえばそう思う」と回答した割合は、「①小学校の授業で受けた」「②中学校の授業で受けた」「③高校の授業で受けた」が 19.7～22.5％であるのに対し、「⑪受けたことはない」は 16.4％、「⑫はっきり覚えていない」は 13.0％と低かった。他方で、「そう思わない」「あまりそう思わない」と回答した割合も、学校の授業、職場研修といった学習経験者に比べて、「⑪受けたことはない」「⑫はっきり覚えていない」者が低かった。非包摂的な考え方③⑨も概ね同様の傾向がみられた。

同じく非包摂的な「⑤自分の身内にハンセン病元患者（回復者）がいなくて、よかったと思う」という考え方に対し、「そう思う」「どちらかといえばそう思う」と回答した割合は、「①小学校の授業で受けた」「②中学校の授業で受けた」「③高校の授業で受けた」が 29.7～34.6％であるのに対し、「⑪受けたことはない」は 34.8％、「⑫はっきり覚えていない」は 25.4％であり、大きな差はみられなかった。他方で、「そう思わない」「あまりそう思わない」と回答した割合は、学校の授業、職場研修といった学習経験者に比べて、「⑪受けたことはない」「⑫はっきり覚えていない」者が低かった。

さらに、学習を受けた経験別に、ハンセン病問題に関する学習啓発に対する考え方に対する回答傾向をみると、「⑫ハンセン病の問題について、子どもを対象とした学校教育の機会を増やすべきだ」という考え方に対し、「そう思う」「どちらかといえばそう思う」と回答した割合は、「①小学校の授業で受けた」

「②中学校の授業で受けた」「③高校の授業で受けた」が 59.2～60.8%であるのに対し、「⑪受けたことはない」は 52.1%、「⑫はっきり覚えていない」は 40.3%と低かった。学習啓発に対する考え方⑬⑭においても、同様の傾向がみられた。

啓発を受けた経験別に、ハンセン病・ハンセン病元患者（回復者）に対する包摂的な考え方に対する回答傾向をみると、「②ハンセン病元患者（回復者）も、地域で普通に隣人として暮らせることが望ましい」という考え方に対し、「そう思う」「どちらかといえばそう思う」と回答した割合は、経験者が多い「⑫テレビ番組」「⑧新聞や雑誌の記事・広告」「⑨インターネット（ウェブサイト）の記事・広告」が 74.2～80.4%であるのに対し、「⑤中学生向けのパンフレット『ハンセン病の向こう側』」「①法務省主催『ハンセン病問題に関する”親と子のシンポジウム”』」「③国立ハンセン病資料館、国立ハンセン病療養所の資料館等の展示」は 53.3～64.6%と低かった。包摂的な考え方④⑩においても、同様の傾向がみられた。

同じく包摂的な「⑪機会があれば、自分もハンセン病療養所を訪ねてみたい」という考え方に対し、「そう思う」「どちらかといえばそう思う」と回答した割合は、経験者が多い「⑫テレビ番組」「⑧新聞や雑誌の記事・広告」「⑨インターネット（ウェブサイト）の記事・広告」が 26.9～35.5%であるのに対し、「⑤中学生向けのパンフレット『ハンセン病の向こう側』」「①法務省主催『ハンセン病問題に関する”親と子のシンポジウム”』」「③国立ハンセン病資料館、国立ハンセン病療養所の資料館等の展示」は 44.2～52.5%と高かった。

次に、啓発を受けた経験別に、ハンセン病・ハンセン病元患者（回復者）に対する非包摂的な考え方に対する回答傾向をみると、「⑤自分の身内にハンセン病元患者（回復者）がいなくて、よかったと思う」という考え方に対し、「そう思う」「どちらかといえばそう思う」と回答した割合は、経験者が多い「⑫テレビ番組」「⑧新聞や雑誌の記事・広告」「⑨インターネット（ウェブサイト）の記事・広告」が 34.8～40.6%であるのに対し、「⑤中学生向けのパンフレット『ハンセン病の向こう側』」「①法務省主催『ハンセン病問題に関する”親と子のシンポジウム”』」「③国立ハンセン病資料館、国立ハンセン病療養所の資料館等の展示」は 34.3～44.2%であり、大きな差はみられなかった。非包摂的な考え方⑦においても、同様の傾向がみられた。

同じく非包摂的な「①ハンセン病と聞くと、できるだけ距離をとりたいと思うのは当然な反応だ」という考え方に対し、「そう思う」「どちらかといえばそう思う」と回答した割合は、経験者が多い「⑫テレビ番組」「⑧新聞や雑誌の記事・広告」「⑨インターネット（ウェブサイト）の記事・広告」が 17.6～18.8%であるのに対し、「⑤中学生向けのパンフレット『ハンセン病の向こう側』」「①法務省主催『ハンセン病問題に関する”親と子のシンポジウム”』」「③国立ハンセン病資料館、国立ハンセン病療養所の資料館等の展示」は 22.0～37.6%と高かった。非包摂的な考え方③⑥においても、同様の傾向がみられた。

さらに、啓発を受けた経験別に、ハンセン病問題に関する学習啓発に対する考え方に対する回答傾向をみると、「⑫ハンセン病の問題について、子どもを対象とした学校教育の機会を増やすべきだ」という考え方に対し、「そう思う」「どちらかといえばそう思う」と回答した割合は、経験者が多い「⑫テレビ番組」「⑧新聞や雑誌の記事・広告」「⑨インターネット（ウェブサイト）の記事・広告」が 67.2～71.1%であるのに対し、「⑤中学生向けのパンフレット『ハンセン病の向こう側』」「①法務省主催『ハンセン病問題に関する”親と子のシンポジウム”』」「③国立ハンセン病資料館、国立ハンセン病療養所の資料館等の展示」は 52.5～63.6%と低かった。

「⑬ハンセン病の問題について、大人を対象とした啓発の機会（講演会・研修会・広報等）を増やすべきだ」という考え方に対し、「そう思う」「どちらかといえばそう思う」と回答した割合は、経験者が多い「⑫テレビ番組」「⑧新聞や雑誌の記事・広告」「⑨インターネット（ウェブサイト）の記事・広告」が 66.7～71.6％であるのに対し、「⑤中学生向けのパンフレット『ハンセン病の向こう側』」「①法務省主催『ハンセン病問題に関する”親と子のシンポジウム”』」「③国立ハンセン病資料館、国立ハンセン病療養所の資料館等の展示」は 63.6～68.9％と大きな差はみられなかった。

ハンセン病元患者（回復者）・家族・問題に取り組んでいる人と会った経験別に、ハンセン病・ハンセン病元患者（回復者）に対する包摂的な考え方に対する回答傾向をみると、「②ハンセン病元患者（回復者）も、地域で普通に隣人として暮らせることが望ましい」という考え方に対し、「そう思う」「どちらかといえばそう思う」と回答した割合は、「①元患者（回復者）と会ったことがある」「②元患者（回復者）の家族と会ったことがある」「③ハンセン病問題に取り組んでいる人と会ったことがある」「④ハンセン病療養所に行ったことがある」が 55.9～71.6％であるのに対し、「⑫出会いはない/経験はない」は 58.4％であり、大きな差はみられなかった。他方で、「そう思わない」「あまりそう思わない」と回答した割合は、経験者に比べて、「⑫出会いはない/経験はない」者が低かった。包摂的な考え方④においても、同様の傾向がみられた。

同じく包摂的な「⑩たとえ目立つハンセン病の後遺症が残っていても、公共の場で堂々とふるまえる社会がよい」という考え方に対し、「そう思う」「どちらかといえばそう思う」と回答した割合は、「①元患者（回復者）と会ったことがある」「②元患者（回復者）の家族と会ったことがある」「③ハンセン病問題に取り組んでいる人と会ったことがある」「④ハンセン病療養所に行ったことがある」が 62.4～78.5％であるのに対し、「⑫出会いはない/経験はない」は 60.4％と低かった。包摂的な考え方⑧⑪においても、同様の傾向がみられた。他方で、包摂的な考え方⑧⑩では、「そう思わない」「あまりそう思わない」と回答した割合も、経験者に比べて、「⑫出会いはない/経験はない」者が低かった。

次に、ハンセン病元患者（回復者）・家族・問題に取り組んでいる人と会った経験別に、ハンセン病・ハンセン病元患者（回復者）に対する非包摂的な考え方に対する回答傾向をみると、「⑤自分の身内にハンセン病元患者（回復者）がいなくて、よかったと思う」という考え方に対し、「そう思う」「どちらかといえばそう思う」と回答した割合は、「①元患者（回復者）と会ったことがある」「②元患者（回復者）の家族と会ったことがある」「③ハンセン病問題に取り組んでいる人と会ったことがある」「④ハンセン病療養所に行ったことがある」が 31.6～36.7％であるのに対し、「⑫出会いはない/経験はない」は 31.2％であり、大きな差はみられなかった。他方で、「そう思わない」「あまりそう思わない」と回答した割合も、経験者に比べて、「⑫出会いはない/経験はない」者が低かった。

同じく非包摂的な「①ハンセン病と聞くと、できるだけ距離をとりたいと思うのは当然な反応だ」という考え方に対し、「そう思う」「どちらかといえばそう思う」と回答した割合は、「①元患者（回復者）と会ったことがある」「②元患者（回復者）の家族と会ったことがある」「③ハンセン病問題に取り組んでいる人と会ったことがある」「④ハンセン病療養所に行ったことがある」が 19.6～30.9％であるのに対し、「⑫出会いはない/経験はない」は 15.6％と低かった。非包摂的な考え方③⑥⑨においても、同様の傾向がみられた。

さらに、ハンセン病元患者（回復者）・家族・問題に取り組んでいる人と会った経験別に、ハンセン病問

題に関する学習啓発に対する考え方に対する回答傾向をみると、「⑫ハンセン病の問題について、子どもを対象とした学校教育の機会を増やすべきだ」という考え方に対し、「そう思う」「どちらかといえばそう思う」と回答した割合は、「①元患者（回復者）と会ったことがある」「②元患者（回復者）の家族と会ったことがある」「③ハンセン病問題に取り組んでいる人と会ったことがある」「④ハンセン病療養所に行ったことがある」が 54.3～70.9％であるのに対し、「⑫出会いはない/経験はない」は 47.4％と低かった。学習啓発に対する考え方⑬⑭においても、同様の傾向がみられた。

表 71 Q13 ハンセン病・ハンセン病元患者(回復者)に対する考え方 [ハンセン病問題に関する学習・啓発経験別](1/6)

		(%)	n=	①ハンセン病と聞くと、できるだけ距離をとりたいと思うのは当然な反応だ	②ハンセン病元患者（回復者）も、地域で普通に隣人として暮らせることが望ましい	③ハンセン病元患者（回復者）とは、たとえ治っていたとしても、関りを持ちたくない	④ハンセン病元患者（回復者）も、そうでない人も、人としての価値は変わらない	⑤自分の身内にハンセン病元患者（回復者）がいなくて、よかったと思う	⑥ハンセン病元患者（回復者）は、たとえ治っていたとしても、自分たちとは違う人たちだと感じる	⑦ハンセン病にかかるというのは、どこか遠い世界での出来事だと感じる
				「そう思う」「どちらかといえばそう思う」の割合						
全体			(20,916)	16.0	60.8	5.7	68.8	31.7	6.6	40.0
Q7 ハンセン病元患者（回復者）・家族・問題に取り組んでいる人と会った経験	①元患者（回復者）と会ったことがある（学校・職場等での学習、講演会・展示会等のイベントなども含む）		(702)	23.6	60.8	18.9	66.8	34.5	24.8	33.9
	②元患者（回復者）の家族と会ったことがある（学校・職場等での学習、講演会・展示会等のイベントなども含む）		(311)	30.9	55.9	25.4	63.3	36.7	35.4	38.6
	③ハンセン病問題に取り組んでいる人と会ったことがある（学校・職場等での学習、講演会・展示会等のイベントなども含む）		(671)	23.7	70.2	14.2	75.1	31.6	17.7	37.6
	④ハンセン病療養所に行ったことがある		(419)	19.6	71.6	11.2	81.1	34.8	14.6	37.5
	⑤元患者（回復者）やその家族のことを取り上げた情報に接したことがある（学校・職場等での学習、講演会・展示会等のイベント、パンフレット、新聞や雑誌の記事、書籍、ビデオ・DVD、テレビ番組、ラジオ、映画、展示等）		(1,995)	16.4	84.3	5.9	89.5	36.0	7.9	41.4
	⑥自分がハンセン病問題に取り組んでいる（いた）		(82)	37.8	63.4	31.7	64.6	39.0	36.6	48.8
	⑦自分の家族・親戚にハンセン病問題に取り組んでいる人がいる（いた）		(104)	34.6	56.7	23.1	62.5	36.5	28.8	40.4
	⑧自分の友人・知人にハンセン病問題に取り組んでいる人がいる（いた）		(177)	27.1	65.0	16.9	68.9	37.9	23.7	41.8
	⑨自分がハンセン病元患者（回復者）、またはその家族である		(68)	44.1	48.5	33.8	58.8	44.1	48.5	48.5
	⑩自分の親戚にハンセン病元患者（回復者）、またはその家族がいる（いた）		(76)	39.5	48.7	32.9	63.2	40.8	46.1	50.0
	⑪自分の友人・知人にハンセン病元患者（回復者）、またはその家族がいる（いた）		(101)	26.7	57.4	14.9	67.3	33.7	23.8	36.6
	⑫出会いはない/経験はない		(17,800)	15.6	58.4	5.1	66.6	31.2	5.5	40.1
Q8 ハンセン病問題の学習を受けた経験	①小学校の授業で受けた		(917)	19.7	67.6	11.9	73.3	29.7	14.4	46.2
	②中学校の授業で受けた		(1,360)	20.4	66.5	11.1	73.8	31.5	14.2	44.5
	③高校の授業で受けた		(1,068)	22.5	63.3	12.9	70.5	34.6	18.2	42.3
	④高等専門学校、専門学校または短期大学の授業で受けた		(404)	23.0	67.8	13.4	72.5	33.7	19.6	39.6
	⑤大学または大学院の講義で受けた		(505)	18.4	65.9	9.7	71.1	30.1	14.7	41.0
	⑥職場の研修で受けた		(388)	18.6	70.9	11.1	76.0	32.5	14.2	36.6
	⑦一般市民対象の講演会、講座などで受けた		(463)	16.4	75.4	8.9	81.4	35.2	12.5	34.3
	⑧テレビ・映画・youtubeなど映像を見た		(59)	28.8	84.7	3.4	94.9	42.4	6.8	47.5
	⑨書籍を読んだ		(10)	20.0	60.0	10.0	80.0	20.0	0.0	30.0
	⑩その他の場所で受けた		(53)	24.5	79.2	5.7	88.7	26.4	7.5	41.5
	⑪受けたことはない		(11,584)	16.4	64.8	4.9	72.9	34.8	5.1	41.9
	⑫はっきり覚えていない		(5,673)	13.0	49.2	4.4	57.4	25.4	5.1	35.2
Q9 ハンセン病問題の啓発活動に参加・接触した経験	①法務省主催「ハンセン病問題に関する『親と子のシンポジウム』」		(242)	37.6	53.3	32.2	61.6	44.2	45.5	42.6
	②講演会・展示会等のイベント（「親と子のシンポジウム」以外）		(564)	28.7	59.2	21.1	68.3	38.7	26.8	37.2
	③国立ハンセン病資料館、国立ハンセン病療養所の資料館等の展示（語り部の映像視聴、学芸員による講話を含む）		(997)	22.0	64.6	12.3	73.5	34.3	18.1	32.6
	④国や地方公共団体等が配布する広報紙		(2,085)	20.7	79.2	9.1	85.1	38.9	10.7	36.7
	⑤中学生向けのパンフレット「ハンセン病の向こう側」		(856)	25.1	62.9	17.3	69.6	34.7	22.9	40.0
	⑥「ハンセン病の向こう側」以外のパンフレット（国立ハンセン病資料館や地方公共団体等が作成しているもの）		(1,306)	21.2	72.9	10.8	80.5	37.2	13.9	34.2
	⑦掲示物（ポスター・看板等）		(2,803)	19.9	77.6	8.6	83.7	38.1	9.6	40.3
	⑧新聞や雑誌の記事・広告		(5,857)	18.3	80.4	5.9	87.0	40.6	6.5	40.8
	⑨インターネット（ウェブサイト）の記事・広告		(3,296)	18.8	74.2	7.5	80.6	34.8	10.6	43.3
	⑩書籍		(1,526)	21.2	75.8	10.2	82.2	36.1	12.0	35.3
	⑪ビデオ・DVD		(927)	21.3	68.6	13.3	75.4	32.6	16.8	39.5
	⑫テレビ番組		(7,874)	17.6	76.7	5.8	83.8	38.7	6.6	42.3
	⑬ラジオ		(1,023)	23.2	68.6	14.2	74.5	39.7	16.3	33.6
	⑭映画		(1,583)	20.8	76.0	9.8	82.4	38.0	10.5	40.5
	⑮学校教育を通じて		(23)	26.1	82.6	13.0	91.3	47.8	4.3	65.2
	⑯その他（自由記述あり）		(66)	27.3	81.8	4.5	92.4	39.4	6.1	45.5

表 72 Q13 ハンセン病・ハンセン病元患者(回復者)に対する考え方 [ハンセン病問題に関する学習・啓発経験別](2/6)

	(%)	n=	①ハンセン病と聞くと、できるだけ距離をとりたいと思うのは当然な反応だ	②ハンセン病元患者（回復者）も、地域で普通に隣人として暮らせることが望ましい	③ハンセン病元患者（回復者）とは、たとえ治っていたとしても、関りを持ちたくない	④ハンセン病元患者（回復者）も、そうでない人も、人としての価値は変わらない	⑤自分の身内にハンセン病元患者（回復者）がいなくて、よかったと思う	⑥ハンセン病元患者（回復者）は、たとえ治っていたとしても、自分たちとは違う人たちだと感じる	⑦ハンセン病にかかるというのは、どこか遠い世界での出来事だと感じる
			「どちらともいえない」の割合						
全体		(20,916)	29.3	17.4	24.4	12.7	31.2	21.4	24.8
Q7 ハンセン病元患者（回復者）・家族・問題に取り組んでいる人と会った経験	①元患者（回復者）と会ったことがある（学校・職場等での学習、講演会・展示会等のイベントなども含む）	(702)	26.9	17.7	19.4	16.5	29.2	17.7	24.4
	②元患者（回復者）の家族と会ったことがある（学校・職場等での学習、講演会・展示会等のイベントなども含む）	(311)	31.2	20.3	21.9	18.3	29.3	18.3	21.2
	③ハンセン病問題に取り組んでいる人と会ったことがある（学校・職場等での学習、講演会・展示会等のイベントなども含む）	(671)	21.8	13.7	15.8	13.0	32.0	18.8	21.8
	④ハンセン病療養所に行ったことがある	(419)	27.7	16.7	14.1	8.8	29.1	15.3	20.5
	⑤元患者（回復者）やその家族のことを取り上げた情報に接したことがある（学校・職場等での学習、講演会・展示会等のイベント、パンフレット、新聞や雑誌の記事、書籍、ビデオ・DVD、テレビ番組、ラジオ、映画、展示等）	(1,995)	22.9	8.6	15.7	5.3	30.9	13.0	22.6
	⑥自分がハンセン病問題に取り組んでいる（いた）	(82)	26.8	14.6	22.0	18.3	24.4	23.2	12.2
	⑦自分の家族・親戚にハンセン病問題に取り組んでいる人がいる（いた）	(104)	23.1	15.4	23.1	20.2	25.0	20.2	22.1
	⑧自分の友人・知人にハンセン病問題に取り組んでいる人がいる（いた）	(177)	24.9	17.5	22.6	16.4	29.4	20.3	22.0
	⑨自分がハンセン病元患者（回復者）、またはその家族である	(68)	27.9	26.5	17.6	22.1	26.5	19.1	14.7
	⑩自分の親戚にハンセン病元患者（回復者）、またはその家族がいる（いた）	(76)	32.9	26.3	27.6	23.7	28.9	18.4	25.0
	⑪自分の友人・知人にハンセン病元患者（回復者）、またはその家族がいる（いた）	(101)	25.7	16.8	18.8	11.9	33.7	17.8	17.8
	⑫出会いはない/経験はない	(17,800)	30.0	18.2	25.5	13.3	31.1	22.4	25.1
Q8 ハンセン病問題の学習を受けた経験	①小学校の授業で受けた	(917)	27.4	16.7	19.3	12.8	33.2	19.6	22.2
	②中学校の授業で受けた	(1,360)	27.6	18.4	19.8	12.9	34.9	21.4	22.2
	③高校の授業で受けた	(1,068)	27.5	18.4	23.2	15.8	29.6	20.3	24.4
	④高等専門学校、専門学校または短期大学の授業で受けた	(404)	26.5	15.6	18.6	14.9	32.2	18.8	23.8
	⑤大学または大学院の講義で受けた	(505)	25.7	15.6	20.0	13.9	31.3	15.4	19.4
	⑥職場の研修で受けた	(388)	25.5	12.4	19.1	9.3	32.0	17.0	20.9
	⑦一般市民対象の講演会、講座などで受けた	(463)	27.6	10.8	22.7	10.2	32.6	16.6	24.4
	⑧テレビ・映画・youtubeなど映像を見た	(59)	23.7	13.6	23.7	3.4	28.8	18.6	20.3
	⑨書籍を読んだ	(10)	40.0	30.0	10.0	10.0	40.0	20.0	40.0
	⑩その他の場所で受けた	(53)	32.1	17.0	18.9	9.4	35.8	17.0	28.3
	⑪受けたことはない	(11,584)	28.8	15.7	24.1	10.8	30.4	20.3	24.4
	⑫はっきり覚えていない	(5,673)	31.1	20.8	26.8	16.4	31.4	24.4	26.4
Q9 ハンセン病問題の啓発活動に参加・接触した経験	①法務省主催「ハンセン病問題に関する『親と子のシンポジウム』」	(242)	33.1	24.4	27.3	22.7	28.1	21.1	22.7
	②講演会・展示会等のイベント（「親と子のシンポジウム」以外）	(564)	26.2	19.5	22.0	16.8	28.9	20.2	22.7
	③国立ハンセン病資料館、国立ハンセン病療養所の資料館等の展示（語り部の映像視聴、学芸員による講話を含む）	(997)	26.9	16.9	21.1	12.6	30.2	17.7	24.6
	④国や地方公共団体等が配布する広報紙	(2,085)	25.7	11.6	18.6	8.2	30.5	16.5	23.9
	⑤中学生向けのパンフレット「ハンセン病の向こう側」	(856)	27.1	17.3	22.8	15.8	31.7	20.2	23.2
	⑥「ハンセン病の向こう側」以外のパンフレット（国立ハンセン病資料館や地方公共団体等が作成しているもの）	(1,306)	25.4	13.5	19.6	9.8	30.9	16.9	23.7
	⑦掲示物（ポスター・看板等）	(2,803)	27.4	12.7	19.6	9.1	31.9	18.8	25.1
	⑧新聞や雑誌の記事・広告	(5,857)	28.1	12.0	21.5	7.3	31.7	17.5	25.2
	⑨インターネット（ウェブサイト）の記事・広告	(3,296)	25.6	14.2	19.0	10.2	32.3	16.7	22.5
	⑩書籍	(1,526)	25.3	14.2	20.9	10.5	31.5	17.4	23.9
	⑪ビデオ・DVD	(927)	26.4	15.6	18.8	12.8	32.3	16.9	19.4
	⑫テレビ番組	(7,874)	28.9	13.6	22.0	8.7	31.8	18.4	25.1
	⑬ラジオ	(1,023)	28.9	16.3	23.5	13.0	30.8	20.0	26.6
	⑭映画	(1,583)	27.0	12.4	20.0	9.3	31.7	16.4	23.8
	⑮学校教育を通じて	(23)	30.4	13.0	4.3	8.7	26.1	8.7	4.3
	⑯その他（自由記述あり）	(66)	22.7	12.1	19.7	1.5	24.2	16.7	22.7

表 73 Q13 ハンセン病・ハンセン病元患者(回復者)に対する考え方
[ハンセン病問題に関する学習・啓発経験別](3/6)

		(%)	n=	①ハンセン病と聞くと、できるだけ距離をとりたいと思うのは当然な反応だ	②ハンセン病元患者（回復者）も、地域で普通に隣人として暮らせることが望ましい	③ハンセン病元患者（回復者）とは、たとえ治っていたとしても、関りを持ちたくない	④ハンセン病元患者（回復者）も、そうでない人も、人としての価値は変わらない	⑤自分の身内にハンセン病元患者（回復者）がいなくて、よかったと思う	⑥ハンセン病元患者（回復者）は、たとえ治っていたとしても、自分たちとは違う人たちだと感じる	⑦ハンセン病にかかるというのは、どこか遠い世界での出来事だと感じる
				「そう思わない」「あまりそう思わない」の割合						
全体			(20,916)	39.3	8.9	56.1	7.1	18.5	58.0	21.4
Q7 ハンセン病元患者（回復者）・家族・問題に取り組んでいる人と会った経験	①元患者（回復者）と会ったことがある（学校・職場等での学習、講演会・展示会等のイベントなども含む）		(702)	45.3	17.5	58.8	14.1	30.5	55.0	38.3
	②元患者（回復者）の家族と会ったことがある（学校・職場等での学習、講演会・展示会等のイベントなども含む）		(311)	35.4	20.9	50.8	16.1	29.6	44.4	36.3
	③ハンセン病問題に取り組んでいる人と会ったことがある（学校・職場等での学習、講演会・展示会等のイベントなども含む）		(671)	52.2	14.5	67.8	10.7	32.2	62.0	37.4
	④ハンセン病療養所に行ったことがある		(419)	51.8	9.5	72.8	8.6	30.3	67.8	39.4
	⑤元患者（回復者）やその家族のことを取り上げた情報に接したことがある（学校・職場等での学習、講演会・展示会等のイベント、パンフレット、新聞や雑誌の記事、書籍、ビデオ・DVD、テレビ番組、ラジオ、映画、展示等）		(1,995)	58.2	5.6	76.8	4.3	24.9	77.1	33.1
	⑥自分がハンセン病問題に取り組んでいる（いた）		(82)	35.4	18.3	45.1	15.9	34.1	37.8	39.0
	⑦自分の家族・親戚にハンセン病問題に取り組んでいる人がいる（いた）		(104)	39.4	26.9	51.0	16.3	31.7	48.1	32.7
	⑧自分の友人・知人にハンセン病問題に取り組んでいる人がいる（いた）		(177)	44.6	14.1	58.8	10.2	27.1	53.1	33.3
	⑨自分がハンセン病元患者（回復者）、またはその家族である		(68)	25.0	22.1	47.1	17.6	27.9	27.9	33.8
	⑩自分の親戚にハンセン病元患者（回復者）、またはその家族がいる（いた）		(76)	26.3	21.1	36.8	9.2	23.7	34.2	23.7
	⑪自分の友人・知人にハンセン病元患者（回復者）、またはその家族がいる（いた）		(101)	44.6	24.8	63.4	19.8	29.7	56.4	40.6
	⑫出会いはない/経験はない		(17,800)	36.8	8.6	53.5	7.0	17.2	56.0	19.1
Q8 ハンセン病問題の学習を受けた経験	①小学校の授業で受けた		(917)	46.1	11.2	64.4	9.4	26.3	60.3	25.5
	②中学校の授業で受けた		(1,360)	47.1	11.8	65.4	10.2	25.2	59.9	28.8
	③高校の授業で受けた		(1,068)	46.2	15.5	60.6	11.1	30.0	58.2	30.1
	④高等専門学校、専門学校または短期大学の授業で受けた		(404)	47.8	14.4	66.3	11.1	28.2	59.9	34.4
	⑤大学または大学院の講義で受けた		(505)	50.7	14.7	66.3	11.3	29.7	65.0	35.0
	⑥職場の研修で受けた		(388)	54.9	14.4	69.6	14.2	31.2	67.5	40.5
	⑦一般市民対象の講演会、講座などで受けた		(463)	54.4	12.1	67.2	7.6	26.6	69.1	39.5
	⑧テレビ・映画・youtubeなど映像を見た		(59)	44.1	1.7	71.2	0.0	18.6	74.6	32.2
	⑨書籍を読んだ		(10)	40.0	10.0	80.0	0.0	40.0	80.0	20.0
	⑩その他の場所で受けた		(53)	41.5	3.8	75.5	1.9	26.4	75.5	30.2
	⑪受けたことはない		(11,584)	39.2	6.8	56.9	5.2	16.2	60.5	19.9
	⑫はっきり覚えていない		(5,673)	33.7	10.5	48.7	8.9	17.8	49.8	18.1
Q9 ハンセン病問題の啓発活動に参加・接触した経験	①法務省主催「ハンセン病問題に関する『親と子のシンポジウム』」		(242)	28.1	19.8	38.0	14.5	24.0	31.0	32.6
	②講演会・展示会等のイベント（「親と子のシンポジウム」以外）		(564)	42.4	18.8	54.4	13.1	28.4	50.9	37.6
	③国立ハンセン病資料館、国立ハンセン病療養所の資料館等の展示（語り部の映像視聴、学芸員による講話を含む）		(997)	47.9	15.7	64.2	11.7	30.6	61.7	39.2
	④国や地方公共団体等が配布する広報紙		(2,085)	51.8	8.3	70.8	5.9	25.7	71.0	37.2
	⑤中学生向けのパンフレット「ハンセン病の向こう側」		(856)	45.6	17.6	58.5	13.1	29.4	54.3	34.3
	⑥「ハンセン病の向こう側」以外のパンフレット（国立ハンセン病資料館や地方公共団体等が作成しているもの）		(1,306)	50.9	12.4	68.1	9.0	26.5	67.3	39.5
	⑦掲示物（ポスター・看板等）		(2,803)	49.6	8.0	69.8	6.0	23.8	69.1	31.8
	⑧新聞や雑誌の記事・広告		(5,857)	50.3	5.8	69.9	4.2	20.2	72.8	30.6
	⑨インターネット（ウェブサイト）の記事・広告		(3,296)	51.9	9.0	70.4	7.2	24.6	69.2	30.6
	⑩書籍		(1,526)	51.4	8.6	67.4	6.2	26.9	68.5	38.6
	⑪ビデオ・DVD		(927)	49.5	13.1	65.5	9.6	28.8	63.9	38.5
	⑫テレビ番組		(7,874)	48.3	6.4	67.8	4.9	19.8	70.3	27.7
	⑬ラジオ		(1,023)	44.7	12.9	59.3	10.9	23.9	60.3	36.4
	⑭映画		(1,583)	48.8	9.0	67.4	6.1	23.0	70.0	32.0
	⑮学校教育を通じて		(23)	34.8	0.0	82.6	0.0	17.4	87.0	30.4
	⑯その他（自由記述あり）		(66)	43.9	3.0	72.7	3.0	24.2	74.2	27.3

表 74 Q13 ハンセン病・ハンセン病元患者(回復者)に対する考え方
[ハンセン病問題に関する学習・啓発経験別](4/6)

		(%) n=	⑧時代や場所が違ったら、自分もハンセン病になったかもしれないと思う	⑨ハンセン病の後遺症が残っている姿を写真や映像で見せると、見た人が驚くだろうから、好ましくない	⑩たとえ目立つハンセン病の後遺症が残っていても、公共の場で堂々とふるまえる社会がよい	⑪機会があれば、自分もハンセン病療養所を訪ねてみたい	⑫ハンセン病の問題について、子どもを対象とした学校教育の機会を増やすべきだ	⑬ハンセン病の問題について、大人を対象とした啓発の機会（講演会・研修会・広報等）を増やすべきだ	⑭現在行われている、ハンセン病の問題を扱う学校教育や啓発（講演会・研修会・広報等）の方法や内容は評価できる
			「そう思う」「どちらかといえばそう思う」の割合						
全体		(20,916)	39.6	11.3	63.1	18.1	50.5	50.4	28.6
Q7 ハンセン病元患者（回復者）・家族・問題に取り組んでいる人と会った経験	①元患者（回復者）と会ったことがある（学校・職場等での学習、講演会・展示会等のイベントなども含む）	(702)	49.1	27.5	65.7	48.6	58.7	65.4	54.8
	②元患者（回復者）の家族と会ったことがある（学校・職場等での学習、講演会・展示会等のイベントなども含む）	(311)	48.6	35.7	62.4	52.4	54.3	63.7	62.7
	③ハンセン病問題に取り組んでいる人と会ったことがある（学校・職場等での学習、講演会・展示会等のイベントなども含む）	(671)	58.9	23.5	75.0	54.1	67.4	69.4	53.9
	④ハンセン病療養所に行ったことがある	(419)	57.3	19.3	78.5	63.0	70.9	72.3	52.0
	⑤元患者（回復者）やその家族のことを取り上げた情報に接したことがある（学校・職場等での学習、講演会・展示会等のイベント、パンフレット、新聞や雑誌の記事、書籍、ビデオ・DVD、テレビ番組、ラジオ、映画、展示等）	(1,995)	60.0	12.5	86.4	42.5	75.4	76.5	42.6
	⑥自分がハンセン病問題に取り組んでいる（いた）	(82)	58.5	50.0	73.2	57.3	59.8	73.2	78.0
	⑦自分の家族・親戚にハンセン病問題に取り組んでいる人がいる（いた）	(104)	52.9	37.5	61.5	43.3	52.9	58.7	58.7
	⑧自分の友人・知人にハンセン病問題に取り組んでいる人がいる（いた）	(177)	52.5	31.1	67.2	52.5	64.4	68.4	55.9
	⑨自分がハンセン病元患者（回復者）、またはその家族である	(68)	45.6	54.4	66.2	57.4	44.1	69.1	67.6
	⑩自分の親戚にハンセン病元患者（回復者）、またはその家族がいる（いた）	(76)	39.5	47.4	65.8	46.1	44.7	60.5	60.5
	⑪自分の友人・知人にハンセン病元患者（回復者）、またはその家族がいる（いた）	(101)	42.6	23.8	67.3	41.6	60.4	61.4	49.5
	⑫出会いはない/経験はない	(17,800)	36.9	10.4	60.4	14.0	47.4	46.8	25.7
Q8 ハンセン病問題の学習を受けた経験	①小学校の授業で受けた	(917)	55.0	17.4	69.5	33.6	59.2	58.7	44.9
	②中学校の授業で受けた	(1,360)	53.8	18.2	69.7	33.5	60.1	62.0	49.0
	③高校の授業で受けた	(1,068)	50.9	22.4	68.9	37.2	60.8	62.5	50.9
	④高等専門学校、専門学校または短期大学の授業で受けた	(404)	54.5	24.8	70.8	43.3	65.6	66.8	51.2
	⑤大学または大学院の講義で受けた	(505)	56.2	19.8	68.5	38.6	58.6	63.4	48.7
	⑥職場の研修で受けた	(388)	54.6	20.6	72.7	47.9	64.2	70.6	54.6
	⑦一般市民対象の講演会、講座などで受けた	(463)	58.3	20.3	78.0	52.3	74.3	79.3	57.5
	⑧テレビ・映画・youtubeなど映像を見た	(59)	50.8	13.6	78.0	28.8	74.6	71.2	55.9
	⑨書籍を読んだ	(10)	50.0	10.0	60.0	30.0	80.0	70.0	60.0
	⑩その他の場所で受けた	(53)	67.9	11.3	86.8	49.1	79.2	77.4	39.6
	⑪受けたことはない	(11,584)	39.5	10.3	66.8	15.8	52.1	51.9	26.5
	⑫はっきり覚えていない	(5,673)	31.5	8.8	51.5	11.9	40.3	39.6	21.0
Q9 ハンセン病問題の啓発活動に参加・接触した経験	①法務省主催「ハンセン病問題に関する『親と子のシンポジウム』」	(242)	53.3	45.9	66.5	52.5	52.5	63.6	66.9
	②講演会・展示会等のイベント（「親と子のシンポジウム」以外）	(564)	52.1	32.6	66.0	47.2	57.4	64.9	59.4
	③国立ハンセン病資料館、国立ハンセン病療養所の資料館等の展示（語り部の映像視聴、学芸員による講話を含む）	(997)	54.1	23.4	71.3	51.8	63.6	68.9	53.6
	④国や地方公共団体等が配布する広報紙	(2,085)	57.6	16.4	81.3	42.6	74.5	77.0	51.0
	⑤中学生向けのパンフレット「ハンセン病の向こう側」	(856)	53.0	28.5	66.9	44.2	60.9	67.4	59.5
	⑥「ハンセン病の向こう側」以外のパンフレット（国立ハンセン病資料館や地方公共団体等が作成しているもの）	(1,306)	54.5	20.1	78.9	46.2	71.4	76.4	54.5
	⑦掲示物（ポスター・看板等）	(2,803)	55.4	15.8	79.9	39.6	71.1	73.5	49.5
	⑧新聞や雑誌の記事・広告	(5,857)	51.5	12.8	82.2	30.3	71.1	71.6	40.8
	⑨インターネット（ウェブサイト）の記事・広告	(3,296)	55.2	14.8	76.9	35.5	68.3	68.9	43.2
	⑩書籍	(1,526)	55.8	18.8	79.7	42.5	71.0	74.6	48.3
	⑪ビデオ・DVD	(927)	55.0	20.7	74.4	45.6	64.7	71.1	53.7
	⑫テレビ番組	(7,874)	49.9	12.2	78.7	26.9	67.2	66.7	37.9
	⑬ラジオ	(1,023)	49.2	22.0	71.7	38.5	64.2	68.5	49.5
	⑭映画	(1,583)	51.2	16.7	78.1	35.1	67.7	70.2	40.9
	⑮学校教育を通じて	(23)	73.9	26.1	82.6	43.5	95.7	95.7	47.8
	⑯その他（自由記述あり）	(66)	60.6	13.6	83.3	39.4	77.3	75.8	30.3

表 75 Q13 ハンセン病・ハンセン病元患者(回復者)に対する考え方
[ハンセン病問題に関する学習・啓発経験別](5/6)

		(%) n=	⑧時代や場所が違ったら、自分もハンセン病になったかもしれないと思う	⑨ハンセン病の後遺症が残っている姿を写真や映像で見せると、見た人が驚くだろうから、好ましくない	⑩たとえ目立つハンセン病の後遺症が残っていても、公共の場で堂々とふるまえる社会がよい	⑪機会があれば、自分もハンセン病療養所を訪ねてみたい	⑫ハンセン病の問題について、子どもを対象とした学校教育の機会を増やすべきだ	⑬ハンセン病の問題について、大人を対象とした啓発の機会（講演会・研修会・広報等）を増やすべきだ	⑭現在行われている、ハンセン病の問題を扱う学校教育や啓発（講演会・研修会・広報等）の方法や内容は評価できる
			「どちらともいえない」の割合						
全体		(20,916)	30.0	34.8	17.4	33.9	25.6	27.1	36.0
Q7 ハンセン病元患者（回復者）・家族・問題に取り組んでいる人と会った経験	①元患者（回復者）と会ったことがある（学校・職場等での学習、講演会・展示会等のイベントなども含む）	(702)	26.2	27.1	19.1	26.6	19.9	19.5	24.9
	②元患者（回復者）の家族と会ったことがある（学校・職場等での学習、講演会・展示会等のイベントなども含む）	(311)	27.3	28.0	21.9	22.2	21.9	19.6	21.9
	③ハンセン病問題に取り組んでいる人と会ったことがある（学校・職場等での学習、講演会・展示会等のイベントなども含む）	(671)	24.3	25.9	14.5	24.7	18.5	19.4	27.3
	④ハンセン病療養所に行ったことがある	(419)	24.3	28.6	12.9	23.4	18.1	20.3	31.0
	⑤元患者（回復者）やその家族のことを取り上げた情報に接したことがある（学校・職場等での学習、講演会・展示会等のイベント、パンフレット、新聞や雑誌の記事、書籍、ビデオ・DVD、テレビ番組、ラジオ、映画、展示等）	(1,995)	25.7	27.9	8.5	32.1	16.8	16.8	33.9
	⑥自分がハンセン病問題に取り組んでいる（いた）	(82)	23.2	15.9	20.7	22.0	17.1	18.3	14.6
	⑦自分の家族・親戚にハンセン病問題に取り組んでいる人がいる（いた）	(104)	21.2	22.1	21.2	27.9	24.0	26.9	26.9
	⑧自分の友人・知人にハンセン病問題に取り組んでいる人がいる（いた）	(177)	27.1	24.3	20.3	24.9	19.8	22.0	27.7
	⑨自分がハンセン病元患者（回復者）、またはその家族である	(68)	30.9	22.1	20.6	27.9	27.9	20.6	19.1
	⑩自分の親戚にハンセン病元患者（回復者）、またはその家族がいる（いた）	(76)	36.8	26.3	21.1	34.2	31.6	23.7	23.7
	⑪自分の友人・知人にハンセン病元患者（回復者）、またはその家族がいる（いた）	(101)	34.7	29.7	17.8	31.7	25.7	20.8	27.7
	⑫出会いはない/経験はない	(17,800)	30.7	35.8	18.2	34.3	26.7	28.5	36.7
Q8 ハンセン病問題の学習を受けた経験	①小学校の授業で受けた	(917)	23.2	29.7	17.1	31.5	22.6	25.3	32.3
	②中学校の授業で受けた	(1,360)	25.1	32.4	18.5	33.2	23.6	24.6	33.1
	③高校の授業で受けた	(1,068)	27.2	30.8	18.3	31.0	21.3	23.2	30.4
	④高等専門学校、専門学校または短期大学の授業で受けた	(404)	28.5	25.0	19.6	30.0	19.3	20.3	30.7
	⑤大学または大学院の講義で受けた	(505)	22.4	27.7	17.2	30.7	20.8	22.6	30.3
	⑥職場の研修で受けた	(388)	25.5	27.1	15.7	29.1	22.4	18.8	27.3
	⑦一般市民対象の講演会、講座などで受けた	(463)	27.4	24.8	13.8	29.6	16.0	14.3	28.1
	⑧テレビ・映画・youtubeなど映像を見た	(59)	28.8	27.1	16.9	37.3	16.9	16.9	22.0
	⑨書籍を読んだ	(10)	30.0	20.0	30.0	50.0	10.0	20.0	30.0
	⑩その他の場所で受けた	(53)	18.9	35.8	13.2	34.0	17.0	20.8	34.0
	⑪受けたことはない	(11,584)	30.9	35.9	15.4	34.5	25.4	26.7	36.9
	⑫はっきり覚えていない	(5,673)	30.9	35.2	21.1	33.9	28.0	30.2	36.3
Q9 ハンセン病問題の啓発活動に参加・接触した経験	①法務省主催「ハンセン病問題に関する『親と子のシンポジウム』」	(242)	24.8	22.7	20.2	27.7	25.6	21.5	21.5
	②講演会・展示会等のイベント（「親と子のシンポジウム」以外）	(564)	24.6	25.7	19.7	28.9	20.4	19.1	24.1
	③国立ハンセン病資料館、国立ハンセン病療養所の資料館等の展示（語り部の映像視聴、学芸員による講話を含む）	(997)	24.7	26.9	16.5	27.5	20.8	18.7	27.7
	④国や地方公共団体等が配布する広報紙	(2,085)	27.1	30.5	12.0	34.2	16.4	16.5	33.3
	⑤中学生向けのパンフレット「ハンセン病の向こう側」	(856)	25.2	28.6	19.2	31.8	21.0	20.8	25.9
	⑥「ハンセン病の向こう側」以外のパンフレット（国立ハンセン病資料館や地方公共団体等が作成しているもの）	(1,306)	27.0	28.1	11.9	32.2	17.8	16.8	29.1
	⑦掲示物（ポスター・看板等）	(2,803)	28.3	31.8	12.4	34.1	18.4	18.5	33.0
	⑧新聞や雑誌の記事・広告	(5,857)	31.2	34.2	11.5	38.0	19.9	20.9	37.0
	⑨インターネット（ウェブサイト）の記事・広告	(3,296)	26.7	31.1	14.3	34.7	19.4	21.3	34.5
	⑩書籍	(1,526)	28.8	29.2	12.8	33.2	18.9	18.3	34.1
	⑪ビデオ・DVD	(927)	24.9	26.4	14.0	30.7	20.3	18.2	28.0
	⑫テレビ番組	(7,874)	31.4	34.9	13.4	37.8	21.3	23.0	37.2
	⑬ラジオ	(1,023)	29.1	31.8	17.6	34.7	20.2	19.8	30.1
	⑭映画	(1,583)	29.5	30.7	13.9	33.3	20.2	19.7	34.6
	⑮学校教育を通じて	(23)	26.1	30.4	13.0	17.4	4.3	4.3	26.1
	⑯その他（自由記述あり）	(66)	21.2	28.8	9.1	28.8	15.2	13.6	40.9

表 76 Q13 ハンセン病・ハンセン病元患者(回復者)に対する考え方
[ハンセン病問題に関する学習・啓発経験別](6/6)

		(%) n=	⑧時代や場所が違ったら、自分もハンセン病になったかもしれないと思う	⑨ハンセン病の後遺症が残っている姿を写真や映像で見せると、見た人が驚くだろうから、好ましくない	⑩たとえ目立つハンセン病の後遺症が残っていても、公共の場で堂々とふるまえる社会がよい	⑪機会があれば、自分もハンセン病療養所を訪ねてみたい	⑫ハンセン病の問題について、子どもを対象とした学校教育の機会を増やすべきだ	⑬ハンセン病の問題について、大人を対象とした啓発の機会（講演会・研修会・広報等）を増やすべきだ	⑭現在行われている、ハンセン病の問題を扱う学校教育や啓発（講演会・研修会・広報等）の方法や内容は評価できる
			「そう思わない」「あまりそう思わない」の割合						
全体		(20,916)	11.8	35.7	6.4	30.8	9.0	8.0	9.9
Q7 ハンセン病元患者（回復者）・家族・問題に取り組んでいる人と会った経験	①元患者（回復者）と会ったことがある（学校・職場等での学習、講演会・展示会等のイベントなども含む）	(702)	19.8	42.5	12.3	20.8	17.8	12.4	14.4
	②元患者（回復者）の家族と会ったことがある（学校・職場等での学習、講演会・展示会等のイベントなども含む）	(311)	22.5	34.4	13.8	23.2	21.2	13.8	11.6
	③ハンセン病問題に取り組んでいる人と会ったことがある（学校・職場等での学習、講演会・展示会等のイベントなども含む）	(671)	13.4	47.8	8.5	15.8	11.8	9.1	14.0
	④ハンセン病療養所に行ったことがある	(419)	14.6	49.9	6.9	11.0	8.8	5.5	10.5
	⑤元患者（回復者）やその家族のことを取り上げた情報に接したことがある（学校・職場等での学習、講演会・展示会等のイベント、パンフレット、新聞や雑誌の記事、書籍、ビデオ・DVD、テレビ番組、ラジオ、映画、展示等）	(1,995)	8.6	56.0	3.6	19.7	5.4	4.5	10.2
	⑥自分がハンセン病問題に取り組んでいる（いた）	(82)	14.6	34.1	4.9	19.5	23.2	7.3	7.3
	⑦自分の家族・親戚にハンセン病問題に取り組んでいる人がいる（いた）	(104)	21.2	38.5	14.4	23.1	22.1	11.5	10.6
	⑧自分の友人・知人にハンセン病問題に取り組んでいる人がいる（いた）	(177)	18.6	40.7	7.9	18.6	11.9	6.2	11.9
	⑨自分がハンセン病元患者（回復者）、またはその家族である	(68)	23.5	22.1	10.3	11.8	22.1	8.8	13.2
	⑩自分の親戚にハンセン病元患者（回復者）、またはその家族がいる（いた）	(76)	22.4	22.4	11.8	15.8	19.7	9.2	10.5
	⑪自分の友人・知人にハンセン病元患者（回復者）、またはその家族がいる（いた）	(101)	21.8	45.5	12.9	22.8	12.9	13.9	18.8
	⑫出会いはない/経験はない	(17,800)	11.6	33.1	6.3	32.4	8.9	8.1	9.5
Q8 ハンセン病問題の学習を受けた経験	①小学校の授業で受けた	(917)	13.5	45.1	8.3	26.6	12.3	10.1	10.9
	②中学校の授業で受けた	(1,360)	14.6	44.6	8.5	26.5	12.6	9.9	10.3
	③高校の授業で受けた	(1,068)	16.9	42.9	10.0	26.3	14.1	10.9	12.1
	④高等専門学校、専門学校または短期大学の授業で受けた	(404)	12.6	47.0	7.2	22.8	12.9	10.4	12.1
	⑤大学または大学院の講義で受けた	(505)	16.8	46.5	11.3	23.2	16.4	10.1	12.5
	⑥職場の研修で受けた	(388)	16.8	50.8	10.6	18.6	11.6	9.3	14.4
	⑦一般市民対象の講演会、講座などで受けた	(463)	11.9	52.7	6.9	14.9	7.6	5.2	11.0
	⑧テレビ・映画・youtubeなど映像を見た	(59)	10.2	57.6	3.4	27.1	5.1	6.8	11.9
	⑨書籍を読んだ	(10)	10.0	70.0	10.0	20.0	0.0	10.0	0.0
	⑩その他の場所で受けた	(53)	9.4	50.9	0.0	11.3	3.8	1.9	11.3
	⑪受けたことはない	(11,584)	10.5	35.3	4.9	32.6	7.4	6.9	9.2
	⑫はっきり覚えていない	(5,673)	12.2	29.9	7.8	30.1	10.0	8.9	9.9
Q9 ハンセン病問題の啓発活動に参加・接触した経験	①法務省主催「ハンセン病問題に関する『親と子のシンポジウム』」	(242)	19.4	28.9	11.2	17.4	19.0	13.2	10.3
	②講演会・展示会等のイベント（「親と子のシンポジウム」以外）	(564)	19.7	40.4	12.9	20.6	19.3	13.5	13.7
	③国立ハンセン病資料館、国立ハンセン病療養所の資料館等の展示（語り部の映像視聴、学芸員による講話を含む）	(997)	17.3	46.3	9.5	17.2	12.6	10.1	14.7
	④国や地方公共団体等が配布する広報紙	(2,085)	12.0	50.6	5.5	19.6	7.1	5.3	9.7
	⑤中学生向けのパンフレット「ハンセン病の向こう側」	(856)	18.3	39.8	11.4	20.8	15.4	10.5	11.3
	⑥「ハンセン病の向こう側」以外のパンフレット（国立ハンセン病資料館や地方公共団体等が作成しているもの）	(1,306)	14.9	49.8	7.4	17.6	9.0	5.4	11.8
	⑦掲示物（ポスター・看板等）	(2,803)	11.5	49.0	5.7	21.3	7.6	5.7	9.3
	⑧新聞や雑誌の記事・広告	(5,857)	10.3	48.1	4.0	25.6	5.6	4.4	9.2
	⑨インターネット（ウェブサイト）の記事・広告	(3,296)	12.0	49.2	6.3	24.0	9.0	7.1	11.3
	⑩書籍	(1,526)	11.5	49.4	6.0	20.6	7.7	5.4	10.7
	⑪ビデオ・DVD	(927)	14.6	50.5	9.3	19.7	12.4	8.8	12.0
	⑫テレビ番組	(7,874)	10.1	45.9	4.1	27.2	6.5	5.3	9.5
	⑬ラジオ	(1,023)	16.0	41.9	7.2	21.8	11.2	8.5	11.5
	⑭映画	(1,583)	11.9	48.3	5.4	25.5	7.5	6.6	11.5
	⑮学校教育を通じて	(23)	0.0	34.8	0.0	34.8	0.0	0.0	4.3
	⑯その他（自由記述あり）	(66)	9.1	51.5	4.5	22.7	1.5	4.5	12.1

（4）学習・啓発経験とハンセン病元患者（回復者）・家族に対する態度の関係

ハンセン病元患者（回復者）・家族に対する態度を学習・啓発経験別に比較すると、学習や啓発を受けているほど、抵抗感を示す割合が高い傾向がみられた。

学習を受けた経験別に、態度①～⑤に対する回答傾向をみると、「①近所に住むこと」に対し、「とても抵抗を感じる」「抵抗を感じる」と回答した割合は、「①小学校の授業で受けた」「②中学校の授業で受けた」「③高校の授業で受けた」が 13.2～14.0％であるのに対し、「⑪受けたことはない」は 9.0％、「⑫はっきり覚えていない」は 7.8％と低かった。態度②③④⑤においても、同様の傾向がみられた。

次に、学習を受けた経験別に、態度⑥～⑨に対する回答傾向をみると、「⑦手をつなぐ等の身体に触れること」に対し、「とても抵抗を感じる」「抵抗を感じる」と回答した割合は、「①小学校の授業で受けた」「②中学校の授業で受けた」「③高校の授業で受けた」が 17.4～19.8％であるのに対し、「⑪受けたことはない」は 19.4％、「⑫はっきり覚えていない」は 16.9％と大きな差はみられなかった。態度⑧⑨においても、同様の傾向がみられた。

一方で、「⑥食事をともにすること」に対し、「とても抵抗を感じる」「抵抗を感じる」と回答した割合は、「①小学校の授業で受けた」「②中学校の授業で受けた」「③高校の授業で受けた」が 13.5～16.1％であるのに対し、「⑪受けたことはない」は 12.0％、「⑫はっきり覚えていない」は 11.0％とやや低かった。

啓発を受けた経験別に、態度①～⑤に対する回答傾向をみると、「①近所に住むこと」に対し、「とても抵抗を感じる」「抵抗を感じる」と回答した割合は、全体平均が 9.3％であり、経験者が多い「⑫テレビ番組」「⑧新聞や雑誌の記事・広告」「⑨インターネット（ウェブサイト）の記事・広告」は 8.9～9.6％と大きな差はみられないのに対し、「⑤中学生向けのパンフレット『ハンセン病の向こう側』」「①法務省主催『ハンセン病問題に関する”親と子のシンポジウム”』」「③国立ハンセン病資料館、国立ハンセン病療養所の資料館等の展示」は 14.9～34.7％と高かった。態度②③④⑤においても、同様の傾向がみられた。

次に、啓発を受けた経験別に、態度⑥～⑨に対する回答傾向をみると、「⑦手をつなぐ等の身体に触れること」に対し、「とても抵抗を感じる」「抵抗を感じる」と回答した割合は、全体平均が 18.5％であり、経験者が多い「⑫テレビ番組」「⑧新聞や雑誌の記事・広告」「⑨インターネット（ウェブサイト）の記事・広告」は 17.7～18.0％と大きな差はみられないのに対し、「③国立ハンセン病資料館、国立ハンセン病療養所の資料館等の展示」は 15.9％と低く、「⑤中学生向けのパンフレット『ハンセン病の向こう側』」は 20.8％、「①法務省主催『ハンセン病問題に関する”親と子のシンポジウム”』」は 27.7％と高かった。態度⑧においても、同様の傾向がみられた。

一方で、「⑨ハンセン病元患者（回復者）の家族とあなたの家族が結婚すること」に対し、「とても抵抗を感じる」「抵抗を感じる」と回答した割合は、全体平均が 21.8％であり、経験者が多い「⑫テレビ番組」「⑧新聞や雑誌の記事・広告」「⑨インターネット（ウェブサイト）の記事・広告」は 20.5～23.3％と大きな差はみられないのに対し、「⑤中学生向けのパンフレット『ハンセン病の向こう側』」は 27.6％、「①法務省主催『ハンセン病問題に関する”親と子のシンポジウム”』」は 41.7％と高かった。「③国立ハンセン病資料館、国立ハンセン病療養所の資料館等の展示」は 24.1％であった。態度⑥においても、同様の傾向がみられた。

ハンセン病元患者（回復者）・家族・問題に取り組んでいる人と会った経験別に、態度①～⑤に対する

回答傾向をみると、「①近所に住むこと」に対し、「とても抵抗を感じる」「抵抗を感じる」と回答した割合は、「①元患者（回復者）と会ったことがある」「②元患者（回復者）の家族と会ったことがある」「③ハンセン病問題に取り組んでいる人と会ったことがある」「④ハンセン病療養所に行ったことがある」が 11.9～22.2％であるのに対し、「⑫出会いはない/経験はない」は 9.1％とやや低かった。態度②③④⑤においても、同様の傾向がみられた。

次に、ハンセン病元患者（回復者）・家族・問題に取り組んでいる人と会った経験別に、態度⑥～⑨に対する回答傾向をみると、「⑦手をつなぐ等の身体に触れること」に対し、「とても抵抗を感じる」「抵抗を感じる」と回答した割合は、「①元患者（回復者）と会ったことがある」「②元患者（回復者）の家族と会ったことがある」「③ハンセン病問題に取り組んでいる人と会ったことがある」「④ハンセン病療養所に行ったことがある」が 15.0～19.0％であるのに対し、「⑫出会いはない/経験はない」は 18.9％であり、大きな差はみられなかった。態度⑧においても、同様の傾向がみられた。

一方で、「⑨ハンセン病元患者（回復者）の家族とあなたの家族が結婚すること」に対し、「とても抵抗を感じる」「抵抗を感じる」と回答した割合は、「①元患者（回復者）と会ったことがある」が 26.4％、「②元患者（回復者）の家族と会ったことがある」が 33.8％であるのに対し、「③ハンセン病問題に取り組んでいる人と会ったことがある」「④ハンセン病療養所に行ったことがある」と「⑫出会いはない/経験はない」は 21.9～24.1％で大きな差はみられなかった。態度⑥においても、同様の傾向がみられた。

表 77 Q14 ハンセン病元患者(回復者)・家族に対する態度[ハンセン病問題に関する学習・啓発経験別]

		(%) n=	①近所に住むこと	②同じ職場で働くこと	③同じ学校に通うこと	④同じ医療機関・福祉施設に通院・通所すること	⑤同じ医療機関・福祉施設に入院・入所すること	⑥食事をともにすること	⑦手をつなぐ等の身体に触れること	⑧ホテルなどで同じ浴場を利用すること	⑨ハンセン病元患者（回復者）の家族とあなたの家族が結婚すること
			「とても抵抗を感じる」「やや抵抗を感じる」の割合								
全体		(20,916)	9.3	9.5	8.2	7.5	9.6	12.0	18.5	19.8	21.8
Q7 ハンセン病元患者（回復者）・家族・問題に取り組んでいる人と会った経験	①元患者（回復者）と会ったことがある（学校・職場等での学習、講演会・展示会等のイベントなども含む）	(702)	17.7	11.5	11.0	15.1	21.1	18.1	17.5	18.1	26.4
	②元患者（回復者）の家族と会ったことがある（学校・職場等での学習、講演会・展示会等のイベントなども含む）	(311)	22.2	13.8	12.5	16.7	25.4	21.5	19.0	20.9	33.8
	③ハンセン病問題に取り組んでいる人と会ったことがある（学校・職場等での学習、講演会・展示会等のイベントなども含む）	(671)	14.8	10.1	9.1	10.0	14.2	14.0	16.5	17.3	24.1
	④ハンセン病療養所に行ったことがある	(419)	11.9	9.3	8.4	8.1	12.9	11.7	15.0	14.3	22.0
	⑤元患者（回復者）やその家族のことを取り上げた情報に接したことがある（学校・職場等での学習、講演会・展示会等のイベント、パンフレット、新聞や雑誌の記事、書籍、ビデオ・DVD、テレビ番組、ラジオ、映画、展示等）	(1,995)	8.0	7.0	5.6	6.1	8.9	10.0	14.4	15.2	18.7
	⑥自分がハンセン病問題に取り組んでいる（いた）	(82)	30.5	12.2	6.1	13.4	23.2	24.4	23.2	25.6	31.7
	⑦自分の家族・親戚にハンセン病問題に取り組んでいる人がいる（いた）	(104)	24.0	18.3	11.5	11.5	18.3	18.3	20.2	24.0	30.8
	⑧自分の友人・知人にハンセン病問題に取り組んでいる人がいる（いた）	(177)	20.3	15.3	11.3	13.0	18.1	18.1	22.6	23.2	26.0
	⑨自分がハンセン病元患者（回復者）、またはその家族である	(68)	41.2	29.4	16.2	20.6	29.4	29.4	25.0	29.4	50.0
	⑩自分の親戚にハンセン病元患者（回復者）、またはその家族がいる（いた）	(76)	35.5	22.4	18.4	32.9	40.8	35.5	31.6	31.6	43.4
	⑪自分の友人・知人にハンセン病元患者（回復者）、またはその家族がいる（いた）	(101)	16.8	14.9	10.9	11.9	24.8	23.8	25.7	31.7	22.8
	⑫出会いはない/経験はない	(17,800)	9.1	9.7	8.4	7.4	9.2	12.1	18.9	20.3	21.9
Q8 ハンセン病問題の学習を受けた経験	①小学校の授業で受けた	(917)	13.3	11.0	8.6	9.8	13.5	13.5	17.4	21.4	21.9
	②中学校の授業で受けた	(1,360)	13.2	10.7	9.5	10.1	12.7	14.6	18.8	21.0	23.0
	③高校の授業で受けた	(1,068)	14.0	11.7	9.6	11.5	16.9	16.1	19.8	20.4	25.3
	④高等専門学校、専門学校または短期大学の授業で受けた	(404)	16.1	10.1	8.7	12.4	18.3	15.3	18.1	18.3	26.5
	⑤大学または大学院の講義で受けた	(505)	13.3	11.5	9.9	9.9	14.3	15.0	19.0	20.4	22.0
	⑥職場の研修で受けた	(388)	14.4	9.8	8.8	11.1	13.1	13.9	16.5	17.5	23.2
	⑦一般市民対象の講演会、講座などで受けた	(463)	10.8	8.2	6.9	7.1	9.9	12.7	16.6	15.6	25.3
	⑧テレビ・映画・youtubeなど映像を見た	(59)	10.2	13.6	11.9	11.9	13.6	13.6	18.6	28.8	37.3
	⑨書籍を読んだ	(10)	0.0	0.0	0.0	10.0	10.0	10.0	0.0	0.0	20.0
	⑩その他の場所で受けた	(53)	9.4	7.5	7.5	5.7	5.7	7.5	9.4	9.4	20.8
	⑪受けたことはない	(11,584)	9.0	9.8	8.4	7.2	8.9	12.0	19.4	20.2	22.6
	⑫はっきり覚えていない	(5,673)	7.8	8.4	7.3	6.6	8.8	11.0	16.9	19.0	19.0
Q9 ハンセン病問題の啓発活動に参加・接触した経験	①法務省主催「ハンセン病問題に関する『親と子のシンポジウム』」	(242)	34.7	23.6	18.6	28.5	36.8	31.4	27.7	26.4	41.7
	②講演会・展示会等のイベント（「親と子のシンポジウム」以外）	(564)	20.2	14.0	10.8	15.4	22.5	22.2	19.3	18.3	31.7
	③国立ハンセン病資料館、国立ハンセン病療養所の資料館等の展示（語り部の映像視聴、学芸員による講話を含む）	(997)	14.9	11.3	8.0	10.4	15.3	14.7	15.9	16.6	24.1
	④国や地方公共団体等が配布する広報紙	(2,085)	10.8	9.8	7.9	8.9	11.8	13.1	17.4	18.8	22.7
	⑤中学生向けのパンフレット「ハンセン病の向こう側」	(856)	19.0	13.7	12.1	15.0	19.9	20.0	20.8	22.4	27.6
	⑥「ハンセン病の向こう側」以外のパンフレット（国立ハンセン病資料館や地方公共団体等が作成しているもの）	(1,306)	11.8	9.1	7.4	9.2	12.6	12.2	14.9	16.8	23.2
	⑦掲示物（ポスター・看板等）	(2,803)	10.2	10.0	8.2	8.3	11.1	12.6	17.9	19.8	23.6
	⑧新聞や雑誌の記事・広告	(5,857)	8.9	9.1	7.4	7.2	9.0	11.6	18.0	18.6	23.3
	⑨インターネット（ウェブサイト）の記事・広告	(3,296)	9.6	9.2	7.4	8.1	10.5	11.7	17.7	19.0	20.5
	⑩書籍	(1,526)	12.5	10.1	8.6	9.8	12.6	12.5	16.6	18.5	23.5
	⑪ビデオ・DVD	(927)	13.2	10.5	9.3	11.5	14.2	14.2	18.0	18.7	22.7
	⑫テレビ番組	(7,874)	8.9	9.0	7.6	6.9	8.8	11.2	17.7	18.5	22.8
	⑬ラジオ	(1,023)	15.3	12.0	11.3	12.4	14.8	14.8	18.4	20.3	25.9
	⑭映画	(1,583)	12.2	9.6	8.9	8.7	12.5	13.4	17.9	17.7	23.2
	⑮学校教育を通じて	(23)	8.7	13.0	13.0	4.3	8.7	13.0	21.7	21.7	30.4
	⑯その他（自由記述あり）	(66)	10.6	10.6	9.1	9.1	12.1	12.1	18.2	19.7	21.2

（5）学習・啓発経験と一般的な差別に対する考え方の関係

一般的な差別に対する考え方を学習・啓発経験別に比較すると、偏見差別の解消のための取り組みに積極的な傾向を示した回答の割合は、学習・啓発経験の有無で大きな差はみられなかった。一方で、偏見差別の解消のための取り組みに消極的な傾向を示した回答の割合は、学習経験がある方が高くなる傾向がうかがえた。

学習を受けた経験別に、偏見差別の解消のための取り組みに積極的な考え方に対する回答傾向をみると、「①差別は、人間として最も恥ずべき行為である」という考え方に対し、「そう思う」「どちらかといえばそう思う」と回答した割合は、「①小学校の授業で受けた」「②中学校の授業で受けた」「③高校の授業で受けた」が 78.8～83.6％であるのに対し、「⑪受けたことはない」は 83.6％、「⑫はっきり覚えていない」は 75.0％であり、大きな差はみられなかった。

「②あらゆる差別をなくすために、行政は努力する必要がある」という考え方に対し、「そう思う」「どちらかといえばそう思う」と回答した割合は、「①小学校の授業で受けた」「②中学校の授業で受けた」「③高校の授業で受けた」が 76.9～81.2％であるのに対し、「⑪受けたことはない」は 83.9％とやや高く、「⑫はっきり覚えていない」は 74.4％とやや低かった。積極的な考え方③④⑤⑦においても、同様の傾向がみられた。

一方で、「⑥差別を目の前にした時に差別反対の意思表示をすることが大事である」という考え方に対し、「そう思う」「どちらかといえばそう思う」と回答した割合は、「①小学校の授業で受けた」「②中学校の授業で受けた」「③高校の授業で受けた」が 78.7～80.5％であるのに対し、「⑪受けたことはない」が 77.1％、「⑫はっきり覚えていない」が 67.7％と低かった。

次に、学習を受けた経験別に、偏見差別の解消のための取り組みに消極的な考え方に対する回答傾向をみると、「⑧差別されている人も自分たちが世の中に受け入れられるように努力することが必要である」という考え方に対し、「そう思う」「どちらかといえばそう思う」と回答した割合は、「①小学校の授業で受けた」「②中学校の授業で受けた」「③高校の授業で受けた」が 65.7～67.1％であるのに対し、「⑪受けたことはない」は 60.3％、「⑫はっきり覚えていない」は 54.3％と低かった。消極的な考え方⑨⑩においても、同様の傾向がみられた。

啓発を受けた経験別に、偏見差別の解消のための取り組みに積極的な考え方に対する回答傾向をみると、「①差別は、人間として最も恥ずべき行為である」という考え方に対し、「そう思う」「どちらかといえばそう思う」と回答した割合は、経験者が多い「⑫テレビ番組」「⑧新聞や雑誌の記事・広告」「⑨インターネット（ウェブサイト）の記事・広告」が 85.1～90.4％であるのに対し、「⑤中学生向けのパンフレット『ハンセン病の向こう側』」「①法務省主催『ハンセン病問題に関する”親と子のシンポジウム”』」「③国立ハンセン病資料館、国立ハンセン病療養所の資料館等の展示」は 69.4～77.6％と低かった。積極的な考え方②～⑦においても、同様の傾向がみられた。

次に、啓発を受けた経験別に、偏見差別の解消のための取り組みに消極的な考え方に対する回答傾向をみると、「⑧差別されている人も自分たちが世の中に受け入れられるように努力することが必要である」という考え方に対し、「そう思う」「どちらかといえばそう思う」と回答した割合は、経験者が多い「⑫テレビ番組」「⑧新聞や雑誌の記事・広告」「⑨インターネット（ウェブサイト）の記事・広告」が 64.3～66.1％であるのに対し、「⑤中学生向けのパンフレット『ハンセン病の向こう側』」「①法務省主催『ハンセ

ン病問題に関する”親と子のシンポジウム”』」「③国立ハンセン病資料館、国立ハンセン病療養所の資料館等の展示」は 64.4～64.9%と大きな差はみられなかった。消極的な考え方⑨においても、同様の傾向がみられた。

一方で、「⑩差別を問題にすることによって、問題が解決しにくくなる側面がある」という考え方に対し、「そう思う」「どちらかといえばそう思う」と回答した割合は、経験者が多い「⑫テレビ番組」「⑧新聞や雑誌の記事・広告」「⑨インターネット(ウェブサイト)の記事・広告」が 34.5～42.3%であるのに対し、「⑤中学生向けのパンフレット『ハンセン病の向こう側』」「①法務省主催『ハンセン病問題に関する”親と子のシンポジウム”』」「③国立ハンセン病資料館、国立ハンセン病療養所の資料館等の展示」は 45.4～60.3%と高かった。

ハンセン病元患者(回復者)・家族・問題に取り組んでいる人と会った経験別に、偏見差別の解消のための取り組みに積極的な考え方に対する回答傾向をみると、「①差別は、人間として最も恥ずべき行為である」という考え方に対し、「そう思う」「どちらかといえばそう思う」と回答した割合は、「①元患者(回復者)と会ったことがある」が 70.9%、「②元患者(回復者)の家族と会ったことがある」が 71.1%であるのに対し、「③ハンセン病問題に取り組んでいる人と会ったことがある」は 81.1%、「④ハンセン病療養所に行ったことがある」は 85.2%、「⑫出会いはない/経験はない」は 80.4%と高かった。積極的な考え方②～⑦においても、同様の傾向がみられた。

次に、ハンセン病元患者(回復者)・家族・問題に取り組んでいる人と会った経験別に、偏見差別の解消のための取り組みに消極的な考え方に対する回答傾向をみると、「⑧差別されている人も自分たちが世の中に受け入れられるように努力することが必要である」という考え方に対し、「そう思う」「どちらかといえばそう思う」と回答した割合は、「②元患者(回復者)の家族と会ったことがある」「③ハンセン病問題に取り組んでいる人と会ったことがある」「④ハンセン病療養所に行ったことがある」が 63.0～72.0%であるのに対し、「①元患者(回復者)と会ったことがある」は 60.5%、「⑫出会いはない/経験はない」は 59.2%とやや低かった。

「⑨差別の訴え全てに対応することには無理がある」という考え方に対し、「そう思う」「どちらかといえばそう思う」と回答した割合は、「①元患者(回復者)と会ったことがある」「②元患者(回復者)の家族と会ったことがある」「③ハンセン病問題に取り組んでいる人と会ったことがある」「④ハンセン病療養所に行ったことがある」が 48.2～54.3%であるのに対し、「⑫出会いはない/経験はない」は 48.8%と大きな差はみられなかった。

表 78 Q16 一般的な差別に対する考え方[ハンセン病問題に関する学習・啓発経験別]

	(%)	n=	①差別は、人間として最も恥ずべき行為である	②あらゆる差別をなくすために、行政は努力する必要がある	③差別されている人の言葉をきちんと聞く必要がある	④差別の解決のためには、何が差別であるかを具体的に示すことが必要である	⑤それぞれの差別の原因は何かをしっかりと見極めることが大事である	⑥差別を目の前にした時に差別反対の意思表示をすることが大事である	⑦悪質な差別は法律によって規制すべきである	⑧差別されている人も自分たちが世の中に受け入れられるように努力することが必要である	⑨差別の訴え全てに対応することには無理がある	⑩差別を問題にすることによって、問題が解決しにくくなる側面がある
			「そう思う」「どちらかといえばそう思う」の割合									
全体		(20,916)	80.8	80.5	84.4	81.1	83.6	74.9	75.7	59.6	48.5	36.6
Q7 ハンセン病元患者（回復者）・家族・問題に取り組んでいる人と会った経験	①元患者（回復者）と会ったことがある（学校・職場等での学習、講演会・展示会等のイベントなども含む）	(702)	70.9	70.9	78.3	79.1	78.8	75.8	68.7	60.5	50.0	49.3
	②元患者（回復者）の家族と会ったことがある（学校・職場等での学習、講演会・展示会等のイベントなども含む）	(311)	71.1	67.8	71.1	76.8	78.1	75.6	68.8	72.0	54.3	57.2
	③ハンセン病問題に取り組んでいる人と会ったことがある（学校・職場等での学習、講演会・展示会等のイベントなども含む）	(671)	81.1	80.5	83.3	82.3	83.8	80.6	77.9	63.0	49.2	44.3
	④ハンセン病療養所に行ったことがある	(419)	85.2	82.6	86.6	84.7	87.4	83.5	80.7	67.8	48.2	39.6
	⑤元患者（回復者）やその家族のことを取り上げた情報に接したことがある（学校・職場等での学習、講演会・展示会等のイベント、パンフレット、新聞や雑誌の記事、書籍、ビデオ・DVD、テレビ番組、ラジオ、映画、展示等）	(1,995)	89.0	89.1	92.4	89.8	93.3	87.6	86.2	60.8	45.3	34.0
	⑥自分がハンセン病問題に取り組んでいる（いた）	(82)	68.3	68.3	72.0	75.6	78.0	85.4	76.8	68.3	47.6	58.5
	⑦自分の家族・親戚にハンセン病問題に取り組んでいる人がいる（いた）	(104)	68.3	73.1	74.0	79.8	76.9	73.1	72.1	68.3	58.7	54.8
	⑧自分の友人・知人にハンセン病問題に取り組んでいる人がいる（いた）	(177)	80.2	74.0	79.7	80.8	81.4	82.5	74.0	64.4	50.3	49.7
	⑨自分がハンセン病元患者（回復者）、またはその家族である	(68)	69.1	63.2	70.6	70.6	73.5	76.5	72.1	67.6	57.4	58.8
	⑩自分の親戚にハンセン病元患者（回復者）、またはその家族がいる（いた）	(76)	64.5	63.2	71.1	68.4	68.4	71.1	63.2	63.2	63.2	55.3
	⑪自分の友人・知人にハンセン病元患者（回復者）、またはその家族がいる（いた）	(101)	72.3	69.3	75.2	77.2	77.2	72.3	63.4	64.4	46.5	44.6
	⑫出会いはない/経験はない	(17,800)	80.4	80.1	83.9	80.4	83.0	73.5	75.0	59.2	48.8	36.2
Q8 ハンセン病問題の学習を受けた経験	①小学校の授業で受けた	(917)	83.6	81.2	84.4	83.2	85.5	80.5	78.4	67.1	58.8	50.2
	②中学校の授業で受けた	(1,360)	82.1	80.1	84.7	82.1	84.0	79.6	76.8	65.7	56.1	49.2
	③高校の授業で受けた	(1,068)	78.8	76.9	81.3	81.8	82.0	78.7	74.6	67.0	51.8	50.0
	④高等専門学校、専門学校または短期大学の授業で受けた	(404)	79.7	78.2	81.7	83.2	82.7	80.2	73.0	65.1	58.2	49.3
	⑤大学または大学院の講義で受けた	(505)	76.2	74.5	82.2	81.0	82.0	78.0	76.2	66.5	57.2	50.9
	⑥職場の研修で受けた	(388)	84.0	80.2	84.8	81.2	82.7	79.1	78.9	65.2	49.5	42.0
	⑦一般市民対象の講演会、講座などで受けた	(463)	86.8	85.3	87.9	88.1	89.4	86.6	84.7	71.1	47.5	43.8
	⑧テレビ・映画・youtubeなど映像を見た	(59)	96.6	94.9	96.6	100.0	96.6	88.1	100.0	76.3	57.6	47.5
	⑨書籍を読んだ	(10)	90.0	90.0	100.0	80.0	80.0	90.0	80.0	60.0	30.0	40.0
	⑩その他の場所で受けた	(53)	92.5	94.3	94.3	90.6	94.3	86.8	84.9	60.4	47.2	24.5
	⑪受けたことはない	(11,584)	83.6	83.9	87.5	83.8	86.8	77.1	78.8	60.3	48.0	34.5
	⑫はっきり覚えていない	(5,673)	75.0	74.4	78.5	74.8	77.2	67.7	68.7	54.3	46.4	34.1
Q9 ハンセン病問題の啓発活動に参加・接触した経験	①法務省主催「ハンセン病問題に関する『親と子のシンポジウム』」	(242)	69.4	65.3	71.5	73.6	73.6	71.9	66.1	64.9	55.0	60.3
	②講演会・展示会等のイベント（「親と子のシンポジウム」以外）	(564)	70.2	69.9	74.8	75.4	77.5	73.4	67.2	61.7	48.6	48.0
	③国立ハンセン病資料館、国立ハンセン病療養所の資料館等の展示（語り部の映像視聴、学芸員による講話を含む）	(997)	77.6	75.2	79.3	79.3	80.6	78.0	73.4	64.4	47.5	45.4
	④国や地方公共団体等が配布する広報紙	(2,085)	88.1	87.5	90.8	89.4	91.6	86.4	84.7	68.2	46.5	38.5
	⑤中学生向けのパンフレット「ハンセン病の向こう側」	(856)	76.6	76.3	81.0	80.7	80.0	77.0	72.7	64.4	53.3	52.1
	⑥「ハンセン病の向こう側」以外のパンフレット（国立ハンセン病資料館や地方公共団体等が作成しているもの）	(1,306)	84.2	83.8	87.1	87.0	86.8	84.2	81.5	66.5	44.9	40.2
	⑦掲示物（ポスター・看板等）	(2,803)	87.8	87.7	91.1	88.7	90.9	85.8	84.5	67.6	49.9	41.2
	⑧新聞や雑誌の記事・広告	(5,857)	90.4	91.0	93.3	90.7	92.8	85.6	86.8	66.1	44.5	34.5
	⑨インターネット（ウェブサイト）の記事・広告	(3,296)	85.1	84.6	88.0	86.1	88.1	82.1	81.1	64.3	51.2	42.3
	⑩書籍	(1,526)	87.6	86.2	90.0	88.5	89.0	85.6	83.4	66.0	47.0	40.1
	⑪ビデオ・DVD	(927)	81.1	80.6	84.9	83.6	86.7	82.3	78.7	64.2	51.7	45.1
	⑫テレビ番組	(7,874)	89.0	89.0	92.3	89.2	91.3	84.0	84.6	64.9	46.8	35.0
	⑬ラジオ	(1,023)	81.4	80.6	84.6	84.0	85.0	80.3	78.2	66.5	45.5	41.6
	⑭映画	(1,583)	85.8	85.1	88.8	86.9	89.6	83.8	82.2	62.0	45.0	36.2
	⑮学校教育を通じて	(23)	82.6	87.0	100.0	95.7	100.0	95.7	87.0	69.6	78.3	47.8
	⑯その他（自由記述あり）	(66)	93.9	93.9	95.5	92.4	97.0	90.9	92.4	65.2	53.0	34.8

4 ハンセン病に関する医学的知識とハンセン病に対する偏見差別意識の関係

(1)医学的知識とハンセン病に係る偏見差別に関する経験等の関係

ハンセン病に係る偏見差別に関する経験等をハンセン病に関する医学的知識の有無別に比較すると、医学的知識があるほど、偏見差別に関する経験がある割合や社会に現存するハンセン病に対する偏見差別の認知度が高い傾向がみられた。

ハンセン病(病気)の認知度別にみると、「③ハンセン病元患者(回復者)やその家族が差別を受けていると聞いたことがある」と回答した割合は、「①病気について詳しく知っている」が 60.5%であるのに対し、認知度が低くなるにつれ低くなり、「④全く知らない」は 3.6%と顕著に低かった。偏見差別に関する経験①②④においても、同様の傾向がみられた。

次に、「⑤現在、世の中にハンセン病元患者(回復者)やその家族に対する偏見や差別があると思う」と回答した割合は、「①病気について詳しく知っている」が 63.1%であるのに対し、認知度が低くなるにつれ低くなり、「④全く知らない」は 9.1%と顕著に低かった。

また、「⑥自分自身は偏見や差別の意識を持っていないと思う」と回答した割合は、「①病気について詳しく知っている」が 78.9%、「②病気について多少は知っている」が 75.2%、「③名前は聞いたことがある」が 61.7%であるのに対し、「④全く知らない」は 37.5%と顕著に低かった。

ハンセン病(病気)に対する印象別にみると、「③ハンセン病元患者(回復者)やその家族が差別を受けていると聞いたことがある」と回答した割合は、全体平均が 30.0%であるのに対し、「②『らい菌』に感染することで起こる病気である」「③早めに治療すれば後遺症もなく治る病気である」「④感染しても発症に至ることがまれな病気である」「⑤致死性の弱い病気である」について「そう思う」「ややそう思う」と正答方向で回答した者は 40.8～45.5%と高く、「①遺伝する病気である」について「そう思わない」「あまりそう思わない」と正答方向で回答した者は 37.9%とやや差がみられた。ハンセン病(病気)に対する印象①②④においても、同様の傾向がみられた。

次に、「⑤現在、世の中にハンセン病元患者(回復者)やその家族に対する偏見や差別があると思う」と回答した割合は、全体平均が 39.6%であるのに対し、「②『らい菌』に感染することで起こる病気である」「③早めに治療すれば後遺症もなく治る病気である」「④感染しても発症に至ることがまれな病気である」「⑤致死性の弱い病気である」について「そう思う」「ややそう思う」と正答方向で回答した者は 49.9～54.6%、「①遺伝する病気である」について「そう思わない」「あまりそう思わない」と正答方向で回答した者は 46.7%と高かった。また、「⑥自分自身は偏見や差別の意識を持っていないと思う」と回答した割合においても、同様の傾向がみられた。

表 79 Q10 ハンセン病に係る偏見差別に関する経験等
［ハンセン病(病気)の認知度別｜ハンセン病(病気)に対する印象別］

		(%) n=	①自分の家族・親戚などが偏見や差別に基づく言動をしているのを見聞きしたことがある	②自分の友人・知人など身近な人が偏見や差別に基づく言動をしているのを見聞きしたことがある	③ハンセン病元患者（回復者）やその家族が差別を受けていると聞いたことがある	④自分や身近な人がハンセン病元患者（回復者）やその家族として、偏見や差別による被害を受けている（いた）	⑤現在、世の中にハンセン病元患者（回復者）やその家族に対する偏見や差別がある	⑥自分自身は偏見や差別の意識を持っていないと思う
			「ある」の割合				「あると思う」の割合	「持っていないと思う」の割合
全体		(20,916)	7.3	8.4	30.0	4.7	39.6	64.6
Q5 ハンセン病の認知	①病気について詳しく知っている	(1,046)	22.8	24.2	60.5	19.1	63.1	78.9
	②病気について多少は知っている	(6,892)	9.8	10.8	49.0	6.2	57.7	75.2
	③名前は聞いたことがある	(10,918)	5.0	5.8	20.1	2.7	31.7	61.7
	④全く知らない	(2,060)	3.1	5.8	3.6	3.0	9.1	37.5
Q6 ハンセン病の病気に対する印象	①遺伝する病気である（そう思わない＋あまりそう思わない）	(13,235)	7.3	8.1	37.9	4.8	46.7	69.5
	②「らい菌」に感染することで起こる病気である（そう思う＋ややそう思う）	(9,056)	9.8	10.2	45.5	6.5	54.6	73.6
	③早めに治療すれば後遺症もなく治る病気である（そう思う＋ややそう思う）	(10,325)	9.1	9.7	40.8	6.1	49.9	73.2
	④感染しても発症に至ることがまれな病気である（そう思う＋ややそう思う）	(7,323)	10.3	11.0	40.8	7.4	49.9	72.0
	⑤致死性の弱い病気である（そう思う＋ややそう思う）	(8,735)	9.4	9.9	43.4	6.2	52.6	73.9

（2）医学的知識とハンセン病問題に関する歴史的事実・考え方に対する意見の関係

ハンセン病問題に関する歴史的事実・考え方に対する意見をハンセン病に関する医学的知識の有無別に比較すると、医学的知識があるほど、誤った言説を支持する傾向の回答割合が高い傾向がみられた。

ハンセン病（病気）の認知度別にみると、「②ハンセン病患者を『療養所』に強制的に隔離してきたことは、有効な薬が開発され治療法が確立された後であっても、やむを得ない措置であった」という誤った言説に対し、「そう思う」「どちらかといえばそう思う」の合計、つまり誤りを支持する傾向の回答割合は、「①病気について詳しく知っている」と回答した者の 19.6％であるのに対し、認知度が低くなるにつれ低くなり、「④全く知らない」と回答した者の 8.9％と最も低かった。それ以外の項目においても、同様の傾向がみられた。

ハンセン病（病気）に対する印象別にみると、「②ハンセン病患者を『療養所』に強制的に隔離してきたことは、有効な薬が開発され治療法が確立された後であっても、やむを得ない措置であった」という誤った言説に対し、「そう思う」「どちらかといえばそう思う」の合計、つまり誤りを支持する傾向の回答割合は、全体平均が 11.2％であるのに対し、「②『らい菌』に感染することで起こる病気である」「③早めに治療すれば後遺症もなく治る病気である」「④感染しても発症に至ることがまれな病気である」「⑤致死性の弱い病気である」について「そう思う」「ややそう思う」と正答方向で回答した者は 12.9～14.7％と高く、「①遺伝する病気である」について「そう思わない」「あまりそう思わない」と正答方向で回答した者は 9.7％と低かった。それ以外の項目においても、同様の傾向がみられた。

表 80　Q12 ハンセン病問題に関する歴史的事実・考え方に対する意見
［ハンセン病（病気）の認知度別｜ハンセン病（病気）に対する印象別］

		(%) n=	①ハンセン病患者を「療養所」に強制的に隔離してきたことは、有効な薬が開発され治療法が確立されるまでは、やむを得ない措置であった	②ハンセン病患者を「療養所」に強制的に隔離してきたことは、有効な薬が開発され治療法が確立された後であっても、やむを得ない措置であった	③かつて「療養所」においては、結婚の時に「子どもを生めなくする手術をすること」を条件とされていたことは、有効な薬が開発され治療法が確立されるまでは、仕方がないことであった	④かつて「療養所」においては、結婚の時に「子どもを生めなくする手術をすること」を条件とされていたことは、有効な薬が開発され治療法が確立された後であっても、仕方がないことであった	⑤ハンセン病元患者（回復者）にとっては、専門性がある医療・福祉を受けられる「療養所」の中で暮らすことのほうが、「療養所」の外で暮らすよりもよい	⑥ハンセン病元患者（回復者）にとっては、偏見・差別を受けづらい「療養所」の中で暮らすことのほうが、「療養所」の外で暮らすよりもよい	⑦ハンセン病患者の自由が拘束されることは仕方のない側面もある	⑧ハンセン病元患者（回復者）の宿泊を「他の宿泊客への迷惑になる」ことを理由として拒否した事件における、ホテル側の言い分には一理あり、ホテル側の対応は認められる
			「そう思う」「どちらかといえばそう思う」の割合							
全体		(20,916)	27.4	11.2	14.1	7.9	15.2	13.6	8.0	11.2
Q5 ハンセン病の認知	①病気について詳しく知っている	(1,046)	35.2	19.6	23.7	15.9	21.6	21.0	13.2	17.6
	②病気について多少は知っている	(6,892)	34.4	12.0	16.4	8.5	17.6	15.2	8.5	11.9
	③名前は聞いたことがある	(10,918)	25.3	10.3	12.1	6.8	14.2	12.8	7.6	10.7
	④全く知らない	(2,060)	10.6	8.9	12.1	7.3	9.4	8.8	6.1	7.7
Q6 ハンセン病の病気に対する印象	①遺伝する病気である（そう思わない＋あまりそう思わない）	(13,235)	28.3	9.7	13.3	6.7	15.0	13.2	6.9	10.1
	②「らい菌」に感染することで起こる病気である（そう思う＋ややそう思う）	(9,056)	37.2	13.4	17.3	9.6	19.0	16.9	9.8	13.6
	③早めに治療すれば後遺症もなく治る病気である（そう思う＋ややそう思う）	(10,325)	33.3	12.9	16.0	8.7	17.7	15.6	8.8	12.2
	④感染しても発症に至ることがまれな病気である（そう思う＋ややそう思う）	(7,323)	32.7	14.7	17.8	10.7	18.6	16.7	9.8	13.9
	⑤致死性の弱い病気である（そう思う＋ややそう思う）	(8,735)	33.7	12.7	16.7	9.3	18.3	16.5	9.1	13.1

（3）医学的知識とハンセン病・ハンセン病元患者（回復者）に対する考え方の関係

ハンセン病・ハンセン病元患者（回復者）に対する考え方をハンセン病に関する医学的知識の有無別に比較すると、医学的知識があるほど、包摂的な考え方を支持する割合が高い傾向がみられた一方で、非包摂的な考え方を支持する割合も高い傾向がみられた。

ハンセン病（病気）の認知度別に、ハンセン病・ハンセン病元患者（回復者）に対する包摂的な考え方に対する回答傾向をみると、「②ハンセン病元患者（回復者）も、地域で普通に隣人として暮らせることが望ましい」という考え方に対し、「そう思う」「どちらかといえばそう思う」と回答した割合は、「①病気について詳しく知っている」が 75.0%、「②病気について多少は知っている」が 77.3%であるのに対し、「③名前は聞いたことがある」は 56.7%、「④全く知らない」は 20.5%と認知度が低くなるにつれ低くなる傾向がみられた。包摂的な考え方④⑧⑩⑪においても、同様の傾向がみられた。

次に、ハンセン病（病気）の認知度別に、ハンセン病・ハンセン病元患者（回復者）に対する非包摂的な考え方に対する回答傾向をみると、「⑤自分の身内にハンセン病元患者（回復者）がいなくて、よかったと思う」という考え方に対し、「そう思う」「どちらかといえばそう思う」と回答した割合は、「①病気について詳しく知っている」「②病気について多少は知っている」「③名前は聞いたことがある」が 30.3～38.6%であるのに対し、「④全く知らない」は 16.3%と顕著に低かった。非包摂的な考え方①③⑥⑦⑨においても、同様の傾向がみられた。

さらに、ハンセン病（病気）の認知度別に、ハンセン病問題に関する学習啓発に対する考え方に対する回答傾向をみると、「⑫ハンセン病の問題について、子どもを対象とした学校教育の機会を増やすべきだ」という考え方に対し、「そう思う」「どちらかといえばそう思う」と回答した割合は、「①病気について詳しく知っている」が 68.8%であるのに対し、認知度が低くなるにつれ低くなり、「④全く知らない」は 16.8%であった。学習啓発に対する考え方⑬⑭においても、同様の傾向がみられた。

ハンセン病（病気）に対する印象別に、ハンセン病・ハンセン病元患者（回復者）に対する包摂的な考え方に対する回答傾向をみると、「②ハンセン病元患者（回復者）も、地域で普通に隣人として暮らせることが望ましい」という考え方に対し、「そう思う」「どちらかといえばそう思う」と回答した割合は、全体平均が 60.8%であるのに対し、「②『らい菌』に感染することで起こる病気である」「③早めに治療すれば後遺症もなく治る病気である」「④感染しても発症に至ることがまれな病気である」「⑤致死性の弱い病気である」について「そう思う」「ややそう思う」と正答方向で回答した者は 72.3～75.5%、「①遺伝する病気である」について「そう思わない」「あまりそう思わない」と正答方向で回答した者は 69.6%と高かった。包摂的な考え方④⑧⑩⑪においても、同様の傾向がみられた。

次に、ハンセン病（病気）に対する印象別に、ハンセン病・ハンセン病元患者（回復者）に対する非包摂的な考え方に対する回答傾向をみると、「⑤自分の身内にハンセン病元患者（回復者）がいなくて、よかったと思う」という考え方に対し、「そう思う」「どちらかといえばそう思う」と回答した割合は、全体平均が 31.7%であるのに対し、「②『らい菌』に感染することで起こる病気である」「③早めに治療すれば後遺症もなく治る病気である」「④感染しても発症に至ることがまれな病気である」「⑤致死性の弱い病気である」について「そう思う」「ややそう思う」と正答方向で回答した者は 35.2～39.2%、「①遺伝する病気である」について「そう思わない」「あまりそう思わない」と正答方向で回答した者は 33.2%とやや

高かった。非包摂的な考え方⑦においても、同様の傾向がみられた。

「①ハンセン病と聞くと、できるだけ距離をとりたいと思うのは当然な反応だ」という考え方に対し、「そう思う」「どちらかといえばそう思う」と回答した割合は、全体平均が 16.0%であるのに対し、「②『らい菌』に感染することで起こる病気である」「③早めに治療すれば後遺症もなく治る病気である」「④感染しても発症に至ることがまれな病気である」「⑤致死性の弱い病気である」について「そう思う」「ややそう思う」と正答方向で回答した者は 17.5～20.8%と高く、「①遺伝する病気である」について「そう思わない」「あまりそう思わない」と正答方向で回答した者は 14.7%と低かった。非包摂的な考え方③⑥⑨においても、同様の傾向がみられた。

この結果は、ハンセン病（病気）についてどのような医学的知識を持つことが、ハンセン病・ハンセン病元患者（回復者）に対する非包摂的な考え方を持たないことにつながるか、今後、多角的に分析することの必要性を示唆している。

続いて、ハンセン病（病気）に対する印象別に、ハンセン病問題に関する学習啓発に対する考え方に対する回答傾向をみると、「⑫ハンセン病の問題について、子どもを対象とした学校教育の機会を増やすべきだ」という考え方に対し、「そう思う」「どちらかといえばそう思う」と回答した割合は、全体平均が 50.5%であるのに対し、「②『らい菌』に感染することで起こる病気である」「③早めに治療すれば後遺症もなく治る病気である」「④感染しても発症に至ることがまれな病気である」「⑤致死性の弱い病気である」について「そう思う」「ややそう思う」と正答方向で回答した者は 63.2～65.0%、「①遺伝する病気である」について「そう思わない」「あまりそう思わない」と正答方向で回答した者は 58.0%と高かった。学習啓発に対する考え方⑬⑭においても、同様の傾向がみられた。

表 81　Q13 ハンセン病・ハンセン病元患者(回復者)に対する考え方
[ハンセン病(病気)の認知度別｜ハンセン病(病気)に対する印象別](1/4)

		(%) n=	①ハンセン病と聞くと、できるだけ距離をとりたいと思うのは当然な反応だ	②ハンセン病元患者（回復者）も、地域で普通に隣人として暮らせることが望ましい	③ハンセン病元患者（回復者）とは、たとえ治っていたとしても、関りを持ちたくない	④ハンセン病元患者（回復者）も、そうでない人も、人としての価値は変わらない	⑤自分の身内にハンセン病元患者（回復者）がいなくて、よかったと思う	⑥ハンセン病元患者（回復者）は、たとえ治っていたとしても、自分たちとは違う人たちだと感じる	⑦ハンセン病にかかるというのは、どこか遠い世界での出来事だと感じる
			「そう思う」「どちらかといえばそう思う」の割合						
全体		(20,916)	16.0	60.8	5.7	68.8	31.7	6.6	40.0
Q5 ハンセン病の認知	①病気について詳しく知っている	(1,046)	20.1	75.0	10.8	80.5	32.5	13.3	31.7
	②病気について多少は知っている	(6,892)	17.9	77.3	5.9	84.3	38.6	6.9	42.7
	③名前は聞いたことがある	(10,918)	15.6	56.7	5.1	65.9	30.3	5.6	42.7
	④全く知らない	(2,060)	9.5	20.5	5.9	26.7	16.3	7.0	21.1
Q6 ハンセン病の病気に対する印象	①遺伝する病気である（そう思わない＋あまりそう思わない）	(13,235)	14.7	69.6	4.5	76.7	33.2	5.4	41.4
	②「らい菌」に感染することで起こる病気である（そう思う＋ややそう思う）	(9,056)	20.8	75.5	6.9	83.0	39.2	7.9	45.5
	③早めに治療すれば後遺症もなく治る病気である（そう思う＋ややそう思う）	(10,325)	17.5	74.1	6.1	80.8	35.4	7.1	41.9
	④感染しても発症に至ることがまれな病気である（そう思う＋ややそう思う）	(7,323)	17.9	72.3	7.1	78.8	35.2	8.8	41.5
	⑤致死性の弱い病気である（そう思う＋ややそう思う）	(8,735)	18.2	75.3	6.5	82.7	37.3	7.6	44.6

表 82　Q13 ハンセン病・ハンセン病元患者(回復者)に対する考え方
[ハンセン病(病気)の認知度別｜ハンセン病(病気)に対する印象別](2/4)

		(%) n=	①ハンセン病と聞くと、できるだけ距離をとりたいと思うのは当然な反応だ	②ハンセン病元患者（回復者）も、地域で普通に隣人として暮らせることが望ましい	③ハンセン病元患者（回復者）とは、たとえ治っていたとしても、関りを持ちたくない	④ハンセン病元患者（回復者）も、そうでない人も、人としての価値は変わらない	⑤自分の身内にハンセン病元患者（回復者）がいなくて、よかったと思う	⑥ハンセン病元患者（回復者）は、たとえ治っていたとしても、自分たちとは違う人たちだと感じる	⑦ハンセン病にかかるというのは、どこか遠い世界での出来事だと感じる
			「そう思わない」「あまりそう思わない」の割合						
全体		(20,916)	39.3	8.9	56.1	7.1	18.5	58.0	21.4
Q5 ハンセン病の認知	①病気について詳しく知っている	(1,046)	55.8	11.1	70.8	8.6	29.3	69.6	42.7
	②病気について多少は知っている	(6,892)	50.5	6.8	69.9	5.3	21.3	71.6	28.5
	③名前は聞いたことがある	(10,918)	33.7	8.4	51.1	6.7	16.0	54.1	15.8
	④全く知らない	(2,060)	23.6	17.4	29.2	14.9	16.8	27.2	16.6
Q6 ハンセン病の病気に対する印象	①遺伝する病気である（そう思わない＋あまりそう思わない）	(13,235)	47.9	9.0	65.0	7.2	21.2	67.3	25.4
	②「らい菌」に感染することで起こる病気である（そう思う＋ややそう思う）	(9,056)	45.3	6.4	65.8	5.1	19.5	68.9	25.6
	③早めに治療すれば後遺症もなく治る病気である（そう思う＋ややそう思う）	(10,325)	47.8	7.6	66.3	5.8	21.5	68.9	26.8
	④感染しても発症に至ることがまれな病気である（そう思う＋ややそう思う）	(7,323)	49.0	9.1	66.0	6.9	23.1	67.5	28.3
	⑤致死性の弱い病気である（そう思う＋ややそう思う）	(8,735)	49.0	7.4	67.8	5.9	21.1	70.2	26.8

表 83　Q13 ハンセン病・ハンセン病元患者(回復者)に対する考え方
[ハンセン病(病気)の認知度別｜ハンセン病(病気)に対する印象別](3/4)

		(%) n=	⑧時代や場所が違ったら、自分もハンセン病になったかもしれないと思う	⑨ハンセン病の後遺症が残っている姿を写真や映像で見せると、見た人が驚くだろうから、好ましくない	⑩たとえ目立つハンセン病の後遺症が残っていても、公共の場で堂々とふるまえる社会がよい	⑪機会があれば、自分もハンセン病療養所を訪ねてみたい	⑫ハンセン病の問題について、子どもを対象とした学校教育の機会を増やすべきだ	⑬ハンセン病の問題について、大人を対象とした啓発の機会（講演会・研修会・広報等）を増やすべきだ	⑭現在行われている、ハンセン病の問題を扱う学校教育や啓発（講演会・研修会・広報等）の方法や内容は評価できる
			「そう思う」「どちらかといえばそう思う」の割合						
全体		(20,916)	39.6	11.3	63.1	18.1	50.5	50.4	28.6
Q5 ハンセン病の認知	①病気について詳しく知っている	(1,046)	54.9	17.3	77.8	46.5	68.8	70.2	49.8
	②病気について多少は知っている	(6,892)	51.4	13.3	79.7	28.3	67.7	68.0	38.5
	③名前は聞いたことがある	(10,918)	35.2	10.0	58.6	11.3	44.2	43.6	23.2
	④全く知らない	(2,060)	15.8	8.6	24.5	6.0	16.8	17.8	13.3
Q6 ハンセン病の病気に対する印象	①遺伝する病気である（そう思わない＋あまりそう思わない）	(13,235)	44.4	10.8	71.5	21.5	58.0	58.0	32.1
	②「らい菌」に感染することで起こる病気である（そう思う＋ややそう思う）	(9,056)	51.0	14.2	78.0	26.2	64.8	64.9	37.1
	③早めに治療すれば後遺症もなく治る病気である（そう思う＋ややそう思う）	(10,325)	49.3	13.3	75.8	26.3	63.8	63.9	37.1
	④感染しても発症に至ることがまれな病気である（そう思う＋ややそう思う）	(7,323)	49.7	14.2	74.8	29.0	63.2	64.4	39.6
	⑤致死性の弱い病気である（そう思う＋ややそう思う）	(8,735)	50.0	13.5	77.8	27.0	65.0	64.9	37.9

表 84　Q13 ハンセン病・ハンセン病元患者(回復者)に対する考え方
[ハンセン病(病気)の認知度別｜ハンセン病(病気)に対する印象別](4/4)

		(%) n=	⑧時代や場所が違ったら、自分もハンセン病になったかもしれないと思う	⑨ハンセン病の後遺症が残っている姿を写真や映像で見せると、見た人が驚くだろうから、好ましくない	⑩たとえ目立つハンセン病の後遺症が残っていても、公共の場で堂々とふるまえる社会がよい	⑪機会があれば、自分もハンセン病療養所を訪ねてみたい	⑫ハンセン病の問題について、子どもを対象とした学校教育の機会を増やすべきだ	⑬ハンセン病の問題について、大人を対象とした啓発の機会（講演会・研修会・広報等）を増やすべきだ	⑭現在行われている、ハンセン病の問題を扱う学校教育や啓発（講演会・研修会・広報等）の方法や内容は評価できる
			「そう思わない」「あまりそう思わない」の割合						
全体		(20,916)	11.8	35.7	6.4	30.8	9.0	8.0	9.9
Q5 ハンセン病の認知	①病気について詳しく知っている	(1,046)	14.7	54.1	7.2	19.2	10.7	8.1	13.2
	②病気について多少は知っている	(6,892)	11.2	47.8	4.9	27.5	7.0	5.8	9.9
	③名前は聞いたことがある	(10,918)	10.9	29.8	6.2	34.3	9.0	8.1	9.0
	④全く知らない	(2,060)	16.9	17.5	12.5	28.8	14.9	14.7	12.8
Q6 ハンセン病の病気に対する印象	①遺伝する病気である（そう思わない＋あまりそう思わない）	(13,235)	12.3	42.5	6.2	30.4	8.9	7.7	10.5
	②「らい菌」に感染することで起こる病気である（そう思う＋ややそう思う）	(9,056)	10.8	44.7	4.6	29.9	7.4	6.2	10.0
	③早めに治療すれば後遺症もなく治る病気である（そう思う＋ややそう思う）	(10,325)	11.3	43.5	5.3	27.9	7.6	6.5	9.9
	④感染しても発症に至ることがまれな病気である（そう思う＋ややそう思う）	(7,323)	12.7	44.5	6.6	26.7	8.9	7.6	11.0
	⑤致死性の弱い病気である（そう思う＋ややそう思う）	(8,735)	11.7	45.5	5.3	28.5	7.8	6.7	10.0

（4）医学的知識とハンセン病元患者（回復者）・家族に対する態度の関係

ハンセン病元患者（回復者）・家族に対する態度をハンセン病（病気）の認知度別で比較すると、回答傾向に大きな差はみられなかった。一方、ハンセン病（病気）に対する印象別に比較すると、回答傾向に差があった。

ハンセン病（病気）に対する印象別に、ハンセン病元患者（回復者）・家族に対する態度として抵抗感を示す割合をみると、いずれの項目においても、「①遺伝する病気である」について「そう思わない」「あまりそう思わない」と正答方向で回答した者は、全体平均よりも抵抗感を示す割合が低い傾向がみられた。他方で、「②『らい菌』に感染することで起こる病気である」について「そう思う」「ややそう思う」と正答方向で回答した者は、全体平均よりも抵抗感を示す割合が高い傾向がみられた。「③早めに治療すれば後遺症もなく治る病気である」「④感染しても発症に至ることがまれな病気である」「⑤致死性の弱い病気である」について「そう思う」「ややそう思う」と正答方向で回答した者は、全体平均の回答傾向と大きな差はみられなかった。この結果は、ハンセン病（病気）についてハンセン病（病気）についてどのような医学的知識を持つことが、ハンセン病元患者（回復者）・家族に対する態度としての抵抗感を低減することにつながるか、今後、多角的に分析することの必要性を示唆している。

表 85　Q14 ハンセン病元患者（回復者）・家族に対する態度
［ハンセン病（病気）の認知度別｜ハンセン病（病気）に対する印象別］

		(%) n=	①近所に住むこと	②同じ職場で働くこと	③同じ学校に通うこと	④同じ医療機関・福祉施設に通院・通所すること	⑤同じ医療機関・福祉施設に入院・入所すること	⑥食事をともにすること	⑦手をつなぐ等の身体に触れること	⑧ホテルなどで同じ浴場を利用すること	⑨ハンセン病元患者（回復者）の家族とあなたの家族が結婚すること
			「とても抵抗を感じる」「やや抵抗を感じる」の割合								
全体		(20,916)	9.3	9.5	8.2	7.5	9.6	12.0	18.5	19.8	21.8
Q5 ハンセン病の認知	①病気について詳しく知っている	(1,046)	11.2	9.0	7.5	8.8	12.4	12.4	14.9	16.0	20.7
	②病気について多少は知っている	(6,892)	8.6	8.6	7.2	7.1	9.0	11.0	18.1	19.4	23.0
	③名前は聞いたことがある	(10,918)	9.3	9.9	8.7	7.6	9.5	12.5	19.5	20.9	21.8
	④全く知らない	(2,060)	10.2	10.0	9.2	8.0	10.5	12.6	16.2	17.1	18.3
Q6 ハンセン病の病気に対する印象	①遺伝する病気である（そう思わない＋あまりそう思わない）	(13,235)	7.0	7.6	6.4	5.9	7.7	9.7	16.2	17.3	20.3
	②「らい菌」に感染することで起こる病気である（そう思う＋ややそう思う）	(9,056)	10.6	10.6	9.1	8.7	10.9	13.4	20.7	21.7	24.9
	③早めに治療すれば後遺症もなく治る病気である（そう思う＋ややそう思う）	(10,325)	8.8	8.7	7.5	7.2	9.2	11.2	17.5	18.7	21.7
	④感染しても発症に至ることがまれな病気である（そう思う＋ややそう思う）	(7,323)	9.8	9.3	7.7	7.8	10.1	11.7	16.9	18.7	21.9
	⑤致死性の弱い病気である（そう思う＋ややそう思う）	(8,735)	9.1	9.1	7.6	7.4	9.3	11.3	17.8	18.9	22.6

5 ハンセン病問題に関する知識とハンセン病に対する偏見差別意識の関係

(1)ハンセン病問題に関する知識とハンセン病に係る偏見差別に関する経験等の関係

ハンセン病に係る偏見差別に関する経験等をハンセン病問題に関する知識の有無別に比較すると、ハンセン病元患者(回復者)・家族に対する偏見差別による被害事例やハンセン病強制隔離政策について知識があるほど、偏見差別に関する経験がある割合や社会に現存するハンセン病に対する偏見差別の認知度が高い傾向がみられた。

ハンセン病元患者(回復者)・家族に対する偏見差別による被害事例の認知度別に、ハンセン病に係る偏見差別に関する経験をみると、「③ハンセン病元患者(回復者)やその家族が差別を受けていると聞いたことがある」と回答した割合は、「①家族や親戚から差別や排除行為を受けること」「②近隣や地域の人々から差別や排除行為を受けること」「⑬ハンセン病元患者(回復者)やその家族であるということを誰にも言えず、秘密を抱えて生きていかざるを得ないこと」を知っている者が 54.6～57.2%であるのに対し、「⑮知っているものはない」と回答した者は 6.4%と顕著に低かった。偏見差別に関する経験①②④においても、同様の傾向がみられた。

次に、「⑤現在、世の中にハンセン病元患者(回復者)やその家族に対する偏見や差別があると思う」と回答した割合は、「①家族や親戚から差別や排除行為を受けること」「②近隣や地域の人々から差別や排除行為を受けること」「⑬ハンセン病元患者(回復者)やその家族であるということを誰にも言えず、秘密を抱えて生きていかざるを得ないこと」を知っている者が 62.9～67.8%であるのに対し、「⑮知っているものはない」と回答した者は 16.5%と顕著に低かった。また、「⑥自分自身は偏見や差別の意識を持っていないと思う」と回答した割合においても、同様の傾向がみられた。

ハンセン病強制隔離政策の認知度別に、ハンセン病に係る偏見差別に関する経験をみると、「③ハンセン病元患者(回復者)やその家族が差別を受けていると聞いたことがある」と回答した割合は、全体平均が 30.0%であるのに対し、強制隔離政策の各項目について「知っている」「少し知っている」者は 48.1～50.4%と顕著に高かった。偏見差別に関する経験①②④においても、同様の傾向がみられた。

次に、「⑤現在、世の中にハンセン病元患者(回復者)やその家族に対する偏見や差別があると思う」と回答した割合は、全体平均が 39.6%であるのに対し、強制隔離政策の各項目について「知っている」「少し知っている」者は 55.5～58.6%と顕著に高かった。また、「⑥自分自身は偏見や差別の意識を持っていないと思う」と回答した割合においても、同様の傾向がみられた。

表 86 Q10 ハンセン病に係る偏見差別に関する経験等
［ハンセン病元患者（回復者）・家族に対する偏見差別による被害事例の認知度｜ハンセン病強制隔離政策についての認知度別］

		(%) n=	①自分の家族・親戚などが偏見や差別に基づく言動をしているのを見聞きしたことがある	②自分の友人・知人など身近な人が偏見や差別に基づく言動をしているのを見聞きしたことがある	③ハンセン病元患者（回復者）やその家族が差別を受けていると聞いたことがある	④自分や身近な人がハンセン病元患者（回復者）やその家族として、偏見や差別による被害を受けている（いた）	⑤現在、世の中にハンセン病元患者（回復者）やその家族に対する偏見や差別がある	⑥自分自身は偏見や差別の意識を持っていないと思う
			「ある」の割合				「あると思う」の割合	「持っていないと思う」の割合
全体		(20,916)	7.3	8.4	30.0	4.7	39.6	64.6
Q11 ハンセン病元患者（回復者）・家族に対する偏見や差別による被害事例の認知	①家族や親戚から差別や排除行為を受けること	(7,204)	11.4	11.3	55.0	6.5	62.9	77.2
	②近隣や地域の人々から差別や排除行為を受けること	(8,659)	9.6	10.2	54.6	5.7	63.0	78.8
	③通学している学校で他の生徒から集団的ないじめや排除行為を受けること	(4,487)	11.5	13.0	55.0	7.5	66.0	77.6
	④通学している学校で教師から差別や排除行為を受けること	(3,407)	13.6	14.4	57.1	8.7	66.5	77.9
	⑤医療従事者・介護従事者から差別や排除行為を受けること	(2,424)	14.9	15.8	58.0	10.2	65.4	76.5
	⑥国・都道府県・市区町村等の行政職員から差別や排除行為を受けること	(3,211)	11.7	12.6	58.2	7.8	64.1	77.9
	⑦ハンセン病元患者（回復者）やその家族であることを理由に就職試験で落とされること	(4,106)	11.5	12.3	58.1	7.3	67.9	78.8
	⑧職場で同僚等から差別や排除行為を受けること	(3,331)	11.2	11.9	56.8	6.3	68.6	78.8
	⑨ハンセン病元患者（回復者）やその家族であることを理由に交際を断られる、あるいは離婚させられること	(4,661)	10.4	10.4	60.7	6.2	69.6	81.3
	⑩ハンセン病についての誤った認識をハンセン病元患者（回復者）やその家族が持つことにより、親密な家族関係が築けないこと	(3,733)	11.5	11.2	59.8	7.0	69.1	80.6
	⑪家族を責めたり、恨んだり、忌避したりして、家族関係が破綻すること	(2,922)	13.2	12.5	59.4	7.0	70.1	80.3
	⑫家族であるハンセン病元患者（回復者）との関係を断ったり、あるいは距離をおいたりして、家族関係が破綻すること	(3,821)	11.8	12.0	60.3	7.0	68.9	80.8
	⑬ハンセン病元患者（回復者）やその家族であるということを誰にも言えず、秘密を抱えて生きていかざるを得ないこと	(5,492)	10.0	9.4	57.2	5.6	67.8	81.2
	⑭その他	(102)	9.8	10.8	56.9	2.0	63.7	78.4
	⑮上記の中に知っているものはない	(9,322)	3.4	4.7	6.4	1.8	16.5	52.0
Q15 ハンセン病強制隔離政策についての認知（「知っている」「少し知っている」と回答した者）	①明治後期以降、ハンセン病患者を強制的に収容する「強制隔離政策」が行われたこと	(11,054)	9.3	9.5	48.1	5.9	56.6	75.8
	②戦前および戦後にかけて、全てのハンセン病患者を強制隔離する、官民一体の「無らい県運動」が行なわれたこと	(6,769)	12.4	14.0	48.7	9.9	55.5	72.2
	③有効な薬が開発され、治療法が確立されたが、強制隔離政策はそのまま継続されたこと	(8,698)	10.8	11.8	49.9	7.9	58.0	74.3
	④平成8（1996）年に強制隔離政策を主体とした「らい予防法」が廃止されたこと	(7,122)	11.6	12.6	50.4	8.5	58.1	75.0
	⑤平成13（2001）年に強制隔離政策を違憲とする熊本地裁判決が下されたこと	(6,185)	12.3	13.5	50.3	9.4	57.9	74.8
	⑥令和元（2019）年にハンセン病患者家族に対する偏見や差別の被害を認める熊本地裁判決が下されたこと	(6,256)	11.7	13.2	49.5	9.4	56.1	73.5
	⑦現在も「ハンセン病療養所」があり、ハンセン病が治った後も暮らし続けている人がいること	(7,572)	11.5	12.8	49.4	8.8	58.6	74.0

（2）ハンセン病問題に関する知識とハンセン病問題に関する歴史的事実・考え方に対する意見の関係

ハンセン病問題に関する歴史的事実・考え方に対する意見をハンセン病問題に関する知識の有無別に比較すると、ハンセン病元患者（回復者）・家族に対する偏見差別による被害事例やハンセン病強制隔離政策について知識があるほど、一部の項目について誤った言説を支持する傾向の回答割合が高い傾向がみられた。

ハンセン病元患者（回復者）・家族に対する偏見差別による被害事例の認知度別に、ハンセン病問題に関する歴史的事実・考え方に対する意見をみると、「②ハンセン病患者を『療養所』に強制的に隔離してきたことは、有効な薬が開発され治療法が確立された後であっても、やむを得ない措置であった」という誤った言説に対し、「そう思う」「どちらかといえばそう思う」の合計、つまり誤りを支持する傾向の回答割合は、「①家族や親戚から差別や排除行為を受けること」「②近隣や地域の人々から差別や排除行為を受けること」「⑬ハンセン病元患者（回復者）やその家族であるということを誰にも言えず、秘密を抱えて生きていかざるを得ないこと」を知っている者が 8.8～10.8％であるのに対し、「⑮知っているものはない」と回答した者は 9.4％であり、大きな差はみられなかった。意見④においても、同様の傾向がみられた。

一方で、「⑤ハンセン病元患者（回復者）にとっては、専門性がある医療・福祉を受けられる『療養所』の中で暮らすことのほうが、『療養所』の外で暮らすよりもよい」という言説に対し、「そう思う」「どちらかといえばそう思う」と回答した割合は、「①家族や親戚から差別や排除行為を受けること」「②近隣や地域の人々から差別や排除行為を受けること」「⑬ハンセン病元患者（回復者）やその家族であるということを誰にも言えず、秘密を抱えて生きていかざるを得ないこと」を知っている者が 16.5～17.1％であるのに対し、「⑮知っているものはない」と回答した者は 11.4％と低かった。意見①③⑥⑦⑧においても、同様の傾向がみられた。

ハンセン病強制隔離政策についての認知度別に、ハンセン病問題に関する歴史的事実・考え方に対する意見をみると、「②ハンセン病患者を『療養所』に強制的に隔離してきたことは、有効な薬が開発され治療法が確立された後であっても、やむを得ない措置であった」という誤った言説に対し、「そう思う」「どちらかといえばそう思う」の合計、つまり誤りを支持する傾向の回答割合は、全体平均が 11.2％であるのに対し、「①明治後期以降、ハンセン病患者を強制的に収容する『強制隔離政策』が行われたこと」を「知っている」「少し知っている」者は 10.8％と低いものの、それ以外の強制隔離政策の項目を「知っている」「少し知っている」者は 12.7～15.7％と高かった。意見④においても、同様の傾向がみられた。

一方で、「⑤ハンセン病元患者（回復者）にとっては、専門性がある医療・福祉を受けられる『療養所』の中で暮らすことのほうが、『療養所』の外で暮らすよりもよい」という言説に対し、「そう思う」「どちらかといえばそう思う」と回答した割合は、全体平均が 15.2％であるのに対し、強制隔離政策の各項目について「知っている」「少し知っている」者は 17.0～18.8％と高かった。意見①③⑥⑦⑧においても、同様の傾向がみられた。

表 87　Q12 ハンセン病問題に関する歴史的事実・考え方に対する意見
［ハンセン病元患者（回復者）・家族に対する偏見差別による被害事例の認知度別］

		(%) n=	①ハンセン病患者を「療養所」に強制的に隔離してきたことは、有効な薬が開発され治療法が確立されるまでは、やむを得ない措置であった	②ハンセン病患者を「療養所」に強制的に隔離してきたことは、有効な薬が開発され治療法が確立された後であっても、やむを得ない措置であった	③かつて「療養所」においては、結婚の時に「子どもを生めなくする手術をすること」を条件とされていたことは、有効な薬が開発され治療法が確立されるまでは、仕方がないことであった	④かつて「療養所」においては、結婚の時に「子どもを生めなくする手術をすること」を条件とされていたことは、有効な薬が開発され治療法が確立された後であっても、仕方がないことであった	⑤ハンセン病元患者（回復者）にとっては、専門性がある医療・福祉を受けられる「療養所」の中で暮らすことのほうが、「療養所」の外で暮らすよりもよい	⑥ハンセン病元患者（回復者）にとっては、偏見・差別を受けづらい「療養所」の中で暮らすことのほうが、「療養所」の外で暮らすよりもよい	⑦ハンセン病患者の自由が拘束されることは仕方のない側面もある	⑧ハンセン病元患者（回復者）の宿泊を「他の宿泊客への迷惑になる」ことを理由として拒否した事件における、ホテル側の言い分には一理あり、ホテル側の対応は認められる
			「そう思う」「どちらかといえばそう思う」の割合							
全体		(20,916)	27.4	11.2	14.1	7.9	15.2	13.6	8.0	11.2
Q11 ハンセン病元患者（回復者）・家族に対する偏見や差別による被害事例の認知	①家族や親戚から差別や排除行為を受けること	(7,204)	33.8	10.8	14.8	7.3	17.1	15.2	8.6	11.7
	②近隣や地域の人々から差別や排除行為を受けること	(8,659)	34.1	9.8	13.6	6.0	17.1	15.2	8.1	11.1
	③通学している学校で他の生徒から集団的ないじめや排除行為を受けること	(4,487)	33.5	11.6	15.3	7.9	18.8	16.6	9.4	12.6
	④通学している学校で教師から差別や排除行為を受けること	(3,407)	32.6	12.3	15.9	8.7	17.8	16.8	9.8	12.8
	⑤医療従事者・介護従事者から差別や排除行為を受けること	(2,424)	30.7	13.1	16.5	10.3	17.6	16.1	9.5	13.3
	⑥国・都道府県・市区町村等の行政職員から差別や排除行為を受けること	(3,211)	29.0	11.0	14.0	7.3	15.9	15.1	8.3	11.4
	⑦ハンセン病元患者（回復者）やその家族であることを理由に就職試験で落とされること	(4,106)	32.5	10.3	14.4	6.8	16.6	15.1	7.9	11.2
	⑧職場で同僚等から差別や排除行為を受けること	(3,331)	33.6	10.4	14.1	6.3	17.3	15.0	8.5	11.0
	⑨ハンセン病元患者（回復者）やその家族であることを理由に交際を断られる、あるいは離婚させられること	(4,661)	33.4	8.7	13.3	5.7	16.3	14.7	7.4	10.1
	⑩ハンセン病についての誤った認識をハンセン病元患者（回復者）やその家族が持つことにより、親密な家族関係が築けないこと	(3,733)	32.1	9.0	13.1	6.2	16.3	14.5	7.0	9.8
	⑪家族を責めたり、恨んだり、忌避したりして、家族関係が破綻すること	(2,922)	33.1	10.1	14.7	6.2	16.7	15.2	8.6	10.7
	⑫家族であるハンセン病元患者（回復者）との関係を断ったり、あるいは距離をおいたりして、家族関係が破綻すること	(3,821)	32.5	9.6	13.7	6.1	15.7	14.9	7.6	10.3
	⑬ハンセン病元患者（回復者）やその家族であるということを誰にも言えず、秘密を抱えて生きていかざるを得ないこと	(5,492)	33.9	8.8	12.7	5.5	16.5	14.9	7.1	10.0
	⑭その他	(102)	27.5	9.8	7.8	3.9	14.7	13.7	10.8	10.8
	⑮上記の中に知っているものはない	(9,322)	19.6	9.4	11.2	6.8	11.4	10.0	6.7	8.7

表 88 Q12 ハンセン病問題に関する歴史的事実・考え方に対する意見
［ハンセン病強制隔離政策の認知度別］

		(%) n=	①ハンセン病患者を「療養所」に強制的に隔離してきたことは、有効な薬が開発され治療法が確立されるまでは、やむを得ない措置であった	②ハンセン病患者を「療養所」に強制的に隔離してきたことは、有効な薬が開発され治療法が確立された後であっても、やむを得ない措置であった	③かつて「療養所」においては、結婚の時に「子どもを生めなくする手術をすること」を条件とされていたことは、有効な薬が開発され治療法が確立されるまでは、仕方がないことであった	④かつて「療養所」においては、結婚の時に「子どもを生めなくする手術をすること」を条件とされていたことは、有効な薬が開発され治療法が確立された後であっても、仕方がないことであった	⑤ハンセン病元患者（回復者）にとっては、専門性がある医療・福祉を受けられる「療養所」の中で暮らすことのほうが、「療養所」の外で暮らすよりもよい	⑥ハンセン病元患者（回復者）にとっては、偏見・差別を受けづらい「療養所」の中で暮らすことのほうが、「療養所」の外で暮らすよりもよい	⑦ハンセン病患者の自由が拘束されることは仕方のない側面もある	⑧ハンセン病元患者（回復者）の宿泊を「他の宿泊客への迷惑になる」ことを理由として拒否した事件における、ホテル側の言い分には一理あり、ホテル側の対応は認められる
			「そう思う」「どちらかといえばそう思う」の割合							
全体		(20,916)	27.4	11.2	14.1	7.9	15.2	13.6	8.0	11.2
Q15 ハンセン病強制隔離政策についての認知（「知っている」「少し知っている」と回答した者）	①明治後期以降、ハンセン病患者を強制的に収容する「強制隔離政策」が行われたこと	(11,054)	33.9	10.8	14.9	7.3	17.0	15.2	8.4	11.5
	②戦前および戦後にかけて、全てのハンセン病患者を強制隔離する、官民一体の「無らい県運動」が行なわれたこと	(6,769)	32.3	15.7	20.3	11.9	18.8	17.6	10.1	14.3
	③有効な薬が開発され、治療法が確立されたが、強制隔離政策はそのまま継続されたこと	(8,698)	32.3	12.7	17.3	9.3	17.3	16.1	8.8	12.7
	④平成8（1996）年に強制隔離政策を主体とした「らい予防法」が廃止されたこと	(7,122)	31.9	13.4	18.1	9.6	17.6	16.4	8.9	12.7
	⑤平成13（2001）年に強制隔離政策を違憲とする熊本地裁判決が下されたこと	(6,185)	31.5	14.2	18.9	10.4	17.9	16.8	9.4	13.4
	⑥令和元（2019）年にハンセン病患者家族に対する偏見や差別の被害を認める熊本地裁判決が下されたこと	(6,256)	31.1	14.8	19.0	11.6	18.3	17.4	9.7	13.9
	⑦現在も「ハンセン病療養所」があり、ハンセン病が治った後も暮らし続けている人がいること	(7,572)	32.9	14.1	18.9	10.4	18.7	17.2	9.0	13.3
Q15 ハンセン病強制隔離政策についての認知（「知っている」と回答した者）	①明治後期以降、ハンセン病患者を強制的に収容する「強制隔離政策」が行われたこと	(5,006)	36.3	8.9	14.4	6.0	16.1	14.6	7.7	10.3
	②戦前および戦後にかけて、全てのハンセン病患者を強制隔離する、官民一体の「無らい県運動」が行なわれたこと	(2,678)	34.1	16.7	20.8	12.3	19.6	18.6	10.5	15.5
	③有効な薬が開発され、治療法が確立されたが、強制隔離政策はそのまま継続されたこと	(3,542)	32.0	11.9	16.7	8.4	16.2	14.9	7.9	12.3
	④平成8（1996）年に強制隔離政策を主体とした「らい予防法」が廃止されたこと	(2,701)	31.3	12.9	17.4	9.0	16.8	16.0	8.2	12.2
	⑤平成13（2001）年に強制隔離政策を違憲とする熊本地裁判決が下されたこと	(2,166)	31.0	12.9	18.0	9.1	16.3	15.7	8.3	11.7
	⑥令和元（2019）年にハンセン病患者家族に対する偏見や差別の被害を認める熊本地裁判決が下されたこと	(2,063)	32.1	16.5	20.1	12.4	18.9	19.0	10.3	14.5
	⑦現在も「ハンセン病療養所」があり、ハンセン病が治った後も暮らし続けている人がいること	(3,387)	35.0	13.6	19.2	9.9	18.3	16.9	8.4	12.8
Q15 ハンセン病強制隔離政策についての認知（「少し知っている」と回答した者）	①明治後期以降、ハンセン病患者を強制的に収容する「強制隔離政策」が行われたこと	(6,048)	32.0	12.4	15.3	8.4	17.6	15.6	8.9	12.5
	②戦前および戦後にかけて、全てのハンセン病患者を強制隔離する、官民一体の「無らい県運動」が行なわれたこと	(4,091)	31.1	15.0	19.9	11.7	18.2	16.9	9.8	13.4
	③有効な薬が開発され、治療法が確立されたが、強制隔離政策はそのまま継続されたこと	(5,156)	32.6	13.3	17.7	10.0	18.1	17.0	9.4	13.0
	④平成8（1996）年に強制隔離政策を主体とした「らい予防法」が廃止されたこと	(4,421)	32.2	13.6	18.5	10.0	18.0	16.6	9.3	13.1
	⑤平成13（2001）年に強制隔離政策を違憲とする熊本地裁判決が下されたこと	(4,019)	31.8	15.0	19.4	11.1	18.8	17.3	10.0	14.2
	⑥令和元（2019）年にハンセン病患者家族に対する偏見や差別の被害を認める熊本地裁判決が下されたこと	(4,193)	30.6	13.9	18.4	11.2	18.0	16.7	9.4	13.6
	⑦現在も「ハンセン病療養所」があり、ハンセン病が治った後も暮らし続けている人がいること	(4,185)	31.3	14.5	18.7	10.8	19.1	17.4	9.4	13.6

（3）ハンセン病問題に関する知識とハンセン病・ハンセン病元患者（回復者）に対する考え方の関係

ハンセン病・ハンセン病元患者（回復者）に対する考え方をハンセン病問題に関する知識の有無別に比較すると、ハンセン病元患者（回復者）・家族に対する偏見差別による被害事例やハンセン病強制隔離政策について知識があるほど、包摂的な考え方を支持する割合が高い傾向がみられた一方で、一部の非包摂的な考え方を支持する割合も高い傾向がみられた。

ハンセン病元患者（回復者）・家族に対する偏見や差別による被害事例の認知度別に、ハンセン病・ハンセン病元患者（回復者）に対する包摂的な考え方に対する回答傾向をみると、「②ハンセン病元患者（回復者）も、地域で普通に隣人として暮らせることが望ましい」という考え方に対し、「そう思う」「どちらかといえばそう思う」と回答した割合は、「①家族や親戚から差別や排除行為を受けること」「②近隣や地域の人々から差別や排除行為を受けること」「⑬ハンセン病元患者（回復者）やその家族であるということを誰にも言えず、秘密を抱えて生きていかざるを得ないこと」を知っている者が 80.9～86.1%であるのに対し、「⑮知っているものはない」と回答した者は 40.8%と顕著に低かった。包摂的な考え方④⑧⑩⑪においても、同様の傾向がみられた。

次に、ハンセン病元患者（回復者）・家族に対する偏見や差別による被害事例の認知度別に、ハンセン病・ハンセン病元患者（回復者）に対する非包摂的な考え方に対する回答傾向をみると、「⑤自分の身内にハンセン病元患者（回復者）がいなくて、よかったと思う」という考え方に対し、「そう思う」「どちらかといえばそう思う」と回答した割合は、「①家族や親戚から差別や排除行為を受けること」「②近隣や地域の人々から差別や排除行為を受けること」「⑬ハンセン病元患者（回復者）やその家族であるということを誰にも言えず、秘密を抱えて生きていかざるを得ないこと」を知っている者が 38.4～39.7%であるのに対し、「⑮知っているものはない」と回答した者は 23.7%と顕著に低かった。非包摂的な考え方①⑦⑨においても、同様の傾向がみられた。

同じく非包摂的な「⑥ハンセン病元患者（回復者）は、たとえ治っていたとしても、自分たちとは違う人たちだと感じる」という考え方に対し、「そう思う」「どちらかといえばそう思う」と回答した割合は、「①家族や親戚から差別や排除行為を受けること」「②近隣や地域の人々から差別や排除行為を受けること」「⑬ハンセン病元患者（回復者）やその家族であるということを誰にも言えず、秘密を抱えて生きていかざるを得ないこと」を知っている者が 5.0～6.7%であるのに対し、「⑮知っているものはない」と回答した者は 5.1%であり、大きな差はみられなかった。非包摂的な考え方③においても、同様の傾向がみられた。

さらに、ハンセン病元患者（回復者）・家族に対する偏見や差別による被害事例の認知度別に、ハンセン病問題に関する学習啓発に対する考え方に対する回答傾向をみると、「⑫ハンセン病の問題について、子どもを対象とした学校教育の機会を増やすべきだ」という考え方に対し、「そう思う」「どちらかといえばそう思う」と回答した割合は、「①家族や親戚から差別や排除行為を受けること」「②近隣や地域の人々から差別や排除行為を受けること」「⑬ハンセン病元患者（回復者）やその家族であるということを誰にも言えず、秘密を抱えて生きていかざるを得ないこと」を知っている者が 70.9～75.8%であるのに対し、「⑮知っているものはない」と回答した者は 31.1%と顕著に低かった。学習啓発に対する考え方⑬⑭においても、同様の傾向がみられた。

ハンセン病強制隔離政策の認知度別に、ハンセン病・ハンセン病元患者（回復者）に対する包摂的な考え方に対する回答傾向をみると、「②ハンセン病元患者（回復者）も、地域で普通に隣人として暮らせることが望ましい」という考え方に対し、「そう思う」「どちらかといえばそう思う」と回答した割合は、全体平均が 60.8%であるのに対し、強制隔離政策の各項目について「知っている」「少し知っている」者は72.2～78.8%と高かった。包摂的な考え方④⑧⑩⑪においても、同様の傾向がみられた。

次に、ハンセン病強制隔離政策についての認知度別に、ハンセン病・ハンセン病元患者（回復者）に対する非包摂的な考え方に対する回答傾向をみると、「⑤自分の身内にハンセン病元患者（回復者）がいなくて、よかったと思う」という考え方に対し、「そう思う」「どちらかといえばそう思う」と回答した割合は、全体平均が 31.7%であるのに対し、強制隔離政策の各項目について「知っている」「少し知っている」者は 34.8～38.4%と高かった。非包摂的な考え方①⑨においても、同様の傾向がみられた。

さらに、ハンセン病強制隔離政策についての認知度別に、ハンセン病問題に関する学習啓発に対する考え方に対する回答傾向をみると、「⑫ハンセン病の問題について、子どもを対象とした学校教育の機会を増やすべきだ」という考え方に対し、「そう思う」「どちらかといえばそう思う」と回答した割合は、全体平均が 50.5%であるのに対し、強制隔離政策の各項目について「知っている」「少し知っている」者は 64.9～68.0%と高かった。学習啓発に対する考え方⑬⑭においても、同様の傾向がみられた。

表 89　Q13 ハンセン病・ハンセン病元患者(回復者)に対する考え方
[ハンセン病元患者(回復者)・家族に対する偏見差別による被害事例の認知度別](1/6)

		(%)	n=	①ハンセン病と聞くと、できるだけ距離をとりたいと思うのは当然な反応だ	②ハンセン病元患者（回復者）も、地域で普通に隣人として暮らせることが望ましい	③ハンセン病元患者（回復者）とは、たとえ治っていたとしても、関りを持ちたくない	④ハンセン病元患者（回復者）も、そうでない人も、人としての価値は変わらない	⑤自分の身内にハンセン病元患者（回復者）がいなくて、よかったと思う	⑥ハンセン病元患者（回復者）は、たとえ治っていたとしても、自分たちとは違う人たちだと感じる	⑦ハンセン病にかかるというのは、どこか遠い世界での出来事だと感じる
				「そう思う」「どちらかといえばそう思う」の割合						
全体			(20,916)	16.0	60.8	5.7	68.8	31.7	6.6	40.0
Q11 ハンセン病元患者（回復者）・家族に対する偏見や差別による被害事例の認知	①家族や親戚から差別や排除行為を受けること		(7,204)	18.5	80.9	5.8	88.0	38.4	6.7	46.3
	②近隣や地域の人々から差別や排除行為を受けること		(8,659)	18.5	83.1	4.8	90.2	39.3	5.8	48.5
	③通学している学校で他の生徒から集団的ないじめや排除行為を受けること		(4,487)	19.2	82.8	5.8	88.9	38.2	7.6	46.1
	④通学している学校で教師から差別や排除行為を受けること		(3,407)	18.5	82.7	6.1	88.9	36.7	8.4	44.8
	⑤医療従事者・介護従事者から差別や排除行為を受けること		(2,424)	18.3	80.4	7.3	86.3	34.8	9.3	42.1
	⑥国・都道府県・市区町村等の行政職員から差別や排除行為を受けること		(3,211)	16.6	82.5	5.3	89.0	36.5	7.2	43.7
	⑦ハンセン病元患者（回復者）やその家族であることを理由に就職試験で落とされること		(4,106)	17.6	83.7	4.9	89.7	38.0	6.5	44.6
	⑧職場で同僚等から差別や排除行為を受けること		(3,331)	17.7	84.2	4.6	90.5	37.7	6.5	43.8
	⑨ハンセン病元患者（回復者）やその家族であることを理由に交際を断られる、あるいは離婚させられること		(4,661)	17.1	86.5	4.5	92.6	39.4	5.2	45.2
	⑩ハンセン病についての誤った認識をハンセン病元患者（回復者）やその家族が持つことにより、親密な家族関係が築けないこと		(3,733)	16.5	86.1	4.6	92.4	37.2	5.9	44.4
	⑪家族を責めたり、恨んだり、忌避したりして、家族関係が破綻すること		(2,922)	16.8	86.0	5.2	92.2	37.9	6.6	44.3
	⑫家族であるハンセン病元患者（回復者）との関係を断ったり、あるいは距離をおいたりして、家族関係が破綻すること		(3,821)	16.9	85.8	4.5	92.1	38.1	5.8	44.7
	⑬ハンセン病元患者（回復者）やその家族であるということを誰にも言えず、秘密を抱えて生きていかざるを得ないこと		(5,492)	17.7	86.1	4.2	92.7	39.7	5.0	46.8
	⑭その他		(102)	20.6	88.2	3.9	93.1	47.1	3.9	47.1
	⑮上記の中に知っているものはない		(9,322)	12.2	40.8	5.1	49.3	23.7	5.1	31.6

表 90　Q13 ハンセン病・ハンセン病元患者(回復者)に対する考え方
[ハンセン病元患者(回復者)・家族に対する偏見差別による被害事例の認知度別](2/6)

		(%)	①ハンセン病と聞くと、できるだけ距離をとりたいと思うのは当然な反応だ	②ハンセン病元患者（回復者）も、地域で普通に隣人として暮らせることが望ましい	③ハンセン病元患者（回復者）とは、たとえ治っていたとしても、関りを持ちたくない	④ハンセン病元患者（回復者）も、そうでない人も、人としての価値は変わらない	⑤自分の身内にハンセン病元患者（回復者）がいなくて、よかったと思う	⑥ハンセン病元患者（回復者）は、たとえ治っていたとしても、自分たちとは違う人たちだと感じる	⑦ハンセン病にかかるというのは、どこか遠い世界での出来事だと感じる
			「どちらともいえない」の割合						
全体		(20,916)	29.3	17.4	24.4	12.7	31.2	21.4	24.8
Q11 ハンセン病元患者（回復者）・家族に対する偏見や差別による被害事例の認知	①家族や親戚から差別や排除行為を受けること	(7,204)	26.5	11.7	19.5	6.5	30.7	16.2	23.2
	②近隣や地域の人々から差別や排除行為を受けること	(8,659)	27.4	10.7	20.1	5.5	31.4	15.5	22.4
	③通学している学校で他の生徒から集団的ないじめや排除行為を受けること	(4,487)	25.0	10.5	18.5	6.0	31.1	15.0	21.9
	④通学している学校で教師から差別や排除行為を受けること	(3,407)	24.0	10.2	17.4	5.8	31.4	14.4	21.0
	⑤医療従事者・介護従事者から差別や排除行為を受けること	(2,424)	23.2	10.2	17.0	6.8	31.3	13.4	21.9
	⑥国・都道府県・市区町村等の行政職員から差別や排除行為を受けること	(3,211)	24.3	9.9	16.7	5.5	30.8	14.1	22.3
	⑦ハンセン病元患者（回復者）やその家族であることを理由に就職試験で落とされること	(4,106)	25.3	9.8	18.2	5.5	31.7	14.7	22.6
	⑧職場で同僚等から差別や排除行為を受けること	(3,331)	24.5	9.4	17.5	5.2	30.8	14.2	21.4
	⑨ハンセン病元患者（回復者）やその家族であることを理由に交際を断られる、あるいは離婚させられること	(4,661)	25.5	8.9	17.7	4.3	31.0	13.9	22.4
	⑩ハンセン病についての誤った認識をハンセン病元患者（回復者）やその家族が持つことにより、親密な家族関係が築けないこと	(3,733)	24.5	8.7	16.6	4.2	30.7	13.4	21.9
	⑪家族を責めたり、恨んだり、忌避したりして、家族関係が破綻すること	(2,922)	24.0	8.7	15.9	4.2	30.8	12.9	21.7
	⑫家族であるハンセン病元患者（回復者）との関係を断ったり、あるいは距離をおいたりして、家族関係が破綻すること	(3,821)	23.7	8.7	16.6	4.5	31.3	13.4	22.2
	⑬ハンセン病元患者（回復者）やその家族であるということを誰にも言えず、秘密を抱えて生きていかざるを得ないこと	(5,492)	25.9	8.8	18.2	4.1	30.9	14.3	22.4
	⑭その他	(102)	21.6	7.8	10.8	5.9	23.5	13.7	18.6
	⑮上記の中に知っているものはない	(9,322)	29.7	22.2	27.2	17.8	29.9	25.4	26.1

表 91　Q13 ハンセン病・ハンセン病元患者(回復者)に対する考え方
[ハンセン病元患者(回復者)・家族に対する偏見差別による被害事例の認知度別](3/6)

		(%)	n=	①ハンセン病と聞くと、できるだけ距離をとりたいと思うのは当然な反応だ	②ハンセン病元患者（回復者）も、地域で普通に隣人として暮らせることが望ましい	③ハンセン病元患者（回復者）とは、たとえ治っていたとしても、関りを持ちたくない	④ハンセン病元患者（回復者）も、そうでない人も、人としての価値は変わらない	⑤自分の身内にハンセン病元患者（回復者）がいなくて、よかったと思う	⑥ハンセン病元患者（回復者）は、たとえ治っていたとしても、自分たちとは違う人たちだと感じる	⑦ハンセン病にかかるというのは、どこか遠い世界での出来事だと感じる
				「そう思わない」「あまりそう思わない」の割合						
全体			(20,916)	39.3	8.9	56.1	7.1	18.5	58.0	21.4
Q11 ハンセン病元患者（回復者）・家族に対する偏見や差別による被害事例の認知	①家族や親戚から差別や排除行為を受けること		(7,204)	51.4	5.5	71.9	4.1	21.5	74.1	27.4
	②近隣や地域の人々から差別や排除行為を受けること		(8,659)	50.5	4.4	72.3	3.1	20.1	75.7	25.9
	③通学している学校で他の生徒から集団的ないじめや排除行為を受けること		(4,487)	52.7	5.1	73.1	3.9	22.5	74.5	29.3
	④通学している学校で教師から差別や排除行為を受けること		(3,407)	54.7	5.8	74.1	4.3	23.5	74.6	31.3
	⑤医療従事者・介護従事者から差別や排除行為を受けること		(2,424)	55.6	7.6	73.5	5.8	25.9	74.3	33.0
	⑥国・都道府県・市区町村等の行政職員から差別や排除行為を受けること		(3,211)	56.1	5.9	75.7	4.2	23.7	75.6	31.1
	⑦ハンセン病元患者（回復者）やその家族であることを理由に就職試験で落とされること		(4,106)	54.3	5.0	74.7	4.0	22.5	76.1	30.0
	⑧職場で同僚等から差別や排除行為を受けること		(3,331)	55.1	5.1	75.7	3.7	23.5	76.9	31.7
	⑨ハンセン病元患者（回復者）やその家族であることを理由に交際を断られる、あるいは離婚させられること		(4,661)	54.9	3.4	75.9	2.5	21.4	79.0	29.8
	⑩ハンセン病についての誤った認識をハンセン病元患者（回復者）やその家族が持つことにより、親密な家族関係が築けないこと		(3,733)	56.6	4.1	76.9	2.8	23.7	78.7	31.5
	⑪家族を責めたり、恨んだり、忌避したりして、家族関係が破綻すること		(2,922)	56.9	4.3	77.0	3.0	23.2	78.3	31.4
	⑫家族であるハンセン病元患者（回復者）との関係を断ったり、あるいは距離をおいたりして、家族関係が破綻すること		(3,821)	56.8	4.3	77.1	3.0	22.2	78.7	30.9
	⑬ハンセン病元患者（回復者）やその家族であるということを誰にも言えず、秘密を抱えて生きていかざるを得ないこと		(5,492)	53.3	3.6	75.1	2.5	20.4	78.1	28.2
	⑭その他		(102)	54.9	2.0	85.3	1.0	20.6	80.4	32.4
	⑮上記の中に知っているものはない		(9,322)	28.8	11.1	41.0	9.4	16.0	42.4	15.7

表 92　Q13 ハンセン病・ハンセン病元患者(回復者)に対する考え方
[ハンセン病元患者(回復者)・家族に対する偏見差別による被害事例の認知度別](4/6)

		(%)	n=	⑧時代や場所が違ったら、自分もハンセン病になったかもしれないと思う	⑨ハンセン病の後遺症が残っている姿を写真や映像で見せると、見た人が驚くだろうから、好ましくない	⑩たとえ目立つハンセン病の後遺症が残っていても、公共の場で堂々とふるまえる社会がよい	⑪機会があれば、自分もハンセン病療養所を訪ねてみたい	⑫ハンセン病の問題について、子どもを対象とした学校教育の機会を増やすべきだ	⑬ハンセン病の問題について、大人を対象とした啓発の機会（講演会・研修会・広報等）を増やすべきだ	⑭現在行われている、ハンセン病の問題を扱う学校教育や啓発（講演会・研修会・広報等）の方法や内容は評価できる
				「そう思う」「どちらかといえばそう思う」の割合						
全体			(20,916)	39.6	11.3	63.1	18.1	50.5	50.4	28.6
Q11 ハンセン病元患者（回復者）・家族に対する偏見や差別による被害事例の認知	①家族や親戚から差別や排除行為を受けること		(7,204)	55.6	12.1	83.2	29.8	70.9	70.3	37.2
	②近隣や地域の人々から差別や排除行為を受けること		(8,659)	55.3	11.6	84.7	27.6	71.5	70.7	36.6
	③通学している学校で他の生徒から集団的ないじめや排除行為を受けること		(4,487)	60.7	12.8	84.6	32.8	74.2	74.2	41.0
	④通学している学校で教師から差別や排除行為を受けること		(3,407)	60.7	12.5	84.9	36.2	74.9	75.6	42.1
	⑤医療従事者・介護従事者から差別や排除行為を受けること		(2,424)	60.6	13.6	83.4	38.3	73.8	75.0	41.9
	⑥国・都道府県・市区町村等の行政職員から差別や排除行為を受けること		(3,211)	59.2	12.1	85.2	35.0	74.3	75.2	39.3
	⑦ハンセン病元患者（回復者）やその家族であることを理由に就職試験で落とされること		(4,106)	59.0	12.4	86.0	33.5	75.5	76.2	40.2
	⑧職場で同僚等から差別や排除行為を受けること		(3,331)	61.0	11.1	86.6	33.8	76.5	77.1	41.7
	⑨ハンセン病元患者（回復者）やその家族であることを理由に交際を断られる、あるいは離婚させられること		(4,661)	58.7	11.3	88.4	33.1	76.6	76.7	38.8
	⑩ハンセン病についての誤った認識をハンセン病元患者（回復者）やその家族が持つことにより、親密な家族関係が築けないこと		(3,733)	61.1	11.8	88.5	35.3	78.3	78.5	41.1
	⑪家族を責めたり、恨んだり、忌避したりして、家族関係が破綻すること		(2,922)	63.5	10.5	88.1	37.6	78.7	78.9	40.9
	⑫家族であるハンセン病元患者（回復者）との関係を断ったり、あるいは距離をおいたりして、家族関係が破綻すること		(3,821)	60.1	11.2	88.1	35.5	77.6	78.3	40.0
	⑬ハンセン病元患者（回復者）やその家族であるということを誰にも言えず、秘密を抱えて生きていかざるを得ないこと		(5,492)	57.9	11.6	87.8	32.0	75.8	76.3	39.5
	⑭その他		(102)	57.8	6.9	91.2	31.4	77.5	81.4	24.5
	⑮上記の中に知っているものはない		(9,322)	24.8	8.5	43.3	8.1	31.1	30.6	18.0

表 93　Q13 ハンセン病・ハンセン病元患者(回復者)に対する考え方
[ハンセン病元患者(回復者)・家族に対する偏見差別による被害事例の認知度別](5/6)

		(%)	⑧時代や場所が違ったら、自分もハンセン病になったかもしれないと思う	⑨ハンセン病の後遺症が残っている姿を写真や映像で見せると、見た人が驚くだろうから、好ましくない	⑩たとえ目立つハンセン病の後遺症が残っていても、公共の場で堂々とふるまえる社会がよい	⑪機会があれば、自分もハンセン病療養所を訪ねてみたい	⑫ハンセン病の問題について、子どもを対象とした学校教育の機会を増やすべきだ	⑬ハンセン病の問題について、大人を対象とした啓発の機会（講演会・研修会・広報等）を増やすべきだ	⑭現在行われている、ハンセン病の問題を扱う学校教育や啓発（講演会・研修会・広報等）の方法や内容は評価できる
			「どちらともいえない」の割合						
全体		(20,916)	30.0	34.8	17.4	33.9	25.6	27.1	36.0
Q11 ハンセン病元患者（回復者）・家族に対する偏見や差別による被害事例の認知	①家族や親戚から差別や排除行為を受けること	(7,204)	27.8	32.4	10.9	35.9	20.0	21.7	37.2
	②近隣や地域の人々から差別や排除行為を受けること	(8,659)	28.9	33.4	10.2	36.5	19.8	21.8	38.0
	③通学している学校で他の生徒から集団的ないじめや排除行為を受けること	(4,487)	24.8	30.2	10.4	34.8	17.8	18.6	35.3
	④通学している学校で教師から差別や排除行為を受けること	(3,407)	25.3	29.2	10.0	34.0	17.1	17.3	34.2
	⑤医療従事者・介護従事者から差別や排除行為を受けること	(2,424)	24.6	28.2	10.8	33.9	16.9	17.2	34.9
	⑥国・都道府県・市区町村等の行政職員から差別や排除行為を受けること	(3,211)	26.0	29.8	9.2	34.0	16.9	17.3	35.7
	⑦ハンセン病元患者（回復者）やその家族であることを理由に就職試験で落とされること	(4,106)	26.6	31.0	9.3	35.1	16.9	17.9	36.1
	⑧職場で同僚等から差別や排除行為を受けること	(3,331)	25.6	31.3	9.3	35.1	16.0	16.9	34.9
	⑨ハンセン病元患者（回復者）やその家族であることを理由に交際を断られる、あるいは離婚させられること	(4,661)	27.4	30.8	8.2	35.4	16.8	17.9	37.0
	⑩ハンセン病についての誤った認識をハンセン病元患者（回復者）やその家族が持つことにより、親密な家族関係が築けないこと	(3,733)	26.0	29.5	7.8	35.6	15.3	16.6	35.2
	⑪家族を責めたり、恨んだり、忌避したりして、家族関係が破綻すること	(2,922)	24.5	29.3	8.2	34.2	14.9	16.3	36.0
	⑫家族であるハンセン病元患者（回復者）との関係を断ったり、あるいは距離をおいたりして、家族関係が破綻すること	(3,821)	26.5	29.6	8.6	35.6	16.0	16.2	36.1
	⑬ハンセン病元患者（回復者）やその家族であるということを誰にも言えず、秘密を抱えて生きていかざるを得ないこと	(5,492)	27.4	31.6	8.7	35.8	17.2	18.2	36.2
	⑭その他	(102)	21.6	32.4	7.8	31.4	13.7	11.8	36.3
	⑮上記の中に知っているものはない	(9,322)	30.5	35.2	22.3	30.8	29.7	31.1	33.9

表 94　Q13 ハンセン病・ハンセン病元患者(回復者)に対する考え方
[ハンセン病元患者(回復者)・家族に対する偏見差別による被害事例の認知度別](6/6)

			⑧時代や場所が違ったら、自分もハンセン病になったかもしれないと思う	⑨ハンセン病の後遺症が残っている姿を写真や映像で見せると、見た人が驚くだろうから、好ましくない	⑩たとえ目立つハンセン病の後遺症が残っていても、公共の場で堂々とふるまえる社会がよい	⑪機会があれば、自分もハンセン病療養所を訪ねてみたい	⑫ハンセン病の問題について、子どもを対象とした学校教育の機会を増やすべきだ	⑬ハンセン病の問題について、大人を対象とした啓発の機会（講演会・研修会・広報等）を増やすべきだ	⑭現在行われている、ハンセン病の問題を扱う学校教育や啓発（講演会・研修会・広報等）の方法や内容は評価できる
	(%)	n=	「そう思わない」「あまりそう思わない」の割合						
全体		(20,916)	11.8	35.7	6.4	30.8	9.0	8.0	9.9
Q11 ハンセン病元患者（回復者）・家族に対する偏見や差別による被害事例の認知	①家族や親戚から差別や排除行為を受けること	(7,204)	9.4	50.1	3.8	27.6	5.6	4.9	9.9
	②近隣や地域の人々から差別や排除行為を受けること	(8,659)	8.6	49.2	3.0	28.9	5.1	4.3	9.1
	③通学している学校で他の生徒から集団的ないじめや排除行為を受けること	(4,487)	8.6	52.1	3.3	26.2	5.3	4.7	10.5
	④通学している学校で教師から差別や排除行為を受けること	(3,407)	8.2	53.9	3.5	24.0	5.5	4.8	11.3
	⑤医療従事者・介護従事者から差別や排除行為を受けること	(2,424)	9.1	54.1	4.2	22.5	6.7	5.9	11.5
	⑥国・都道府県・市区町村等の行政職員から差別や排除行為を受けること	(3,211)	9.1	53.8	3.8	25.1	5.9	5.1	11.4
	⑦ハンセン病元患者（回復者）やその家族であることを理由に就職試験で落とされること	(4,106)	9.1	52.4	3.3	25.2	5.0	3.8	10.9
	⑧職場で同僚等から差別や排除行為を受けること	(3,331)	8.0	53.0	2.9	25.2	5.1	4.1	10.7
	⑨ハンセン病元患者（回復者）やその家族であることを理由に交際を断られる、あるいは離婚させられること	(4,661)	7.7	53.4	2.2	25.4	3.8	3.2	10.1
	⑩ハンセン病についての誤った認識をハンセン病元患者（回復者）やその家族が持つことにより、親密な家族関係が築けないこと	(3,733)	6.9	54.8	2.6	23.3	3.9	3.2	10.6
	⑪家族を責めたり、恨んだり、忌避したりして、家族関係が破綻すること	(2,922)	6.5	56.2	2.4	22.4	3.9	2.8	10.3
	⑫家族であるハンセン病元患者（回復者）との関係を断ったり、あるいは距離をおいたりして、家族関係が破綻すること	(3,821)	7.4	54.7	2.4	23.1	3.9	3.4	10.4
	⑬ハンセン病元患者（回復者）やその家族であるということを誰にも言えず、秘密を抱えて生きていかざるを得ないこと	(5,492)	7.9	52.1	2.1	25.4	4.0	3.1	9.8
	⑭その他	(102)	8.8	52.0	1.0	29.4	7.8	5.9	10.8
	⑮上記の中に知っているものはない	(9,322)	12.8	23.2	8.1	31.6	10.8	10.4	9.8

表 95 Q13 ハンセン病・ハンセン病元患者(回復者)に対する考え方
[ハンセン病強制隔離政策についての認知度別](1/6)

	(%)	n=	①ハンセン病と聞くと、できるだけ距離をとりたいと思うのは当然な反応だ	②ハンセン病元患者（回復者）も、地域で普通に隣人として暮らせることが望ましい	③ハンセン病元患者（回復者）とは、たとえ治っていたとしても、関りを持ちたくない	④ハンセン病元患者（回復者）も、そうでない人も、人としての価値は変わらない	⑤自分の身内にハンセン病元患者（回復者）がいなくて、よかったと思う	⑥ハンセン病元患者（回復者）は、たとえ治っていたとしても、自分たちとは違う人たちだと感じる	⑦ハンセン病にかかるというのは、どこか遠い世界での出来事だと感じる
			「そう思う」「どちらかといえばそう思う」の割合						
全体		(20,916)	16.0	60.8	5.7	68.8	31.7	6.6	40.0
Q15 ハンセン病強制隔離政策についての認知（「知っている」「少し知っている」と回答した者）	①明治後期以降、ハンセン病患者を強制的に収容する「強制隔離政策」が行われたこと	(11,054)	18.5	78.8	5.6	86.0	38.4	6.2	45.6
	②戦前および戦後にかけて、全てのハンセン病患者を強制隔離する、官民一体の「無らい県運動」が行なわれたこと	(6,769)	18.4	72.2	8.3	78.8	36.4	10.2	38.7
	③有効な薬が開発され、治療法が確立されたが、強制隔離政策はそのまま継続されたこと	(8,698)	17.0	76.5	6.9	83.6	36.8	8.0	42.2
	④平成8（1996）年に強制隔離政策を主体とした「らい予防法」が廃止されたこと	(7,122)	16.4	76.3	6.8	83.2	35.7	8.4	40.0
	⑤平成13（2001）年に強制隔離政策を違憲とする熊本地裁判決が下されたこと	(6,185)	16.9	76.4	7.1	82.7	37.2	9.0	38.7
	⑥令和元（2019）年にハンセン病患者家族に対する偏見や差別の被害を認める熊本地裁判決が下されたこと	(6,256)	16.9	74.0	7.4	80.3	34.8	9.4	38.8
	⑦現在も「ハンセン病療養所」があり、ハンセン病が治った後も暮らし続けている人がいること	(7,572)	17.3	74.4	7.1	81.9	36.1	8.6	40.0
Q15 ハンセン病強制隔離政策についての認知（「知っている」と回答した者）	①明治後期以降、ハンセン病患者を強制的に収容する「強制隔離政策」が行われたこと	(5,006)	18.3	86.5	5.0	92.6	41.1	4.9	43.9
	②戦前および戦後にかけて、全てのハンセン病患者を強制隔離する、官民一体の「無らい県運動」が行なわれたこと	(2,678)	19.0	79.4	9.6	83.8	37.7	11.1	37.4
	③有効な薬が開発され、治療法が確立されたが、強制隔離政策はそのまま継続されたこと	(3,542)	16.1	83.2	7.3	88.3	36.0	7.3	39.4
	④平成8（1996）年に強制隔離政策を主体とした「らい予防法」が廃止されたこと	(2,701)	15.2	81.7	6.6	88.3	34.7	7.9	37.7
	⑤平成13（2001）年に強制隔離政策を違憲とする熊本地裁判決が下されたこと	(2,166)	15.4	82.2	6.5	87.4	36.7	7.9	36.5
	⑥令和元（2019）年にハンセン病患者家族に対する偏見や差別の被害を認める熊本地裁判決が下されたこと	(2,063)	16.6	78.8	8.9	83.6	34.4	11.0	36.1
	⑦現在も「ハンセン病療養所」があり、ハンセン病が治った後も暮らし続けている人がいること	(3,387)	16.5	81.7	7.2	87.2	36.6	7.9	39.2
Q15 ハンセン病強制隔離政策についての認知（「少し知っている」と回答した者）	①明治後期以降、ハンセン病患者を強制的に収容する「強制隔離政策」が行われたこと	(6,048)	18.7	72.4	6.1	80.6	36.1	7.4	47.0
	②戦前および戦後にかけて、全てのハンセン病患者を強制隔離する、官民一体の「無らい県運動」が行なわれたこと	(4,091)	18.0	67.5	7.4	75.5	35.6	9.6	39.6
	③有効な薬が開発され、治療法が確立されたが、強制隔離政策はそのまま継続されたこと	(5,156)	17.6	71.9	6.6	80.4	37.5	8.5	44.2
	④平成8（1996）年に強制隔離政策を主体とした「らい予防法」が廃止されたこと	(4,421)	17.2	73.0	6.9	80.0	36.3	8.6	41.3
	⑤平成13（2001）年に強制隔離政策を違憲とする熊本地裁判決が下されたこと	(4,019)	17.7	73.3	7.5	80.1	37.5	9.6	39.9
	⑥令和元（2019）年にハンセン病患者家族に対する偏見や差別の被害を認める熊本地裁判決が下されたこと	(4,193)	17.0	71.7	6.7	78.7	35.0	8.5	40.1
	⑦現在も「ハンセン病療養所」があり、ハンセン病が治った後も暮らし続けている人がいること	(4,185)	18.0	68.5	7.0	77.5	35.7	9.2	40.7

表 96 Q13 ハンセン病・ハンセン病元患者(回復者)に対する考え方
[ハンセン病強制隔離政策についての認知度別](2/6)

		(%)	①ハンセン病と聞くと、できるだけ距離をとりたいと思うのは当然な反応だ	②ハンセン病元患者（回復者）も、地域で普通に隣人として暮らせることが望ましい	③ハンセン病元患者（回復者）とは、たとえ治っていたとしても、関りを持ちたくない	④ハンセン病元患者（回復者）も、そうでない人も、人としての価値は変わらない	⑤自分の身内にハンセン病元患者（回復者）がいなくて、よかったと思う	⑥ハンセン病元患者（回復者）は、たとえ治っていたとしても、自分たちとは違う人たちだと感じる	⑦ハンセン病にかかるというのは、どこか遠い世界での出来事だと感じる
			「どちらともいえない」の割合						
全体		(20,916)	29.3	17.4	24.4	12.7	31.2	21.4	24.8
Q15 ハンセン病強制隔離政策についての認知（「知っている」「少し知っている」と回答した者）	①明治後期以降、ハンセン病患者を強制的に収容する「強制隔離政策」が行われたこと	(11,054)	29.0	13.4	22.4	8.1	32.8	18.5	24.9
	②戦前および戦後にかけて、全てのハンセン病患者を強制隔離する、官民一体の「無らい県運動」が行なわれたこと	(6,769)	27.7	15.3	22.3	10.9	32.6	19.5	26.0
	③有効な薬が開発され、治療法が確立されたが、強制隔離政策はそのまま継続されたこと	(8,698)	27.1	13.1	20.7	8.9	32.3	17.6	25.2
	④平成8（1996）年に強制隔離政策を主体とした「らい予防法」が廃止されたこと	(7,122)	27.3	13.2	20.4	9.1	33.0	17.3	25.5
	⑤平成13（2001）年に強制隔離政策を違憲とする熊本地裁判決が下されたこと	(6,185)	26.8	13.3	20.7	9.1	32.6	17.0	25.9
	⑥令和元（2019）年にハンセン病患者家族に対する偏見や差別の被害を認める熊本地裁判決が下されたこと	(6,256)	27.1	14.1	21.0	10.2	33.2	18.6	25.4
	⑦現在も「ハンセン病療養所」があり、ハンセン病が治った後も暮らし続けている人がいること	(7,572)	27.6	14.3	21.4	9.4	32.4	18.8	25.2
Q15 ハンセン病強制隔離政策についての認知（「知っている」と回答した者）	①明治後期以降、ハンセン病患者を強制的に収容する「強制隔離政策」が行われたこと	(5,006)	22.2	8.3	16.0	3.8	29.5	12.6	21.8
	②戦前および戦後にかけて、全てのハンセン病患者を強制隔離する、官民一体の「無らい県運動」が行なわれたこと	(2,678)	22.3	11.1	16.8	8.2	29.7	13.6	22.5
	③有効な薬が開発され、治療法が確立されたが、強制隔離政策はそのまま継続されたこと	(3,542)	20.0	8.5	14.2	5.9	29.7	11.6	21.2
	④平成8（1996）年に強制隔離政策を主体とした「らい予防法」が廃止されたこと	(2,701)	19.5	9.2	14.1	5.7	29.5	11.9	21.7
	⑤平成13（2001）年に強制隔離政策を違憲とする熊本地裁判決が下されたこと	(2,166)	19.7	8.3	14.3	6.0	29.7	11.7	21.8
	⑥令和元（2019）年にハンセン病患者家族に対する偏見や差別の被害を認める熊本地裁判決が下されたこと	(2,063)	19.0	10.2	14.7	7.8	29.6	12.8	21.8
	⑦現在も「ハンセン病療養所」があり、ハンセン病が治った後も暮らし続けている人がいること	(3,387)	22.2	9.6	15.6	6.3	29.5	13.0	21.2
Q15 ハンセン病強制隔離政策についての認知（「少し知っている」と回答した者）	①明治後期以降、ハンセン病患者を強制的に収容する「強制隔離政策」が行われたこと	(6,048)	34.6	17.7	27.8	11.7	35.6	23.3	27.3
	②戦前および戦後にかけて、全てのハンセン病患者を強制隔離する、官民一体の「無らい県運動」が行なわれたこと	(4,091)	31.2	18.0	25.9	12.7	34.5	23.4	28.4
	③有効な薬が開発され、治療法が確立されたが、強制隔離政策はそのまま継続されたこと	(5,156)	32.0	16.3	25.1	11.0	34.0	21.8	27.9
	④平成8（1996）年に強制隔離政策を主体とした「らい予防法」が廃止されたこと	(4,421)	32.0	15.7	24.3	11.1	35.1	20.7	27.9
	⑤平成13（2001）年に強制隔離政策を違憲とする熊本地裁判決が下されたこと	(4,019)	30.7	15.9	24.1	10.8	34.1	19.9	28.1
	⑥令和元（2019）年にハンセン病患者家族に対する偏見や差別の被害を認める熊本地裁判決が下されたこと	(4,193)	31.2	16.1	24.0	11.3	34.9	21.4	27.3
	⑦現在も「ハンセン病療養所」があり、ハンセン病が治った後も暮らし続けている人がいること	(4,185)	31.9	18.2	26.2	11.9	34.8	23.4	28.5

表 97 Q13 ハンセン病・ハンセン病元患者(回復者)に対する考え方
[ハンセン病強制隔離政策についての認知度別](3/6)

		(%)	n=	①ハンセン病と聞くと、できるだけ距離をとりたいと思うのは当然な反応だ	②ハンセン病元患者（回復者）も、地域で普通に隣人として暮らせることが望ましい	③ハンセン病元患者（回復者）とは、たとえ治っていたとしても、関りを持ちたくない	④ハンセン病元患者（回復者）も、そうでない人も、人としての価値は変わらない	⑤自分の身内にハンセン病元患者（回復者）がいなくて、よかったと思う	⑥ハンセン病元患者（回復者）は、たとえ治っていたとしても、自分たちとは違う人たちだと感じる	⑦ハンセン病にかかるというのは、どこか遠い世界での出来事だと感じる
				「そう思わない」「あまりそう思わない」の割合						
全体			(20,916)	39.3	8.9	56.1	7.1	18.5	58.0	21.4
Q15 ハンセン病強制隔離政策についての認知（「知っている」「少し知っている」と回答した者）	①明治後期以降、ハンセン病患者を強制的に収容する「強制隔離政策」が行われたこと		(11,054)	48.5	5.2	68.5	4.0	19.4	71.7	25.7
	②戦前および戦後にかけて、全てのハンセン病患者を強制隔離する、官民一体の「無らい県運動」が行なわれたこと		(6,769)	51.2	10.7	67.0	8.7	24.2	67.8	32.1
	③有効な薬が開発され、治療法が確立されたが、強制隔離政策はそのまま継続されたこと		(8,698)	52.8	8.5	70.2	6.3	22.8	71.9	29.5
	④平成8（1996）年に強制隔離政策を主体とした「らい予防法」が廃止されたこと		(7,122)	53.4	8.5	70.5	6.5	23.4	71.8	31.4
	⑤平成13（2001）年に強制隔離政策を違憲とする熊本地裁判決が下されたこと		(6,185)	53.4	8.5	69.8	7.0	22.8	71.3	32.3
	⑥令和元（2019）年にハンセン病患者家族に対する偏見や差別の被害を認める熊本地裁判決が下されたこと		(6,256)	52.9	9.9	69.1	8.1	24.8	69.3	32.5
	⑦現在も「ハンセン病療養所」があり、ハンセン病が治った後も暮らし続けている人がいること		(7,572)	51.8	9.1	69.1	7.2	23.3	69.9	31.5
Q15 ハンセン病強制隔離政策についての認知（「知っている」と回答した者）	①明治後期以降、ハンセン病患者を強制的に収容する「強制隔離政策」が行われたこと		(5,006)	57.2	4.0	76.9	2.7	21.5	80.4	31.7
	②戦前および戦後にかけて、全てのハンセン病患者を強制隔離する、官民一体の「無らい県運動」が行なわれたこと		(2,678)	57.0	8.0	72.1	7.0	26.7	73.6	37.5
	③有効な薬が開発され、治療法が確立されたが、強制隔離政策はそのまま継続されたこと		(3,542)	61.9	7.0	77.1	5.0	26.5	79.4	37.2
	④平成8（1996）年に強制隔離政策を主体とした「らい予防法」が廃止されたこと		(2,701)	63.0	7.6	77.9	5.1	27.9	78.0	37.7
	⑤平成13（2001）年に強制隔離政策を違憲とする熊本地裁判決が下されたこと		(2,166)	63.0	7.8	77.7	5.4	26.2	78.5	39.2
	⑥令和元（2019）年にハンセン病患者家族に対する偏見や差別の被害を認める熊本地裁判決が下されたこと		(2,063)	62.1	9.4	75.1	7.7	29.2	73.8	39.3
	⑦現在も「ハンセン病療養所」があり、ハンセン病が治った後も暮らし続けている人がいること		(3,387)	58.9	7.2	75.5	5.4	26.0	76.9	36.9
Q15 ハンセン病強制隔離政策についての認知（「少し知っている」と回答した者）	①明治後期以降、ハンセン病患者を強制的に収容する「強制隔離政策」が行われたこと		(6,048)	41.3	6.2	61.5	5.2	17.7	64.5	20.8
	②戦前および戦後にかけて、全てのハンセン病患者を強制隔離する、官民一体の「無らい県運動」が行なわれたこと		(4,091)	47.4	12.4	63.7	9.8	22.7	64.0	28.6
	③有効な薬が開発され、治療法が確立されたが、強制隔離政策はそのまま継続されたこと		(5,156)	46.5	9.5	65.4	7.1	20.3	66.7	24.3
	④平成8（1996）年に強制隔離政策を主体とした「らい予防法」が廃止されたこと		(4,421)	47.5	9.0	66.0	7.4	20.7	68.0	27.5
	⑤平成13（2001）年に強制隔離政策を違憲とする熊本地裁判決が下されたこと		(4,019)	48.2	8.9	65.6	7.9	21.0	67.5	28.6
	⑥令和元（2019）年にハンセン病患者家族に対する偏見や差別の被害を認める熊本地裁判決が下されたこと		(4,193)	48.3	10.2	66.2	8.4	22.6	67.1	29.2
	⑦現在も「ハンセン病療養所」があり、ハンセン病が治った後も暮らし続けている人がいること		(4,185)	46.1	10.5	63.9	8.7	21.2	64.3	27.1

表 98 Q13 ハンセン病・ハンセン病元患者(回復者)に対する考え方
[ハンセン病強制隔離政策についての認知度別](4/6)

	(%)	n=	⑧時代や場所が違ったら、自分もハンセン病になったかもしれないと思う	⑨ハンセン病の後遺症が残っている姿を写真や映像で見せると、見た人が驚くだろうから、好ましくない	⑩たとえ目立つハンセン病の後遺症が残っていても、公共の場で堂々とふるまえる社会がよい	⑪機会があれば、自分もハンセン病療養所を訪ねてみたい	⑫ハンセン病の問題について、子どもを対象とした学校教育の機会を増やすべきだ	⑬ハンセン病の問題について、大人を対象とした啓発の機会（講演会・研修会・広報等）を増やすべきだ	⑭現在行われている、ハンセン病の問題を扱う学校教育や啓発（講演会・研修会・広報等）の方法や内容は評価できる
			「そう思う」「どちらかといえばそう思う」の割合						
全体		(20,916)	39.6	11.3	63.1	18.1	50.5	50.4	28.6
Q15 ハンセン病強制隔離政策についての認知（「知っている」「少し知っている」と回答した者）	①明治後期以降、ハンセン病患者を強制的に収容する「強制隔離政策」が行われたこと	(11,054)	50.7	12.6	80.5	25.8	66.9	66.6	36.3
	②戦前および戦後にかけて、全てのハンセン病患者を強制隔離する、官民一体の「無らい県運動」が行なわれたこと	(6,769)	49.9	15.1	76.3	30.6	64.9	66.4	41.4
	③有効な薬が開発され、治療法が確立されたが、強制隔離政策はそのまま継続されたこと	(8,698)	51.2	13.2	79.6	29.4	67.5	67.8	38.8
	④平成8（1996）年に強制隔離政策を主体とした「らい予防法」が廃止されたこと	(7,122)	51.2	13.6	79.1	31.5	67.9	68.2	40.4
	⑤平成13（2001）年に強制隔離政策を違憲とする熊本地裁判決が下されたこと	(6,185)	51.2	14.2	79.8	31.9	68.0	69.0	41.7
	⑥令和元（2019）年にハンセン病患者家族に対する偏見や差別の被害を認める熊本地裁判決が下されたこと	(6,256)	50.8	14.3	77.6	31.5	66.5	67.6	42.3
	⑦現在も「ハンセン病療養所」があり、ハンセン病が治った後も暮らし続けている人がいること	(7,572)	50.8	14.1	78.2	31.7	66.7	67.4	40.4
Q15 ハンセン病強制隔離政策についての認知（「知っている」と回答した者）	①明治後期以降、ハンセン病患者を強制的に収容する「強制隔離政策」が行われたこと	(5,006)	57.9	11.6	88.3	33.8	76.5	76.2	39.8
	②戦前および戦後にかけて、全てのハンセン病患者を強制隔離する、官民一体の「無らい県運動」が行なわれたこと	(2,678)	56.9	16.6	83.8	40.5	72.8	74.5	46.2
	③有効な薬が開発され、治療法が確立されたが、強制隔離政策はそのまま継続されたこと	(3,542)	59.1	12.5	86.4	40.8	76.2	77.1	42.7
	④平成8（1996）年に強制隔離政策を主体とした「らい予防法」が廃止されたこと	(2,701)	58.6	12.3	86.0	42.3	74.9	75.7	43.8
	⑤平成13（2001）年に強制隔離政策を違憲とする熊本地裁判決が下されたこと	(2,166)	58.8	12.2	86.5	41.8	76.5	76.9	45.4
	⑥令和元（2019）年にハンセン病患者家族に対する偏見や差別の被害を認める熊本地裁判決が下されたこと	(2,063)	59.7	14.6	84.0	43.1	74.3	76.1	49.1
	⑦現在も「ハンセン病療養所」があり、ハンセン病が治った後も暮らし続けている人がいること	(3,387)	58.7	13.5	85.7	41.8	74.8	75.9	43.6
Q15 ハンセン病強制隔離政策についての認知（「少し知っている」と回答した者）	①明治後期以降、ハンセン病患者を強制的に収容する「強制隔離政策」が行われたこと	(6,048)	44.8	13.3	74.0	19.2	59.0	58.7	33.5
	②戦前および戦後にかけて、全てのハンセン病患者を強制隔離する、官民一体の「無らい県運動」が行なわれたこと	(4,091)	45.3	14.1	71.4	24.2	59.7	61.2	38.2
	③有効な薬が開発され、治療法が確立されたが、強制隔離政策はそのまま継続されたこと	(5,156)	45.7	13.7	74.9	21.6	61.5	61.4	36.0
	④平成8（1996）年に強制隔離政策を主体とした「らい予防法」が廃止されたこと	(4,421)	46.7	14.3	74.8	24.9	63.7	63.6	38.2
	⑤平成13（2001）年に強制隔離政策を違憲とする熊本地裁判決が下されたこと	(4,019)	47.1	15.3	76.2	26.5	63.4	64.7	39.7
	⑥令和元（2019）年にハンセン病患者家族に対する偏見や差別の被害を認める熊本地裁判決が下されたこと	(4,193)	46.5	14.2	74.4	25.8	62.7	63.3	39.0
	⑦現在も「ハンセン病療養所」があり、ハンセン病が治った後も暮らし続けている人がいること	(4,185)	44.3	14.5	72.2	23.5	60.0	60.5	37.8

表 99 Q13 ハンセン病・ハンセン病元患者(回復者)に対する考え方
[ハンセン病強制隔離政策についての認知度別](5/6)

		(%)	⑧時代や場所が違ったら、自分もハンセン病になったかもしれないと思う	⑨ハンセン病の後遺症が残っている姿を写真や映像で見せると、見た人が驚くだろうから、好ましくない	⑩たとえ目立つハンセン病の後遺症が残っていても、公共の場で堂々とふるまえる社会がよい	⑪機会があれば、自分もハンセン病療養所を訪ねてみたい	⑫ハンセン病の問題について、子どもを対象とした学校教育の機会を増やすべきだ	⑬ハンセン病の問題について、大人を対象とした啓発の機会（講演会・研修会・広報等）を増やすべきだ	⑭現在行われている、ハンセン病の問題を扱う学校教育や啓発（講演会・研修会・広報等）の方法や内容は評価できる
			「どちらともいえない」の割合						
全体		(20,916)	30.0	34.8	17.4	33.9	25.6	27.1	36.0
Q15 ハンセン病強制隔離政策についての認知（「知っている」「少し知っている」と回答した者）	①明治後期以降、ハンセン病患者を強制的に収容する「強制隔離政策」が行われたこと	(11,054)	31.5	35.3	13.2	37.6	22.8	24.5	38.9
	②戦前および戦後にかけて、全てのハンセン病患者を強制隔離する、官民一体の「無らい県運動」が行なわれたこと	(6,769)	30.8	34.3	14.7	36.4	21.5	22.9	37.5
	③有効な薬が開発され、治療法が確立されたが、強制隔離政策はそのまま継続されたこと	(8,698)	30.9	34.0	13.0	37.1	21.1	22.8	37.4
	④平成8（1996）年に強制隔離政策を主体とした「らい予防法」が廃止されたこと	(7,122)	31.0	33.4	13.3	36.7	21.0	22.5	36.6
	⑤平成13（2001）年に強制隔離政策を違憲とする熊本地裁判決が下されたこと	(6,185)	31.3	33.7	12.7	37.7	20.3	21.8	35.8
	⑥令和元（2019）年にハンセン病患者家族に対する偏見や差別の被害を認める熊本地裁判決が下されたこと	(6,256)	30.2	33.7	13.8	37.3	20.8	22.2	35.4
	⑦現在も「ハンセン病療養所」があり、ハンセン病が治った後も暮らし続けている人がいること	(7,572)	30.3	33.3	13.5	36.3	21.0	22.6	36.8
Q15 ハンセン病強制隔離政策についての認知（「知っている」と回答した者）	①明治後期以降、ハンセン病患者を強制的に収容する「強制隔離政策」が行われたこと	(5,006)	27.1	29.9	7.8	33.8	16.5	17.9	35.5
	②戦前および戦後にかけて、全てのハンセン病患者を強制隔離する、官民一体の「無らい県運動」が行なわれたこと	(2,678)	26.5	28.0	9.7	31.4	16.8	17.1	33.7
	③有効な薬が開発され、治療法が確立されたが、強制隔離政策はそのまま継続されたこと	(3,542)	25.7	27.0	8.0	32.2	14.5	15.6	33.4
	④平成8（1996）年に強制隔離政策を主体とした「らい予防法」が廃止されたこと	(2,701)	25.5	26.9	8.3	30.3	15.7	16.6	32.9
	⑤平成13（2001）年に強制隔離政策を違憲とする熊本地裁判決が下されたこと	(2,166)	25.9	26.8	7.9	32.8	15.1	15.6	32.4
	⑥令和元（2019）年にハンセン病患者家族に対する偏見や差別の被害を認める熊本地裁判決が下されたこと	(2,063)	24.6	26.1	9.1	32.0	15.1	15.3	31.0
	⑦現在も「ハンセン病療養所」があり、ハンセン病が治った後も暮らし続けている人がいること	(3,387)	24.8	27.7	8.7	31.3	15.6	16.7	33.6
Q15 ハンセン病強制隔離政策についての認知（「少し知っている」と回答した者）	①明治後期以降、ハンセン病患者を強制的に収容する「強制隔離政策」が行われたこと	(6,048)	35.1	39.8	17.7	40.8	28.0	30.0	41.8
	②戦前および戦後にかけて、全てのハンセン病患者を強制隔離する、官民一体の「無らい県運動」が行なわれたこと	(4,091)	33.5	38.4	18.0	39.7	24.6	26.7	39.9
	③有効な薬が開発され、治療法が確立されたが、強制隔離政策はそのまま継続されたこと	(5,156)	34.4	38.8	16.4	40.4	25.6	27.7	40.2
	④平成8（1996）年に強制隔離政策を主体とした「らい予防法」が廃止されたこと	(4,421)	34.3	37.4	16.4	40.5	24.2	26.1	38.9
	⑤平成13（2001）年に強制隔離政策を違憲とする熊本地裁判決が下されたこと	(4,019)	34.2	37.5	15.3	40.3	23.1	25.2	37.7
	⑥令和元（2019）年にハンセン病患者家族に対する偏見や差別の被害を認める熊本地裁判決が下されたこと	(4,193)	32.9	37.4	16.2	39.9	23.7	25.5	37.6
	⑦現在も「ハンセン病療養所」があり、ハンセン病が治った後も暮らし続けている人がいること	(4,185)	34.7	37.8	17.4	40.4	25.4	27.3	39.3

表 100　Q13 ハンセン病・ハンセン病元患者(回復者)に対する考え方
[ハンセン病強制隔離政策についての認知度別](6/6)

		(%)	n=	⑧時代や場所が違ったら、自分もハンセン病になったかもしれないと思う	⑨ハンセン病の後遺症が残っている姿を写真や映像で見せると、見た人が驚くだろうから、好ましくない	⑩たとえ目立つハンセン病の後遺症が残っていても、公共の場で堂々とふるまえる社会がよい	⑪機会があれば、自分もハンセン病療養所を訪ねてみたい	⑫ハンセン病の問題について、子どもを対象とした学校教育の機会を増やすべきだ	⑬ハンセン病の問題について、大人を対象とした啓発の機会（講演会・研修会・広報等）を増やすべきだ	⑭現在行われている、ハンセン病の問題を扱う学校教育や啓発（講演会・研修会・広報等）の方法や内容は評価できる
				「そう思わない」「あまりそう思わない」の割合						
全体			(20,916)	11.8	35.7	6.4	30.8	9.0	8.0	9.9
Q15 ハンセン病強制隔離政策についての認知（「知っている」「少し知っている」と回答した者）	①明治後期以降、ハンセン病患者を強制的に収容する「強制隔離政策」が行われたこと		(11,054)	9.8	46.0	3.7	29.2	6.1	4.9	9.0
	②戦前および戦後にかけて、全てのハンセン病患者を強制隔離する、官民一体の「無らい県運動」が行なわれたこと		(6,769)	13.9	46.9	7.2	27.4	10.6	8.2	11.8
	③有効な薬が開発され、治療法が確立されたが、強制隔離政策はそのまま継続されたこと		(8,698)	11.8	48.7	5.7	27.4	8.3	6.8	11.1
	④平成8（1996）年に強制隔離政策を主体とした「らい予防法」が廃止されたこと		(7,122)	11.7	49.0	5.8	25.7	8.0	6.6	11.2
	⑤平成13（2001）年に強制隔離政策を違憲とする熊本地裁判決が下されたこと		(6,185)	11.8	48.3	5.9	24.8	8.6	6.8	11.1
	⑥令和元（2019）年にハンセン病患者家族に対する偏見や差別の被害を認める熊本地裁判決が下されたこと		(6,256)	13.2	48.0	6.7	25.4	9.6	7.4	11.8
	⑦現在も「ハンセン病療養所」があり、ハンセン病が治った後も暮らし続けている人がいること		(7,572)	12.6	48.4	6.3	26.0	9.1	7.2	11.1
Q15 ハンセン病強制隔離政策についての認知（「知っている」と回答した者）	①明治後期以降、ハンセン病患者を強制的に収容する「強制隔離政策」が行われたこと		(5,006)	8.5	54.2	2.8	26.2	4.5	3.7	10.0
	②戦前および戦後にかけて、全てのハンセン病患者を強制隔離する、官民一体の「無らい県運動」が行なわれたこと		(2,678)	11.9	52.5	5.7	23.4	8.3	7.0	11.8
	③有効な薬が開発され、治療法が確立されたが、強制隔離政策はそのまま継続されたこと		(3,542)	10.0	57.6	4.7	21.8	7.3	5.7	12.4
	④平成8（1996）年に強制隔離政策を主体とした「らい予防法」が廃止されたこと		(2,701)	10.5	57.4	4.7	22.2	6.8	5.9	12.7
	⑤平成13（2001）年に強制隔離政策を違憲とする熊本地裁判決が下されたこと		(2,166)	10.6	57.9	4.6	21.2	6.4	5.9	12.1
	⑥令和元（2019）年にハンセン病患者家族に対する偏見や差別の被害を認める熊本地裁判決が下されたこと		(2,063)	11.4	56.5	5.9	20.7	8.7	6.6	11.8
	⑦現在も「ハンセン病療養所」があり、ハンセン病が治った後も暮らし続けている人がいること		(3,387)	10.9	55.5	4.6	21.7	7.0	5.3	11.6
Q15 ハンセン病強制隔離政策についての認知（「少し知っている」と回答した者）	①明治後期以降、ハンセン病患者を強制的に収容する「強制隔離政策」が行われたこと		(6,048)	10.8	39.3	4.5	31.7	7.4	6.0	8.2
	②戦前および戦後にかけて、全てのハンセン病患者を強制隔離する、官民一体の「無らい県運動」が行なわれたこと		(4,091)	15.2	43.2	8.2	30.0	12.1	9.0	11.7
	③有効な薬が開発され、治療法が確立されたが、強制隔離政策はそのまま継続されたこと		(5,156)	13.0	42.6	6.5	31.2	9.1	7.5	10.3
	④平成8（1996）年に強制隔離政策を主体とした「らい予防法」が廃止されたこと		(4,421)	12.4	43.9	6.4	27.9	8.7	7.0	10.2
	⑤平成13（2001）年に強制隔離政策を違憲とする熊本地裁判決が下されたこと		(4,019)	12.5	43.2	6.6	26.8	9.7	7.2	10.5
	⑥令和元（2019）年にハンセン病患者家族に対する偏見や差別の被害を認める熊本地裁判決が下されたこと		(4,193)	14.1	43.9	7.1	27.7	10.1	7.8	11.8
	⑦現在も「ハンセン病療養所」があり、ハンセン病が治った後も暮らし続けている人がいること		(4,185)	14.1	42.7	7.6	29.5	10.8	8.8	10.7

（4）ハンセン病問題に関する知識とハンセン病元患者（回復者）・家族に対する態度の関係

ハンセン病元患者（回復者）・家族に対する態度をハンセン病問題に関する知識の有無別に比較すると、ハンセン病元患者（回復者）・家族に対する偏見差別による被害事例の認知度やハンセン病強制隔離政策の認知度によって回答傾向に大きな差はみられなかった。

表 101　Q14 ハンセン病元患者（回復者）・家族に対する態度
［ハンセン病元患者（回復者）・家族に対する偏見差別による被害事例の認知度別］

		(%) n=	①近所に住むこと	②同じ職場で働くこと	③同じ学校に通うこと	④同じ医療機関・福祉施設に通院・通所すること	⑤同じ医療機関・福祉施設に入院・入所すること	⑥食事をともにすること	⑦手をつなぐ等の身体に触れること	⑧ホテルなどで同じ浴場を利用すること	⑨ハンセン病元患者（回復者）の家族とあなたの家族が結婚すること
			「とても抵抗を感じる」「やや抵抗を感じる」の割合								
全体		(20,916)	9.3	9.5	8.2	7.5	9.6	12.0	18.5	19.8	21.8
Q11 ハンセン病元患者（回復者）・家族に対する偏見や差別による被害事例の認知	①家族や親戚から差別や排除行為を受けること	(7,204)	9.0	8.8	7.7	7.0	8.6	11.1	18.2	19.0	21.9
	②近隣や地域の人々から差別や排除行為を受けること	(8,659)	8.5	8.8	7.5	6.6	8.5	11.1	18.9	19.9	22.8
	③通学している学校で他の生徒から集団的ないじめや排除行為を受けること	(4,487)	9.4	9.2	8.1	7.5	9.4	12.1	19.3	20.3	22.7
	④通学している学校で教師から差別や排除行為を受けること	(3,407)	9.2	8.6	8.0	7.7	9.7	11.7	16.9	18.8	21.0
	⑤医療従事者・介護従事者から差別や排除行為を受けること	(2,424)	9.4	8.9	7.5	7.1	9.3	11.1	15.8	17.4	19.8
	⑥国・都道府県・市区町村等の行政職員から差別や排除行為を受けること	(3,211)	7.9	8.0	6.8	6.6	8.2	10.5	16.1	17.0	19.5
	⑦ハンセン病元患者（回復者）やその家族であることを理由に就職試験で落とされること	(4,106)	8.6	9.2	7.3	6.6	8.6	11.1	17.9	18.9	22.1
	⑧職場で同僚等から差別や排除行為を受けること	(3,331)	8.6	9.1	7.7	6.9	8.4	11.3	18.4	18.9	22.1
	⑨ハンセン病元患者（回復者）やその家族であることを理由に交際を断られる、あるいは離婚させられること	(4,661)	7.5	8.3	6.9	5.9	7.5	10.4	17.7	18.7	21.6
	⑩ハンセン病についての誤った認識をハンセン病元患者（回復者）やその家族が持つことにより、親密な家族関係が築けないこと	(3,733)	7.2	7.3	5.9	5.5	7.1	9.9	16.2	17.0	20.0
	⑪家族を責めたり、恨んだり、忌避したりして、家族関係が破綻すること	(2,922)	7.9	8.0	7.3	6.7	8.4	10.4	17.4	18.0	20.9
	⑫家族であるハンセン病元患者（回復者）との関係を断ったり、あるいは距離をおいたりして、家族関係が破綻すること	(3,821)	7.7	7.9	6.7	6.0	7.7	9.9	16.0	16.5	20.0
	⑬ハンセン病元患者（回復者）やその家族であるということを誰にも言えず、秘密を抱えて生きていかざるを得ないこと	(5,492)	7.7	8.0	7.0	6.2	8.0	10.6	17.6	18.5	22.2
	⑭その他	(102)	3.9	3.9	2.9	1.0	2.9	3.9	13.7	12.7	13.7
	⑮上記の中に知っているものはない	(9,322)	8.6	9.2	8.0	7.2	9.1	11.5	17.1	18.8	19.0

表 102　Q14 ハンセン病元患者(回復者)・家族に対する態度
[ハンセン病強制隔離政策の認知度別]

		(%) n=	①近所に住むこと	②同じ職場で働くこと	③同じ学校に通うこと	④同じ医療機関・福祉施設に通院・通所すること	⑤同じ医療機関・福祉施設に入院・入所すること	⑥食事をともにすること	⑦手をつなぐ等の身体に触れること	⑧ホテルなどで同じ浴場を利用すること	⑨ハンセン病元患者（回復者）の家族とあなたの家族が結婚すること
			「とても抵抗を感じる」「やや抵抗を感じる」の割合								
全体		(20,916)	9.3	9.5	8.2	7.5	9.6	12.0	18.5	19.8	21.8
Q15 ハンセン病強制隔離政策についての認知（「知っている」「少し知っている」と回答した者）	①明治後期以降、ハンセン病患者を強制的に収容する「強制隔離政策」が行われたこと	(11,054)	9.0	9.0	7.5	7.0	8.7	11.4	18.5	19.4	23.1
	②戦前および戦後にかけて、全てのハンセン病患者を強制隔離する、官民一体の「無らい県運動」が行なわれたこと	(6,769)	10.6	9.4	8.4	8.6	11.2	12.6	17.3	18.5	23.3
	③有効な薬が開発され、治療法が確立されたが、強制隔離政策はそのまま継続されたこと	(8,698)	8.8	8.2	7.3	7.4	9.7	11.2	17.0	17.8	21.8
	④平成8（1996）年に強制隔離政策を主体とした「らい予防法」が廃止されたこと	(7,122)	8.9	8.2	7.3	7.4	9.8	10.9	16.2	17.1	21.1
	⑤平成13（2001）年に強制隔離政策を違憲とする熊本地裁判決が下されたこと	(6,185)	9.0	8.4	7.5	7.8	9.9	11.3	16.2	17.4	21.3
	⑥令和元（2019）年にハンセン病患者家族に対する偏見や差別の被害を認める熊本地裁判決が下されたこと	(6,256)	9.4	8.2	7.5	7.6	9.8	10.8	16.1	17.3	21.4
	⑦現在も「ハンセン病療養所」があり、ハンセン病が治った後も暮らし続けている人がいること	(7,572)	9.1	8.5	7.5	7.7	9.9	11.2	16.8	17.8	22.1
Q15 ハンセン病強制隔離政策についての認知（「知っている」と回答した者）	①明治後期以降、ハンセン病患者を強制的に収容する「強制隔離政策」が行われたこと	(5,006)	7.6	7.9	6.7	5.9	7.5	10.1	17.2	17.6	20.8
	②戦前および戦後にかけて、全てのハンセン病患者を強制隔離する、官民一体の「無らい県運動」が行なわれたこと	(2,678)	10.9	9.4	8.4	8.8	11.8	12.6	17.2	17.7	21.5
	③有効な薬が開発され、治療法が確立されたが、強制隔離政策はそのまま継続されたこと	(3,542)	7.4	6.6	5.8	6.6	8.7	9.4	13.9	14.6	18.1
	④平成8（1996）年に強制隔離政策を主体とした「らい予防法」が廃止されたこと	(2,701)	7.4	6.5	6.1	6.4	9.3	9.5	13.8	13.9	17.1
	⑤平成13（2001）年に強制隔離政策を違憲とする熊本地裁判決が下されたこと	(2,166)	7.0	6.6	6.2	6.0	9.1	10.0	13.7	14.2	17.2
	⑥令和元（2019）年にハンセン病患者家族に対する偏見や差別の被害を認める熊本地裁判決が下されたこと	(2,063)	8.6	7.4	7.0	8.3	9.9	10.2	14.8	15.8	19.0
	⑦現在も「ハンセン病療養所」があり、ハンセン病が治った後も暮らし続けている人がいること	(3,387)	8.2	7.6	6.6	6.8	8.7	10.2	15.0	15.7	20.2
Q15 ハンセン病強制隔離政策についての認知（「少し知っている」と回答した者）	①明治後期以降、ハンセン病患者を強制的に収容する「強制隔離政策」が行われたこと	(6,048)	10.2	9.9	8.2	7.9	9.7	12.4	19.7	20.8	24.9
	②戦前および戦後にかけて、全てのハンセン病患者を強制隔離する、官民一体の「無らい県運動」が行なわれたこと	(4,091)	10.3	9.3	8.4	8.4	10.8	12.6	17.3	19.0	24.5
	③有効な薬が開発され、治療法が確立されたが、強制隔離政策はそのまま継続されたこと	(5,156)	9.8	9.3	8.3	7.9	10.4	12.5	19.1	20.0	24.3
	④平成8（1996）年に強制隔離政策を主体とした「らい予防法」が廃止されたこと	(4,421)	9.8	9.2	8.1	8.0	10.1	11.8	17.6	19.0	23.6
	⑤平成13（2001）年に強制隔離政策を違憲とする熊本地裁判決が下されたこと	(4,019)	10.2	9.4	8.2	8.8	10.4	12.0	17.5	19.1	23.6
	⑥令和元（2019）年にハンセン病患者家族に対する偏見や差別の被害を認める熊本地裁判決が下されたこと	(4,193)	9.8	8.6	7.7	7.3	9.7	11.1	16.8	18.1	22.5
	⑦現在も「ハンセン病療養所」があり、ハンセン病が治った後も暮らし続けている人がいること	(4,185)	9.8	9.1	8.2	8.4	10.8	12.1	18.4	19.5	23.7

6 ハンセン病に係る偏見差別の現状分析

(1)ハンセン病問題に関する歴史的事実・考え方に対する意見の分析

ハンセン病問題に関する歴史的事実・考え方に対する意見をハンセン病に係る偏見差別に関する経験等別に比較すると、「②ハンセン病患者を『療養所』に強制的に隔離してきたことは、有効な薬が開発され治療法が確立された後であっても、やむを得ない措置であった」という誤った言説に対し、「そう思う」「どちらかといえばそう思う」の合計、つまり誤りを支持する傾向の回答割合は、全体平均が 11.2%であるのに対し、「①自分の家族・親戚などが偏見や差別に基づく言動をしているのを見聞きしたことがある」「②自分の友人・知人など身近な人が偏見や差別に基づく言動をしているのを見聞きしたことがある」「④自分や身近な人がハンセン病元患者(回復者)やその家族として、偏見や差別による被害を受けている(いた)」と回答した者は 26.4～31.8%と顕著に高かった。「③ハンセン病元患者(回復者)やその家族が差別を受けていると聞いたことがある」と回答した者は 10.5%であり、全体平均の回答傾向と大きな差はみられなかった。

ハンセン病問題に関する歴史的事実・考え方に対する意見をハンセン病元患者(回復者)・家族に対する態度別に比較すると、「②ハンセン病患者を『療養所』に強制的に隔離してきたことは、有効な薬が開発され治療法が確立された後であっても、やむを得ない措置であった」という誤った言説に対し、「そう思う」「どちらかといえばそう思う」の合計、つまり誤りを支持する傾向の回答割合は、全体平均が 11.2%であるのに対し、ハンセン病元患者(回復者)・家族に対する態度①～⑨に「とても抵抗を感じる」「抵抗を感じる」と回答した者は 23.0～35.6%と顕著に高かった。

表 103　Q12 ハンセン病問題に関する歴史的事実・考え方に対する意見
［ハンセン病に係る偏見差別に関する経験等｜ハンセン病元患者（回復者）・家族に対する態度別］

		(%)	n=	①ハンセン病患者を「療養所」に強制的に隔離してきたことは、有効な薬が開発され治療法が確立されるまでは、やむを得ない措置であった	②ハンセン病患者を「療養所」に強制的に隔離してきたことは、有効な薬が開発され治療法が確立された後であっても、やむを得ない措置であった	③かつて「療養所」においては、結婚の時に「子どもを生めなくする手術をすること」を条件とされていたことは、有効な薬が開発され治療法が確立されるまでは、仕方がないことであった	④かつて「療養所」においては、結婚の時に「子どもを生めなくする手術をすること」を条件とされていたことは、有効な薬が開発され治療法が確立された後であっても、仕方がないことであった	⑤ハンセン病元患者（回復者）にとっては、専門性がある医療・福祉を受けられる「療養所」の中で暮らすことのほうが、「療養所」の外で暮らすよりもよい	⑥ハンセン病元患者（回復者）にとっては、偏見・差別を受けづらい「療養所」の中で暮らすことのほうが、「療養所」の外で暮らすよりもよい	⑦ハンセン病患者の自由が拘束されることは仕方のない側面もある	⑧ハンセン病元患者（回復者）の宿泊を「他の宿泊客への迷惑になる」ことを理由として拒否した事件における、ホテル側の言い分には一理あり、ホテル側の対応は認められる
				「そう思う」「どちらかといえばそう思う」の割合							
全体			(20,916)	27.4	11.2	14.1	7.9	15.2	13.6	8.0	11.2
Q10 ハンセン病についての偏見や差別に関する経験	①自分の家族・親戚などが偏見や差別に基づく言動をしているのを見聞きしたことがある		(1,518)	42.8	26.4	26.8	19.0	26.0	24.3	17.5	24.0
	②自分の友人・知人など身近な人が偏見や差別に基づく言動をしているのを見聞きしたことがある		(1,752)	38.6	26.4	28.3	20.9	26.2	25.0	16.8	24.8
	③ハンセン病元患者（回復者）やその家族が差別を受けていると聞いたことがある		(6,281)	33.5	10.5	14.9	7.2	17.1	15.2	7.9	11.4
	④自分や身近な人がハンセン病元患者（回復者）やその家族として、偏見や差別による被害を受けている（いた）		(980)	38.3	31.8	37.0	27.7	27.6	25.6	17.2	27.9
	⑤現在、世の中にハンセン病元患者（回復者）やその家族に対する偏見や差別がある		(8,280)	34.7	10.9	14.3	7.0	17.2	15.3	8.2	11.7
	⑥自分自身は偏見や差別の意識を持っていないと思う		(13,513)	30.0	9.6	12.4	6.0	15.1	13.2	7.3	10.0
Q14 ハンセン病元患者（回復者）・家族に対する態度（「とても抵抗を感じる」・「やや抵抗を感じる」と回答した者）	①近所に住むこと		(1,939)	50.5	33.7	34.8	26.0	35.2	33.5	26.7	34.2
	②同じ職場で働くこと		(1,982)	50.2	30.5	32.1	23.2	33.9	32.7	26.7	32.4
	③同じ学校に通うこと		(1,708)	50.6	31.8	34.4	24.3	35.4	34.0	28.4	33.8
	④同じ医療機関・福祉施設に通院・通所すること		(1,573)	50.2	35.6	35.5	26.4	35.9	33.7	27.7	34.8
	⑤同じ医療機関・福祉施設に入院・入所すること		(2,004)	48.1	32.9	36.2	24.1	35.3	33.1	26.7	34.5
	⑥食事をともにすること		(2,517)	47.8	29.0	31.1	21.8	33.7	31.2	24.8	31.7
	⑦手をつなぐ等の身体に触れること		(3,861)	46.9	23.0	25.8	16.0	29.1	27.4	20.5	26.1
	⑧ホテルなどで同じ浴場を利用すること		(4,139)	46.2	23.2	25.8	16.1	28.8	27.4	19.7	26.3
	⑨ハンセン病元患者（回復者）の家族とあなたの家族が結婚すること		(4,559)	45.3	23.5	27.0	16.6	29.0	26.6	18.2	25.3

（2）ハンセン病・ハンセン病元患者（回復者）に対する考え方の分析

ハンセン病に係る偏見差別に関する経験等別に、ハンセン病・ハンセン病元患者（回復者）に対する包摂的な考え方に対する回答傾向をみると、「②ハンセン病元患者（回復者）も、地域で普通に隣人として暮らせることが望ましい」という考え方に対し、「そう思う」「どちらかといえばそう思う」と回答した割合は、全体平均が 60.8%であるのに対し、「③ハンセン病元患者（回復者）やその家族が差別を受けていると聞いたことがある」「⑤現在、世の中にハンセン病元患者（回復者）やその家族に対する偏見や差別がある」「⑥自分自身は偏見や差別の意識を持っていないと思う」と回答した者は 73.4～82.4%と顕著に高かった。包摂的な考え方④⑩においても、同様の傾向がみられた。

次に、ハンセン病に係る偏見差別に関する経験等別に、ハンセン病・ハンセン病元患者（回復者）に対する非包摂的な考え方に対する回答傾向をみると「①ハンセン病と聞くと、できるだけ距離をとりたいと思うのは当然な反応だ」という考え方に対し、「そう思う」「どちらかといえばそう思う」と回答した割合は、全体平均が 16.0%であるのに対し、「①自分の家族・親戚などが偏見や差別に基づく言動をしているのを見聞きしたことがある」「②自分の友人・知人など身近な人が偏見や差別に基づく言動をしているのを見聞きしたことがある」「④自分や身近な人がハンセン病元患者（回復者）やその家族として、偏見や差別による被害を受けている（いた）」と回答した者は 25.8～28.0%と高い一方、「③ハンセン病元患者（回復者）やその家族が差別を受けていると聞いたことがある」「⑤現在、世の中にハンセン病元患者（回復者）やその家族に対する偏見や差別がある」と回答した者は 17.5～18.9%と大きな差はみられなかった。非包摂的な考え方③⑥⑨においても、同様の傾向がみられた。

さらに、ハンセン病に係る偏見差別に関する経験等別に、ハンセン病問題に関する学習啓発に対する考え方に対する回答傾向をみると、「⑫ハンセン病の問題について、子どもを対象とした学校教育の機会を増やすべきだ」という考え方に対し、「そう思う」「どちらかといえばそう思う」と回答した割合は、全体平均が 50.5%であるのに対し、「③ハンセン病元患者（回復者）やその家族が差別を受けていると聞いたことがある」と回答した者は 70.9%、「⑤現在、世の中にハンセン病元患者（回復者）やその家族に対する偏見や差別がある」と回答した者は 68.8%と顕著に高かった。学習啓発に対する考え方⑬においても、同様の傾向がみられた。

ハンセン病問題に関する歴史的事実・考え方に対する意見別に、ハンセン病・ハンセン病元患者（回復者）に対する包摂的な考え方に対する回答傾向をみると、「②ハンセン病元患者（回復者）も、地域で普通に隣人として暮らせることが望ましい」という考え方に対し、「そう思う」「どちらかといえばそう思う」と回答した割合は、全体平均が 60.8%であるのに対し、ハンセン病問題に関する歴史的事実・考え方①⑤⑥⑦に対し、「そう思う」「どちらかといえばそう思う」と回答した者は 62.1～76.4%と高い一方、ハンセン病問題に関する歴史的事実・考え方②③④⑧に対し、「そう思う」「どちらかといえばそう思う」と回答した者は 45.8%～58.5%と低かった。

「④ハンセン病元患者（回復者）も、そうでない人も、人としての価値は変わらない」という考え方に対し、「そう思う」「どちらかといえばそう思う」と回答した割合は、全体平均が 68.8%であるのに対し、ハンセン病問題に関する歴史的事実・考え方①⑤～⑧に対し、「そう思う」「どちらかといえばそう思う」と回答した者は 71.7～86.1%と高い一方、ハンセン病問題に関する歴史的事実・考え方②③④に対し、「そう思う」「どちらかといえばそう思う」と回答した者は 54.3～66.4%と低かった。包摂的な考え方⑩にお

いても、同様の傾向がみられた。

次に、ハンセン病問題に関する歴史的事実・考え方に対する意見別に、ハンセン病・ハンセン病元患者（回復者）に対する非包摂的な考え方に対する回答傾向をみると、「①ハンセン病と聞くと、できるだけ距離をとりたいと思うのは当然な反応だ」という考え方に対し、「そう思う」「どちらかといえばそう思う」と回答した割合は、全体平均が 16.0％であるのに対し、ハンセン病問題に関する歴史的事実・考え方①～⑧に対し、「そう思う」「どちらかといえばそう思う」と回答した者は、35.9～55.4％と高かった。非包摂的な考え方③⑤⑥⑦⑨においても、同様の傾向がみられた。

さらに、ハンセン病問題に関する歴史的事実・考え方に対する意見別に、ハンセン病問題に関する学習啓発に対する考え方に対する回答傾向をみると、「⑫ハンセン病の問題について、子どもを対象とした学校教育の機会を増やすべきだ」という考え方に対し、「そう思う」「どちらかといえばそう思う」と回答した割合は、全体平均が 50.5％であるのに対し、ハンセン病問題に関する歴史的事実・考え方①、⑤～⑧に対し、「そう思う」「どちらかといえばそう思う」と回答した者は、51.5～62.5％と高い一方、ハンセン病問題に関する歴史的事実・考え方②③④に対し、「そう思う」「どちらかといえばそう思う」と回答した者は、41.8～49.2％と低かった。「⑬ハンセン病の問題について、大人を対象とした啓発の機会（講演会・研修会・広報等）を増やすべきだ」という考え方に対し、「そう思う」「どちらかといえばそう思う」と回答した割合は、全体平均が 50.4％であるのに対し、ハンセン病問題に関する歴史的事実・考え方①②③、⑤～⑧に対し、「そう思う」「どちらかといえばそう思う」と回答した者は、51.5～62.5％と高い一方、ハンセン病問題に関する歴史的事実・考え方④に対し、「そう思う」「どちらかといえばそう思う」と回答した者は、48.2％と低かった。

ハンセン病元患者（回復者）・家族に対する態度別に、ハンセン病・ハンセン病元患者（回復者）に対する包摂的な考え方に対する回答傾向をみると、「②ハンセン病元患者（回復者）も、地域で普通に隣人として暮らせることが望ましい」という考え方に対し、「そう思う」「どちらかといえばそう思う」と回答した割合は、全体平均が 60.8％であるのに対し、ハンセン病元患者（回復者）・家族に対する態度①～⑨に「とても抵抗を感じる」「抵抗を感じる」と回答した者は 44.8～57.5％と低かった。包摂的な考え方⑪においても、同様の傾向がみられた。

「④ハンセン病元患者（回復者）も、そうでない人も、人としての価値は変わらない」という考え方に対し、「そう思う」「どちらかといえばそう思う」と回答した割合は、全体平均が 68.8％であるのに対し、ハンセン病元患者（回復者）・家族に対する態度①～⑥に「とても抵抗を感じる」「抵抗を感じる」と回答した者は 61.3～64.7％と低く、態度⑦～⑨に「とても抵抗を感じる」「抵抗を感じる」と回答した者は 71.0～72.0％と高かった。

「⑩たとえ目立つハンセン病の後遺症が残っていても、公共の場で堂々とふるまえる社会がよい」という考え方に対し、「そう思う」「どちらかといえばそう思う」と回答した割合は、全体平均が 63.1％であるのに対し、「⑨ハンセン病元患者（回復者）の家族とあなたの家族が結婚すること」に「とても抵抗を感じる」「抵抗を感じる」と回答した者は 63.2％と全体平均と同様であったが、それ以外の態度①～⑧に「とても抵抗を感じる」「抵抗を感じる」と回答した者は 51.4～61.6％と低かった。

次に、ハンセン病元患者（回復者）・家族に対する態度別に、ハンセン病・ハンセン病元患者（回復者）に対する非包摂的な考え方に対する回答傾向をみると「①ハンセン病と聞くと、できるだけ距離をとりた

いと思うのは当然な反応だ」という考え方に対し、「そう思う」「どちらかといえばそう思う」と回答した割合は、全体平均が 16.0%であるのに対し、ハンセン病元患者（回復者）・家族に対する態度①～⑨に「とても抵抗を感じる」「抵抗を感じる」と回答した者は 41.8～60.7%と顕著に高かった。非包摂的な考え方③⑤⑥⑦⑨においても、同様の傾向がみられた。さらに、ハンセン病元患者（回復者）・家族に対する態度別に、ハンセン病問題に関する学習啓発に対する考え方に対する回答傾向をみると、「⑫ハンセン病の問題について、子どもを対象とした学校教育の機会を増やすべきだ」という考え方に対し、「そう思う」「どちらかといえばそう思う」と回答した割合は、全体平均が 50.5%であるのに対し、ハンセン病元患者（回復者）・家族に対する態度①～⑨に「とても抵抗を感じる」「抵抗を感じる」と回答した者は 40.5～49.0%と低かった。学習啓発に対する考え方⑬においても、同様の傾向がみられた。

表 104 Q13 ハンセン病・ハンセン病元患者(回復者)に対する考え方
[ハンセン病に係る偏見差別に関する経験等｜ハンセン病問題に関する歴史的事実・考え方に対する意見｜ハンセン病元患者(回復者)・家族に対する態度別](1/6)

		(%)	n=	①ハンセン病と聞くと、できるだけ距離をとりたいと思うのは当然な反応だ	②ハンセン病元患者（回復者）も、地域で普通に隣人として暮らせることが望ましい	③ハンセン病元患者（回復者）とは、たとえ治っていたとしても、関りを持ちたくない	④ハンセン病元患者（回復者）も、そうでない人も、人としての価値は変わらない	⑤自分の身内にハンセン病元患者（回復者）がいなくて、よかったと思う	⑥ハンセン病元患者（回復者）は、たとえ治っていたとしても、自分たちとは違う人たちだと感じる	⑦ハンセン病にかかるというのは、どこか遠い世界での出来事だと感じる
				「そう思う」「どちらかといえばそう思う」の割合						
全体			(20,916)	16.0	60.8	5.7	68.8	31.7	6.6	40.0
Q10 ハンセン病についての偏見や差別に関する経験	①自分の家族・親戚などが偏見や差別に基づく言動をしているのを見聞きしたことがある		(1,518)	28.0	66.3	14.4	73.6	43.7	16.0	44.5
	②自分の友人・知人など身近な人が偏見や差別に基づく言動をしているのを見聞きしたことがある		(1,752)	25.8	60.4	13.6	68.7	39.0	17.1	41.3
	③ハンセン病元患者（回復者）やその家族が差別を受けていると聞いたことがある		(6,281)	17.5	82.4	5.3	89.3	38.5	6.3	47.0
	④自分や身近な人がハンセン病元患者（回復者）やその家族として、偏見や差別による被害を受けている（いた）		(980)	26.6	54.2	16.8	63.1	37.1	23.9	37.2
	⑤現在、世の中にハンセン病元患者（回復者）やその家族に対する偏見や差別がある		(8,280)	18.9	79.3	5.7	87.5	39.4	6.5	47.4
	⑥自分自身は偏見や差別の意識を持っていないと思う		(13,513)	14.5	73.4	3.9	80.9	33.3	4.8	44.0
Q12 ハンセン病問題に関する歴史的事実・考え方に対する意見（「そう思う」「どちらかと言えばそう思う」と回答した者）	①ハンセン病患者を「療養所」に強制的に隔離してきたことは、有効な薬が開発され治療法が確立されるまでは、やむを得ない措置であった		(5,723)	35.9	76.4	11.3	86.1	53.6	11.7	58.7
	②ハンセン病患者を「療養所」に強制的に隔離してきたことは、有効な薬が開発され治療法が確立された後であっても、やむを得ない措置であった		(2,345)	42.8	55.0	25.0	66.0	52.2	26.4	51.7
	③かつて「療養所」においては、結婚の時に「子どもを生めなくする手術をすること」を条件とされていたことは、有効な薬が開発され治療法が確立されるまでは、仕方がないことであった		(2,943)	38.7	55.0	19.6	66.4	52.2	21.9	49.9
	④かつて「療養所」においては、結婚の時に「子どもを生めなくする手術をすること」を条件とされていたことは、有効な薬が開発され治療法が確立された後であっても、仕方がないことであった		(1,647)	42.6	45.8	27.7	54.3	49.1	31.9	47.6
	⑤ハンセン病元患者（回復者）にとっては、専門性がある医療・福祉を受けられる「療養所」の中で暮らすことのほうが、「療養所」の外で暮らすよりもよい		(3,185)	37.0	66.4	16.3	78.7	52.6	17.7	55.7
	⑥ハンセン病元患者（回復者）にとっては、偏見・差別を受けづらい「療養所」の中で暮らすことのほうが、「療養所」の外で暮らすよりもよい		(2,852)	39.0	64.4	18.6	77.8	54.4	19.6	56.2
	⑦ハンセン病患者の自由が拘束されることは仕方のない側面もある		(1,679)	55.4	62.1	24.6	76.2	62.8	27.6	60.8
	⑧ハンセン病元患者（回復者）の宿泊を「他の宿泊客への迷惑になる」ことを理由として拒否した事件における、ホテル側の言い分には一理あり、ホテル側の対応は認められる		(2,336)	49.9	58.5	23.8	71.7	58.4	25.7	58.6
Q14 ハンセン病元患者（回復者）・家族に対する態度（「とても抵抗を感じる」・「やや抵抗を感じる」と回答した者）	①近所に住むこと		(1,939)	60.1	46.1	32.4	61.3	65.4	27.8	56.8
	②同じ職場で働くこと		(1,982)	59.3	48.3	30.4	64.4	68.5	25.2	57.6
	③同じ学校に通うこと		(1,708)	60.7	46.5	33.1	63.5	68.6	26.5	57.3
	④同じ医療機関・福祉施設に通院・通所すること		(1,573)	57.3	45.2	35.0	62.5	64.7	30.2	55.1
	⑤同じ医療機関・福祉施設に入院・入所すること		(2,004)	53.0	44.8	30.2	63.2	64.1	27.8	55.8
	⑥食事をともにすること		(2,517)	53.0	47.6	26.0	64.7	65.2	22.7	56.4
	⑦手をつなぐ等の身体に触れること		(3,861)	46.3	56.3	18.3	71.0	62.5	16.7	58.6
	⑧ホテルなどで同じ浴場を利用すること		(4,139)	44.9	56.0	17.6	71.3	61.0	16.1	57.6
	⑨ハンセン病元患者（回復者）の家族とあなたの家族が結婚すること		(4,559)	41.8	57.5	16.8	72.0	62.3	16.3	56.5

表 105 Q13 ハンセン病・ハンセン病元患者(回復者)に対する考え方
[偏見や差別に関する経験｜歴史的事実・考え方に対する意見｜
ハンセン病元患者(回復者)・家族に対する態度別](2/6)

		(%)	①ハンセン病と聞くと、できるだけ距離をとりたいと思うのは当然な反応だ	②ハンセン病元患者（回復者）も、地域で普通に隣人として暮らせることが望ましい	③ハンセン病元患者（回復者）とは、たとえ治っていたとしても、関りを持ちたくない	④ハンセン病元患者（回復者）も、そうでない人も、人としての価値は変わらない	⑤自分の身内にハンセン病元患者（回復者）がいなくて、よかったと思う	⑥ハンセン病元患者（回復者）は、たとえ治っていたとしても、自分たちとは違う人たちだと感じる	⑦ハンセン病にかかるというのは、どこか遠い世界での出来事だと感じる
			「どちらともいえない」の割合						
全体		(20,916)	29.3	17.4	24.4	12.7	31.2	21.4	24.8
Q10 ハンセン病についての偏見や差別に関する経験	①自分の家族・親戚などが偏見や差別に基づく言動をしているのを見聞きしたことがある	(1,518)	28.5	18.7	26.0	14.3	27.9	21.9	23.5
	②自分の友人・知人など身近な人が偏見や差別に基づく言動をしているのを見聞きしたことがある	(1,752)	29.5	20.2	25.7	15.4	29.5	22.4	24.4
	③ハンセン病元患者（回復者）やその家族が差別を受けていると聞いたことがある	(6,281)	26.9	10.7	19.2	5.6	31.3	15.1	22.3
	④自分や身近な人がハンセン病元患者（回復者）やその家族として、偏見や差別による被害を受けている（いた）	(980)	27.9	22.3	26.1	18.0	30.8	21.4	26.8
	⑤現在、世の中にハンセン病元患者（回復者）やその家族に対する偏見や差別がある	(8,280)	28.6	12.3	21.5	6.5	31.5	17.2	22.6
	⑥自分自身は偏見や差別の意識を持っていないと思う	(13,513)	28.3	13.0	20.9	8.4	32.1	17.3	24.0
Q12 ハンセン病問題に関する歴史的事実・考え方に対する意見（「そう思う」「どちらかと言えばそう思う」と回答した者）	①ハンセン病患者を「療養所」に強制的に隔離してきたことは、有効な薬が開発され治療法が確立されるまでは、やむを得ない措置であった	(5,723)	30.3	16.2	27.3	8.9	27.3	21.9	20.6
	②ハンセン病患者を「療養所」に強制的に隔離してきたことは、有効な薬が開発され治療法が確立された後であっても、やむを得ない措置であった	(2,345)	29.6	27.8	33.4	20.6	26.7	30.3	24.3
	③かつて「療養所」においては、結婚の時に「子どもを生めなくする手術をすること」を条件とされていたことは、有効な薬が開発され治療法が確立されるまでは、仕方がないことであった	(2,943)	29.9	24.5	31.5	19.2	25.9	28.9	24.2
	④かつて「療養所」においては、結婚の時に「子どもを生めなくする手術をすること」を条件とされていたことは、有効な薬が開発され治療法が確立された後であっても、仕方がないことであった	(1,647)	29.2	29.4	34.2	25.3	26.4	32.0	24.7
	⑤ハンセン病元患者（回復者）にとっては、専門性がある医療・福祉を受けられる「療養所」の中で暮らすことのほうが、「療養所」の外で暮らすよりもよい	(3,185)	30.1	20.7	29.5	12.7	25.9	25.8	21.5
	⑥ハンセン病元患者（回復者）にとっては、偏見・差別を受けづらい「療養所」の中で暮らすことのほうが、「療養所」の外で暮らすよりもよい	(2,852)	29.8	22.2	29.1	13.5	24.8	25.0	21.1
	⑦ハンセン病患者の自由が拘束されることは仕方のない側面もある	(1,679)	23.2	24.4	30.9	15.1	22.6	24.4	19.4
	⑧ハンセン病元患者（回復者）の宿泊を「他の宿泊客への迷惑になる」ことを理由として拒否した事件における、ホテル側の言い分には一理あり、ホテル側の対応は認められる	(2,336)	26.1	24.0	30.1	17.4	22.0	26.5	21.1
Q14 ハンセン病元患者（回復者）・家族に対する態度（「とても抵抗を感じる」・「やや抵抗を感じる」と回答した者）	①近所に住むこと	(1,939)	24.8	33.0	41.0	23.3	19.9	37.1	24.3
	②同じ職場で働くこと	(1,982)	23.9	32.5	41.2	21.6	18.4	36.8	23.5
	③同じ学校に通うこと	(1,708)	23.0	33.9	40.7	22.5	18.0	37.2	23.5
	④同じ医療機関・福祉施設に通院・通所すること	(1,573)	24.7	32.7	38.2	22.4	19.5	35.2	23.8
	⑤同じ医療機関・福祉施設に入院・入所すること	(2,004)	25.5	31.9	39.1	21.7	20.0	34.4	22.6
	⑥食事をともにすること	(2,517)	25.9	30.9	41.8	20.7	19.7	35.9	22.4
	⑦手をつなぐ等の身体に触れること	(3,861)	29.6	26.7	40.2	16.6	21.6	32.6	21.3
	⑧ホテルなどで同じ浴場を利用すること	(4,139)	30.5	26.7	39.0	16.1	21.8	32.3	21.6
	⑨ハンセン病元患者（回復者）の家族とあなたの家族が結婚すること	(4,559)	32.4	25.8	39.2	16.1	22.0	32.6	22.6

表 106 Q13 ハンセン病・ハンセン病元患者(回復者)に対する考え方
[偏見や差別に関する経験｜歴史的事実・考え方に対する意見｜
ハンセン病元患者(回復者)・家族に対する態度別](3/6)

	(%)	n=	①ハンセン病と聞くと、できるだけ距離をとりたいと思うのは当然な反応だ	②ハンセン病元患者（回復者）も、地域で普通に隣人として暮らせることが望ましい	③ハンセン病元患者（回復者）とは、たとえ治っていたとしても、関りを持ちたくない	④ハンセン病元患者（回復者）も、そうでない人も、人としての価値は変わらない	⑤自分の身内にハンセン病元患者（回復者）がいなくて、よかったと思う	⑥ハンセン病元患者（回復者）は、たとえ治っていたとしても、自分たちとは違う人たちだと感じる	⑦ハンセン病にかかるというのは、どこか遠い世界での出来事だと感じる
			「そう思わない」「あまりそう思わない」の割合						
全体		(20,916)	39.3	8.9	56.1	7.1	18.5	58.0	21.4
Q10 ハンセン病についての偏見や差別に関する経験	①自分の家族・親戚などが偏見や差別に基づく言動をしているのを見聞きしたことがある	(1,518)	37.4	10.5	54.9	8.4	20.3	56.5	27.4
	②自分の友人・知人など身近な人が偏見や差別に基づく言動をしているのを見聞きしたことがある	(1,752)	38.1	14.7	55.3	11.6	23.0	54.7	29.4
	③ハンセン病元患者（回復者）やその家族が差別を受けていると聞いたことがある	(6,281)	51.9	5.0	72.5	3.9	21.3	75.4	27.5
	④自分や身近な人がハンセン病元患者（回復者）やその家族として、偏見や差別による被害を受けている（いた）	(980)	41.2	20.0	53.2	15.7	26.2	51.0	31.3
	⑤現在、世の中にハンセン病元患者（回復者）やその家族に対する偏見や差別がある	(8,280)	46.4	4.6	67.9	3.5	18.5	71.3	25.2
	⑥自分自身は偏見や差別の意識を持っていないと思う	(13,513)	45.4	4.9	65.4	3.8	18.4	67.9	22.1
Q12 ハンセン病問題に関する歴史的事実・考え方に対する意見（「そう思う」「どちらかと言えばそう思う」と回答した者）	①ハンセン病患者を「療養所」に強制的に隔離してきたことは、有効な薬が開発され治療法が確立されるまでは、やむを得ない措置であった	(5,723)	28.8	5.0	57.9	3.6	11.8	63.0	17.7
	②ハンセン病患者を「療養所」に強制的に隔離してきたことは、有効な薬が開発され治療法が確立された後であっても、やむを得ない措置であった	(2,345)	24.0	14.6	38.5	11.0	16.5	39.4	20.9
	③かつて「療養所」においては、結婚の時に「子どもを生めなくする手術をすること」を条件とされていたことは、有効な薬が開発され治療法が確立されるまでは、仕方がないことであった	(2,943)	27.0	17.3	45.6	12.2	17.7	45.5	23.0
	④かつて「療養所」においては、結婚の時に「子どもを生めなくする手術をすること」を条件とされていたことは、有効な薬が開発され治療法が確立された後であっても、仕方がないことであった	(1,647)	25.0	21.7	34.6	17.6	21.1	32.4	24.7
	⑤ハンセン病元患者（回復者）にとっては、専門性がある医療・福祉を受けられる「療養所」の中で暮らすことのほうが、「療養所」の外で暮らすよりもよい	(3,185)	28.5	10.1	51.1	7.0	15.8	52.9	20.2
	⑥ハンセン病元患者（回復者）にとっては、偏見・差別を受けづらい「療養所」の中で暮らすことのほうが、「療養所」の外で暮らすよりもよい	(2,852)	27.2	10.6	49.1	7.0	15.4	51.9	20.2
	⑦ハンセン病患者の自由が拘束されることは仕方のない側面もある	(1,679)	16.9	11.0	41.4	6.7	10.4	44.6	17.3
	⑧ハンセン病元患者（回復者）の宿泊を「他の宿泊客への迷惑になる」ことを理由として拒否した事件における、ホテル側の言い分には一理あり、ホテル側の対応は認められる	(2,336)	19.0	14.5	42.5	8.8	15.0	44.4	17.6
Q14 ハンセン病元患者（回復者）・家族に対する態度（「とても抵抗を感じる」・「やや抵抗を感じる」と回答した者）	①近所に住むこと	(1,939)	8.8	13.9	20.0	9.1	9.0	27.3	12.9
	②同じ職場で働くこと	(1,982)	9.4	11.6	20.6	6.9	6.7	29.3	12.2
	③同じ学校に通うこと	(1,708)	9.5	12.1	18.6	7.1	6.7	27.6	12.2
	④同じ医療機関・福祉施設に通院・通所すること	(1,573)	10.7	14.4	19.6	8.5	9.1	26.4	14.0
	⑤同じ医療機関・福祉施設に入院・入所すること	(2,004)	13.4	15.4	23.6	8.7	8.8	29.9	14.9
	⑥食事をともにすること	(2,517)	12.2	12.7	23.3	7.2	7.0	32.3	13.6
	⑦手をつなぐ等の身体に触れること	(3,861)	14.9	8.9	32.6	5.7	7.4	42.1	13.4
	⑧ホテルなどで同じ浴場を利用すること	(4,139)	15.0	8.5	34.0	5.5	8.1	42.0	13.5
	⑨ハンセン病元患者（回復者）の家族とあなたの家族が結婚すること	(4,559)	18.0	9.6	36.5	6.1	8.9	43.7	14.7

表 107 Q13 ハンセン病・ハンセン病元患者(回復者)に対する考え方
[偏見や差別に関する経験｜歴史的事実・考え方に対する意見｜
ハンセン病元患者(回復者)・家族に対する態度別](4/6)

			n=	⑧時代や場所が違ったら、自分もハンセン病になったかもしれないと思う	⑨ハンセン病の後遺症が残っている姿を写真や映像で見せると、見た人が驚くだろうから、好ましくない	⑩たとえ目立つハンセン病の後遺症が残っていても、公共の場で堂々とふるまえる社会がよい	⑪機会があれば、自分もハンセン病療養所を訪ねてみたい	⑫ハンセン病の問題について、子どもを対象とした学校教育の機会を増やすべきだ	⑬ハンセン病の問題について、大人を対象とした啓発の機会（講演会・研修会・広報等）を増やすべきだ	⑭現在行われている、ハンセン病の問題を扱う学校教育や啓発（講演会・研修会・広報等）の方法や内容は評価できる
		(%)		「そう思う」「どちらかといえばそう思う」の割合						
全体			(20,916)	39.6	11.3	63.1	18.1	50.5	50.4	28.6
Q10 ハンセン病についての偏見や差別に関する経験	①自分の家族・親戚などが偏見や差別に基づく言動をしているのを見聞きしたことがある		(1,518)	50.2	23.7	69.3	32.7	60.1	63.0	42.6
	②自分の友人・知人など身近な人が偏見や差別に基づく言動をしているのを見聞きしたことがある		(1,752)	47.4	22.9	64.8	32.1	55.5	57.9	43.3
	③ハンセン病元患者（回復者）やその家族が差別を受けていると聞いたことがある		(6,281)	55.2	12.3	84.1	29.5	70.9	71.4	37.6
	④自分や身近な人がハンセン病元患者（回復者）やその家族として、偏見や差別による被害を受けている（いた）		(980)	45.9	27.4	62.2	34.7	54.4	59.4	49.8
	⑤現在、世の中にハンセン病元患者（回復者）やその家族に対する偏見や差別がある		(8,280)	52.9	12.4	81.3	26.0	68.8	69.3	35.2
	⑥自分自身は偏見や差別の意識を持っていないと思う		(13,513)	46.1	10.0	74.9	21.7	60.9	60.4	31.8
Q12 ハンセン病問題に関する歴史的事実・考え方に対する意見（「そう思う」「どちらかと言えばそう思う」と回答した者）	①ハンセン病患者を「療養所」に強制的に隔離してきたことは、有効な薬が開発され治療法が確立されるまでは、やむを得ない措置であった		(5,723)	53.0	21.9	78.2	20.8	62.5	62.5	39.6
	②ハンセン病患者を「療養所」に強制的に隔離してきたことは、有効な薬が開発され治療法が確立された後であっても、やむを得ない措置であった		(2,345)	43.9	34.2	62.0	23.6	48.0	52.6	46.1
	③かつて「療養所」においては、結婚の時に「子どもを生めなくする手術をすること」を条件とされていたことは、有効な薬が開発され治療法が確立されるまでは、仕方がないことであった		(2,943)	44.5	31.5	61.3	22.1	49.2	51.5	42.1
	④かつて「療養所」においては、結婚の時に「子どもを生めなくする手術をすること」を条件とされていたことは、有効な薬が開発され治療法が確立された後であっても、仕方がないことであった		(1,647)	40.0	40.1	53.6	25.7	41.8	48.2	46.7
	⑤ハンセン病元患者（回復者）にとっては、専門性がある医療・福祉を受けられる「療養所」の中で暮らすことのほうが、「療養所」の外で暮らすよりもよい		(3,185)	50.3	28.4	71.2	23.1	59.5	59.9	43.8
	⑥ハンセン病元患者（回復者）にとっては、偏見・差別を受けづらい「療養所」の中で暮らすことのほうが、「療養所」の外で暮らすよりもよい		(2,852)	51.6	30.8	71.1	24.1	59.0	60.2	44.7
	⑦ハンセン病患者の自由が拘束されることは仕方のない側面もある		(1,679)	51.6	37.0	69.4	23.9	54.1	57.4	44.0
	⑧ハンセン病元患者（回復者）の宿泊を「他の宿泊客への迷惑になる」ことを理由として拒否した事件における、ホテル側の言い分には一理あり、ホテル側の対応は認められる		(2,336)	48.8	37.0	65.1	23.5	51.5	55.1	42.8
Q14 ハンセン病元患者（回復者）・家族に対する態度（「とても抵抗を感じる」・「やや抵抗を感じる」と回答した者）	①近所に住むこと		(1,939)	38.0	39.1	52.2	15.5	40.5	43.9	34.9
	②同じ職場で働くこと		(1,982)	39.6	36.4	52.7	12.7	42.9	44.7	31.3
	③同じ学校に通うこと		(1,708)	40.4	37.8	51.6	12.4	42.7	44.6	32.6
	④同じ医療機関・福祉施設に通院・通所すること		(1,573)	41.3	37.7	51.4	16.1	41.4	45.6	33.6
	⑤同じ医療機関・福祉施設に入院・入所すること		(2,004)	39.5	36.9	53.1	15.4	42.4	45.5	33.9
	⑥食事をともにすること		(2,517)	39.2	35.2	54.0	12.8	42.6	45.0	32.0
	⑦手をつなぐ等の身体に触れること		(3,861)	41.7	27.8	61.3	11.9	48.3	48.3	31.2
	⑧ホテルなどで同じ浴場を利用すること		(4,139)	41.7	27.0	61.6	12.5	48.5	48.4	31.7
	⑨ハンセン病元患者（回復者）の家族とあなたの家族が結婚すること		(4,559)	40.7	27.2	63.2	13.6	49.0	49.9	34.2

表 108 Q13 ハンセン病・ハンセン病元患者(回復者)に対する考え方
[偏見や差別に関する経験｜歴史的事実・考え方に対する意見｜
ハンセン病元患者(回復者)・家族に対する態度別](5/6)

		(%)	⑧時代や場所が違ったら、自分もハンセン病になったかもしれないと思う	⑨ハンセン病の後遺症が残っている姿を写真や映像で見せると、見た人が驚くだろうから、好ましくない	⑩たとえ目立つハンセン病の後遺症が残っていても、公共の場で堂々とふるまえる社会がよい	⑪機会があれば、自分もハンセン病療養所を訪ねてみたい	⑫ハンセン病の問題について、子どもを対象とした学校教育の機会を増やすべきだ	⑬ハンセン病の問題について、大人を対象とした啓発の機会（講演会・研修会・広報等）を増やすべきだ	⑭現在行われている、ハンセン病の問題を扱う学校教育や啓発（講演会・研修会・広報等）の方法や内容は評価できる
			「どちらともいえない」の割合						
全体		(20,916)	30.0	34.8	17.4	33.9	25.6	27.1	36.0
Q10 ハンセン病についての偏見や差別に関する経験	①自分の家族・親戚などが偏見や差別に基づく言動をしているのを見聞きしたことがある	(1,518)	28.5	31.8	19.1	33.3	24.1	23.5	33.7
	②自分の友人・知人など身近な人が偏見や差別に基づく言動をしているのを見聞きしたことがある	(1,752)	28.0	33.2	20.4	32.4	23.8	25.0	32.5
	③ハンセン病元患者（回復者）やその家族が差別を受けていると聞いたことがある	(6,281)	28.1	32.0	10.2	35.7	19.9	20.9	36.7
	④自分や身近な人がハンセン病元患者（回復者）やその家族として、偏見や差別による被害を受けている（いた）	(980)	29.2	31.8	21.5	33.4	24.4	22.7	31.1
	⑤現在、世の中にハンセン病元患者（回復者）やその家族に対する偏見や差別がある	(8,280)	28.4	33.8	11.8	35.3	20.6	21.6	37.0
	⑥自分自身は偏見や差別の意識を持っていないと思う	(13,513)	29.8	34.3	13.1	36.0	23.1	24.5	36.1
Q12 ハンセン病問題に関する歴史的事実・考え方に対する意見（「そう思う」「どちらかと言えばそう思う」と回答した者）	①ハンセン病患者を「療養所」に強制的に隔離してきたことは、有効な薬が開発され治療法が確立されるまでは、やむを得ない措置であった	(5,723)	27.9	36.6	15.0	32.6	25.4	26.2	34.6
	②ハンセン病患者を「療養所」に強制的に隔離してきたことは、有効な薬が開発され治療法が確立された後であっても、やむを得ない措置であった	(2,345)	30.8	34.9	24.1	30.9	30.2	29.2	33.9
	③かつて「療養所」においては、結婚の時に「子どもを生めなくする手術をすること」を条件とされていたことは、有効な薬が開発され治療法が確立されるまでは、仕方がないことであった	(2,943)	28.7	34.9	23.5	31.0	28.0	29.1	34.2
	④かつて「療養所」においては、結婚の時に「子どもを生めなくする手術をすること」を条件とされていたことは、有効な薬が開発され治療法が確立された後であっても、仕方がないことであった	(1,647)	30.8	32.6	28.4	30.0	31.3	30.3	34.3
	⑤ハンセン病元患者（回復者）にとっては、専門性がある医療・福祉を受けられる「療養所」の中で暮らすことのほうが、「療養所」の外で暮らすよりもよい	(3,185)	28.5	34.2	18.5	31.0	24.9	27.1	33.3
	⑥ハンセン病元患者（回復者）にとっては、偏見・差別を受けづらい「療養所」の中で暮らすことのほうが、「療養所」の外で暮らすよりもよい	(2,852)	27.4	34.1	18.6	29.7	24.7	25.4	33.4
	⑦ハンセン病患者の自由が拘束されることは仕方のない側面もある	(1,679)	25.4	31.1	19.4	23.5	27.7	25.1	31.8
	⑧ハンセン病元患者（回復者）の宿泊を「他の宿泊客への迷惑になる」ことを理由として拒否した事件における、ホテル側の言い分には一理あり、ホテル側の対応は認められる	(2,336)	26.5	31.2	23.2	26.3	27.8	27.0	31.6
Q14 ハンセン病元患者（回復者）・家族に対する態度（「とても抵抗を感じる」・「やや抵抗を感じる」と回答した者）	①近所に住むこと	(1,939)	33.6	35.3	30.7	25.1	35.8	34.4	38.1
	②同じ職場で働くこと	(1,982)	33.2	35.5	29.7	23.4	33.6	32.8	39.8
	③同じ学校に通うこと	(1,708)	33.3	35.0	30.5	23.8	33.9	33.2	38.6
	④同じ医療機関・福祉施設に通院・通所すること	(1,573)	31.8	33.8	29.6	24.9	34.1	31.7	38.0
	⑤同じ医療機関・福祉施設に入院・入所すること	(2,004)	32.5	34.3	28.4	24.8	32.9	31.7	37.9
	⑥食事をともにすること	(2,517)	32.1	35.0	27.8	23.7	32.9	33.0	38.3
	⑦手をつなぐ等の身体に触れること	(3,861)	30.9	38.1	23.9	24.9	30.9	32.2	38.1
	⑧ホテルなどで同じ浴場を利用すること	(4,139)	31.2	37.4	23.6	25.9	30.3	32.0	37.5
	⑨ハンセン病元患者（回復者）の家族とあなたの家族が結婚すること	(4,559)	33.0	38.6	23.2	27.7	30.7	32.1	38.8

表 109 Q13 ハンセン病・ハンセン病元患者(回復者)に対する考え方
[偏見や差別に関する経験｜歴史的事実・考え方に対する意見｜
ハンセン病元患者(回復者)・家族に対する態度別](6/6)

	(%)	n=	⑧時代や場所が違ったら、自分もハンセン病になったかもしれないと思う	⑨ハンセン病の後遺症が残っている姿を写真や映像で見せると、見た人が驚くだろうから、好ましくない	⑩たとえ目立つハンセン病の後遺症が残っていても、公共の場で堂々とふるまえる社会がよい	⑪機会があれば、自分もハンセン病療養所を訪ねてみたい	⑫ハンセン病の問題について、子どもを対象とした学校教育の機会を増やすべきだ	⑬ハンセン病の問題について、大人を対象とした啓発の機会（講演会・研修会・広報等）を増やすべきだ	⑭現在行われている、ハンセン病の問題を扱う学校教育や啓発（講演会・研修会・広報等）の方法や内容は評価できる
			「そう思わない」「あまりそう思わない」の割合						
全体		(20,916)	11.8	35.7	6.4	30.8	9.0	8.0	9.9
Q10 ハンセン病についての偏見や差別に関する経験	①自分の家族・親戚などが偏見や差別に基づく言動をしているのを見聞きしたことがある	(1,518)	13.1	36.8	7.0	27.1	10.0	8.4	11.3
	②自分の友人・知人など身近な人が偏見や差別に基づく言動をしているのを見聞きしたことがある	(1,752)	16.0	36.5	9.6	28.4	14.2	11.6	13.0
	③ハンセン病元患者（回復者）やその家族が差別を受けていると聞いたことがある	(6,281)	9.3	50.3	3.5	27.8	5.5	4.4	9.6
	④自分や身近な人がハンセン病元患者（回復者）やその家族として、偏見や差別による被害を受けている（いた）	(980)	19.1	35.9	12.3	26.7	17.0	14.3	13.5
	⑤現在、世の中にハンセン病元患者（回復者）やその家族に対する偏見や差別がある	(8,280)	9.1	45.8	3.2	30.0	5.4	4.3	9.1
	⑥自分自身は偏見や差別の意識を持っていないと思う	(13,513)	8.7	41.0	3.5	28.7	5.4	4.9	8.3
Q12 ハンセン病問題に関する歴史的事実・考え方に対する意見（「そう思う」「どちらかと言えばそう思う」と回答した者）	①ハンセン病患者を「療養所」に強制的に隔離してきたことは、有効な薬が開発され治療法が確立されるまでは、やむを得ない措置であった	(5,723)	11.0	34.5	4.1	40.0	8.2	7.6	8.7
	②ハンセン病患者を「療養所」に強制的に隔離してきたことは、有効な薬が開発され治療法が確立された後であっても、やむを得ない措置であった	(2,345)	19.0	26.1	11.0	39.8	17.5	14.5	11.6
	③かつて「療養所」においては、結婚の時に「子どもを生めなくする手術をすること」を条件とされていたことは、有効な薬が開発され治療法が確立されるまでは、仕方がないことであった	(2,943)	20.6	28.9	12.0	41.7	18.9	15.7	13.5
	④かつて「療養所」においては、結婚の時に「子どもを生めなくする手術をすること」を条件とされていたことは、有効な薬が開発され治療法が確立された後であっても、仕方がないことであった	(1,647)	23.8	23.8	15.2	39.6	23.2	18.5	13.6
	⑤ハンセン病元患者（回復者）にとっては、専門性がある医療・福祉を受けられる「療養所」の中で暮らすことのほうが、「療養所」の外で暮らすよりもよい	(3,185)	14.7	32.2	7.6	39.6	12.3	10.2	11.1
	⑥ハンセン病元患者（回復者）にとっては、偏見・差別を受けづらい「療養所」の中で暮らすことのほうが、「療養所」の外で暮らすよりもよい	(2,852)	14.8	29.9	7.5	40.2	13.1	11.6	10.9
	⑦ハンセン病患者の自由が拘束されることは仕方のない側面もある	(1,679)	16.1	26.0	8.4	47.1	14.0	13.5	11.9
	⑧ハンセン病元患者（回復者）の宿泊を「他の宿泊客への迷惑になる」ことを理由として拒否した事件における、ホテル側の言い分には一理あり、ホテル側の対応は認められる	(2,336)	17.1	26.8	9.1	45.6	16.7	14.3	12.5
Q14 ハンセン病元患者（回復者）・家族に対する態度（「とても抵抗を感じる」・「やや抵抗を感じる」と回答した者）	①近所に住むこと	(1,939)	18.2	16.8	9.1	51.2	15.0	13.2	11.5
	②同じ職場で働くこと	(1,982)	15.8	17.2	8.6	54.6	13.9	12.8	11.5
	③同じ学校に通うこと	(1,708)	15.5	16.5	8.7	55.2	13.9	12.6	11.8
	④同じ医療機関・福祉施設に通院・通所すること	(1,573)	16.4	17.9	10.2	49.9	15.4	14.4	12.8
	⑤同じ医療機関・福祉施設に入院・入所すること	(2,004)	17.0	19.0	10.0	51.3	15.4	14.2	12.6
	⑥食事をともにすること	(2,517)	16.1	18.0	8.7	53.4	14.0	12.0	12.0
	⑦手をつなぐ等の身体に触れること	(3,861)	14.6	22.4	6.4	53.3	11.3	10.4	10.6
	⑧ホテルなどで同じ浴場を利用すること	(4,139)	13.8	23.2	6.1	50.9	11.0	10.0	10.5
	⑨ハンセン病元患者（回復者）の家族とあなたの家族が結婚すること	(4,559)	15.4	23.6	6.3	49.6	11.8	10.0	10.3

（3）ハンセン病元患者（回復者）・家族に対する態度の分析

ハンセン病元患者（回復者）・家族に対する態度を、ハンセン病に係る偏見差別に関する経験等別に比較すると、「⑨ハンセン病元患者（回復者）の家族とあなたの家族が結婚すること」に対し、「とても抵抗を感じる」「抵抗を感じる」と回答した割合は、全体平均が 21.8％であるのに対し、「①自分の家族・親戚などが偏見や差別に基づく言動をしているのを見聞きしたことがある」「②自分の友人・知人など身近な人が偏見や差別に基づく言動をしているのを見聞きしたことがある」「④自分や身近な人がハンセン病元患者（回復者）やその家族として、偏見や差別による被害を受けている（いた）」と回答した者は 29.5～31.2％と顕著に高い一方、「③ハンセン病元患者（回復者）やその家族が差別を受けていると聞いたことがある」と回答した者は 21.7％と大きな差はみられなかった。それ以外の態度②～⑨においても、同様の傾向がみられた。

ハンセン病元患者（回復者）・家族に対する態度を、ハンセン病問題に関する歴史的事実・考え方に対する意見別に比較すると、「⑨ハンセン病元患者（回復者）の家族とあなたの家族が結婚すること」に対し、「とても抵抗を感じる」「抵抗を感じる」と回答した割合は、全体平均が 21.8％であるのに対し、ハンセン病問題に関する歴史的事実・考え方①～⑧に対し、「そう思う」「どちらかといえばそう思う」と回答した者は 36.1～49.5％と顕著に高かった。それ以外の態度①～⑧においても、同様の傾向がみられた。

表 110　Q14 ハンセン病元患者(回復者)・家族に対する態度
［ハンセン病に係る偏見差別に関する経験等｜ハンセン病問題に関する歴史的事実・考え方に対する意見別］

		(%) n=	①近所に住むこと	②同じ職場で働くこと	③同じ学校に通うこと	④同じ医療機関・福祉施設に通院・通所すること	⑤同じ医療機関・福祉施設に入院・入所すること	⑥食事をともにすること	⑦手をつなぐ等の身体に触れること	⑧ホテルなどで同じ浴場を利用すること	⑨ハンセン病元患者（回復者）の家族とあなたの家族が結婚すること
			「とても抵抗を感じる」「やや抵抗を感じる」の割合								
全体		(20,916)	9.3	9.5	8.2	7.5	9.6	12.0	18.5	19.8	21.8
Q10 ハンセン病についての偏見や差別に関する経験	①自分の家族・親戚などが偏見や差別に基づく言動をしているのを見聞きしたことがある	(1,518)	17.7	15.1	13.8	14.1	17.7	19.2	25.2	26.7	30.9
	②自分の友人・知人など身近な人が偏見や差別に基づく言動をしているのを見聞きしたことがある	(1,752)	17.0	13.8	12.2	13.3	18.3	18.4	22.9	24.9	29.5
	③ハンセン病元患者（回復者）やその家族が差別を受けていると聞いたことがある	(6,281)	8.2	8.3	6.8	6.4	8.4	10.7	18.0	18.3	21.7
	④自分や身近な人がハンセン病元患者（回復者）やその家族として、偏見や差別による被害を受けている（いた）	(980)	20.0	14.2	12.4	14.7	21.7	19.4	21.8	23.0	31.2
	⑤現在、世の中にハンセン病元患者（回復者）やその家族に対する偏見や差別がある	(8,280)	9.2	9.7	8.1	7.1	9.4	12.2	20.4	21.3	24.2
	⑥自分自身は偏見や差別の意識を持っていないと思う	(13,513)	6.7	7.0	5.8	5.4	7.0	8.9	15.9	17.1	19.6
Q12 ハンセン病問題に関する歴史的事実・考え方に対する意見（「そう思う」「どちらかと言えばそう思う」と回答した者）	①ハンセン病患者を「療養所」に強制的に隔離してきたことは、有効な薬が開発され治療法が確立されるまでは、やむを得ない措置であった	(5,723)	17.1	17.4	15.1	13.8	16.8	21.0	31.6	33.4	36.1
	②ハンセン病患者を「療養所」に強制的に隔離してきたことは、有効な薬が開発され治療法が確立された後であっても、やむを得ない措置であった	(2,345)	27.8	25.8	23.2	23.9	28.1	31.1	37.9	41.0	45.7
	③かつて「療養所」においては、結婚の時に「子どもを生めなくする手術をすること」を条件とされていたことは、有効な薬が開発され治療法が確立されるまでは、仕方がないことであった	(2,943)	22.9	21.6	20.0	19.0	24.6	26.6	33.9	36.3	41.8
	④かつて「療養所」においては、結婚の時に「子どもを生めなくする手術をすること」を条件とされていたことは、有効な薬が開発され治療法が確立された後であっても、仕方がないことであった	(1,647)	30.7	27.9	25.2	25.2	29.3	33.3	37.6	40.5	46.0
	⑤ハンセン病元患者（回復者）にとっては、専門性がある医療・福祉を受けられる「療養所」の中で暮らすことのほうが、「療養所」の外で暮らすよりもよい	(3,185)	21.4	21.1	19.0	17.7	22.2	26.7	35.3	37.4	41.5
	⑥ハンセン病元患者（回復者）にとっては、偏見・差別を受けづらい「療養所」の中で暮らすことのほうが、「療養所」の外で暮らすよりもよい	(2,852)	22.8	22.8	20.3	18.6	23.2	27.5	37.1	39.8	42.5
	⑦ハンセン病患者の自由が拘束されることは仕方のない側面もある	(1,679)	30.8	31.5	28.9	25.9	31.9	37.1	47.1	48.5	49.5
	⑧ハンセン病元患者（回復者）の宿泊を「他の宿泊客への迷惑になる」ことを理由として拒否した事件における、ホテル側の言い分には一理あり、ホテル側の対応は認められる	(2,336)	28.4	27.5	24.7	23.4	29.6	34.2	43.1	46.5	49.4

付録　ハンセン病問題に係る全国的な意識調査　アンケート調査票

Q1.あなたの性別をお答えください。（単一選択）

①男性 ②女性 ③①･②のいずれにも該当しない

Q2.最後に行った（または在学中の）学校をお答えください。（単一選択）
※中退・在学中も卒業と同じ扱いでお答えください。
※中学卒業後、専門学校に行った人は選択肢 1 を、高校卒業後、専門学校に行った人は選択肢 3 をお選びください。

①小学校・中学校（中卒後、専門学校を含む） ②高校 ③専門学校（高卒後、専門学校） ④高等専門学校（高専） ⑤短期大学 ⑥大学（④年制） ⑦大学院・大学（⑥年制） ⑧その他→内容を自由記述に記載

Q3.現在のお仕事についてお答えください。（単一選択）
※複数お仕事をされている方は主たるお仕事についてお答えください。

①公務員（公的団体職員を含む） ②雇用者（会社役員、管理職等） ③正規の被雇用者（会社員等） ④非正規の被雇用者（パート・アルバイト、期間作業員、契約社員、派遣社員等） ⑤自営業者・自由業 ⑥自営業の家族従事者、家族が営んでいる事業の被雇用者 ⑦学生 ⑧無職（主婦・主夫を含む、学生を除く） ⑨その他→内容を自由記述に記載

Q4.お仕事の分野をお答えください。（単一選択）
※前問で「無職（主婦・主夫を含む、学生を除く）」とお答えの場合は、最後についていたお仕事の分野をお答えください。
※複数お仕事をされている方は主たるお仕事についてお答えください。
※現在無職の方で、働いたことがない方は選択肢 10 をお選びください。

①教育関係の専門職（教員、保育士等）
②福祉関係の専門職（ケアマネジャー、介護福祉士等）
③医療関係の専門職（医師・看護師等）
④上記以外の専門職（弁護士、建築士、エンジニア、デザイナー、編集者等）
⑤管理的職業
⑥事務・営業系の職業
⑦技能・労務・作業系の職業
⑧農林漁業職
⑨その他→内容を自由記述に記載
⑩働いたことはない

Q5.あなたは、ハンセン病がどのような病気か知っていますか。（単一選択）

①病気について詳しく知っている
②病気について多少は知っている
③名前は聞いたことがある
④全く知らない

Q6.あなたは、ハンセン病に対してどのような印象を持っていますか。項目ごとにお答えください。（単一選択）

①遺伝する病気である	①そう思う ②ややそう思う ③あまりそう思わない ④そう思わない ⑤わからない
②「らい菌」に感染することで起こる病気である	
③早めに治療すれば後遺症もなく治る病気である	
④感染しても発症に至ることがまれな病気である	
⑤致死性の弱い病気である	

Q7.あなたは、ハンセン病元患者（回復者）、そのご家族、ハンセン病問題に取り組んでいる人に出会ったり、話を聞いたりしたことがありますか。（当てはまるものを全て選択）。

①元患者（回復者）と会ったことがある（学校・職場等での学習、講演会・展示会等のイベントなども含む）
②元患者（回復者）の家族と会ったことがある（学校・職場等での学習、講演会・展示会等のイベントなども含む）
③ハンセン病問題に取り組んでいる人と会ったことがある（学校・職場等での学習、講演会・展示会等のイベントなども含む）
④ハンセン病療養所に行ったことがある
⑤元患者（回復者）やその家族のことを取り上げた情報に接したことがある（学校・職場等での学習、講演会・展示会等のイベント、パンフレット、新聞や雑誌の記事、書籍、ビデオ・DVD、テレビ番組、ラジオ、映画、展示等）
⑥自分がハンセン病問題に取り組んでいる（いた）
⑦自分の家族・親戚にハンセン病問題に取り組んでいる人がいる（いた）
⑧自分の友人・知人にハンセン病問題に取り組んでいる人がいる（いた）
⑨自分がハンセン病元患者（回復者）、またはその家族である
⑩自分の親戚にハンセン病元患者（回復者）、またはその家族がいる（いた）
⑪自分の友人・知人にハンセン病元患者（回復者）、またはその家族がいる（いた）
⑫①～⑪のような出会いはない/経験はない

Q8.あなたは、学校や職場、地域で、ハンセン病問題について学習を受けたことがありますか。（当てはまるものを全て選択）。

①小学校の授業で受けた
②中学校の授業で受けた
③高校の授業で受けた
④高等専門学校、専門学校または短期大学の授業で受けた
⑤大学または大学院の講義で受けた
⑥職場の研修で受けた
⑦一般市民対象の講演会、講座などで受けた
⑧その他の場所で受けた→内容を自由記述に記載（任意）
⑨受けたことはない
⑩はっきり覚えていない

Q9.ハンセン病問題に関する啓発の取り組みのうち、あなたがこれまでに実際に参加したり、見たり読んだりしたものはありますか。項目ごとにお答えください。（単一選択）

<table>
<tr><td>①法務省主催「ハンセン病問題に関する『親と子のシンポジウム』」</td><td rowspan="2">①参加したことがある
②参加したことはない</td></tr>
<tr><td>②講演会・展示会等のイベント（①「親と子のシンポジウム」以外）</td></tr>
<tr><td>③国立ハンセン病資料館、国立ハンセン病療養所の資料館等の展示（語り部の映像視聴、学芸員による講話を含む）</td><td rowspan="14">①見たり、読んだりしたことがある
②見たり、読んだりしたことはない</td></tr>
<tr><td>④国や地方公共団体等が配布する広報紙</td></tr>
<tr><td>⑤中学生向けのパンフレット「ハンセン病の向こう側」</td></tr>
<tr><td>⑥上記以外のパンフレット（国立ハンセン病資料館や地方公共団体等が作成しているもの）</td></tr>
<tr><td>⑦掲示物（ポスター・看板等）</td></tr>
<tr><td>⑧新聞や雑誌の記事・広告</td></tr>
<tr><td>⑨インターネット（ウェブサイト）の記事・広告</td></tr>
<tr><td>⑩書籍</td></tr>
<tr><td>⑪ビデオ・DVD</td></tr>
<tr><td>⑫テレビ番組</td></tr>
<tr><td>⑬ラジオ</td></tr>
<tr><td>⑭映画</td></tr>
<tr><td>⑮その他→内容を自由記述に記載（任意）</td><td>①参加したことがある
②見たり、読んだりしたことがある</td></tr>
</table>

Q10.ハンセン病についての偏見や差別に関するあなたの経験について、項目ごとにお答えください。（単一選択）

<table>
<tr><td>①自分の家族・親戚などが偏見や差別に基づく言動をしているのを見聞きしたことがある</td><td rowspan="4">①ある
②ない</td></tr>
<tr><td>②自分の友人・知人など身近な人が偏見や差別に基づく言動をしているのを見聞きしたことがある</td></tr>
<tr><td>③ハンセン病元患者（回復者）やその家族が差別を受けていると聞いたことがある</td></tr>
<tr><td>④自分や身近な人がハンセン病元患者（回復者）やその家族として、偏見や差別による被害を受けている（いた）</td></tr>
<tr><td>⑤現在、世の中にハンセン病元患者（回復者）やその家族に対する偏見や差別がある</td><td>①あると思う
②ないと思う</td></tr>
<tr><td>⑥自分自身は偏見や差別の意識を持っていないと思う</td><td>①持っていないと思う
②持っていると思う</td></tr>
</table>

Q11.国の誤った政策により作出されたハンセン病元患者（回復者）やその家族に対する偏見や差別による被害のうち、あなたが知っているものはどれですか。（当てはまるものを全て選択）。

①家族や親戚から差別や排除行為を受けること
②近隣や地域の人々から差別や排除行為を受けること
③通学している学校で他の生徒から集団的ないじめや排除行為を受けること
④通学している学校で教師から差別や排除行為を受けること
⑤医療従事者・介護従事者から差別や排除行為を受けること
⑥国・都道府県・市区町村等の行政職員から差別や排除行為を受けること
⑦ハンセン病元患者（回復者）やその家族であることを理由に就職試験で落とされること
⑧職場で同僚等から差別や排除行為を受けること
⑨ハンセン病元患者（回復者）やその家族であることを理由に交際を断られる、あるいは離婚させられること
⑩ハンセン病についての誤った認識をハンセン病元患者（回復者）やその家族が持つことにより、親密な家族関係が築けないこと
⑪家族を責めたり、恨んだり、忌避したりして、家族関係が破綻すること
⑫家族であるハンセン病元患者（回復者）との関係を断ったり、あるいは距離をおいたりして、家族関係が破綻すること
⑬ハンセン病元患者（回復者）やその家族であるということを誰にも言えず、秘密を抱えて生きていかざるを得ないこと
⑭その他→具体的に
⑮上記の中に知っているものはない

Q12.あなたは次のような事実や考え方に対して、どのような考えを持っていますか。項目ごとにお答えください。（単一選択）

①ハンセン病患者を「療養所」に強制的に隔離してきたことは、有効な薬が開発され治療法が確立されるまでは、やむを得ない措置であった	①そう思う ②どちらかといえばそう思う ③どちらともいえない ④どちらかといえばそうは思わない ⑤そうは思わない ⑥わからない
②ハンセン病患者を「療養所」に強制的に隔離してきたことは、有効な薬が開発され治療法が確立された後であっても、やむを得ない措置であった	
③かつて「療養所」においては、結婚の時に「子どもを生めなくする手術をすること」を条件とされていたことは、有効な薬が開発され治療法が確立されるまでは、仕方がないことであった	
④かつて「療養所」においては、結婚の時に「子どもを生めなくする手術をすること」を条件とされていたことは、有効な薬が開発され治療法が確立された後であっても、仕方がないことであった	
⑤ハンセン病元患者（回復者）にとっては、専門性がある医療・福祉を受けられる「療養所」の中で暮らすことのほうが、「療養所」の外で暮らすよりもよい	
⑥ハンセン病元患者（回復者）にとっては、偏見・差別を受けづらい「療養所」の中で暮らすことのほうが、「療養所」の外で暮らすよりもよい	
⑦ハンセン病患者の自由が拘束されることは仕方のない側面もある	
⑧ハンセン病元患者（回復者）の宿泊を「他の宿泊客への迷惑になる」ことを理由として拒否した事件における、ホテル側の言い分には一理あり、ホテル側の対応は認められる	

Q13.以下に示す意見について、あなたはどう思いますか。項目ごとにお答えください。（単一選択）

①ハンセン病と聞くと、できるだけ距離をとりたいと思うのは当然な反応だ	①そう思う ②どちらかといえばそう思う ③どちらともいえない ④どちらかといえばそうは思わない ⑤そうは思わない ⑥わからない
②ハンセン病元患者（回復者）も、地域で普通に隣人として暮らせることが望ましい	
③ハンセン病元患者（回復者）とは、たとえ治っていたとしても、関りを持ちたくない	
④ハンセン病元患者（回復者）も、そうでない人も、人としての価値は変わらない	
⑤自分の身内にハンセン病元患者（回復者）がいなくて、よかったと思う	
⑥ハンセン病元患者（回復者）は、たとえ治っていたとしても、自分たちとは違う人たちだと感じる	
⑦ハンセン病にかかるというのは、どこか遠い世界での出来事だと感じる	
⑧時代や場所が違ったら、自分もハンセン病になったかもしれないと思う	
⑨ハンセン病の後遺症が残っている姿を写真や映像で見せると、見た人が驚くだろうから、好ましくない	
⑩たとえ目立つハンセン病の後遺症が残っていても、公共の場で堂々とふるまえる社会がよい	
⑪機会があれば、自分もハンセン病療養所を訪ねてみたい	
⑫ハンセン病の問題について、子どもを対象とした学校教育の機会を増やすべきだ	
⑬ハンセン病の問題について、大人を対象とした啓発の機会（講演会・研修会・広報等）を増やすべきだ	
⑭現在行われている、ハンセン病の問題を扱う学校教育や啓発（講演会・研修会・広報等）の方法や内容は評価できる	

Q14.あなたは、ハンセン病元患者（回復者）とその家族との次のような状況についてどれくらいの抵抗を感じますか。項目ごとにお答えください。（単一選択）

①近所に住むこと	①とても抵抗を感じる ②やや抵抗を感じる ③どちらともいえない ④あまり抵抗を感じない ⑤まったく抵抗を感じない ⑥わからない
②同じ職場で働くこと	
③同じ学校に通うこと	
④同じ医療機関・福祉施設に通院・通所すること	
⑤同じ医療機関・福祉施設に入院・入所すること	
⑥食事をともにすること	
⑦手をつなぐ等の身体に触れること	
⑧ホテルなどで同じ浴場を利用すること	
⑨ハンセン病元患者（回復者）の家族とあなたの家族が結婚すること	

Q15.あなたは、ハンセン病問題に関する以下のような事実を知っていますか。項目ごとにお答えください。（単一選択）

①明治後期以降、ハンセン病患者を強制的に収容する「強制隔離政策」が行われたこと	①知っている ②少し知っている ③あまり知らない ④知らない
②戦前および戦後にかけて、全てのハンセン病患者を強制隔離する、官民一体の「無らい県運動」が行なわれたこと	
③有効な薬が開発され、治療法が確立されたが、強制隔離政策はそのまま継続されたこと	
④平成⑧（①⑨⑨⑥）年に強制隔離政策を主体とした「らい予防法」が廃止されたこと	
⑤平成⑬（②00①）年に強制隔離政策を違憲とする熊本地裁判決が下されたこと	
⑥令和元（②0①⑨）年にハンセン病患者家族に対する偏見や差別の被害を認める熊本地裁判決が下されたこと	
⑦現在も「ハンセン病療養所」があり、ハンセン病が治った後も暮らし続けている人がいること	

Q16.一般的に、「差別」というものについて、あなたはどのような考えを持っていますか。項目ごとにお答えください。（単一選択）

①差別は、人間として最も恥ずべき行為である	①そう思う ②どちらかといえばそう思う ③どちらともいえない ④どちらかといえばそう思わない ⑤そう思わない
②あらゆる差別をなくすために、行政は努力する必要がある	
③差別されている人の言葉をきちんと聞く必要がある	
④差別の解決のためには、何が差別であるかを具体的に示すことが必要である	
⑤それぞれの差別の原因は何かをしっかりと見極めることが大事である	
⑥差別を目の前にした時に差別反対の意思表示をすることが大事である	
⑦悪質な差別は法律によって規制すべきである	
⑧差別されている人も自分たちが世の中に受け入れられるように努力することが必要である	
⑨差別の訴え全てに対応することには無理がある	
⑩差別を問題にすることによって、問題が解決しにくくなる側面がある	

Q17.日本における人権課題のうち、あなたが知っているものはどれですか。（当てはまるものを全て選択）。

①女性
②子ども
③高齢者
④障害のある人
⑤部落差別（同和問題）
⑥アイヌの人々
⑦外国人
⑧感染症
⑨ハンセン病元患者（回復者）やその家族
⑩刑を終えて出所した人やその家族
⑪犯罪被害者やその家族
⑫インターネット上の人権侵害
⑬北朝鮮当局によって拉致された被害者等
⑭ホームレス
⑮性的マイノリティ
⑯人身取引（性的サービスや労働の強要等）
⑰震災等の災害に起因する人権問題
⑱その他→内容を自由記述に記載
⑲知っているものはない

Q18.人権問題に関する相談窓口として、あなたが知っているものはどれですか。（当てはまるものを全て選択）。

①法務局
②人権擁護委員
③警察
④都道府県の相談窓口
⑤市（区）町村の相談窓口
⑥弁護士会の相談窓口
⑦法テラス
⑧民間運動団体
⑨民間の相談窓口
⑩その他→内容を自由記述に記載
⑪知っているものはない

Q19.ハンセン病、ハンセン病問題をあつかった以下のパンフレットや web ページをご覧いただき、ご感想があればご記入ください。

■パンフレット「ハンセン病の向こう側」
ハンセン病問題を正しく理解するために厚生労働省が作成した中学生向けパンフレットです。
https://www.mhlw.go.jp/houdou/2003/01/h0131-5.html

■国立ハンセン病資料館（東京都東村山市）
企画展の情報や語り部の講演等が掲載されています。
YouTube チャンネル
https://www.youtube.com/channel/UC-gp-oP50g4m5865iTIFCFQ
ホームページ
https://www.nhdm.jp/

お忙しいところご協力いただきまして、誠にありがとうございました。

なお、この調査では、ハンセン病に対する偏見差別の現状を把握するために、
設問の一部に、ハンセン病問題に関する適切でない表現が含まれていることをご理解ください。
この調査をきっかけに、ハンセン病問題について正しい知識と理解を持つとともに、偏見や差別をなくすにはどうすればいいのか、人権が尊重される社会を実現するにはどうすればいいのか、そして自分たちに何ができるのかを考えていただければ幸いです。

アンケートは以上で終わりです。ご協力ありがとうございました。送信ボタンを押してください

ハンセン病問題に係る全国的な意識調査検討会　委員名簿

氏　名	所　属
稲葉　昭英	慶應義塾大学　文学部　教授
屋　猛司	邑久光明園入所者自治会　会長 （令和５年９月～）
坂元　茂樹	（公財）人権教育啓発推進センター理事長
竪山　勲	ハンセン病違憲国賠訴訟全国原告団協議会事務局長
黄　光男	ハンセン病家族訴訟原告団副団長
藤崎　陸安	全国ハンセン病療養所入所者協議会事務局長 （令和５年７月～令和５年９月）
山本　晋平	ハンセン病国賠訴訟東日本弁護団　弁護士

※五十音順、敬称略。

※所属等は令和６（2024）年３月末日現在。（途中退任委員については、委員就任時点）

※この検討会は、厚生労働省健康・生活衛生局より委託を受けた「ハンセン病問題に係る全国的な意識調査及び調査に関する検討会の運営業務等一式」（令和５年度）に基づき、株式会社三菱総合研究所が事務局として運営しました。

ハンセン病問題に係る全国的な意識調査　報告書

令和６（2024）年３月

ハンセン病問題に係る全国的な意識調査検討会
（事務局：株式会社三菱総合研究所　ヘルスケア事業本部
TEL 03-5157-2111（代表）